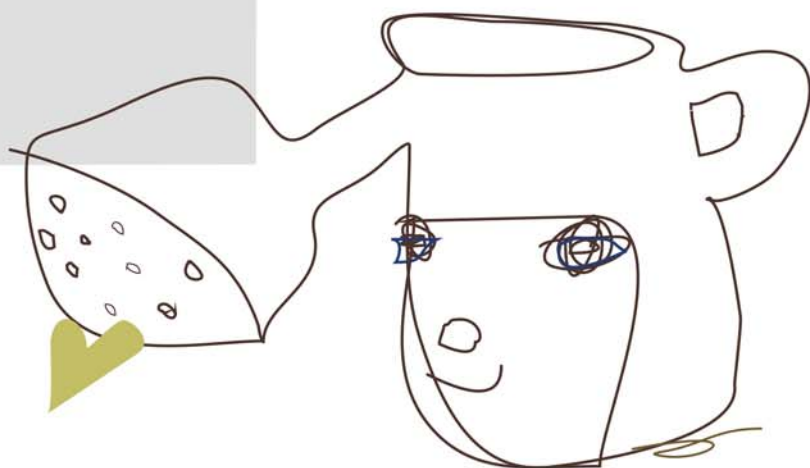


2008 TMUE International Symposium

The Curriculum of
Early Childhood Education
in *Japan, Korea, and Taiwan*

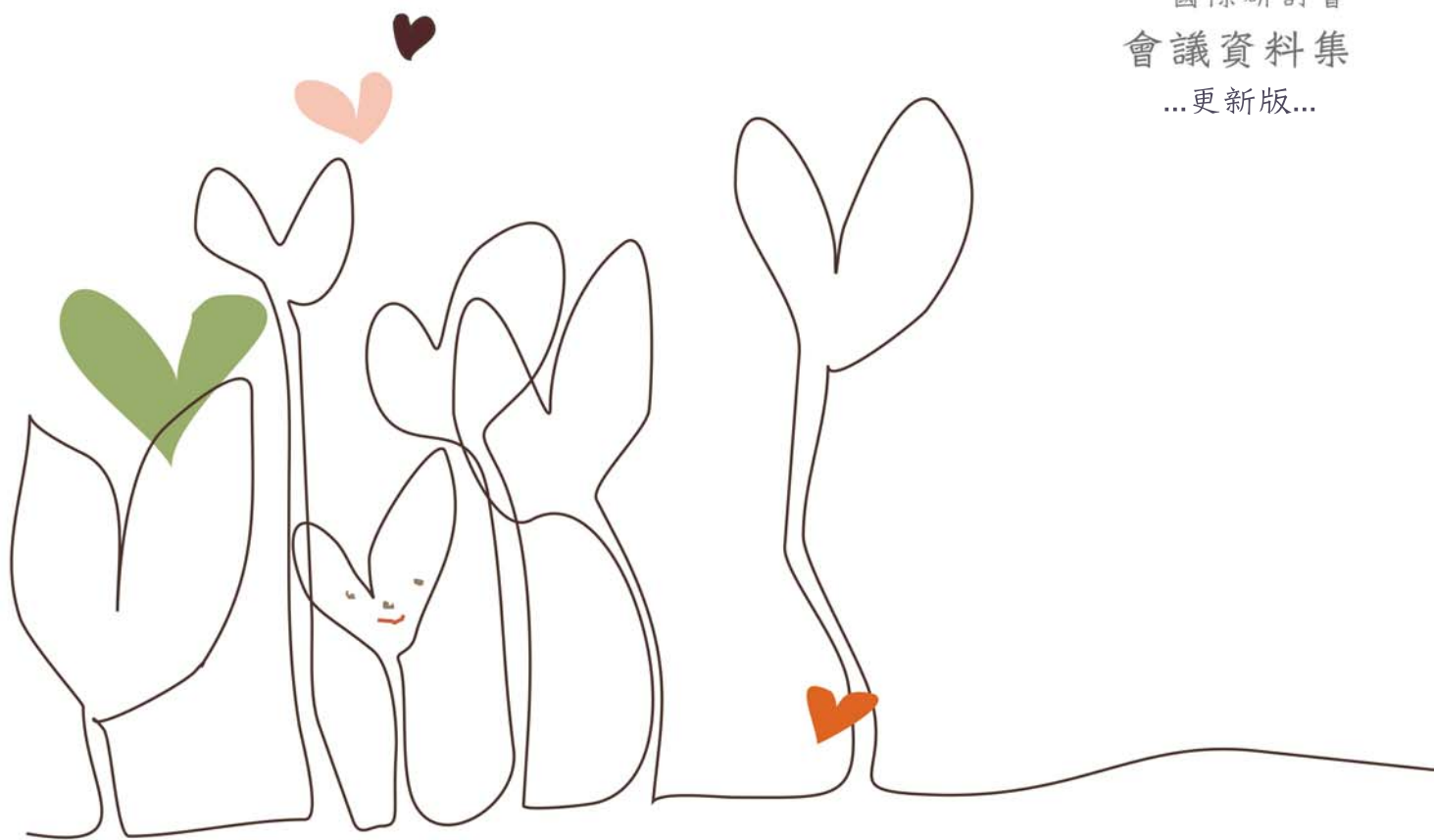


臺日韓 幼托課程大綱

國際研討會

會議資料集

...更新版...



臺日韓幼托課程大綱研討會

實施計劃

一、研討會目的：

政府自民國 94 年（2005 年）公佈幼托整合政策，預定在民國 98 年（2009 年）實施，雖然目前實施的日期未定，但是相關研究早已啟動。而歷時二年幼托整合後的幼兒園課程大綱也已完成。鄰近國家日本、韓國也在此時完成幼稚園課程大綱的修訂工作。日本在 2008 年公告實施新的課程大綱，就連托兒所的課程大綱也一併修正，並提升至法律位階。韓國幼稚園的課程大綱在 2007 年 12 月修正通過，幼托整合的議題也在其中一併討論。有趣的是，三個國家在探究課程大綱的議題時都將本國文化納為重要元素，加入課程的考量。有鑒於此，實有辦理國際研討會，深入了解並討論各國課程大綱的必要。

除了比較與探究課程大綱的內容之外，日本亦發展出本土性課室探究的師資培育方式，尤其在情緒，豐富情感的培育方面是我們師資培育過程中所不足之處。本研討會亦延伸課程大綱的內容到師資培育方面。

- (一) 幼托整合後，臺灣幼兒園教保活動與課程大綱的探究
- (二) 臺灣、日本、與韓國三國課程大綱的探究與比較
- (三) 課室探究在日本的實施狀況

二、研討會計畫邀請人員：

日本學者二人

秋田喜代美 日本東京大學教授 / 日本保育學會副會長

小田豐 日本國立特別支援教育總合研究所理事長

韓國學者一人

文美玉 韓國首爾女子大學教授 / 韓國幼兒教育學會前會長

國內外相關學者、專家 45 人

相關科系學生及研究生 100 人

幼稚園托兒所教師 100 人

三、指導單位：教育部

四、主辦單位：臺北市立教育大學幼兒教育學系

五、協辦單位：臺北市立教育大學兒童發展碩士學位學程

六、辦理時間：2008 年 12 月 4、5、6 日（星期 四、五、六）

七、辦理地點：臺北市立教育大學公誠樓 2 樓第 3 會議室

八、議程：

第一天議程

2008年12月4日(星期四)		
時間	分鐘	主題
08:40 ~ 09:10	30	報到
09:10 ~ 09:20	10	開幕致詞 臺北市立教育大學 林天祐校長 臺北市立教育大學教育學院 楊龍立院長 臺北市立教育大學幼兒教育學系 金瑞芝主任
09:20 ~ 10:40	80	專題講演(一) 主 題：韓國的幼稚園課程大綱 主持人：盧明 教授 國立臺北教育大學幼兒與家庭教育學系 主講人：文美玉 教授 韓國首爾女子大學、韓國幼兒教育學會前會長 翻譯人：張金枝主任 臺北縣福山國小附設幼稚園
10:40~11:00	20	茶 敘 時 間
11:00~12:20	80	專題講演(二) 主 題：韓國的幼稚園課程大綱 主持人：幸曼玲 教授 臺北市立大學兒童發展碩士學位學程 主講人：文美玉 教授 韓國首爾女子大學、韓國幼兒教育學會前會長 翻譯人：張金枝主任 臺北縣福山國小附設幼稚園
12:20 ~ 13:30	70	午 餐
13:30 ~ 14:50	80	專題講演(三) 主 題：日本幼兒園的園內進修 主持人：簡楚瑛 教授 國立政治大學幼兒教育研究所 主講人：秋田喜代美 教授 日本東京大學 大學院 教育研究所 同步翻譯人：笹岡敦子小姐 朴外淑 韓國學校幼稚園老師 (韓文)
14:50~15:10	20	茶 敘 時 間
15:10~16:30	80	專題講演(四) 主 題：透過教師進修的保幼小合作 主持人：幸曼玲 教授 臺北市立大學兒童發展碩士學位學程 主講人：秋田喜代美 教授 日本東京大學 大學院 教育研究所 同步翻譯人：笹岡敦子小姐 (日文)、朴外淑老師 (韓文)

第二天議程

2008 年 12 月 5 日 (星期五)		
時間	分鐘	主題
08:30 ~ 09:00	30	報到
09:00 ~ 10:20	80	專題講演 (五) 主 題：日本幼稚園教育課程改訂之經過與概要 主持人：林佩蓉教授 臺北市立教育大學幼兒教育學系 主講人：小田豐 理事長 日本國立特別支援教育總合研究所 同步翻譯人：笹岡敦子小姐 張金枝主任 臺北縣福山國小附設幼稚園 (韓文)
10:20~10:40	20	茶 敘 時 間
10:40~12:00	80	專題講演 (六) 主 題：日本保育所指針修訂的要點 主持人：廖鳳瑞 教授 國立臺灣師範大學人類發展與家庭學系 主講人：秋田喜代美 教授 日本東京大學 大學院 教育研究所 同步翻譯人：笹岡敦子小姐 張金枝主任 臺北縣福山國小附設幼稚園 (韓文)
12:00 ~ 13:30	90	午 餐
13:30 ~ 14:50	80	專題講演 (七) 主 題：臺灣的幼兒園課程大綱 (一) 主持人：谷瑞勉 教授 國立屏東教育大學幼兒教育學系 主講人：幸曼玲 教授 (總綱) 臺北市立教育大學兒童發展碩士學位學程 同步翻譯人：笹岡敦子小姐 (日文) 朴外淑 韓國學校幼稚園老師 (韓文)
14:50~15:10	20	茶 敘 時 間
15:10~16:30	80	專題講演 (八) 主 題：臺灣的幼兒園課程大綱 (二) 主持人：江麗莉 教授 國立新竹教育大學幼兒教育學系 主講人：蔡敏玲 教授 (語文) 國立臺北教育大學幼兒與家庭教育學系 金瑞芝 教授 (社會) 臺北市立教育大學幼兒教育學系 簡淑真 教授 (情緒) 國立臺東大學幼兒教育學系 同步翻譯人：笹岡敦子小姐 (日文) 朴外淑 韓國學校幼稚園老師 (韓文)

第三天議程

2008 年 12 月 6 日 (星期六)		
時間	分鐘	主題
08:30 ~ 09:00	30	報到
09:00 ~ 10:20	80	<p>專題演講 (九)</p> <p>主 題：臺灣的幼兒園課程大綱 (三)</p> <p>主持人：林慧芬 教授 國立臺南大學幼兒教育學系</p> <p>主講人：柯華葳 教授 (認知) 國立中央大學學習與教學研究所</p> <p>林玫君 教授 (美感) 國立臺南大學戲劇創作與應用學系</p> <p>楊金寶 教授 (身體動作) 國立臺北護理學院嬰幼兒保育學系</p> <p>同步翻譯人：笹岡敦子小姐 (日文) 張金枝主任 (韓文)</p>
10:20~10:40	20	茶 敘 時 間
10:40~12:00	80	<p>綜合討論</p> <p>主 題：臺灣、日本及韓國幼稚園的課程實施</p> <p>主持人：柯華葳教授 國立中央大學學習與教學研究所</p> <p>主講人：文美玉 韓國幼兒教育學會前會長 小田豐 日本國立特別支援教育總合研究所</p> <p>秋田喜代美 日本東京大學 大學院 教育研究所</p> <p>幸曼玲 臺北市立教育大學兒童發展碩士學位學程</p> <p>金瑞芝 臺北市立教育大學幼兒教育學系</p> <p>林玫君 國立臺南大學戲劇創作與應用學系</p> <p>楊金寶 國立臺北護理學院嬰幼兒保育學系</p> <p>同步翻譯人：笹岡敦子小姐 (日文) 張金枝主任 臺北縣福山國小附設幼稚園 (韓文)</p>

文美玉 (문미옥)

簡歷：

現職：首爾女子大學人類開發學部幼兒教育教授

學歷：1988 年 韓國梨花女子大學教育學系研究所（博士）

經歷：2005-2007 年韓國幼兒教育學會會長

2004 年至今，OMEP 韓國委員會理事

1999 年至今，韓國傳統文化之幼兒教育研究會會長



近期著作與論文

一、著作

韓國的傳統文化與幼兒教育。首爾：良書院出版，2004 年

正確的父母計畫。首爾：良書院出版，2004 年

東西方交會的幼兒教育概論。首爾：教育研究院，2003 年

一、二歲嬰幼兒之自律性開發計畫。學志社，2001 年。

二、論文

2007 年幼、小、中學教育課程的編製、經營的爭議與改善方案。「韓國教育課程評價院研究報告 RRC」2007-1

2007 年幼稚園教育課程修定草案之修改補充研究。「韓國教育課程評價院研究報告 RRC」2007-3

2007 年探究以韓國傳統教育思想為基礎的幼兒教育課程方向。「2007 年度年會與定期學術研討之春季學術大會—韓國幼兒教育的定位VI」261-263 頁，2007 年。

大韓民國 2007 年修訂幼稚園教育課程

一修訂過程中，理論與實務所檢討內容議題

大韓民國幼稚園教育課程之修定結果，已於 2007 年 12 月 19 日公告。此一幼稚園教育課程的研究，是國家政策研究機中的韓國教育課程評鑑院和韓國幼兒教育學會共同合作下完成的。修定的過程考量了(1).人類、社會與國家的需求，(2).現場的實際調查，(3).第一次到第六次的教育課程內容分析成果，(4).檢視世界各國教育課程後可行於國內的內容。此外，還決定了十項修定方向，才建構了這次的修定草案。

修定後之幼稚園教育課程的特色為，以「人類對自然的尊重」此一世界觀為基礎、韓國的傳統文化、基本生活習慣、對各領域創造力展現的強調。

修定計畫之後由 200 餘人的協議會，以民眾為對象的公聽會，進行實務現場合宜性進行檢討，經由廣泛意見的收集過程之後才予以確定，最後公告全國。

秋田喜代美 (あきた きよみ)

本籍地 千葉県船橋市二ノ宮1丁目3番地13号
住所 東京都豊島区西池袋2丁目18番3号



学歴

1976年3月 国立お茶の水女子大学文教育学部附属高等学校卒業
1976年4月 東京大学文科3類入学
1980年3月 東京大学文学部社会学科卒業
1984年4月 東京大学教育学部学士入学
1986年3月 東京大学教育学部教育心理学科卒業
1988年4月 東京大学大学院教育学研究科修士課程入学
1988年3月 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了
1988年4月 東京大学大学院教育学研究科博士課程進学
1991年3月 東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学
1996年6月 博士(教育学)取得

職歴(専任のみ記載)

1980年4月—1981年12月 〈株〉富士銀行人事部勤務
1991年4月—1992年3月 日本学術振興会特別研究員(PD)
1992年4月—1993年3月 東京大学教育学部助手
1993年4月—1995年3月 立教大学文学部専任講師
1995年4月—1999年3月 立教大学文学部助教授
1999年4月—2004年3月 東京大学大学院教育学研究科・助教授
2004年4月-現在 東京大学大学院教育学研究科・教授

受賞等

1989年7月 日本教育心理学会城戸研究教育奨励賞受賞
1990年3月 発達科学研究センター 発達科学研究奨励賞
1993年8月 日本読書学会読書科学研究奨励賞受賞

所属学会

日本教育心理学会(2000年9月—2003年8月常任理事、機関誌副編集委員長
2006年1月—現在 機関誌編集委員)

日本保育学会(2003年9月—2006年5月 常任理事、機関誌編集委員 現在 副
会長)

日本乳幼児教育学会(2003年11月—2006年9月学会副会長、現在 常任編集委

員)

日本教育学会(2002年1月—2003年12月機関誌編集委員;2004年4月-現在 常任理事)

日本心理学会(2003年11月—現在 心理学ワールド編集委員 2005年11月—機関誌心理学研究、psychological research 編集委員)

日本発達心理学会(1995年1月—1996年12月機関誌常任編集委員)

日本読書学会(2002年6月—2005年4月理事 2005年5月—現在 常任理事・編集委員)

日本教育方法学会(理事 2003年10月—現在)

日本質的心理学会(2004年9月—現在 機関誌副編集委員長、理事)

AERA(米国教育学会), EARLI(ヨーロッパ教授学習学会) SRCD(北米行動発達学会), ISSBD(国際行動発達学会), EECELA(ヨーロッパ幼児教育学会), IRA(国際読書学会)

社会的活動

日本学術会議第20期会員(心理学・教育学分野)(2005年10月—現在)

文部省「幼稚園教育要領解説」作成協力者(1998年4月—98年12月)

文部省「幼稚園幼児指導要録」作成協力者(1999年12月—99年3月)

文部省「幼児教育の振興に関する調査研究」協力者(2000年3月—2001年1月)

文部科学省「教育課程改善のための教育研究開発企画評価会議」協力者(2000年9月—現在)

文部科学省「新家庭教育手帳」作成協力者(2003年5月—2004年3月)

文部科学省「幼稚園教育指導資料」作成協力者(2003年11月—2005年2月)

文部科学省中央教育審議会(幼児教育専門部会)協力委員(2005年11月—現在)

国立教育政策研究所「総合的な学力調査実施に関わる研究指定校」企画委員会協力者(2003年12月—現在)

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(2004年1月—2006年3月)

独立行政法人 青少年育成オリンピックセンター子どもゆめ基金審査委員(2001年6月—2005年6月)

全国学校図書館協議会機関誌編集委員(2000年4月—2006年3月)

NPOブックスタート理事(2000年9月—現在)

ソニー教育財団評議員(2003年5月—現在) 同財団幼児教育プログラム審査委員(2002年4月-現在)

財団法人野間教育研究所兼任所員(幼児教育部会座長)(2005年12月—現在)

秋田喜代美（あきた きよみ）

出生地：千葉県船橋市二ノ宮1丁目3番地13号
地 址：東京都豊島区西池袋2丁目18番3号



學歷

1976年3月 畢業於國立御茶水女子大學教育系附屬高中
1976年4月 入取東京大學文科3類
1980年3月 畢業於東京大學文學系社會學科
1984年4月 入取東京大學教育系
1986年3月 畢業於東京大學教育系教育心理學科
1988年4月 入取東京大學教育學研究所
1988年3月 取得東京大學教育學研究所碩士
1988年4月 進修東京大學教育學研究所博士
1991年3月 畢業於東京大學教育學研究所博士課程
1996年6月 取得教育學博士

經歷

1980年4月~1981年12月 富士銀行人事部
1991年4月~1992年3月 日本學術振興會特別研究員（PD）
1992年4月~1993年3月 東京大學教育系助教
1993年4月~1995年3月 立教大學文學系專任講師
1995年4月~1999年3月 立教大學文學系副教授
1999年4月~2004年3月 東京大學教育學研究所副教授
2004年4月~現在 東京大學教育學研究所教授

得獎

1989年7月 取得日本教育心理學會城戶研究教育獎
1990年3月 取得發展科學研究中心 發展科學研究獎
1993年8月 取得日本讀書學會讀書科學研究獎

所屬學會

- 日本教育心理學會（2000年9月~2003年8月常任理事・機關誌副編集委員長 2006年1月—現在 機關誌編集委員）

- 日本保育學會（2003年9月~2006年5月 常任理事、機關誌編集委員 現在 副會長）
- 日本嬰幼兒教育學會（2003年11月~2006年9月學會副會長 現在 常任編集委員）
- 日本教育學會（2002年1月~2003年12月機關誌編集委員；2004年4月-現在 常任理事）
- 日本心理學會（2003年11月~現在 心理學世界編集委員 2005年11月—機關誌心理學研究、psychological research 編集委員）
- 日本發展心理學會（1995年1月~1996年12月機關誌常任編集委員）
- 日本讀書學會（2002年6月~2005年4月理事 2005年5月—現在 常任理事・編集委員）
- 日本教育方法學會（理事 2003年10月—現在）
- 日本質的心理學會（2004年9月—現在 機關誌副編集委員長、理事）
- AERA（美國教育學會）、EARLI（歐洲教授學習學會）、SRCD（北美行動發展學會）、ISSBD（國際行動發展學會）、EECELA（歐洲幼兒教育學會）、IRA（國際讀書學會）

社會性質的活動

- 日本學術會議第20期會員（心理学・教育學）（2005年10月—現在）
- 協助教育部「幼稚園教育要領解說」（1998年4月—98年12月）
- 協助教育部「幼稚園幼兒指導要錄」（1999年12月—99年3月）
- 協助教育部「幼兒教育の振興に関する調査研究」（2000年3月—2001年1月）
- 協助教育・科學部「教育課程改善のための教育研究開発企画評価會議」（2000年9月—現在）
- 協助教育・科學部「新家庭教育手帳」（2003年5月—2004年3月）
- 協助教育・科學部「幼稚園教育指導資料」（2003年11月—2005年2月）
- 教育科學部中央教育審議會（幼兒教育專門部）（2005年11月—現在）
- 協助國立教育政策研究所「総合的な学力調査実施に関わる研究指定校」（2003年12月—現在）
- 日本學術振興會科學研究費委員會專門委員（2004年1月—2006年3月）
- 獨立行政法人 培養青少年奧林匹克中心—兒童基金審查委員（2001年6月—2005年6月）
- 全國學校圖書館協議會機關誌編集委員（2000年4月—2006年3月）
- NPO Bookstart 理事（2000年9月—現在）
- Sony 教育財團評議員（2003年5月—現在）同財團幼兒教育計畫審查委員（2002年4月-現在）
- 財團法人野間教育研究所兼任所員（幼兒教育部會長）（2005年12月—現在）

小田 豊 (おだ ゆたか)

所 属 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

職 名 理事長

連絡先 Tel・FAX 03-3734-8422 E-mail:yutaka@nise.go.jp

科学研究費補助金研究者番号 50024998



- 研究課題**
- ・教科等の構成と開発に関する調査研究
 - ・幼児期の教育方法・内容の改善研究
 - ・幼児期における臨床教育学的研究

- 主要職歴**
- 1974年4月－1994年3月 国立滋賀大学教育学部助教授・教授を歴任
 - 1994年4月 文部省初等中等教育局幼稚園課教科調査官に配置換え
 - 1996年10月 文部省初等中等教育局視学官併任
 - 2002年4月 文部科学省初等中等教育局主任視学官昇任
 - 2003年4月 国立教育政策研究所次長
 - 2005年4月 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 理事長就任

学 位 教育学士

- 所属学会**
- 日本保育学会
 - 日本乳幼児教育学会 (常任理事)
 - 日本子ども社会学会
 - 日本子ども野外文化学会 (常任理事)

主要著書・翻訳等 (7年未満)

- ・単著：「幼稚園教育の基本」 小学館 1999年
「新しい時代を拓く幼児教育入門」 東洋館出版 2001年
「幼児教育再生」 小学館 2003年
- ・編著：小田豊・榎沢良彦「新しい時代の幼児教育」 有斐閣 2002年
小田豊・森真理「家族援助論」 光生館 2003年
小田豊・青井倫子「幼児教育の方法」 北大路書房 2004年
小田豊・管野信夫・中橋美穂「保育臨床相談」 北大路書房 2006年
- ・監修・翻訳：白川容子・小田豊「乳幼児の発達にふさわしい教育実践」 全米幼児教育協

会編東洋館出版 2000年

- ・監訳：小田豊・奥野正義「子どもの心といきいきとかかわりあうプロジェクト」リアン・カッツ・シルビア・cアート 光生館 2004年
- ・監修・翻訳：小田豊・芦田宏「幼児教育と小学校教育の連携と接続—協同的な学びを生かしたプロジェクトアプローチ」 シルビア・チャド 光生館 2006年4月

論文・論説（7年未満）

- ・幼稚園教育の基本と保育の展開 文部科学省編集「初等教育資料」4月号 東洋館出版 2000年
- ・幼児期にふさわしい教育の在り方 全国幼稚園教育協議会紀要 第50号 全幼研 2000年
- ・園長のリーダーシップ 「幼稚園じほう」 第32号 全国国公立幼稚園長会編集 2003年
- ・Tracing the Development of Japanese Kindergarten Education -Focusing on changes of contents and curriculum 国立教育政策研究所紀要 133号 2004年
- ・保育者の持つ”良い保育者イメージに関するビジュアルエスノグラフィ：共論（野口隆子・門田理世・鈴木正敏・芦田宏・秋田喜代美・小田豊）質的心理学研究（日本質的心理学会）NO,4 2005年
- ・Yutaka Oda/Mari Mori: Current Challenges of Kindergarten Education in Japan -Toward Balancing Children's Autonomy and Teachers' Intention Journal of the Association for Childhood Education International 2006年

公的委員：広島大学大学院教育学研究科附属幼年教育研究施設 客員研究員 1998年—
お茶の水女子大学 子ども発達研究所 客員研究員 2002年—2005年
文部科学省初等中等教育局 視學員 2003年—

主要学歴 1966年3月 広島大学教育学部教育専攻科修了

小田 豊 (おだ ゆたか)

職務：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

職稱：理事長

連絡方式： TEL / FAX：03-3734-8422

E-mail: yutaka@nise.go.jp

科学研究費補助金研究者電話：50024998



研究課題

- 關於學校教育與教育課程的調查研究
- 幼兒期的教育方法、內容的改善研究
- 幼兒期的臨床教育學研究

主要經歷

1974年04月～1994年03月 国立滋賀大學教育系教授、副教授

1994年04月 擔任教育部初等中等教育局幼稚園課教科調查官

1996年10月 兼任教育部初等中等教育局教育行政長

2002年04月 晉升擔任教育・科學部初等中等教育局主任、教育行政長

2003年04月 国立教育政策研究所副所長

2005年04月 擔任獨立行政法人 国立特殊教育綜合研究所 理事長

學位

教育學士

所屬學會

- 日本保育學會
- 日本嬰幼兒教育學會(常任理事)
- 日本兒童社會學會
- 日本兒童戶外文化學會(常任理事)

主要著作、翻譯

- 著作：「幼稚園教育の基本」 小学館 1999年
「新しい時代を拓く 幼児教育入門」 東洋館出版 2001年
「幼児教育再生」 小学館 2003年
- 合編：小田豊・榎沢良彦「新しい時代の幼児教育」 有斐閣 2002年
小田豊・森真理「家族援助論」 光生館 2003年

- 小田豊・青井倫子「幼児教育の方法」 北大路書房 2004年
 小田豊・菅野信夫・中橋美穂「保育臨床相談」 北大路書房 2006年
- 主編・翻譯：白川容子・小田豊「乳幼児の発達にふさわしい教育実践」
 全米幼児教育協会編 東洋館出版 2000年
 - 合譯：小田豊・奥野正義「子どもの心といきいきとかかわりあうプロジェクト」リアソ・カツ・シルビア・cアト 光生館 2004年
 - 主編・翻譯：小田豊・芦田宏「幼児教育と小学校教育の連携と接続—協同的な学びを生かしたプロジェクトアプローチ」シルビア・チャト 光生館 2006年4月

論文・論説（7年未満）

- 幼稚園教育の基本と保育の展開 文部科学省編集「初等教育資料」4月号 東洋館出版 2000年
- 幼児期にふさわしい教育の在り方 全国幼稚園教育協議会紀要 第50号 全幼研 2000年
- 園長のリーダーシップ 「幼稚園じほう」 第32号 全国国公立幼稚園長会編集 2003年
- Tracing the Development of Japanese Kindergarten Education -Focusing on changes of contents and curriculum 国立教育政策研究所紀要 133号 2004年
- 保育者の持つ”良い保育者イメージに関するビジュアルエスノグラフィ：共論（野口隆子・門田理世・鈴木正敏・芦田宏・秋田喜代美・小田豊）質的心理学研究（日本質的心理学会）NO,4 2005年
- Yutaka Oda/Mari Mori: Current Challenges of Kindergarten Education in Japan -Toward Balancing Children's Autonomy and Teachers' Intention Journal of the Association for Childhood Education International 2006年

委員

廣島大學教育學研究所附属幼年教育研究設備 研究員 1998年～至今
 御茶水女子大學 兒童發展研究所 研究員 2002年～2005年
 教育科学省初等中等教育局 督導員 2003年～至今

主要學歷

1966年3月 取得廣島大學教育系教育學分



1. 개정의 경과

절차	내용	일시
개정 연구 및 수정	· 연구주관 : 한국교육과정평가원 주관/ 한국유아교육학회 협력	2006. 4. ~ 12
	· 연구진 : 학회추천 21인(교수,국책연구원, 현장교원, (영역연구자 중 27%가 현장교원) 평가원 연구원 4인	
	· 협의진 : 학자, 현장교원, 장학사 200여명	
	학회주관 세미나1회, 제 1차 토론회	2006. 12
	· 현장 적합성 검토연구 (권역별 장학사, 교원), · 유 초 중학교 교육과정평정운영연구 · 제 2차 토론회	2007. 4 ~ 8
집중작업	연구진대표, 교육부 담당자, 외부 위촉자, 국어 연구원에 의한 최종 수정	2007. 10
고지	2007년 개정 유치원 교육과정	2007. 12. 19
적용 준비연구	교육과정 해설서 개발	2008. 1. ~ 2008. 8
	지도활동 자료 개발	2008. 4 ~ 2008. 12
적용	2007년 개정 유치원 교육과정	2009. 3

2. 개정연구과정의 검토내용

1) 인류사회 및 국가 사회적 요구 검토

(1) 사람-자연 존중 세계관에 대한 21세기 시대적 요구

- 앨빈 토플러(Toffler, 2006) : 정보통신혁명
- 산업사회의 빈부격차보다 심한 불균형
- 인간성 상실과 갈등, 환경문제의 증대

**잠재능력과 창의성을 신장
사람-자연 존중 가치관으로의 전환을 필요**

2. 개정연구과정의 검토내용

1) 인류사회 및 국가 사회적 요구 검토

(2) 국가존속을 위협하는 저출산을 해결할 가치관 반영의 요구

- 세계 최초 최저 합계 출산율
- 미래학자 : 인구감소로 인한 최초의 소멸국 한국이라고 예견(박영숙, 2006)
- 가족의 중요성에 대한 가치관 결여와 유관

유아기부터 인간애, 가족애가 강조되는 가치관교육 필요

2. 개정연구과정의 검토내용

1) 인류사회 및 국가 사회적 요구 검토

(3) 가족구조 변화와 여성의 사회진출에 따른 사회적 요구

- 핵가족화와 취업모의 증가로 인해 육아 기능을 유아교육기관이 분담해달라는 사회의 요구
- 반일제, 시간연장제, 종일제의 운영의 확장에 대한 요구

해설서 및 지도자료집의 현실화

2. 개정연구과정의 검토내용

1) 인류사회 및 국가 사회적 요구 검토

(4) 유아교육 정체성 확립에 대한 요구

- 2004년 1월 8일 유아교육법제정 : 학교로서의 유치원 정체성 확고히 할 기반조성
- 학제개편논의 : 초등입학 만 5세 하향화 안, 초등학교실에 5세 유치반 : 초등학교의 준비교육, 조기특기교육이라는 잘못된 인식

초등학교와 다른 놀이중심 통합교육

2. 개정연구과정의 검토내용

1) 인류사회 및 국가 사회적 요구 검토

(5) 초등학교와의 연계성에 대한 요구

- 유치원과 초등학교 교육과정과의 연계성

-> 유치중등교육 모두
한국교육과정평가원에서 개정

2. 개정연구과정의 검토내용

2) 기존 유치원교육과정에 대한 유아교육현장전문가와 학계의 입장 및 요구조사 결과검토

- ❖ 인간상에 덕목강조
 - 목표에 정의적 측면 강조
 - 5개영역이되 초등 통합교과와 명칭 일치 노력
 - 교수학습원리 보강
 - 초등과의 연계성과 유치원정체성

2. 개정연구과정의 검토내용

3) 대한민국 유치원교육과정 역사적 변천에 따른 내용분석과 검토

4) 외국의 국가수준의 교육과정 검토

5) 유치원교육과정 개정 방향 설정

개정방향

- ❖ 1. 인간을 존중하고 자연을 사랑하는 세계관을 기저로 한다.
 - 홍익인간이념과 부합되는 우리 전통의 교육 가치관
 - 실태조사연구에서도 정의적인 측면이 강조 요구
 - 전인교육의 충실의 의미 : 인지, 인성발달의 조화추구
 - 목표, 내용, 교수방법, 평가에 일관성 있게 반영
- ❖ 2. 영역별 교육내용과 교수·학습방법은 지식과 개념 교육에 편중되지 않고, 생활과 관련된 내용, 생활을 통한 방법으로 구성한다

: 지(知)적인 측면과 정(情)적인 측면이 서로 조화, 실생활중심의 통합교육 충실

- 예 : 교수학습방법 : 생활 주변 자료와 생활환경을 적극 활용 강조

개정방향

- ❖ 3. 교육과정에 반드시 포함되어야 할 핵심적인 내용만 선정하고 논리적 체계를 구축하여 구성한다.
 - <총론> 교수학습방법 총론으로 전진배치
 - <영역>
 - 유사내용통합, 내용 수 줄임
 - 6차 교육과정 영역별 교육내용의 상위 범주명 '구분' -> 내용으로, '내용' -> '하위내용'으로.
 - 내용진술방식 : 개념적 지식, 절차적 지식이 포함되는 형태로 일치
 - 현행 6차 : 언어, 표현, 탐구 : 절차적 지식형태
 - 건강, 사회 : 개념적 지식, 범주명 진술 형태
 - 지도상의 유의점 신설

개정방향

- ❖ 4. 교육과정의 영역은 6차 교육과정의 영역 구분을 계승하여 건강, 사회, 표현, 언어, 탐구의 5개 생활영역으로 제시한다.
 - 실태조사연구 : 영역 명칭, 영역 수 개정 요구
 - 5차와 6차와의 연계성을 고려하여 영역 명칭과 영역 수를 승계
- ❖ 5. 교육 내용은 I, II 수준으로 제시한다. 단 공통 수준은 I수준의 내용이 II수준 까지 지속되는 것을 나타낸다.
 - 현장의 요구 : 3개 수준
 - 3개 수준의 역기능 : 3개 연평별 수준으로 경직되게 적용할 가능성
 - 해결책 : 지도자료집에서 **심화·확장**으로 수용.
 - 고시문에서는 오히려 수준별 내용을 삭제하는 것이 선진형으로 제안됨

5차, 6차의 수준별제시와의 연계, 유용성 측면 고려하여 2개 수준별 제시함.

개정방향

- ❖ 6. 한국전통문화의 장점을 전 교육과정 영역에서 강조하며 세계 문화를 이해하고 수용하는 내용과 서로 잘 융합되도록 한다.
 - 1차 유치원교육과정에서부터 지금까지 전통문화 강조
 - 특정영역, 특정 활동에서만 독립적으로 강조하지 않고 전 영역에의 통합 강조
 - 전통 이해, 관심->'즐거움'로 생활화 강조
- ❖ 7. 기본생활습관과 창의성은 적용 가능한 모든 영역에서 강조하여 구성한다.
 - 기본생활 목표를 첫 번째 목표항에 전진배치
- ❖ 8. 사회변화에 부응하여 반일제, 시간연장제, 종일제 등 다양한 교육과정 운영이 가능토록 한다.
 - 교육일수/교육시간: 180일/180분을 최소기준으로 함.
 - 반일제, 시간연장제 및 종일제 등 다양한 교육시간 운영

지도자료집에 실질적인 많은 적용 이루어져야 함.

개정방향

- ❖ 9. 유아의 성, 종교, 가족배경, 신체적 특성, 민족배경으로 인한 편견을 가지지 않도록 구성한다.
 - 교육기본법 제4조 '모든 국민은 성별, 종교, 신념, 사회적 신분, 경제적 지위 또는 신체적 조건 등을 이유로 교육에 있어서 차별을 받지 아니한다'는 정신을 반영

지도자료집의 주제 및 활동 외에도 예문, 삽화 등의 부분에서도 반영되어야 함.

개정방향

- ❖ 10. 유아교육법 제정취지에 따라 유치원 교육의 정체성을 확고히 하도록 하며 상급학교 간의 연계성을 도모하여 구성한다.
 - ▶ **정체성**
 - 총론의 구성방침, 교수방법 등에서 강조
 - 실생활, 놀이중심의 통합교육 중심 (교과의 개념, 지식에 치중한 교육 지양)
 - ▶ **연계성**

협의의 연계 및 광의의 연계의 개념 채택

- 협의: 학문의 논리적 위계
- 초중등과 공유할 수 있는 단어의 공동사용 (기술>기능)
- 광의: 인생전체의 기초-감각, 생활경험, 자율, 창의
- 유치원의 단어와 내용이 초등보다 어렵지 않도록 조정 (이동움직임>제자리에서 움직이기, 수감각기르기)
- 초중등과 문서체제 일치 원칙
- 인간상: 초중등과 일치 원칙

협의: 학문의 논리적 위계: 초등과 동일한 용어사용, 전진적 위계
 광의: 인생전체의 기초인 유치원교육: 생활경험의 풍부화, 자율과 창의 강조

3. 교육과정 구성 : 총론과 5개 영역

1) 총론의 목차 성격

I. 교육과정 구성의 방향 추구하는 인간상

2. 교육과정의 구성 방침

II. 유치원 교육 목적과 목표

III. 교육과정의 영역과 시간

IV. 교육과정 편성 • 운영 지침

1. 지역 및 유치원에서의 편성 • 운영

1) 시 • 도 교육청

2) 지역 교육청

3) 유치원

2. 교육과정 평가와 질 관리

V. 교수 • 학습 방법 및 평가

1. 교수 학습 방법

2. 교육 평가

3. 교육과정 구성 : 총론과 5개 영역

❖ 2) 5개 영역별 내용/건강생활

내용	하위 내용
나의 몸 인식하기	감각 기관을 활용하기 나의 몸을 인식하고 움직이기
나의 몸 움직이기	이동하며 움직이기 제자리에서 움직이기 도구 및 놀이 시설을 활용하기 바깥에서 신체 활동하기
건강하게 생활하기	몸과 주변을 깨끗이 하기 바른 식생활 하기 질병 예방하기 즐겁게 생활하기
안전하게 생활하기	나와 다른 사람의 몸을 소중히 하기 안전하게 놀이하기 교통안전 규칙 지키기 위험한 상황을 알고 대처하기 환경오염이나 재난에 대비하기

3. 교육과정 구성 : 총론과 5개 영역

사회생활

내용	하위 내용
나를 알고 사랑하기	나를 소중하게 여기기 나의 일 스스로 하기 나의 감정 알고 조절하기
가족과 함께 생활하기	가족과 화목하게 지내기 가족과 협력하기
이웃과 더불어 생활하기	예절 바르게 생활하기 다른 사람을 이해하고 존중하기 질서와 규칙 지키기 두려움의 소중함을 알고 협력하기
사회 현상에 관심 가지기	주변 지역에 관심 가지기 경제생활에 관심 가지기 우리나라와 우리 전통문화에 관심 가지기 다양한 문화에 관심 가지기

3. 교육과정 구성 : 총론과 5개 영역

❖ 2) 5개 영역별 내용

❖ 표현생활

내용	하위 내용
자연과 생활에서 아름다움 찾아보기	소리 • 움직임 • 조형물에 관심 가지기 예술적 요소 찾아보기
예술적 표현 즐기기	음악으로 표현하기 움직임과 춤으로 표현하기 조형 활동으로 표현하기 극놀이로 표현하기 통합적으로 표현하기 창의적인 표현 과정 즐기기
감상하기	아름다움 느끼기 예술적 표현 존중하기 우리 전통 예술 감상하기

3. 교육과정 구성 : 총론과 5개 영역

❖ 언어생활

내용	하위 내용
듣기	날말과 문장 듣고 이해하기 이야기 듣고 이해하기 문학 작품 즐기기 듣기 바른 태도로 듣기
말하기	날말과 문장으로 말하기 생각과 느낌 말하기 이야기 지어 말하기 바른 태도로 말하기
읽기	읽기에 관심 가지기 책에 관심 가지기
쓰기	쓰기에 관심 가지기 쓰기 도구 사용하기

3. 교육과정 구성 : 총론과 5개 영역

❖ 탐구생활

내용	하위 내용
탐구하는 태도 기르기	사물과 현상에 지속적인 관심 가지기 탐구 과정 즐기기
과학적 기초 능력 기르기	물체와 물질에 대해 알아보기 생명체와 자연환경 소중하게 여기기 자연현상에 대해 알아보기 간단한 도구와 기계 활용하기
수학적 기초 능력 기르기	수 감각 기르기 공간 및 도형에 대해 알아보기 기초적인 측정해 보기 규칙성 이해하기 자료 정리 및 결과 나타내기

4. 개정 유치원교육과정의 의미

- 1 가치론적인 입장의 교육과정으로 개정**
 - 교육내용 집중교육에서 광범위 교육목적 추구 중심의 교육으로의 전환
 - 기능주의적 교육과정에서 가치론적 교육과정으로의 변화
- 2 21세기 인류의 공통과제 해결의 관점에서 통일인간 교육이념의 재조명**
 - 사람과 자연존중 사고방식으로의 전환
 - 통일인간 교육이념으로 21세기 정보화시대의 창의적 지식창출, 인간성회복 및 자연회복의 가치관을 수용하여 정립
 - 대한민국 국가 교육과정으로서의 정체성 추구
- 3 유치원교육의 정체성과 상급학교와의 연계성 개념 강화**
 - 초등학교와 구분되는 학교로서의 정체성 확립
 - 초등교육과의 연계성 및 인생전체의 기초학교 개념으로서의 광의 및 협의의 연계성 개념 적용

5. 대한민국 유치원교육과정의 향후 과제

1) 정책적 측면

- ❖ (1) 수시개정과 주기적 개정체제 정립
- ❖ (2) 유치중등 교육과정 개정시기와 개정책임기관의 통일성
- ❖ (3) 교육과정 차기 개정을 대비하여 국가수준교육과정 편성 운영을 위한 기초적인 연구 조기 실시.

5. 대한민국 유치원교육과정의 향후 과제

2. 학문적 측면

- ❖ (1) 유치원교육과정 교육일수와 하루 교육시간에 대한 기초연구
- ❖ (2) 반일제, 시간연장제, 종일제의 교육과정학 측면에서의 개념연구
- ❖ (3) 표준보육과정과 유치원교육과정의 연계 및 통합적 제시 방안
- ❖ (4) 통합교육과정에서의 내용진술방식에 대한 연구 심화
- ❖ (5) 5개 생활영역 명칭의 분류와 명칭의 적절성 연구
- ❖ (6) 수준별 교육내용 제시의 적절성과 수준별 교육의 의미에 대한 연구

5. 대한민국 유치원교육과정의 향후 과제

3. 실천적 측면

- ❖ (1) 국가수준의 교육과정과 단위 유치원교육과정의 연계와 독자성 실현
- ❖ (2) 교사의 국가수준의 교육과정연수 방법개선 및 효율적 실천
- ❖ (3) 교육과학기술부가 실시하는 장학지도와 유치원 평가를 통한 교육과정 실천 지원방식의 개선



1. 修訂過程		
步驟	內容	時程
修訂研究及修正會議	<ul style="list-style-type: none"> 研究主辦：韓國教育課程評鑑院主辦/韓國幼兒教育學會協辦 研究團隊： <ul style="list-style-type: none"> 學會推薦 21名 (教授、政策研究員、現場教師) (領域研究員中 27%為現場教師) 評鑑員 研究員 4名 協議團隊：學者、現場教師、醫學 200餘名 	2006. 4. ~ 12
	學會主辦會議1次、第一次討論會	2006. 12
	<ul style="list-style-type: none"> 現場適宜性檢討研究 (區域性醫學、教師) 幼、小、中學校教育課程編輯運作研究 第二次討論會 	2007. 4 ~ 8
整體作業	研究團隊代表、教育部承辦員、外部委任者、國語研究員作最終修正	2007. 10
公告	2007年修訂幼稚園教育課程	2007. 12. 19
相關實施準備之研究	開發教育課程解說書	2008. 1. ~ 2008. 8
	開發指導手冊	2008. 4 ~ 2008. 12
適用	2007年修訂之幼稚園教育課程	2009. 3

2. 修訂研究過程之檢討內容

1) 檢討人類社會及國家社會之需求

(1) 有關尊重人類-自然世界觀 之 21世紀的需求

- Toffler(2006)：資訊革命
- 比產業革命所造成的貧富差距還大
- 此環境產生了人性喪失與無奈掙扎的問題

**強調潛在能力與創意
以價值觀轉變尊重人類-自然的必要性**

2. 修訂研究過程之檢討內容

1) 檢討人類社會及國家社會之需求

(2) 有關如何解決威脅國家生存的低出生率之價值觀

- 全世界上最早的就是出生率最低的國家
- 未來學者：因人口減少而最先消滅的國家
預測為韓國(朴英淑, 2006)
- 這現象與欠缺家庭重要性之價值觀有關

從幼兒期起需強調「家庭的愛」之價值觀

2. 修訂研究過程之檢討內容

1) 檢討人類社會及國家社會之需求

(3) 因家庭結構的改變與女性就業而產生之社會需求

- 小家庭化與就業母親之增加，要求幼兒教育機關能分擔幼兒的教育與照顧之社會需求
- 半日班、延長時間制、全日班等之運作擴大

結合解說書及指導資料實際操作

2. 修訂研究過程之檢討內容

1) 檢討人類社會及國家社會之需求

(4) 確立幼兒教育的定位

- 2004年 1月 8日幼兒教育法制定：奠定幼兒教育為學校體系
- 學制改編議題：
 - ：國小入學滿五歲向下延伸計畫，五歲兒童進入幼稚班
 - ：國小的預備教育，早期被認為屬特殊教育是錯誤的觀念

與國小不同的是以遊戲為中心之統整教育

2. 修訂研究過程之檢討內容

1) 檢討人類社會及國家社會需求

(5) 幼小銜接之需求

- 幼稚園與國小教育課程之銜接性
- > 幼教、小教、中教全部
由韓國教育課程評鑑院改訂

2. 修訂研究過程之檢討內容

2) 對既有幼稚園教育課程-幼兒教育實務專家與學界之立場及需求調查之結果檢討

- ❖ 人性上要強調道德與和睦
 - 在目標中強調
 - 五個領域名稱與小學統整教學課程要一致
 - 加強教授學習原理
 - 與國小銜接性和幼稚園本位性

2. 修訂研究過程之檢討內容

3) 韓國幼稚園教育課程歷史性變遷之內容分析與檢討

4) 外國國家層級的教育課程之檢討

5) 設定幼稚園教育課程之修訂方向

修訂方向

- ❖ 1. 以尊重人、愛自然為基礎之世界觀
 - 符合人類福祉理念的我國傳統教育價值觀
 - 實際調查研究中也強調正義層面之需求
 - 充實全人教育之意義：認知、人性發展之協調需求
 - 目標、內容、教學方法、評量間的一致性
- ❖ 2. 各領域教育內容與教學方法不要偏重知識與概念教育，在生活中學習與生活相關聯的內容

：知的層面與情的層面相互搭配，
充實以生活為中心之統整教育

- 例如：教學方法
：強調積極運用社區資源與社區周邊環境

修訂方向

- ❖ 3. 教育課程必須選定重要核心內容，再結構成理論性內容
 - <總綱>教學方法總綱 前進代置 (전진배치, 成語意思為往此方向前進不改變)
 - <領域>
 - 統整相似的內容，減少內容數
 - 第六次教育課程 教育內容之上層範圍名稱
'區分' -> 以內容,
'內容' -> 以下層內容'
 - 內容陳述方式：包含概念性知識、程序性知識等兩種型態
 - 現行第六次：語言、表現、探索---程序性知識
健康、社會---概念性知識

修訂方向

- ❖ 4. 在教育課程的領域上延續第六次教育課程領域-
包括：健康，社會，表現，語言，探索等五個生活領域
 - 實際調查研究：領域名稱，領域數 修訂之需求
 - 考量第五次第六次之連續性，延續領域名稱與領域數
- ❖ 5. 教育內容依 I、II 水準提示，唯共同水準則由第I水準內容持續到第II水準
 - 現場需求：三個水準
三個水準之危機：三個年齡分別訂定水準，可能在使用上過為僵硬
 - 解決方法：允許「指導資料集」深化內容
 - 公告文裡刪除水準別內容，提案為先進型

▼

第五次、第六次與水準別提示 連結，為考量有用性層面提示2個水準別。

修訂方向

- ❖ 6. 在所有教育課程領域裡要強調韓國傳統文化之優點，並接納與理解世界文化內容，且能相互融合
 - 自第一次教育課程起一直至今強調傳統文化
 - 不是只在特定領域、特定活動裡強調，乃是在全領域裡的統整性中強調
 - 理解與關切傳統 -> 強調在生活中的‘享受’
- ❖ 7. 在所有領域中適宜的地方都強調基本的生活習慣與創造性
 - 基本生活目標排列在第一目標欄位
- ❖ 8. 為順應社會變遷安排實施半日班、延長時間制、全日班等多種教育課程
 - 教育天數/教育時數：最少基準為180天 /180分鐘
 - 營運多元之半日班、延長時間制及全日班等教育時間

在指導手冊裡記載多種實際可用之資料

修訂方向

- ❖ 9. 不可有幼兒之性別、宗教、家庭背景、身體特質、民族背景等之偏見
 - 教育基本法 第四條 「所有國民不可因宗教、信念、社會身份、經濟地位 或身體條件等而產生教育之差別待遇」

除在指導手冊之主題及活動外，而且也要反應在其範例、插圖等部份

修訂方向

- ❖ 10. 依幼兒教育法所訂定之主旨
 - 確立幼稚園教育之本位性，並計劃建構與上級學校之銜接。

本位性

- 在總綱之構成方針及教學法中強調
- 充實實際生活，以遊戲中心的統整教學 (提倡重視教課概念、知識之教育)

銜接性

採取狹義及廣義之銜接概念

- 狹義：為考量學習內容之倫理性
使用與 國小、國中 所共有的單字 (技術-> 技能)
- 廣義：人生整體之基礎-感覺、生活經驗、自律、創意
調整幼稚園所使用之單字與內容難異度-比國小更簡易 (轉移-> 侷限在原位移動)
- 與國小、國中 之文書體制一致為原則
- 人間相 (人性) :與國小、國中一致為原則

狹義：學習內容之倫理性：漸進的考量與國小、國中 之使用語
廣義：為人生整體基礎之幼稚園教育：生活經驗豐富化，強調自律性與創意性

3. 建構教育課程：總綱與五個領域

1) 總綱目錄

性質

- I. 建構教育課程之方針
- II. 幼教育目的與目標
- III. 教育課程之領域與時間

IV. 教育課程之編輯・營運手冊

1. 在地區與幼稚園裡之編輯・營運
 - 1) 市・縣教育廳
 - 2) 區教育廳
 - 3) 幼稚園
2. 幼稚園評鑑與品質管理

V. 教學方法及評鑑

1. 教學方法
2. 教育評鑑

3. 建構教育課程：總綱與五個領域

- ❖ 2) 五個領域別內容/ 健康生活

內容	次內容
認識身體	活用感覺功能 認識自身並移動
移動身體	移動 在原處移動 使用工具及遊戲器材 戶外遊戲
健康的生活	清潔身體和周邊 (指自己使用的用品) 養成正確之衛生習慣 預防疾病 快樂地生活
安全的生活	尊重自己與他人之身體 安全地遊戲 遵守交通規則 知道危險並防範 防治環境污染或災難

3. 建構教育課程：總綱與五個領域

- ❖ 社會生活

內容	次內容
了解並愛自己	看重自己 自己處理自己的事情 了解並控制自己的感覺
與家人生活在一起	與家人和睦相處 與家人同心協力
與鄰居共處	生活有禮貌 理解並尊重他人 守秩序與規則 了解周邊的人所需並給予協助
關心社會現象	關懷周遭事物 關心經濟生活 關心我國與我國之傳統文化 關懷多元文化

3. 建構教育課程：總綱與五個領域

❖ 2) 五個領域內容

❖ 表現內容

內容	次內容
自然與生活 尋求美	關切聲音・移動・造型 尋求藝術性要素
表現藝術並喜好	使用音樂表現 使用移動與舞蹈表現 使用造型活動表現 使用戲劇表現 依統整方式表現 喜好創意性表現
欣賞	感受美 尊重藝術性表現 欣賞我國傳統藝術

3. 建構教育課程：總綱與五個領域

❖ 語言生活

內容	次內容
聽	理解語詞與文章 理解故事內容 喜歡聆聽文學作品 用正確態度傾聽
說	使用語詞與文章說話 說出感覺與思維 說出自編故事 以正確態度說話
讀	用心的讀 喜歡書籍
寫	用心寫字 使用書寫工具

3. 建構教育課程：總綱與五個領域

❖ 探索生活

內容	次內容
培養探索態度	持續關心事物與現象 喜好探索過程
培養科學基礎能力	探究物體與物質 珍惜生命與自然環境 探索自然現象 使用簡單的工具與機械
培養數學基礎能力	培養對數的感觸 探究空間與圖形 事物的基礎測量 理解規則性 整理資料及呈現結果

- ### 4. 修訂幼稚園課程之意義
- 1 以價值論的立場來修正教育課程
 - 在整體的教育內容中應積極追求的教育目標
 - 由技能主義教育課程轉移為價值論的教育課程
 - 2 為解決21世紀人類共同關切之議題，造福人類福祉之教育理念
 - 思考方式應尊重人類與自然
 - 在21世紀資訊化時代中，創造符合人類福祉教育理念之創意知識，整理與接受恢復人性及自然之價值觀
 - 韓國整體國家教育課程追求之根本
 - 3 強化幼稚園教育之本位概念及與上級學校之銜接概念
 - 確立與國小區分之學校本位性
 - 適於作為幼小銜接及終身教育之基礎學校概念等廣意與狹義之銜接概念

- ### 5. 韓國幼稚園教育課程之未來議題
- #### 1) 政治層面
- ❖ (1) 確立數次修定與週期性改訂體系
 - ❖ (2) 幼小中教育課程修訂的時間與責任統一由一個機關負責
 - ❖ (3) 以國家教育層級編排教育課程，以研究初期基礎性的實施，以及為下次教育課程的修正做準備

- ### 5. 韓國幼稚園教育課程之未來議題
- #### 2. 學術性層面
- ❖ (1) 幼稚園教育課程之教育日數及一天教育時間之基礎研究
 - ❖ (2) 半日班、延長時間制、全日班教育課程層面之概念研究
 - ❖ (3) 標準保育課程與幼稚園教育課程之銜接及統整性提案
 - ❖ (4) 深入探討統整教育課程內容之陳述方式
 - ❖ (5) 五個生活領域名稱之分類與名稱之適當性研究
 - ❖ (6) 提出水準別教育內容之適當性與水準別教育意義之研究

5. 韓國幼稚園教育課程之未來議題

3. 實施層面

- ❖ (1) 實現國家水準之教育課程與單位幼稚園教育課程之銜接性與獨立性
- ❖ (2) 實施改善教師國家水準之教育課程研修方法及效益
- ❖ (3) 改善由教育科學技術部實施之督學指導與經由幼稚園評鑑即將實施之教育課程

대한민국 2007년 개정 유치원교육과정 작성과정에서의 이론적 실천적 검토내용과 과제

서울여자대학교 교수
한국유아교육학회 전임회장 문 미옥

1. 개정의 경과

대한민국 유치원 교육과정은 1969년 최초로 고시된 이후 6차례에 걸쳐 사회적, 정치적, 학문적 변화와 요구를 민감하게 수용하며 개정되어 왔다. 2차는 10년, 3차는 2년, 4차는 6년, 5차는 5년, 6차는 6년 만에 개정되었다. 제 6차 유치원교육과정이 교육부의 고시로서 공고된 것은 1998년 6월 30일이었으며 최근 9년 만에 다시 개정되는 것이다.

이번 개정을 위한 연구는 2006년 4월에 시작되어 2007년 12월 19일 고시되었다. 연구는 국책연구기관인 한국교육과정평가원에서 초·중·고등교육과정과 함께 수행하였다. 유치원교육과정의 경우는 한국유아교육학회가 추천한 21명의 연구진과 평가원 연구원 4인, 총 25명의 연구진에 의해 수행됨으로서, 주관기관인 한국교육과정평가원과 한국유아교육학회가 공동으로 진행한 연구라 할 수 있다. 또한 교수, 장학사 및 장학관, 현장교원으로 구성된 200여명의 협의진과의 여러 차례에 걸친 협의 과정을 거쳐 수정되었다. 또한 2006년 12월, 학회와 평가원이 공동주최한 학술대회, 2006년 12월 15일 및 2007년 7월 12일 두 차례에 걸친 교육부 주관의 공청회 및 토론회를 거쳐 광범위한 의견수렴과 수정과정이 진행되었다. 또한 개정연구수행 직후 2007년 6월에서 8월 사이에 ‘현장적합성 검토연구’와 ‘유치원 교육과정 편성·운영의 쟁점과 개선방안연구’가 후속연구로 이루어짐으로서 현장교사와 장학사를 중심으로 현장적용의 적절성을 검증하는 과정을 거쳤다. 개정연구와 몇차례의 토론회 및 후속연구를 바탕으로 연구진과의 협의 교수진, 교육인적자원부 담당자들로 구성된 최종 집중작업진의 보완과정을 거쳐 최종시안을 확정 고시하였다.

또한 교육과정 개정이 이루어 진후 교육과정에 대한 상세한 <해설서>를 집필하여 발간하였으며 현재는 유치원에서 직접 활용할 수 있도록 하는 <교육활동지도자료> 총 13권과 CD ROM 2권을 개발 중에 있다.

2. 개정연구과정의 검토 내용

개정연구를 위한 기초 연구검토내용은 다음과 같다.

1) 인류사회 및 국가 사회적 요구 검토

미래사회를 준비하기 위해서는 지식정보화시대가 필요로 하는 창의적 지식창출 능력과 인간성회복 및 자연과의 관계회복이 이루어져야 하며, 이는 대한민국의 교육이념의 핵심인 홍익인간정신과 맥락을 같이 하고 있음을 검토

(1) 사람-자연 존중 세계관에 대한 21세기의 시대적 요구

21세기는 산업사회를 거쳐 지식정보화 시대에 도래함으로써 급격한 속도로 변화하고 있다. 오늘날의 사회변화는 그 속도가 빠르다는 것뿐만 아니라, 사회조직과 운영의 원리, 기본적인 가치관조차도 바뀌는 질적인 전환의 양상을 보이고 있다. 앨빈 토플러(Toffler, 2006)가 언급했듯이 정보통신혁명을 일컫는 제 3의 물결은 수천 년에 걸친 제 1의 물결인 농업혁명이나 300년이 걸린 제 2의 물결인 산업혁명에 비하여

불과 20~30년 사이에 일어날 것이며, 그 문화적 충격은 이전의 사회변화와는 비교할 수 없을 정도로 깊고 클 것이다. 지식 정보화 시대는 그 엄청난 변화와 발전과 함께 또 한 편에서는 산업사회의 빈부 격차와는 비교가 되지 않을 정도의 소유와 기회의 심각한 불균형으로 인한 불평등, 인간성 상실과 갈등, 환경문제의 증대가 예견되고 있다. 그러므로 현대 인류가 처한 인간성 회복과 환경문제의 심화를 어떻게 해결하느냐 하는 점은 21세기 인류사회의 가장 주요한 과제이다. 지식정보사회에서는 잠재능력과 창의성을 키우는 것을 뛰어넘어 인간 및 자연 존중의 가치관으로의 전환을 요청하고 있는 것이다. 따라서 지식 정보화시대를 맞이한 현재와 미래사회에서의 유치원 교육과정은 이러한 인류사회의 변화에 능동적으로 대처할 수 있는 교육과정으로 개정이 되어야 할 필요가 있다.

(2) 국가 존속을 위협하는 저출산을 해결할 가치관 반영의 요구

우리나라는 예로부터 가족 중심의 문화를 이어왔다. 그러나 핵가족화, 여성의 사회진출이 가속화됨으로써 전 세계적으로 유래가 없는 세계 최초로 최저의 합계 출산율을 기록하고 있다. 지금의 추세라면 앞으로 젊은 세대가 고령세대를 책임져야 할 부담이 너무 커지고 국가 경쟁력이 약화될 것이다. 심지어는 우리나라가 세계 여러 나라 중 인구감소로 인한 최초의 국가 소멸국이 될 것이라고 미래학자들이 예견하고 있다(박영숙, 2006). 저출산의 문제는 여성의 사회진출이라는 사회구조 변화와도 관계되며 가족의 중요성에 대한 가치관 결여와 유관하다. 저출산의 근원적 해결책은 유아기부터 가족의 소중함을 교육하는 것이다. 유아는 태어난 것 자체만으로도 개인적 존재 가치가 있으며 국가적으로도 인적자원 및 생산적 가치가 있는 소중한 존재이다. 저출산으로 국가위기에 처한 현 국가적 상황은 유아기부터 인간애와 가족애 등이 강조되는 가치관 교육이 생활화되도록 하는 유치원 교육과정 구성을 필요로 한다. 우리의 전통적 세계관이기도 하며, 지식정보화시대의 사회의 요구이기도 한 사람-자연 존중 세계관은 저출산 문제 해결을 위해서도 교육과정에 반영되어야 하는 것이다.

(3) 가족구조 변화와 여성의 사회진출에 따른 사회적 요구

제 5차 교육과정에서부터는 일과 시간의 다양성을 위해 반일제, 시간연장제, 종일제의 운영을 권장하고 있다. 이는 핵가족화나 취업모의 증가로 인해 가정에서의 육아 기능을 유아교육기관이 분담해 줄 것을 원하는 사회의 요구를 반영한 것이다. 지금까지 종일제 프로그램은 주로 저소득층 취업모의 자녀들을 위해 보육기관을 중심으로 이루어져 왔다. 하지만 중산층 이상의 취업모가 증가함에 따라 질 높은 교육을 제공해주는 종일제 프로그램을 요구하고 있다. 이에 많은 유치원들이 종일제를 운영하고는 있지만 이에 대한 교육과정의 개발은 아직 미흡한 단계이어서, 연장된 시간을 단순히 특기 재능교육으로 보내는 경우가 많이 있다. 그러므로 새로운 교육과정에서는 이러한 변화를 보다 적극적으로 반영할 필요가 있다.

(4) 유아교육 정체성 확립에 대한 요구

우리나라 ‘교육기본법’과 ‘유아교육법’에 유치원은 만 3세부터 취학 전까지의 아동을(유아교육법 제2조) 대상으로 하는 공공성을 지닌 학교(교육기본법 제9조)이며, 취학직전 1년의 유아교육은 무상이다(교육기본법 제24조)라고 규정되어 있다. 현행 법령뿐만 아니라, 과거 법령인 1908년 ‘고등여학교령’, 1922년 ‘조선교육령’, 1949년 ‘교육법’, 1982년 ‘유아교육진흥법’ 등에서도 유치원은 교육법상의 학교로 일관성 있게 규정되어 왔다. 2004년 1월 8일에는 유아교육법이 초등학교법으로부터 독립하여 유치원이 학교로서의 정체성을 보다 확고히 할 수 있는 법적 장치가 마련된 상태이다. 그러나 현재 논의되고 있는 학제개편 논의에서 유아교육과 관련된 개편안 중에는 ‘초등입학시기를 만 5세로 하향화하자는 안, 만 5세만을 초등유휴교실에 설치하고 5세만을 의무교육으로 기간 학제화 하자는 의견이 포함되어 있다. 유치원은 1949년 구교육법에서부터 이미 학교로 규정되어 있다. 또한 초등학교와는 구분되어야 하는 특성을 가진 교육이다. 그럼에도 불구하고 그 고유성을 인정하지 않은 채 학제개편

논의가 이루어지고 있다는 점은 아직도 유치원 교육의 중요성이 충분히 인식되어 있지 않음을 말해준다.(문미옥, 2006a, b, c)

한편, 그 동안 직접적으로 6차 교육과정의 개정을 요구한 것은 아니지만 개정을 간접적으로나마 요구하는 것으로 생각해 볼 수 있는 사회적 변화의 요인들이 있다. 유아교육계에서는 최근에 이르러 유아교육의 정체성을 확립해야 한다는 목소리가 더욱 높아지고 있다. 유아교육은 오랜 역사에도 불구하고 다른 학교 교육과는 달리 정체성이 혼돈되어 있다. 초·중·고등학교의 경우는 누가, 누구를, 어디서, 무엇을 가르치는가에 대한 인식이 일관적인데 반해 유아교육의 경우는 유아교육의 대상 연령 범위가 어디까지인지, 유아교육을 실시하는 기관이 어디인지, 그리고 무엇을 가르치는지에 대한 인식이 불분명하다. 유치원은 교과중심의 구조화된 교육을 하는 초등학교와 다르게 출생에서 만 6세까지의 유아를 대상으로 놀이중심의 통합교육을 하는 학교이다. 또한 유아교육은 유아의 발달 특성으로 인해 초등학교와 다르게 교육과정에서는 유아의 자유선택 활동을 강조하고, 역할과 기능 면에서는 보육을 포괄하여 가정과 같은 역할과 기능을 필요로 한다. 따라서 이번 유치원 교육과정 개정에서는 유아의 자유선택(양옥승, 2004)과 놀이중심의 통합교육이 강조되어 지식 개념위주의 구조적 초등학교와 차별화되는 특성이 더욱 드러나도록 개정되어야 할 필요가 있다.

(5) 초등학교와의 연계성에 대한 요구

유치원 교육과정과 초등학교 교육과정과의 연계성 유지는 교육 경험의 연속성, 반복성, 일관성, 통합성의 차원에서 매우 중요한 문제이다. 특히 유치원이 유·초·중·고·대학으로 연결되는 기본 학교 제도권 하의 학교로서의 위치를 확고히 하기 위해서도 연계성을 고려한 교육과정이어야 한다. 그 동안의 교육과정 개정에서도 유·초 연계성을 위한 노력이 이루어져왔다. 이번 7차 교육과정은 특히 유아교육법이 제정되어 유아교육의 공교육 확립을 위한 법적 토대가 마련된 시점인 점을 고려하여, 유·초 연계의 개념과 방법을 체계화하고 보다 적극적으로 교육과정 개정에 반영할 필요가 있다. 여기서 유·초 연계라 함은 유치원교육이 초등 뿐 아니라 초중등과 대학 및 인생 전체를 위한 기반이 되어야 하는 광범위한 경험이 되어야 한다는 차원에서의 보다 확장된 개념으로 해석하였다.

2) 기존 유치원교육과정에 대한 유아교육현장전문가와 학계의 입장 및 요구조사 결과검토

2005년도에 실시한 연구결과 검토

현행 교육과정의 구성 및 운영의 실태를 알아보기 위해 전국의 공·사립 유치원 교사 1612명을 대상으로 조사 연구한 결과, 교육과정 개정이 다음과 같은 내용으로 이루어져야 할 필요가 있음을 제시하고 있다(김영옥·조부경·홍혜경·김희진, 2006). 첫째, 추구하는 인간상에 추가해야 할 내용은 타인배려, 예절, 공동체 의식 형성 등이다. 또한 교육내용으로 협동심, 예절, 질서, 책임감, 절제, 의사소통능력, 자립, 배려 등과 같은 중요 덕목을 포함하여 구성하는 것이 바람직하다. 둘째, 유치원 교육과정의 교육목표는 제 6차 교육과정의 교육목표를 기본으로 하되, 정의적 측면을 보다 강조하는 방향으로 구성한다. 셋째, 유치원 교육과정의 구성 체계는 제 6차 교육과정의 5개 생활영역으로 구성하되, 초등과의 연계성을 고려한 영역(예: 국어-언어 생활, 수학-탐구 생활, 바른생활-사회 생활, 슬기로운 생활-탐구 생활, 즐거운 생활-건강 생활, 표현 생활)으로 구성한다. 넷째, 수준별 내용제시를 I, II수준에서 연령별 수준으로 구성하는 방안을 고려한다. 교수-학습 원리는 제 6차 유치원 교육과정에서 제시하고 있는 4가지 중점사항을 기본으로 하되, 교육활동 지도 자료집을 보다 보완하여 제시한다. 여섯째, 초등과의 연계성을 고려하는 것이 바람직하다.

3) 대한민국 유치원교육과정 역사적 변천에 따른 내용분석과 검토

제 1차 유치원 교육과정에서부터 제 6차 유치원 과정(교육부, 1998, 1992, 1987, 1981,

1979, 1969)의 내용을 각 항목별로 비교 분석하고 연계할 부분, 되살릴 부분, 첨가 혹은 변화할 부분을 논의.

4) 외국의 국가수준의 교육과정 검토

건강, 사회, 표현, 언어, 탐구영역의 5개 영역별로 일본 미국 영국 프랑스 스웨덴 등 세계 여러 나라의 국가수준의 교육과정을 분석하여 세계적인 동향과 흐름을 필요한 경우 반영하고자 하였다.

5) 유치원 교육과정 개정방향 설정

미래사회변화에 대한 검토, 현장관계자의 요구조사, 1~6차 교육과정비교, 외국 교육과정 검토 결과 등을 종합하여 유치원 교육과정 개정 방향과 구성 체제별 세부내용 지침을 정하였으며 이를 토대로 개정시안을 구성하였다.

유치원교육과정 개정 방향은 다음과 같다.

- (1) 인간을 존중하고 자연을 사랑하는 세계관을 기저로 한다.
- (2) 영역별 교육내용과 교수-학습방법은 지식과 개념 교육에 편중되지 않고, 생활과 관련된 내용, 생활을 통한 방법으로 구성한다
- (3) 교육과정에 반드시 포함되어야 할 핵심적인 내용만 선정하고 논리적 체계를 구축하여 구성한다.
- (4) 교육과정의 영역은 6차 교육과정의 영역 구분을 계승하여 건강, 사회, 표현, 언어, 탐구의 5개 생활영역으로 제시한다.
- (5) 교육 내용은 I, II 수준으로 제시한다. 단 공통 수준은 I수준의 내용이 II수준까지 지속되는 것을 나타낸다.
- (6) 한국전통문화의 장점을 전 교육과정 영역에서 강조하며 세계 문화를 이해하고 수용하는 내용과 서로 잘 융합되도록 한다.
- (7) 기본생활습관과 창의성은 적용 가능한 모든 영역에서 강조하여 구성한다.
- (8) 사회변화에 부응하여 반일제, 시간연장제, 종일제 등 다양한 교육과정운영이 가능토록 한다.
- (9) 유아의 성, 종교, 가족배경, 신체적 특성, 민족배경으로 인한 편견을 가지지 않도록 구성한다.
- (10) 유아교육법 제정취지에 따라 유치원 교육의 정체성을 확고히 하도록 하며 상급학교 간의 연계를 도모하여 구성한다.

3. 교육과정 구성 : 총론과 5개 영역

1) 총론의 목차

성격

- I . 교육과정 구성의 방향
 1. 추구하는 인간상
 2. 교육과정의 구성 방침
- II . 유치원 교육 목적과 목표
- III. 교육과정의 영역과 시간
- IV. 교육과정 편성. 운영 지침
 1. 지역 및 유치원에서의 편성. 운영

- 1) 시. 도 교육청
- 2) 지역 교육청
- 3) 유치원
- 2. 교육과정 평가와 질 관리
- V. 교수·학습 방법 및 평가
 - 1. 교수·학습 방법
 - 2. 교육 평가

2) 5개 영역별 내용

건강생활

내용	하위 내용
나의 몸 인식하기	감각 기관을 활용하기 나의 몸을 인식하고 움직이기
나의 몸 움직이기	이동하며 움직이기 제자리에서 움직이기 도구 및 놀이 시설을 활용하기 바깥에서 신체 활동하기
건강하게 생활하기	몸과 주변을 깨끗이 하기 바른 식생활 하기 질병 예방하기 즐겁게 생활하기
안전하게 생활하기	나와 다른 사람의 몸을 소중히 하기 안전하게 놀이하기 교통안전 규칙 지키기 위험한 상황을 알고 대처하기 환경오염이나 재난에 대비하기

사회생활

내 용	하위 내용
나를 알고 사랑하기	나를 소중하게 여기기 나의 일 스스로 하기 나의 감정 알고 조절하기
가족과 함께 생활하기	가족과 화목하게 지내기 가족과 협력하기
이웃과 더불어 생활하기	예절 바르게 생활하기 다른 사람을 이해하고 존중하기 질서와 규칙 지키기 두레의 소중함을 알고 협력하기
사회 현상에 관심 가지기	주변 지역에 관심 가지기 경제생활에 관심 가지기 우리나라와 우리 전통문화에 관심 가지기 다양한 문화에 관심 가지기

표현생활

내용	하위 내용
자연과 생활에서 아름다움 찾아보기	소리, 움직임, 조형물에 관심 가지기 예술적 요소 찾아보기
예술적 표현 즐기기	음악으로 표현하기 움직임과 춤으로 표현하기 조형 활동으로 표현하기 극놀이로 표현하기 통합적으로 표현하기 창의적인 표현 과정 즐기기
감상하기	아름다움 느끼기 예술적 표현 존중하기 우리 전통 예술 감상하기

언어생활

내용	하위 내용
듣기	낱말과 문장 듣고 이해하기 이야기 듣고 이해하기 문학 작품 즐겨 듣기 바른 태도로 듣기
말하기	낱말과 문장으로 말하기 생각과 느낌 말하기 이야기 지어 말하기 바른 태도로 말하기
읽기	읽기에 관심 가지기 책에 관심 가지기
쓰기	쓰기에 관심 가지기 쓰기 도구 사용하기

탐구생활

내용	하위 내용
탐구하는 태도 기르기	사물과 현상에 지속적인 관심 가지기 탐구 과정 즐기기
과학적 기초 능력 기르기	물체와 물질에 대해 알아보기 생명체와 자연환경 소중하게 여기기 자연현상에 대해 알아보기 간단한 도구와 기계 활용하기
수학적 기초 능력 기르기	수 감각 기르기 공간 및 도형에 대해 알아보기 기초적인 측정해 보기 규칙성 이해하기 자료 정리 및 결과 나타내기

4. 개정 유치원교육과정의 의미

1) 가치론적인 입장의 교육과정으로 개정

개정연구에서 현행 6차의 개정방향이었던 ‘21세기의 세계화, 정보화 시대를 주도할 자율적이고 창의적인 한국인 육성’은, 기능적으로 매우 필요한 관점인 것은 분명하지만 인간 삶의 근원적 가치가 무엇이어서 하는가 하는 세계관 인간관 등의 가치론적 관점이 보완될 필요가 있다고 보고 이를 반영한 것이 큰 의미가 있다. 지금까지의 대한민국 유치원교육과정이 교육이념이나 인간상 등에서 가치추구의 관점이 없었던 것은 아니지만 교육과정의 구성방침 설정이나 고시문 전체에 가치추구를 일관되게 강조한 노력이 부족하였던 점을 보완하고자 하고 이론적 정립을 분명히 하고자 하였다. 특히 5개영역의 내용진술과 교육방법 진술의 각 문장에서 기능주의적 관점의 비중을 낮추고 교육목표의식이 분명하고 궁극적인 가치를 추구하고자 하는 의지를 적극적으로 반영하고자 개정하고자 함으로서 기능주의적 교육과정에서 가치론적 교육과정으로의 변화를 강조하였다는 점에서 큰 의미가 있다고 본다.

2) 21세기 인류의 공통과제 해결의 관점에서 홍익인간 교육이념의 재조명

홍익인간 정신은 인간을 널리 이롭게 하고 귀하게 여기는 정신을 말한다(일연, 2003). 홍익인간 정신은 대한민국의 교육이념으로 사람과 사람의 관계와 사람과 자연의 관계를 중시하는 사람-자연 존중 세계관으로 특징지어지는 한국 전통교육사상이다. 한국 전통교육사상에서는 사람을 만물의 영장이라고 보거나 만물에 절대적인 영향을 끼치는 존재라고는 생각하지 않았다. 사람은 자연을 근원으로 자연으로부터 왔으며 자연의 일부이며 자연과 동일한 가치가 있다고 생각하였다. 또한 자연은 대우주이고 사람은 소우주로 생각한다. 사람은 자연의 요소들로 이루어졌으나 다만 자연의 기운 중 가장 뛰어난 기운으로 형성되었다고 생각한 것이다 (이황, 2005 재인용). 또한 모든 만물은 외형은 다르지만 우주의 입장에서 볼 때는 동일한 존재의의를 가지고 있다고 생각하였다. 사람은 자연의 법칙 속에서 자연에서 생명을 얻고 유지하며, 의식주를 해결하고, 교감하며, 문화를 만들어 간다. 사람은 자연을 떠나서는 생명을 부지할 수 없을 뿐만 아니라 질 높은 삶을 영위할 수 없다. 자연은 사람에게 없어서는 안 될 공생공존의 대상이다. (문미옥, 이해상, 2003:2007)

또한 한국 전통교육사상에서는 사람은 홀로 존재할 수 없으며, 다른 사람과의 관계와 자연과의 관계 속에서 존재할 수 있다고 보았다. 인간(人間)이라는 글자는 이를 잘 나타내 준다. 사람 인(人)과 사이 간(間)의 글자에도 나타나 있듯이 사람은 자기 혼자보다는 사람들과의 관계와 자연과의 관계 속에 있을 때 존재 의미가 있다. 사람은 사람 간 관계와 자연과의 관계를 떠나서 설명될 수 없다(문미옥 외, 2004).

이와 같은 한국 전통의 사람 자연 존중 세계관은 유아교육과정의 방향 역시 자연을 공존의 대상으로 인식하고 실천하는 방향으로 전환되어야 할 것을 말해준다. 한국인들은 이미 5000년 전부터 사람 자연 존중 세계관을 말하고 있었는데 이는 21세기 세계화 정보화 시대의 화두인 인간성회복과 생명존중사상의 근원이었던 것이라 하겠다.

이번 교육과정에서 교육의 본질과 현재와 미래 인류사회가 해결해야 할 당면과제 해결의 틀로서 한국의 교육이념인 홍익인간정신과 사람 자연 존중세계관을 강조한 점은, 인류의 과제를 해결할 사상적 기저로서 5000년간 지속된 우리의 홍익인간이념을 재조명하고 정립하였다는 점에서 매우 획기적인 패러다임의 전환으로 이해되어야 할 것이다.

3) 유치원교육의 정체성과 상급학교와의 연계성 개념 강화

이번 개정에서는 특히 유치원 교육도 초·중등학교와 동일한 학교교육이라는 공통점과 각급학교로서의 연계성을 확립한 교육과정이 구성되기 위한 노력을 기울였다. 초등교육과정 연구진과의 수 차례의 협의도 그 일환이었다. 한편 초등학교와의 연계뿐 아니라 초등학교와 무엇이 다르며 왜 달라야 하는지를 분명히 하는 교육과정으로의 개정이 되고자 하였다. 즉 교육과정에서는 유치원은 교과중심의 구조화된 교육을 하는 초등학교와 다르게 만3세부터 만6세까지의 유아를 대상으로 놀이중심의 통합교육을 하는 학교임을 분명히 하고 유아의 자유선택과 놀이중심의 통합교육이 강조되어 지식 개념위주의 구조적 초등교육과 차별화되는 특성이 더욱 드러나도록 진일보하도록 개정하고자 노력한 점에 큰 의미를 둘 수 있다.

5. 대한민국 유치원교육과정의 향후 과제

1) 정책적 측면의 과제

(1) 수시개정과 주기적 개정체제 정립

2007년 유치원개정은 초·중등학교와 함께 한국교육과정 역사상 처음으로 수시개정체제를 적용하였다. 수시개정의 목적은 필요한 시기에 필요한 만큼을 개정하게 함으로서 융통성을 가지고자 하는 것이다. 그러나 이번 유치원교육과정은 근 10년 만에 이루어지는 개정이며 급변하는 시대변화 속에 이루어지는 개정임에도 불구하고 2007년 교육과정 개정이 수시개정이라고 함으로서 연구진이 개정의 한계를 스스로 두게 됨으로써 근본적이고 구조적인 개선을 이루기가 어려운 측면이 있었다(김진숙, 2007). 향후 교육부는 수시개정체제에 대한 면밀한 분석을 하고, 주기적 전면개정과 수시개정의 성격을 명확히 구분할 필요가 있다. 즉 주기적 개정인 경우는 필요에 따라 전면 혹은 일부 개정을 개방적으로 선택하여 개정하여야 할 것이며, 수시개정의 경우는 구체적으로 개정해야 할 내용과 범위를 규정하고 그 범주 안에서만 개정하는 등의 원칙을 적용할 필요가 있다. 또한 세계적인 경향처럼 5년 정도의 주기로 정기적으로 개정한다는 대원칙을 수립하되 융통성을 가질 수도 있다. 또한 개정 주기가 되지 않았더라도 특별한 사유로 전면개정이 필요한 경우는 막연한 수시개정이라는 제한적 느낌을 주는 용어를 제시하여 각기 해석을 달리 하는 일이 없도록 하여야 한다. “수시개정이면 전면개정이 가능하다” 또는 “특정 사안을 주로 개정하는 수시개정” 등의 구체적 정책실천이 필요하다.

(2) 유초중등 교육과정 개정시기와 개정책임기관의 통일성

이번 개정에서도 유치원의 경우 연구시작시기가 초·중등에 비해 약 1년 가량 늦었다. 이로 인해 유초 연계를 고려한 교육과정 연구진과의 협력연구의 한계가 있었다. 추후의 개정에서는 개정연구시기를 일치하여 연구자간의 긴밀한 교류를 통해 유치원과 초등학교 교육과정이 보다 긴밀히 연계하여 개정되어야 한다. 또한 이번에 처음으로 유 초 중등 모든 교육과정 개정을 국책연구기관인 한국교육과정 평가원에서 주관하였다. 학교 교육과정으로서의 체계를 위해 동일한 기관에서 개정 연구되는 것은 바람직한 일이므로 향후의 개정도 학교교육과정 개정은 동일연구기관에서 수행될 필요가 있다.

(3) 교육과정 차기 개정을 대비하여 국가수준교육과정 편성운동을 위한 기초적인 연구 조기 실시.

지금까지 대한민국은 교육과정 개정 시기 한 두 해 전에 실행중인 교육과정에 대한

실태조사 및 교수·현장교사·장학사 등을 대상으로 요구조사를 실시하고 개정의 기초연구로 삼았다.

2) 학문적 측면의 과제

(1) 유치원교육과정 교육일수와 하루 교육시간에 대한 기초연구

유아교육과 보육의 개념의 시대적 변화와 달라진 사회요구 및 교육과 보육 모두를 필요로 하는 유아의 발달특성을 고려할 때 유치원 교육일수와 하루 교육시간에 대한 보다 면밀한 연구검토가 이루어져야 한다.

(2) 반일제와 시간연장제, 종일제의 교육과정학 측면에서의 개념연구

하나의 국가수준의 교육과정 고시문으로 다양한 교육시간을 포함하는 교육과정의 적합성에 대한문제 제기가 일반 교육과정 전공자에 의해 제기된 바 있다. 초중등 교육과정은 과목별 교육시수가 교육과정 편성의 주된 변수가 된다. 초중등교육의 관점에서 본 교육시간의 개념과 유아의 생활중심 통합교육에서의 교육시간의 개념에 대한 이론이 정립되어야 할 것이다. 또한 유치원 하루 교육시간이 매우 다양하며 종일제의 경우 초등 저학년보다 교육시간이 많은 것으로 규정되는 현 교육과정의 정당성 여부에 대한 이론연구가 이루어져야 한다. 또한 종일제 교육 모두를 교육시간으로 보는 것이 합당한지 아니면 일부 시간은 교육시간으로 일부 시간은 보호시간으로 규정할지 등에 대한 연구를 통해 유아교육과정학의 이론화 작업이 이루어질 필요가 있다.

(3) 표준보육과정과 유치원교육과정의 연계 및 통합적 제시 방안

현재 유치원에는 유치원교육과정, 어린이집에는 표준보육과정이 제시되고 있으며 만 3-5세 동일연령을 대상으로 비슷한 교육과정이 두 부처에서 제시되고 있다. 교육과정 개정 연구나 프로그램 개발 연구진 역시 본 발표자처럼 유치원 교육과정과 보육 프로그램 (표준보육과정)개발에 모두 참여하고 있고 어 실질적으로도 교육이나 보육의 시간, 교육이나 보육의 내용면에서도 차이가 없어야 된다는 점을 정부부처에서도 동의하고 있다. 향후 최소한 동일연령에 대한 국가문서는 동일하게 제시되어 예산낭비와 불필요한 차별화 노력이 이루어져야 할 것이다.

(4) 통합교육과정에서의 내용진술방식에 대한 연구 심화

생활중심 통합교육을 지향하는 유치원교육과정 고시문의 진술방식이 교과 중심교육과정 고시문과 비교하여, 체계와 진술형식이 어떻게 차이가 있어야 하는지에 대해 보다 심층적으로 연구되어야 한다. 또한 5개 생활영역의 내용제시와 통합교육의 지도자료집 활동 간의 적절한 연계 방법이 무엇인지에 대한 연구가 이루어져야 한다.

(5) 5개 생활영역 명칭의 분류와 명칭의 적절성 연구

5개 영역의 구분과 명칭이 적절한지, 초등 통합교과와의 연계가 가능한지, 5개 생활영역의 내용제시와 통합교육실제와의 연계를 위한 이론정립과 교육과정 문서체제 개선 여부에 대한 연구가 이루어져야 한다.

(6) 수준별 교육내용 제시의 적절성과 수준별 교육의 의미에 대한 연구

국가수준 교육과정에서 수준별 내용을 제시하는 것이 교육의 질을 높이는 데 기여하는지 아니면 교사의 융통성을 오히려 감소하는 역기능이 있는지 등에 대한 연구가 필요하다. 또한 발달영역, 생활영역, 교과 내용의 의미와 국가가 제시하는 수준별 내용의 관계에 대한 보다 심화된 연구가 필요하다.

3) 실천적 측면의 과제

(1) 국가수준의 교육과정과 지역 단위 유치원교육과정의 연계와 독자성 실현

현장에서 국가수준의 교육과정을 그대로 답습하거나, 지나치게 개별 유치원의 고유성을 강조함으로써 국가의 보편적 지향점을 소홀히 하지 않도록 교육과학기술부 및 지역청의 지도노력이 필요하다.

(2) 교사의 국가수준의 교육과정연수 방법개선 및 효율적 실천

새 교육과정에 대한 이해를 높이기 위한 연수교육을 보다 체계적으로 실시할 방안 모색이 필요하다. 새 교육과정 연수교육은 연구개발진으로 구성된 연수교육이 전국의 권역별로 실시될 필요가 있으며 전달강의의 형태를 대폭 축소하고 효과적인 연수법을 개발해야 한다. 또한 연수교육의 내용을 비디오로 제작하여 교사들에게 보급함으로써 시간을 두고 이해하는 기회가 되도록 할 필요가 있다.

(3) 교육과학기술부가 실시하는 장학지도와 유치원평가를 통한 교육과정 실천 지원 방식의 개선

유치원교육과정 실천의 질을 향상시키기 위해 정기적인 장학지도와 2007년 시범평가를 기점으로 향후 매년 실시될 유치원교육 평가방법에 대한 지속적 연구를 통해 유치원현장의 교육과정 개선이 이루어지도록 할 필요가 있다.

|참 고 문 헌|

- 교육부 (1998). 유치원 교육과정.
 _____ (1998). 교육부 고시 제 1998-10호에 따른 유치원 교육 과정 해설.
 _____ (1992). 유치원 교육과정.
 _____ (1987). 유치원 교육과정.
 _____ (1981). 유치원 교육과정.
 _____ (1979). 유치원 교육과정.
 _____ (1969). 유치원 교육과정.
 김부식 (2003). 삼국사기 상, 이병도 역주, 서울: 을유문화사
 김용옥 (2000) 노자와 21세기(1). 서울 : 통나무
 김영옥·조부경·홍혜경·김희진 (2006). 제 6차 유치원 교육과정 실태조사 및 발전방향에 대한 연구유치원 교육과정. 유아교육연구, 25(4), 53-80.
 김진숙 외(2006). 유치원 총론 교육과정 개정 시안 연구개발. 한국교육과정평가원 연구보고 CRC 2006-41.
 네이버 백과사전, www.naver.com.
 문미옥(2008) 교육과 보육을 위한 영유아교육과정, 서울 : 창지사
 문미옥(2006). 유아교육 공교육화 정착을 위한 학제개편 방향, 학제개편 제 5차 토론회: 유아교육 공교육화, 서울 : 교육혁신위원회, 교육인적자원부 3-32.
 문 미옥, 김영옥, 나정, 양옥승, 이기숙, 임재택(2007) 교육부 고시 제 7차 유치원 교육과정 총론 시안 개발 연구
 문미옥 (2006a). “ 유아교육체제의 변화전망과 학제 발전과제” 에 대한 토론. 제 2회 학제 연구 정책토론회 교육체제 변화 전망과 학제. 한국교육개발원 연구자료 RM 2006-35.
 _____ (2006b). 한국의 미래 학제 탐색 : 유아교육분야. 제 4회 학제 연구 정책토론회 미래 학제 탐색을 위한 쟁점토론. 한국교육개발원 연구자료 RM 2006-38.
 _____ (2006c). 유아교육 공교육화 정착을 위한 학제개편 방향, 학제개편 제 5차 토론회: 유아교육 공교육화, 서울 : 교육혁신위원회, 교육인적자원부 3-32.
 문미옥, 이혜상 (2003). 동서양이 만난 유아교육개론, 서울 :교육아카데미
 문미옥, 이혜상, 민행난 (2004). 한국전통문화와 유아교육. 서울 : 양서원.

- 문미옥, 이혜상(2007)한국 전통교육사상에 기초한 유아교육과정의 방향 탐구. 한국유아교육학회 2007년도 정기 총회 및 정기 학술대회·춘계학술대회
‘ 한국유아교육보육의 자리매김 VI. pp> 241-263.
- 박영숙 (2006). 미래예측 - 한국생존전략. 교육혁신위원회 미래교육의 비전과 전략모색을 위한 제 6차 세미나.
- 양옥승 (2004). 유아 때부터 시작하는 자유선택 교육. 서울: 학지사.
- 윤내현 외(2005). 새로운 한국사, 서울: 집문당
- 이이 (1992). 울곡집, 천인심성정잡저, 유정동 해제·역, 서울: 삼성출판사
- 이이 (1992). 울곡집, 격몽요결, 유정동 해제·역, 서울: 삼성출판
- 이제마 (1996) 동의수세보원, 이민수역. 서울: 을유문화사
- 이황 (2002). 성학십도, 열 가지 그림으로 읽는 성리학, 최영갑 풀어쓰, 서울: 풀빛
- 일연, 2003). 삼국유사. (김원중 역). 서울 : 을유문화사
- 한국교육과정평가원(2007). 유치원 교육과정 편성·운영의 쟁점과 개선방안, 연구자료 ORM 2007-12.
- Toffler, A. & Toffler, H. (2006). 부의 미래(*Revolutionary Wealth*). (김중웅역). 서울 : 청림출판사. (원전 2006 출판)

大韓民國 2007 年修定之幼稚園教育課程 --修定過程中理論與實務之檢討內容及研究課題

翻譯：李思儀¹

1. 修定的經過

大韓民國的幼稚園教育課程在 1969 年首次公告之後，因應社會、政治、及學術理論的變化及要求，進行過六次的修定。第二次 10 年，第三次 2 年，第四次 6 年，第五次 5 年，第六次 6 年。2007 年的修定，是自 1998 年教育人的資源部（2008 年 3 月 1 日，教育科學技術部改組），公告第六次幼稚園教育課程之後九年再度的修定。爲了本次修定進行的研究，從 2006 年的 4 月開始到 2007 年的 12 月 19 日公告。本次研究由屬於國家政策研究機關之韓國教育課程評鑑院，對於初等、中等及高等教育課程一起進行。幼稚園教育課程的修定，是由幼稚園教育協會所推薦的 21 人及評鑑院的 4 人共組成研究團隊，主管機關爲韓國教育課程評鑑院及韓國幼兒教育學會共同負責。再者，研究者，獎學士(獎勵學術研究者)及獎學官及現場的老師所組成 200 名的協議團體，經過多次協議過程進行修正。在 2006 年 12 月，韓國教育課程評鑑院及韓國幼兒教育學會共同舉辦學術發表會，進行公聽會的討論及聽取各方的意見。在進行修定實施所需研究後，引起「是否適合現場的檢討研究」，「幼稚園教育課程編寫與實施的爭議點及改善商案相關之研究」等後續研究。以第一線的教師及獎學士爲中心進行在現場適用性的驗證檢討。

經過修定之研究、多次討論後及後續的研究爲基礎之後，由研究團隊和教育人的資源部負責人爲主，經過最終的集中作業團隊的補充之後，在 2007 年 12 月 19 日確立了幼稚園教育課程及公告之。現在，將研究過程做書面解說。以公告文爲基礎，教育科學技術部將推動進行教育活動指導的資料的開發研究。新教育課程預定從 2009 年 3 月開始實施。

2. 為了修定所進行的研究過程的理論及實踐的檢討

(1) 對於尊重「人-自然」的世界觀在 21 世紀中的要求檢討

21 世紀由過去工業社會轉向資訊社會，有著急速的變化。今日的社會變化不單是速度快，同時在社會組織及社會運作，基本的價值觀也有質的變化。Toffler (2006)所說之第三波的資訊革命時代，與歷經數千年的第一波農業革命或與第二波的工業革命相較之下，現在 20-30 年間文化的衝擊比之前更深且廣。在資訊化時代明顯的變化及發展的同時，可看見社會的貧富差距不平等，人性喪失及糾紛，環境問題的擴大等。因此，對於

¹ 臺北市立南湖國小教師

現代人來說，回復人性及重視環境問題為現在人的重要課題。在資訊化的社會中，潛在不單是潛在能力及創意性培養，更要求對於人及自然環境的尊重的價值觀的轉換。迎接未來的知識資訊化的時代，幼稚園教育課程需因應人類的社會變動，而進行彈性地教育課程修定。

(2) 解決威脅國家存續的低出生率之價值觀檢討

大韓民國，從過去以來是維持家族中心的觀念。但是，隨著許多核心家庭及女性參與社會工作，出現了較低的合計出生率之紀錄。今後的年輕人，扶養長輩的責任加重，也會影響國家競爭力。再者，也有一些未來學者擔心未來大韓民國可能會是人口減少下最早被消滅的國家。低出生率的問題與女性參與社會有關係，同時也許欠缺對家庭的觀念有關。解決低出生率問題，根本在於幼兒期要讓孩子學習家庭的重要性。幼兒從出生起，即有個人的存在價值，對國家來說，人力資源及生產價值也是重要的。目前處在低出生率的國家危機中，希望在幼稚園教育課程中強調人性愛與家族愛的存在價值。為了解決低出生率問題，無論是韓國傳統世界觀，或是在配合知識情報化的時代的社會要求的對於人與自然尊重的世界觀，都能反映在教育課程中。

(3) 家庭組成的變化及女性參與社會之檢討

幼稚園教育課程，從第 5 次教育課程中開始，因作及時間的多樣性，而有半天制、時間延長制、全日制。這也反映出在核心家庭化及在許多母親都工作情況下，家庭的育兒機能由幼兒教育機關來負擔之社會的要求。全日制的課程計畫中，主要為了低收入戶家庭中母親在工作的孩子們。但是，隨著中階層以上工作的母親增加，而有提供有較高品質的全日班計畫的需求。因此，大多數的幼稚園，即使是全日制的營運，但是沒有辦法滿足社會要求及教育開發的水準，多半是延長時間進行特別活動而已，因此，在新的教育課程中，必須要能積極地反映出此變化情形。

(4) 確立幼兒教育的定位之要求檢討

幼稚園和以學科為中心的小學教育不同，是以三到六歲幼兒為對象，實施以遊戲為中心的統合教育的學校。幼兒的發展特性與小學生不同，教育課程方面，強調幼兒可以自由選擇活動，在功能及角色上而言，必須要包含與家庭功能及角色相似之保育功能。本次教育課程的修定，強調幼兒的自由選擇及遊戲為中心的統合教育，與知識概念為中心的初等教育之間有差別的特性。

(5) 對於小學及幼稚園的銜接要求之檢討

本次第七次教育課程中，特別制定「幼兒教育法」，也是考慮到可為未來確定幼兒教育義務化之法律基礎的時機點，希望將幼小銜接的概念及方法系統化，能積極地反映在教育課程的修定中。在此所指之幼小銜接解釋為更廣義的概念，幼稚園教育不單是小學教育，也是初等、中等及大學等終身教育不同層級之重要基礎。

(6) 對於現有幼稚園教育課程，幼兒教育現場的專家及學界的立場要求的調查結果之檢討

為了掌握現有之教育課程的內容及實施情況，以全國公私立幼稚園的教師共 1612

人為對象進行研究的結果，教育內容的修定須注意以下事項：第一、追求理想的人間像不可缺的內容，關懷、禮節、團體意識。再者，希望教育內容中有合作、禮節、責任感、自律、溝通能力、獨立、關懷等重要德目。第二、幼稚園教育課程的教育目標為以第六次教育目標為基本，強調正義的一面。第三、幼稚園教育課程的構成體系，一方面是第六次教育課程中五項之生活領域，**同時也需考慮到與小學的銜接領域（例：國語-語言生活、數學-探求生活、正當生活-社會領域、快樂的生活-健康生活、表現生活）**。第四、關於標準別的內容的提示，考量從標準 I、II 到年齡別的標準，共三項標準構成方案。第五、需要有教育活動指導手冊的補充說明。第六、希望能與小學做銜接。

(7) 對於大韓民國的幼稚園教育課程的歷史變遷的內容分析及檢討

自第 1 次幼稚園教育課程到第 6 次幼稚園教育課程（教育人的資源部、1998、1992、1987、1981、1979、1969）的內容進行各項目別之比較及分析，並討論其銜接部分、運用部分和增加部分。在維持銜接的情形下，也能出符合時代的發展及變化。

(8) 國外的教育課程檢討

針對健康、社會、表現、語言、探求領域之五項領域中，分析日本、美國、法國、瑞士等各世界各國的國家標準的教育課程，要適切地反映出世界的動向及潮流。

P.S 統合教育：在本文中所指為 2

1. 融合教育-特殊生與一般生共同進行教育-
2. 統整教育-以一種活動融入將多樣學科及學習內容

3. 修定方向及 2007 年幼稚園教育課程的特徵

幼稚園教育課程修定方向的設定，對於未來社會的變化之檢討，調查現場關係者的要求，比較第 1 到第 6 次教育課程及以外國的教育課程為中心，進行理論及實踐面的檢討。幼稚園修定方向為以下 10 點：

(1) 修定方向

- 1/ 以尊重人及愛護自然之世界觀為基礎。
- 2/ 領域區分和教學方法，不偏重在知識等概念學習，而是與生活相關連的內容及方法。
- 3/ 教育課程需先選定必要之核心主要內容，再建構理論的體系。
- 4/ 教育課程的領域承接第 6 次教育課程中區分之健康、社會、表現、語言及探求五項生活領域。
- 5/ 教育內容在標準 I、II 中提出。但是，共通標準從標準 I 到 II 中皆有持續表示。
- 6/ 在各領域上強調大韓民國傳統文化觀點，理解世界文化，並相互融合。

- 7/ 各領域中，強調基本生活習慣及創意性，
- 8/ 因應社會變化，進行半日制、時間延長制、全日班等多樣化教育課程。
- 9/ 對於孩子的性別、宗教、家族背景、身體特徵、民族背景等不能存有偏見。
- 10/ 依據幼兒教育法制訂之主旨，確立幼稚園教育的 identity 並與之後學校教育連結。

(2) 修定的重點

- 1) 在全日制幼稚園的運作上，為進行教育課程的改善，在教育日數及一天的教育時間仍維持原來 180 天以上及一天 180 分，此為「最小基準」，同時，也可以依市、道教育廳的指針及幼稚園的實際情況，可以自行調整，這部分也做了強化自律性的敘述。
- 2) 教育課程的文書體系(書面系統)，2007 年修定的初等及中等學校教育課程的一貫性，「教與學的方法之評價」在現行課程領域後半部有說明也在總論中有提到，以強調其重要性。此外，各領域的教育課程，則追加在「4.指導上的注意事項」。
- 3) 現行的第六次教育課程內容的敘述方式，語言生活領域、表現生活領域及探求生活領域部分為說話、聆聽、書寫 / 探索、表現、鑑賞 / 數學、科學、創意的探求等，敘述人行為的表現。此外，健康生活領域及社會生活領域感覺，對身體的認識、基本運動能力，健康完全 / 基本生活習慣，個人生活，家庭生活、團體生活、社會現象與環境等，概念教導與此概念相關之範疇名稱來敘述。本次的修定，為達以上之統一性，第 6 次的現行內容及次項內容以一致方式進行敘述。
- 4) 標準別的教育內容，一方面維持現行 I、II 共通標準的架構，進行各領域及標準別內容的適合性進行改善，滿 3、4、5 歲幼兒的年齡別內容，為在活動指導時的參考資料，有提供多樣化的示例說明。
- 5) 在語言領域的內容方面，除原本現行的「對於聽、說、讀、寫的重視」，再加上要追求語言體系的理論以區分「聽、說、讀、寫」及文字的基礎教育，進行適當教育的必要性。
- 6) 在各領域的主要修定內容如下：

健康生活領域，提供多樣化的感覺經驗及身體的活動的機會，強調培養健康安全生活的習慣。「認識自己的身體」、「活動自己的身體」、「健康地生活」、「安全地生活」等四項內容，其下有 15 項內容及新設 6 項注意事項。

社會生活領域，積極地反映在總論中所希望的人與人之間的關係的建立，關係中心的教育課程重點，「認識自己愛自己」、「和家人一起生活」、「和朋友一起生活」、「對於社會現象的關心」等四項內容，其下有 13 項內容及新設 5 項注意事項。

表現生活領域，幼兒在自然與生活中，將自己的感覺表現在藝術上及鑑賞上，重點在於感性及創造性的培育。「在自然與生活中探求美的事物」、「樂於進行藝術性的表現」、「藝術欣賞」三項內容，其下有 11 項內容及新設 6 項注意事項。

語言生活領域，重點在於日常生活中使用正確語言的態度及喜歡運用語言，對於語言生活領域的內容及說明進行改善，區分為「說」「聽」「讀」「寫」四項內容，及 12 條說明及 3 點注意事項。

探求生活領域，反映總論中對於尊重自然的觀點，尊重自然進行創意思考及探求，強調以理論為基礎來解決問題的基礎素養。「培育探求的態度」「培養科學的基礎能力」、「培養數學的基礎能力」三項內容及 11 條說明及 5 點注意事項。

4. 2007 年修定的幼稚園教育課程的意義

(1) 從價值論的立場的教育課程修定

在修定教育課程進行的研究中，現行的第 6 次的修定方向確立了「主導 21 世紀世界化、資訊化時代，培養自律及具有創意的韓國人」的重要觀點。但是，對於人生活根源的價值之世界觀、人間觀等價值論的觀點必須進行必要之判斷並反映出來。至今的大韓民國的幼稚園教育課程中，對於教育理念及人間像等價值追求的觀點並不是沒有，但是在教育課程的組織方針的設定及公告文中，還要針對強調全體的價值追求一貫化之不足的部分加以努力。尤其，在 5 項教育內容及教育方法敘述的各個文章中，降低技能教育所佔比例，說明清楚的教育目標的意識。再者，進行價值追求的意志，積極地反映進行修定，從功能主義的教育課程導向價值論的教育課程的轉變，深具意義。

(2) 從解決 21 世紀人類共通問題的觀點，進行「弘益人間」的教育理念的修正

「弘益人間」²的精神是，就是指重視人間的精神（一然 2003）。弘益人間精神是韓國的傳統思想，主要特徵是重視大韓民國的教育理念、人與人的關係、人與自然的關係，尊重「人-自然」的世界觀。在韓國的傳統教育思想中，人為萬物之靈，對於萬物具有絕對的影響及存在。人是來自於自然，是自然的一部份，擁有與自然相同的價值。自然是大宇宙，人是小宇宙。人是自然的要素所形成的，還是只是自然的氣運中有更加優秀之氣運所形成。（李滉 2005）全部的萬物，外型不同，但就宇宙的立場而言，具有同樣的存在意義。人在自然的法則中，從自然當中獲得生命維持，解決食衣住的問題，創造文化。人若是脫離自然，不單是無法維護生命，有無法享有較高品質的生活。自然對人來說是不可缺的共生對象。（文美玉、李惠相 2003：2007）

² 「弘益人間」主旨是令天下蒼生共同受益的意思。是韓國民族精神的精華，又與儒家的仁義、佛家的慈悲和基督教的博愛相通

此外，在韓國的傳統教育思想中，人無法獨自生活，需在和他人及自然的關係中存在。從「人間」此文字中可表現出來，「人」「間」，彼此自己一個人，在和他人及自然的關係下，具有存在的意義。人，若是脫離與人及自然關係時便無法說明。(文美玉 2004)此韓國傳統教育對於人及自然的尊重的世界觀，在幼兒教育課程的方向中，認識到自然是我們共生的對象及轉換為實踐方向。韓國人從 5000 年前開始就重視人與自然的世界觀，這也是 21 世紀全球化、資訊化時代的話題，回復人性及生命尊重的思想之源起。

本次的教育課程中，以教育的本質、韓國的教育理念弘益人間的精神、對尊重人與自然的世界觀為強調點，對於 5000 年以來持續為解決人類課題的思想基礎—弘益人間—的理念進行修正，並在正確的位置上理解到跨時代重要範例的轉換。

(3) 強化幼稚園教育的定位與上位學校間的銜接

本次的修定中，尤其是將幼稚園教育與初等中等為學校教育的共通點，致力於確立與各學校銜接性的教育課程組成結構。在與初等教育的研究團隊經多次協議，也是其中的一部份。一方面，不單是與小學作銜接，與小學間的差異為何及原因也有明確的說明。在教育課程上，幼稚園和以學科為中心的小學教育不同，而是對於滿三歲到六歲幼兒進行以遊戲為中心的綜合教育。此外，強調幼兒的自由選擇及遊戲中心的綜合教育，與初等教育中強調的知識概念的教育有所差別。

5. 幼稚園教育今後所面臨之課題

(1) 政策面的課題

1) 訂定隨時修定及定期修定的體制

2007 年幼稚園教育課程的修定，是韓國歷史上第一次與初等及中等學校一起使用隨時修定體制。隨時修定的目的在於配合必要時期的需要，並具有融通性。但是，本次的幼稚園教育課程已經約上次已有 10 年之久。在快速變化的時代中雖然有修定，但是因為 2007 年的教育課程是隨時修定，研究團隊有修定的界線，根本上要進行結構的改善有困難面(金真淑)。今後，教育科學技術部要對隨時修定的體制進行分析研究，必須明確區分週期性的全面修定及隨時修定。同時，在週期性修定的情況下，要選擇是全部還是一部份。在隨時修定的情況下，要規定必須要修定的內容及範圍，並適用於在範圍中修定的原則。依照世界的傾向，大原則是約 5 年要進行一次週期性修定，但也有其彈性。即使不在修定的時期中，若有特別的需要進行全面修定時，就可忽視隨時修定的限制等需，也需在書面上做這些不同的解釋。如「即使是隨時修定也有全面修定的可能」或是「以特定事件為主的隨時修定」等，具體的實踐政策。

2) 幼、初、中等教育課程的修定時期及責任機關的統一

本次修定中在幼稚園部分，研究開始的時間約比初等及中等晚一

年。因此，研究幼小銜接的研究團隊進行的研究協助產生限制性。在下次的修定時，要讓研究的時間一致化，研究者之間有緊密的交流，讓幼稚園及和小學課程能進行緊密銜接地修定。再者，這是第一次，幼、初等、中等的教育課程的修定由屬於國家政策機關之韓國教育課程評價院所主管。為讓學校教育有體系化，希望能夠由同一機關進行修定及研究，爾後，在學校教育課程的修定也是同一研究機關來進行。

- 3) 為準備次期之教育課程修定，要提早實施國家水準教育課程的基礎研究
目前大韓民國會在教育課程的修定時期的一至二年前，對於教育課程進行實際情況的調查，同時也會對教授、現場教師及獎學士等對象之需求調查，為修定基礎研究。

(2) 學術面的課題

- 1) 對於幼稚園教育課程實施的日數及時間的基礎研究

對於幼兒教育與保育的概念，受時代的變化、社會需求及考量幼兒發展特性，需要對幼稚園教育的天數及一天的教育時間進行研究及檢討。

- 2) 半日制、時間延長制、全日制的教育課程學中概念研究

一般教育課程的研究者，提出了在單一的國家標準的教育課程公告中，教育課程中具多樣的教育時間的適合性問題。初等及中等的教育課程編寫，會受到各科目的教育時間影響。必須要去確立從初等及中等教育的觀點來看教育時間的概念，及以幼兒為中心的統整教育的時間概念理論。幼稚園一天的教育時間非常多樣化，因此要進行目前在全日制時，比小學低年級的教育時間還長之教育課程的正當性之理論研究。也需透過對全日班時間均為教育時間是否適合，若是規定只有一部份為教育時間，一部份為保育時間等進行研究，以推動幼兒教育課程學的理论化的作業。

- 3) 標準保育課程及幼稚園教育課程的銜接及綜合的提示方案

目前，幼稚園有幼稚園教育課程，オリジップ（相當於日本的保育所），有標準的保育課程中，對於三歲到五歲中同一年齡為對象的有相似的教育課程。教育課程的研究及計畫開發的研究團隊，也如筆者一樣共同參加了幼稚園教育的課程及保育計畫（標準保育課程）。因此，實質上，教育及保育的時間，教育及保育的內容上，政府也同意要沒有差異。今後，朝向對於同一年齡來說，在國家的文書資料中需一樣，不要去浪費預算及不必要之差別化而努力。

- 4) 對於綜合教育課程內容的敘述方式的研究

將以生活中心的統合教育的幼稚園教育課程內的敘述方式與學科中心的教育課程的敘述方式相比，需要研究其中在體系及敘述形式上的差異性。此外，也需要研究五項領域的內容說明與統合教育指導的資料集間之適當的配合方式。

- 5) 關於五大領域的名稱的分類及適切性之研究

五大領域的名稱及分類是否適切，是否可與小學的統合課程可銜接，關於五大領域的內容說明及統合教育的實際的上的銜接，理論的確立及教育課程的文書體制進行改善研究。

6) 標準別的教育內容說明之適切性及標準別教育的意義之研究

國家水準的教育課程中，關於標準別的教育內容的說明是否可以達到提升教育的品質，且減少教師的融通性後是否有反效果等有研究之需要。再者，也需要加深對於發展領域、生活領域、教學科目內容的意義與標準別的教育內容的說明之間關係之研究。

(3) 實踐面的課題

1) 國家標準的教育課程及地區的幼稚園教育課程間的銜接及個別性之表現

在教育現場使用國家教育標準的教育課程、強調個別幼稚園的特色，並達到國家 普遍性的目標，要努力加強教育科學技術部及地區教育廳的指導。

2) 教師對於國家教育水準的教育課程的研習方式的改善及有效率之實踐

要提升教師對於新教育課程的了解度，新課程的教育研習，需由研究小組在全國的各區實施研習活動，減少書面講義式的型態，而是要開發有效之研習方式。此外，研習內容可以做成影片，普及地給予教師，讓他們有充分的時間去瞭解。

3) 透過教育科學技術部實施的獎學指導及幼稚園評價改善對於教育課程的實踐的支援方案

為提升幼稚園教育課程實施的品質，以定期的獎學指導及 2007 年的標準評價為基礎，今後，必須要透過對於每年所實施的幼稚園教育的評價方式，進行持續地研究，以求幼稚園教育現場的教育課程改善。

日本における園内研修

秋田喜代美
 (東京大学教育学研究科)
 2008. 12. 04 台北市立教育大学

1

トピックス

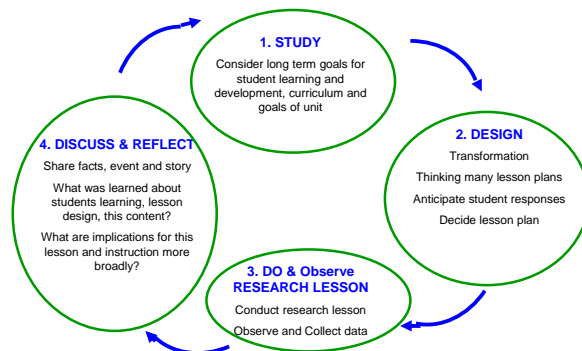
- 1 教師・保育者の学習の場としての園内研修：
東アジア型保育のよさとは
- 2 日本で実際にどのような園内研修が行われているか
- 3 園内研修の過程を理論化・探求する

2

- 1 教師・保育者の学習の場としての園内研修：
東アジア型保育のよさとは

3

Lesson Study CYCLE (Lewis,2000)



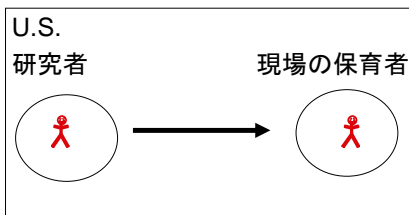
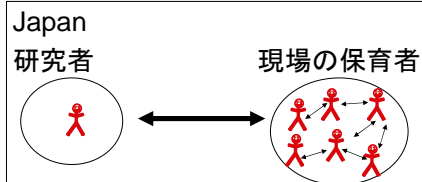
4

日本の幼児教育の世界への貢献 (Lewis,2007)

- 他者に対する思いやり、理解を育てる保育方法
- 集団生活の喜びを感じさせる保育方法
- 自己管理の力を育てる保育方法
- 現場の保育観察を中心とした資質向上のシステム

→→秋田 東アジア型保育のよさではないか

5



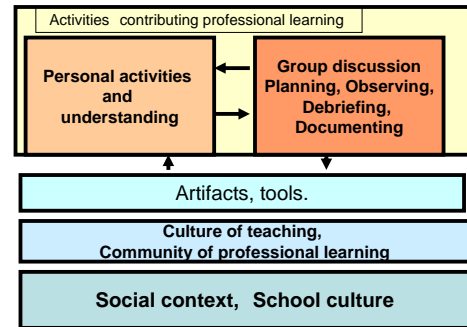
6

園での研修(カンファレンス)の重要性

- 子ども理解、保育実践と保育者の質の向上、園という学ぶ組織、園文化の形成
- 学習という視点から言えば
 - 1 他の人の実践的知識や理論を学ぶ
 - 2 自らの行為の省察
 - 3 共通のビジョンを形成・共有する
- 専門家の学習としての事例研究

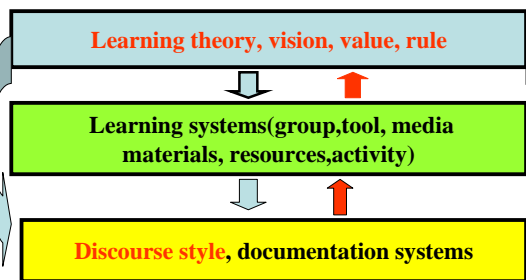
7

保育カンファレンスに影響を与える要因



8

教師の学習理論と学習システム



9

2 日本での園内研修のあり方

10

さまざまな形態と内容の研修

- 内容: 園全体、学年を中心として、地域の他園と共に外部講師を交えて
- 研究の課題
 - 1 研究保育、公開保育(その日の実践を対象にする) 全クラス、特定クラス
 - 2 気になる子ども、子どもたちの記録、ある活動の出来事の記録をもちより、見たり、よみあって、子どもの発達と援助について考える
 - 3 ある研究主題に関して記録をあつめて考える
 - 4 アクションリサーチとして環境等を考えながらその効果を継続的に考えてみる
 - 5 自己評価として課題をだしてKJ法等で整理してみる

11

見えない教育方法なので 目的に応じた記録が研修の鍵となる

- 気になる子どもを抽出児とした記録
 - ある場所や活動の展開過程記録 時系列的变化 (言語的な相互作用、環境構成図、デジカメ、ビデオ)
 - 動線や環境の検討
- プロジェクト型の主題中心の記述よりも、子ども同士の関係や育ちの記録が議論されることが多い(日々の生活を中心とした日本の保育の特徴)

12

ある日の保育事例の検討

- 保育者の即興的援助 事例1
- 保育者の活動への展開の見通し 事例2
- 子どもの活動のおもしろさや理解 事例3、事例4

13

事例1

14

事例2

15

事例3

16

<事例4 3年保育4歳6月>

- 積み木を長く積み立て、乗り物を作っていた。りょうすけは、運転席部分を作っていた。子どもたちの会話からりょうすけは隊長になっているようだ。後方はだいとこうた、はやおがながくつなげて何箇所かに三角の積み木が突き出している。座敷らしい。三人はつなげたり並べたり、座ったりして乗り心地を試している。
- りょうすけは運転席に座り、透明ジェットを操縦している。隣でさおりが紙にメーターのようなものを書いて運転席にはりつけた。りょうすけは広告氏を丸めてアンテナにした。そのアンテナが十分でなくおれてしまうのを気にしている。「先生、アンテナが折れる」その表情は少し怒っているようにみえた。「硬いのつくって」というのでそれに応じて作り折れないように箱に穴をあけてつきさしたらどうかと勧めた。お父さんスイッチみたいにするんやな」と穴に突き刺して満足している。それを傍らにおいてハンドルを回す。
- はやおが「りょうすけくんばかり隊長いやだ」といった。りょうすけは「運転する人が隊長」といって代わる気配がない。「かわって」「先輩が隊長」「かわって」「社長が隊長」

17

- どうとうはやおが「先生、りょうすけくんがかわってくれん」と言った。教師は「りょうすけくん、かわってあげて」「いやだ」教師ははやおに運転したいことを確認し、「じゃあ、はやおくんが運転できるようになるには、どうしたらえん？」ときくと「なれんよ。子どもやけん」はやおが「りょうすけんやって子どもやる」といった。いつも泣いてしまうはやおががんばっている。
- そこで教師は「隊長やったら、運転の仕方おしえてあげられるよね」というとりょうすけはしばらく考えて「よし、かわってやる」と運転席を譲り、「右に曲がるときはこうな」とハンドルをきる動作をする。はやおは真似て、ハンドルを回す。「左にまがるときはこうな」「足はここをふむんやで」と運転の仕方を教えはやおは真剣な表情でまねている。
- 「りょうすけくん、ありがとう。はやおくんうれしいね」と二人に伝えた。はやおが「今度はりょうすけくん」と席を譲り、自分はりょうすけの後ろにすわった。「つぎは、はやおくん」と二人は運転を交代しながら透明ジェットを操縦している。

18

教師の解釈 発達的变化へのまなざし

- りょうすけは、自分の思いを主張し、なかなか譲れなかった。今までは嘸んだり、たいたりして自分の思いを通そうとしていたが、はやおとのやりとりや教師の話に耳を傾けてくれたことがうれしかった。
- はやおもなかに、「かわってほしい」ことを伝えようと気持ちをつよめた。
- りょうすけは、運転を教えるということでゆずれ、まだまだ友達との関係を支えるために教師の援助が必要であるが相手の気持ちに気づき、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じたように思う。

19

研修での議論

- りょうすけは本当に相手の気持ちがあわかってゆずれたのだろうか？
なぜゆずれたのだろうか？
日頃難しい彼がゆずれたわけは？

20

事例5

- 課題意識を持って、皆で実践をして保育における発達を考えた例

豆まきの事例

21

日々の記録から研修をする意義 (レヅジョエミリアから学ぶ)

- 記録では情報を集めることが大事←→
解釈することが大事
- 子どもの言ったことを書き取るのが大事←→
こぼれおちる間や沈黙をとらえることが大事
- 次の保育、子どもの発達を伸ばすために記録をする←→物語を通して関係を創っていく
- 子どもを見る、理解するための記録←→
子ども同士のつながり、教師同士のつながり、
つながりを捉える

22

- ビデオ記録がもっとも詳しくて正確←→
さまざまなメディアで全体をみる
- 保育における指導過程を明確に説明するために記録は必要←→
子どもの声と可能性を捉え広げる
- 行事や特別の出来事を記録しておく←→
日常の豊かさを細かく捉える
教師が一人一人責任を持って記録し報告することが有効←→同僚と共に物語や歴史を作る

23

可視化するものとしての 記録

- 1 子どもと教師の学びと表現、思考、感情を可視化する「声」(ヴォイス)としての記録
子どもの「ストーリー」 子ども達の「ストーリー」
教師のストーリー なりこむ記録
- 2 記録媒体 文字記録のみではなく、図、映像、スライド等多様なものを使用
パネルやポートフォリオ、スライド、ビデオの使用

24

園内研修のポイント A 組織体制

全体会一分科会 協働ができる 違う機能
経験や担当学年の壁を越える、
内輪(ウチ)を越える、溝を作らない
業務のスリム化、専念できる時間の工夫
日常の職員室の会話、ポストイット

25

B 道具

- 子どもの育ちや学習過程の事実をみていく
手立て
デジタルビデオカメラ、ビデオ、ポストイット、
模造紙、環境構成図、作品
「どのようであったか」を教師全員で視覚的に
とらえたり共有できる
making learning visible

26

C 会話のルール

- 司会はローテーション
- 参加できる職員は皆参加。園長も含め、共に
同じ目線で語り省察する
- 互いにその保育や子ども、場から学んだこと、
感じたこと、疑問を自由に本音で語る。そのと
きの感情を含めて語ることが大切

27

D 会話順序のポイント

- 1 子どもの育ちや学びにおける「何が」「どのように」
が出発点(共有) エビデンスベース
- 2 課題の焦点化(なぜという問いが大事)
保育方法や援助(教材、活動)、内容、カリキュラム
1) 研究主題や保育からみえてくる課題
(複数の点)を整理する
問題 課題 アポリア 解決や対処
2) 他者の意見、考えからの問い直し
会話がつながる協議会 2順目が必要
3) 自己へもどる(自分の共通経験、過去-未来と
つなぐ) 本音、実感、具体的言葉が出る

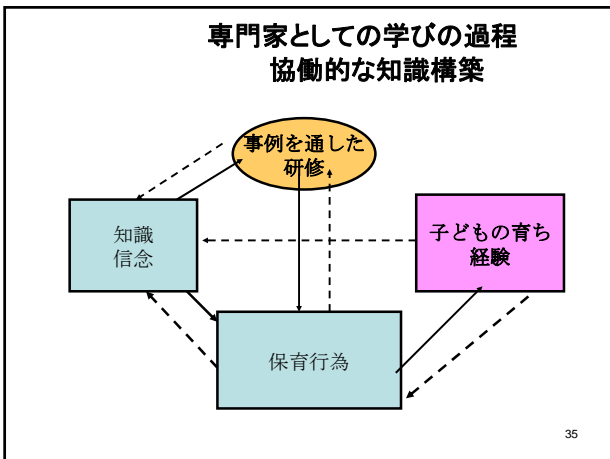
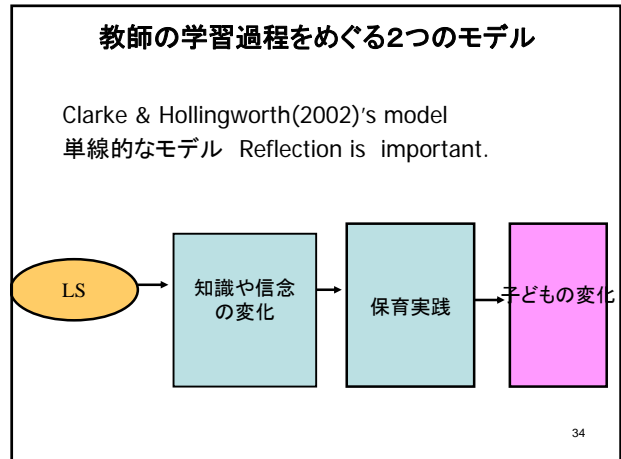
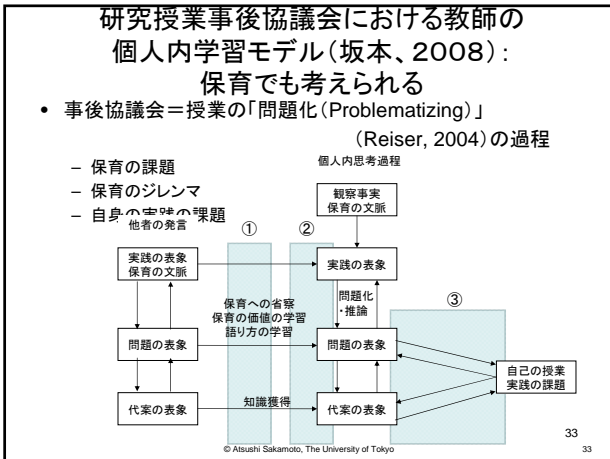
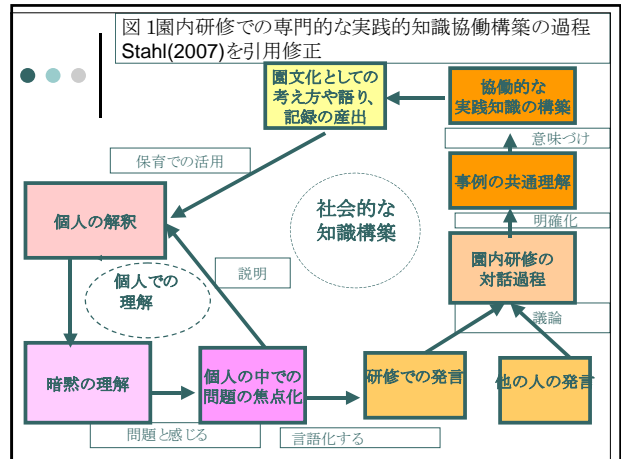
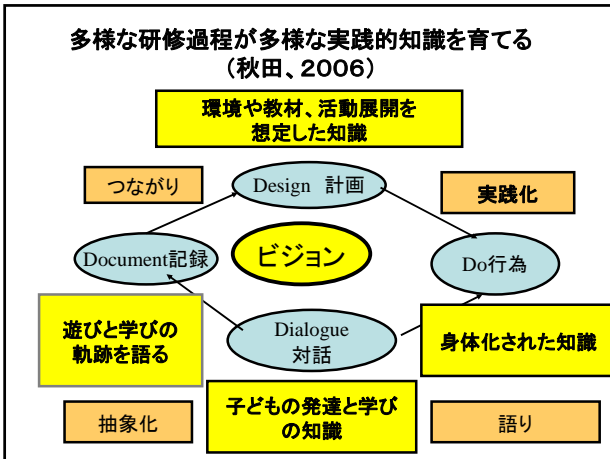
28

- 「問題」: どうしたらよいのかという解決や対処を求
める問い
* ちゃんの行為に困っているけれどどうしたらよいだ
ろうということから
- 「課題」は保育実践の意味への問い
* ちゃんの行為は * ちゃんにとってどのような意味
があるのだろう、Aちゃんだけではなくさまざまな子
がいるがその子の場合にもみえていないだけでこの
ようなことはあるのではないだろうか。子どもにとっ
て、保育者にとって出来事の意味を問い始める過程
である。
「課題」は子どもの可能性への信頼と保育の奥深さ
保育における制約や矛盾

29

- 3 園内研修の過程を理論化・探求する

30



短期的習得モデル 対 長期的な変容モデル
Gusky(1986) 解凍、変化、再凍結の様相
Q 凍結の鍵は何か

- 1.見えていない事実が見えてくる
- 2 同じ事実を違う視点からみることを学ぶ
- 3 行為の意味を支える学びの認識論epistemologyや教えることの認識論を得ること (活動や実践固有の知恵)
- 4認識論の主体となること epistemic agency

A 信念や知識、思考レベル
B 具体的行為レベル
C 語り省察するレベル 談話レベル

この習得の間には時間的ずれがあるが共有することで園文化としての行為や談話が形成される

内側からの新しさ

- 保育実践で大事なものは、理想モデルではなく、一つのあり方(being)から別のあり方へと変わっていく(becoming)過程を保障すること
学ぶとは、前になかったものが現れでること。
- 多様性の中の統合、統合の中での多様性「豊かさとは、ちょっと、すこし、わずか、かすか、ほのか、こまやか、ひめやかというようなことをさやかに感ずる能力から生まれることをいう」
(野口,1996)
- 終わりのない開かれた思考への道としての研修

37

「教育を変えるには小さな出来事の中に大きなことを見出すこと、特定の状況の中で一人一人の子どもの中にも、はかりしれない独自の意味を見出すこと、システムや状況でものを見ないことが重要である」

(マキシム・グリーン)

38

日本幼兒園的園內進修

秋田喜代美
(東京大学教育学研究科)
2008.12.04 台北市立教育大學

1

話題

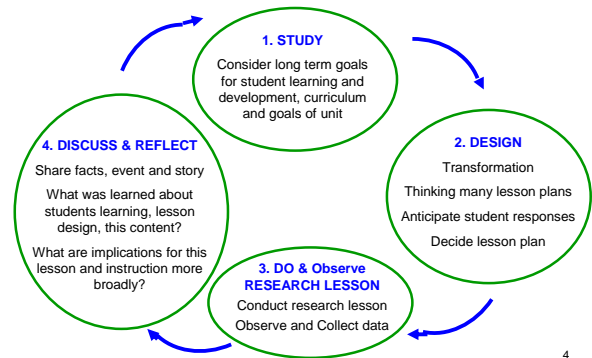
- 1 作為教師・保育員學習場所的園內進修：
何謂東亞型保育的優點？
- 2 在日本實際展開了怎樣的園內進修？
- 3 把園內進修的過程加以理論化・加深探求

2

- 1 作為教師・保育員學習場所的園內進修：
何謂東亞型保育的優點？

3

Lesson Study CYCLE (Lewis, 2000)



4

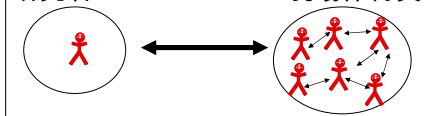
日本對幼兒教育世界所做的貢獻 (Lewis, 2007)

- 是培養對別人體貼關懷、加以理解的保育方法
- 是讓幼兒體會到集體生活的喜悅的保育方法
- 是培養幼兒自我管理能力的保育方法
- 有提高以現場保育觀摩為中心的，並且能夠提高保育素質的體系

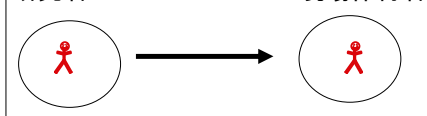
→→秋田 這應該稱之為 東亞型保育的優點

5

Japan



U.S.



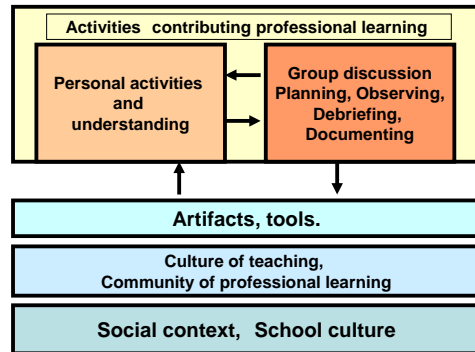
6

園內進修(討論會)的重要性

- 可以增加對幼兒的理解、提高保育實踐和保育員的素質、形成以園為學習組織，建立園特有的文化
- 從學習這一觀點來看
 1. 學習其他人的實踐性知識與理論
 2. 檢查反省自己的行為
 3. 形成·共有共同的理想
- 作為專家的學習的事例研究

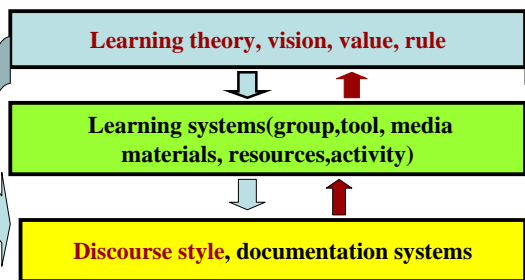
7

對保育討論會帶來影響的主要原因



8

有關教師的學習理論和學習體系



9

2 日本的園內進修的做法

10

各種各樣的形態和內容的進修

- 內容：以整個園與全學年為中心、和社區內其他園一起，外部講師也參加在內共同研究
- 研究的課題
 1. 研究保育、公開保育（以當天的實踐為對象）
所有的班級、特定的班級
 2. 參加討論會的人各自帶來自己在保育實踐中對讓人在意的幼兒或幼兒們的紀錄、或者是對某次活動時發生的事情的記錄，大家一起看，互相讀，一起考慮怎樣做才能使保育更立足孩子的身心發展，更好地支援幫助幼兒。
 3. 圍繞一個研究的主题匯集相關的紀錄進行考慮
 4. 一邊考慮作為行動研究的環境等，一邊持續地考慮其效果
 5. 作為自我評價提出課題，用KJ法等進行整理

11

因為是看不見的教育方法，所以與目的相應的紀錄成為進修的關鍵

- 把讓人在意的幼兒作為抽出兒的紀錄
- 紀錄某場所和活動的展開過程的時候，要注意按照時間系列的變化（語言性的互相作用，環境構成圖，數位相機，攝影機）
- 對動線和環境進行研究討論
與其說是對課題型的主题中心進行記述，不如說是對幼兒們之間的關係和成長的記錄被討論得更多（把每天的生活作為中心是日本保育的特色）

12

對某天的保育事例做研究討論

- 保育員視實情進行靈活機動的幫助

事例 1

- 對保育員的活動展開的預見

事例 2

- 幼兒活動的有趣之處和理解

事例 3、事例 4

13

事例 1

14

事例 2

15

事例 3

16

<事例 4 3年保育班的4歲6個月的幼兒>

- 積木被堆得很長，原來是做了一架交通工具。涼介 (Ryoshuke)做了駕駛艙。從孩子們的談話中知道涼介 (Ryoshuke)是隊長。在後部大翔 (Dito)、航太 (Kota)、駿 (Hayao) 三個人用積木接得很長，都突出來了，他們在幾個地方放上三角形的積木，那裡好像是一件房間。三個人又接又排，時不時的坐下來試一下是否坐得舒服一點。

涼介 (Ryoshuke)坐在駕駛艙、駕駛著透明噴氣式飛機。鄰旁的紗織 (Saori) 在紙上畫了像是儀表貼到了駕駛艙上。涼介 (Ryoshuke)把廣告紙滾成圓筒成天線。可是那個天線不太好馬上就折斷了。涼介 (Ryoshuke) 的表情似乎生氣了「老師、天線斷了」。「再做一個硬的」老師一邊說一邊幫他出了個主意。就是為了使天線不再折斷，找了個盒子鑽上洞，然後把天線插在洞裡。「就像爸爸開關一樣」。涼介 (Ryoshuke)按照老師的說法，把天線插進洞裡後感到非常的滿足。然後又在旁邊轉方向盤。

駿 (Hayao) 說「涼介 (Ryoshuke)一直在做隊長，不行」。涼介 (Ryoshuke)說「會開的人才能當隊長，一點也沒有讓位子的樣子。『換上我』，『前輩是隊長』，『換上我』，『社長是隊長』」。

17

- 終於駿 (Hayao) 說「老師、涼介 (Ryoshuke)不換給我」。老師說「涼介 (Ryoshuke)、換給他吧」。可是涼介 (Ryoshuke)馬上回答「不行」。老師又向駿 (Hayao) 確認了他真的想開一下的想法。「涼介，你說，駿 (Hayao) 怎樣才能學會駕駛呢？」「他學不會的。還是個小孩」。駿 (Hayao) 一聽這話馬上反駁說「涼介 (Ryoshuke)你也是個小孩子」。平時很愛哭的駿 (Hayao) 今天很能堅持。

於是老師說「涼介你既然是隊長，當然能交他怎樣駕駛，對吧」。涼介 (Ryoshuke)考慮一會兒說「好吧、換給你開」把駕駛席讓出來了、「往右拐彎時要這樣開」一邊說一邊比劃方向盤。駿 (Hayao) 模仿他的動作轉方向盤。「往左拐彎時要這樣」，「腳要踩到這裡」涼介教給駿 (Hayao)。駿也很認真的模仿。

「涼介 (Ryoshuke)、謝謝你。駿 (Hayao) 今天太高興了」老師對兩個人說。駿 (Hayao) 說「這次由涼介 (Ryoshuke)開了」讓出位子、自己坐到涼介 (Ryoshuke)的身後。「下一個輪著駿 (Hayao) 了」。兩個人互相交換，駕駛那架透明的噴氣式飛機。

18

教師的解釋 矚目發展性變化

- 涼介堅持自己的主張不肯讓出來。迄今為止總是用咬別人，或打別人的辦法威壓對方接受自己的想法。可是這次與駿之間有語言交涉，並聽了老師的建議，為他的進步感到高興。
- 駿也堅持不哭、把「希望換成我來開」的想法強烈的傳達給涼介。
- 涼介在教給駿怎樣駕駛上作了讓步、為幫助他其他人建立朋友關係，還需要老師援助。但是他學會了體察對方的心情，我想他一定體會到了與朋友一起做遊戲的快樂。

19

在進修研討會上的爭論

- 涼介是真正明白了駿的心情後把駕駛員的位置讓出來的嗎？
為什麼他能讓出來呢？
平時涼介是個很難相處的人，現在是什麼原因使他肯把位子讓出來的呢？

20

事例5

- 擁有課題意識，大家共同實踐，一起考慮保育上幼兒發育成長的事例

種豆的例子

21

從日常紀錄中實行進修的意義 (從瑞吉歐所學到的)

- 透過紀錄收集訊息是很重要的←→
解釋是很重要的
- 記下幼兒說的話是很重要的←→
捕捉斷斷續續的時間和沉默是很重要的
- 為提高下次保育中、幼兒的發展做記錄←→
透過故事創造關係
- 為觀察幼兒、理解幼兒做記錄←→
幼兒間的關聯、教師間的關聯、捕捉各種關聯

22

- 攝影紀錄要做到更詳細更正確←→
使用各樣的媒體工具俯視整體
- 為明確說明保育的指導過程，記錄是有必要的←→
捕捉幼兒的聲音拓寬他們的可能性
- 紀錄儀式活動與特別的活動←→
詳細捕捉豐富的日常
- 每位教師都有責任紀錄報告是有效的←→
與同儕一起創造故事和歷史

23

作為可見化的東西的紀錄

- 1 把幼兒和教師之間學習與表達、思考、感情視為可見化的「聲音」(Voice)來記錄
幼兒的「故事」 幼兒們的「故事」
教師的故事 編織紀錄
- 2 記錄媒体 不僅用文字記錄、還使用圖、影像、幻燈片等多樣媒體工具
例如使用圖示板、文件夾、幻燈片、攝影等

24

園內進修的要點 A 組織體制

全體會---分科會 能共同協力活動 不同的功能
打破因經驗和擔當學年不同帶來的障礙、
超越內部的局限、不製造隔閡
業務纖細化、製造更多用來研究的時間
日常教室的會話、隨時可撕貼的Post-it (N次貼)

25

B 工具

- 觀察幼兒成長發育和學習過程事實的手段
數位相機、攝影機、Post-it、模造紙、
環境構成圖、作品
全體教師通過視覺來認識「是怎樣一種情形」
以期達到共有
making learning visible

26

C 會話的規則

- 主持人是大家輪流做
- 能參加研討會的職員必須都參加，包括園長在內，與會者用同一視線交談省察
- 與會者每個人都能自由地用真話講述自己對保育和幼兒的看法，以及從那個場面學到了什麼，感受到了什麼，或者存有什麼疑問。包含對那個時候的感情來講述是很關鍵的。

27

D 會話順序為要點

- 1 幼兒們的成長和學習上的「什麼」「怎麼樣」是出發點（共有）
- 2 課題聚焦（提問為什麼是很重要的）
保育方法與援助（教材、活動）、內容、課程
 - 1) 整理從研究主題與保育中看到的課題（多點）
問題，**課題**，難題的解決與處理
 - 2) 來自別人的意見、想法的重新提問
會話相互關聯的協議會 有必要實行第2順序
 - 3) 返回自我（自己的共同經驗、與過去---未來相接）
發出真話、實感、具體的語言

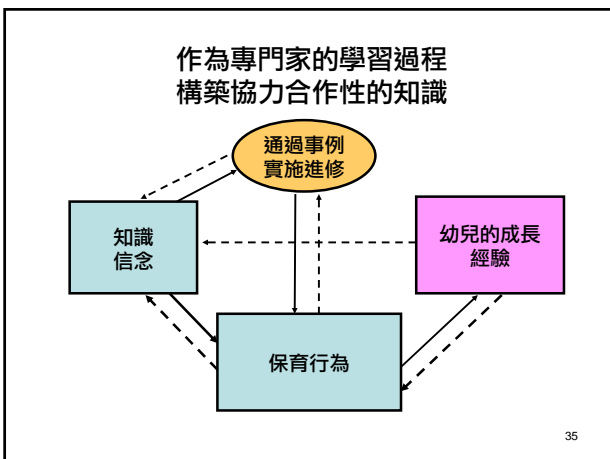
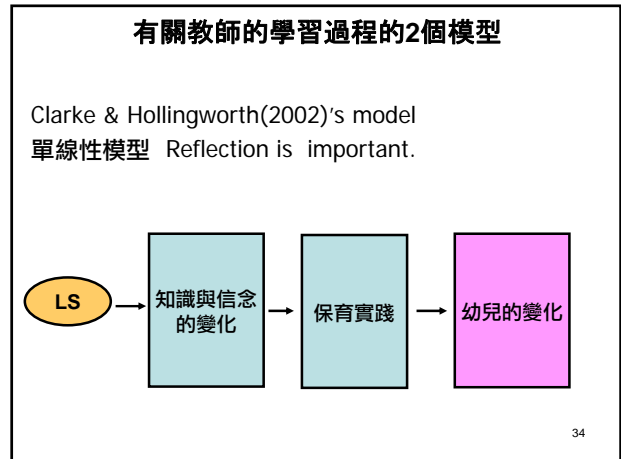
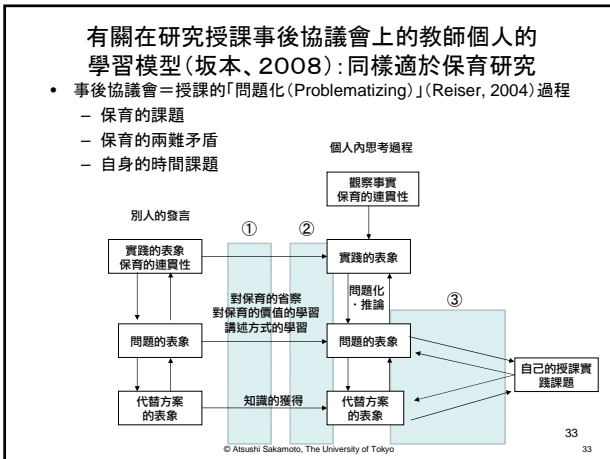
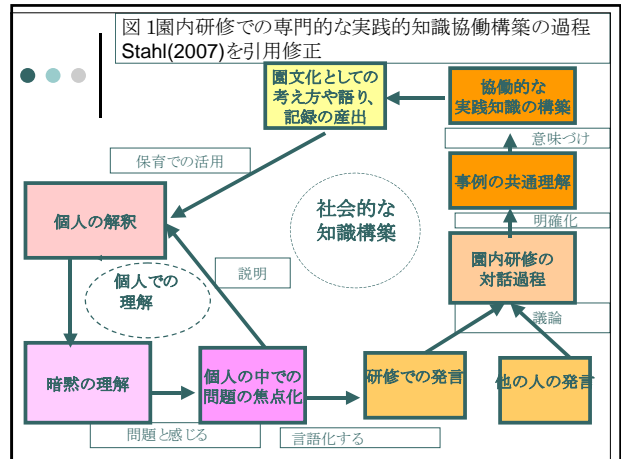
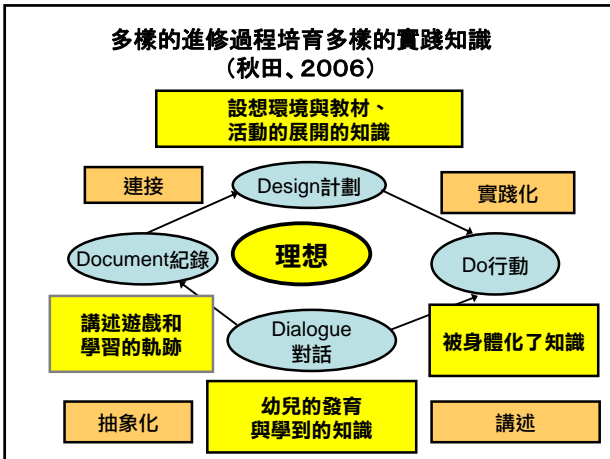
28

- 「問題」：應該怎樣做，是為尋求解決和對策的疑問
對某小朋友的行為感到困惑，不曉得該如何辦。從這樣的提問開始
- 「課題」：對保育實踐的意義提出疑問
A小朋友的行為對B小朋友來講意味著什麼。幼兒都有自己的特點各不相同，某個問題僅僅是在A小朋友身上不存在而已，但這並不說明其他幼兒的情況。無論對幼兒來講、還是對保育員來講，都是對發生的事情開始提問的過程。
- 「難題」：表現出對幼兒擁有的可能性的信賴以及保育工作的深奧之處，同時也體現出保育的極限和矛盾。

29

- 3 把園內進修的過程理論化·加深探求

30



短期性學會的模型 對 長期性變貌模型

Gusky (1986) 解凍、變化、再凍結的樣態

Q 凍結的關鍵在何處？

1. 以前沒能看見的事實逐漸顯現出來
2. 學習通過以不同的視點看同樣的事實
3. 學習支持行為意義的認識論 epistemology 得到告訴行為的認識論 (活動與實踐固有的智慧)
4. 成為認識論的主體 epistemic agency

A 信念與知識、思考水準
B 具體的行為水準
C 講述，自省的水準 談話的水準

在學習時，之間有可能出現時間變化的偏差，但共同擁有會構成作為園文化的行為和談話

從內部感到新鮮感

- 保育實踐中重要的不是建立什麼理想模型、而是保障從一個應有的樣子 (being) 轉變成別的應有的樣子 (becoming) 的過程

所謂學習、是指對以前沒有的，後來又出現的問題進行學習。

在多樣性中合併，又在合併中呈現多樣性，正是「所謂豐富多彩、既是指一點點、稍微的、寥寥的、若有若無的、隱隱約約的、細膩深厚的、神秘的等的樣子都能清晰地感覺出來的能力」(野口,1996)

- 進修是沒有完結的，它開闢了通向思考的道路

37

「改變教育是從小的事情中找出大事，在特定的狀況下，從每一個幼兒身上都能發現無法計量的獨一無二的意義，而這些不是依靠體系和狀況來發現的，這一點非常重要。」

(Maxim Greene)

謝謝您的聆聽。

38

教師の研修を通じた保幼小連携

秋田喜代美
(東京大学)

12月4日台北市立教育大学

1

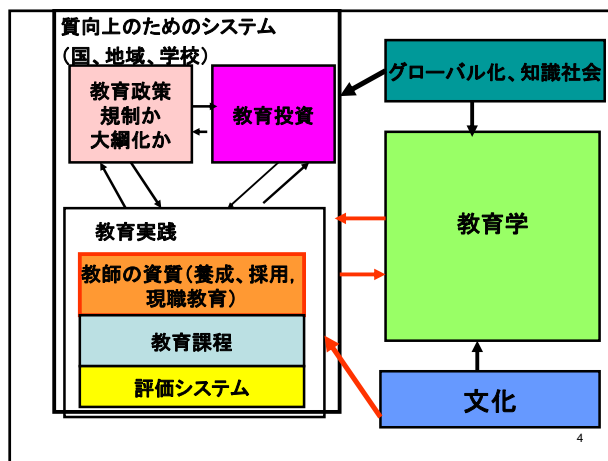
トピックス

- 1 移行によるギャップの実態と行政による
幼小連携改革
- 2 連携による教員研修
 - 1) 接続期カリキュラムの見直し
 - 2) 実践(授業、保育参観・カンファレンス)を基
盤にした交流
 - 3) 人事交流を通じた長期的な対話と研究

2

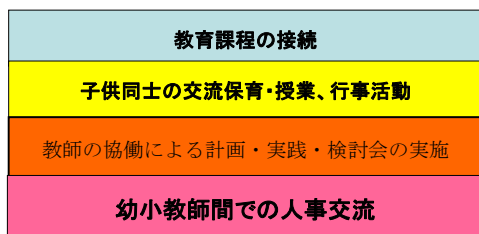
- 1 行政による幼小連携改革
移行によるギャップの実態

3



4

日本でのさまざまな水準での保幼小連携



5

1) 行政改革 教育課程

- 発達の連続性を踏まえた一貫した教育課程が
幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習
指導要領改訂において明記(2009年実施)
- 「幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため
幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の
教師との意見交換や合同の研究の機会を設け
たりするなど連携をはかるようにすること」
- 小学校学習指導要領にも6箇所を保幼小連携の
内容が記載された。
- 子どもの交流の機会だけでなく、保幼小の教
師の専門性開発、研修の機会となっている。

保育所保育指針の改訂でも

指導計画作成上特に留意する事項として明示

エ 小学校との連携

(ア) 生活や発達の連続性を踏まえ、保育の内容の工夫を図るとともに、就学に向けて、保育所の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るよう配慮すること

(イ) 子どもに関する情報共有に関して、保育所に入所している子どもの就学に際し、市町村の支援の下に、**子どもの育ちを支えるための資料**が保育所から小学校へ送付されるようにすること

7

教師自身の資格と研修

・ 中教審答申(平成17年1月28日)

「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」

○ 幼稚園等施設と小学校の双方において、非常勤講師等で相互の経験者を活用することや、**人事交流を推進するなどの施策**を通じ、より一層、双方の教育の質を高める必要がある。

○ 加えて、特に幼稚園と小学校との連携に関しては、**人事交流や相互理解を進める上で、教員免許の併有**を促進する必要がある。例えば、免許法認定講習等の実施方法の改善について、中核市等への実施主体の拡大、都道府県の認定講習等の実施の拡大等を検討することが望ましい。

8

長期の教員研修としての人事交流

・ 幼児教育振興アクションプログラム

(平成18年10月4日)

目標3 各都道府県において、少なくとも1例以上、幼稚園と小学校間の長期にわたる**派遣研修もしくは人事交流**を実施する。

(イ) 地方公共団体は、例えば以下のような**長期(6ヶ月以上)**にわたり**派遣する研修もしくは人事交流の実施**に努める。

9

2) 幼小移行の子どもの経験

10

移行における保護者の実感

- ・ 身の回りの整理整頓ができる(平均値: 幼3.2→小3.7)
- ・ 自分のことは自分でする(平均値: 幼3.8→小4.1)
- ・ 行くのを楽しみにしている(平均値: 幼4.8→小4.5)
- ・ 遊びを楽しみにしている(平均値: 幼4.3→小4.6)
- ・ 行動にとりかかるのに時間がかかる(平均値: 幼3.6→小3.9)

子どもの幼稚園/小学校での生活や情報などを知ることができる。(幼4.2 → 小3.4)

家庭との連絡を密にしている(幼3.6 → 小3.8)

11

移行による教師の経験
「子どもの見方」が変わりましたか

研修(14名)

変わった点	人
○子どもを 値 じる ・長い目で見て、温かく指導する ・ゆったりと見れるようになった ・子どもはみんな伸びようとしている ・子どもは力を持っている ・子ども自身が気づき、伸びていく力を持っていることが信じられるようになり、焦らずに待てるようになった	6
○子どもを 個別 に見る ・子どもを同じ尺度で見ない ・一人一人遊びが違っている	2
○子どもの 背景 を見る ・子どもが育ってきた環境を思われるようになった ・問題行動をする子の背景を考えられるようになった ・子どもが成長してきた過程を考慮するようになった	4
○遊び ・「子どもは遊ぶのが仕事」ということがよく分かった ・「遊びから学ぶ」との重要性に気が付いた	2
○小学校入学時に身に付いている 能力 がどのように習得されたのかが想像できるようになった	1
○小学校1年生を「子ども扱い」してきたが、「ある程度出来る子ども」として見れるようになった	1

12

「子どもとの関わり方」が変わりましたか

変わった点	研修 (14名)	人
○ 受容 ・優しい関わり方 ・笑顔で接するようになった ・分かりやすい言葉を扱うようになった ・ほめたり、励めたりすることが多くなった ・あるがままを受け入れるようになった ・ダメ、いけませんと否定することが少なくなって、子どもの言い分をしっかりと聞くようになった		7
○ 個別対応 ・一人一人の関わりを大切にできるようになった ・子どもに寄り添った支援を心がけるようになった ・一人一人の思いを大切にできるようになった ・言葉で表現できない子どもの思いを見取るようになり、言葉で表現できるように支援するようになった ・子どもの思いに寄り添うような言葉がけを考えるようになった		5
○ 遊び ・休み時間の関わりを大切にできるようになった ・遊ぶことを大切にようになった		3
○ 子どもの失敗やトラブルにイライラすることがなくなり、子どもの力を信じて見られるようになった		1
○ 言葉だけで指示することがなくなった		1

保育/授業ための準備が変わりましたか

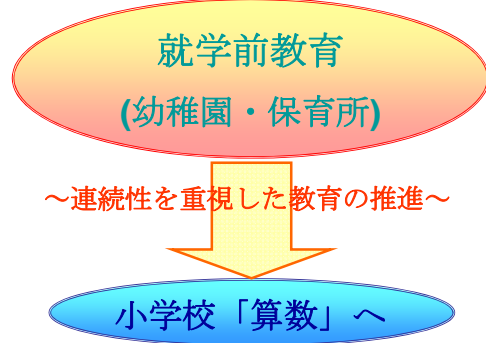
変化	研修 (14名)	人
○ 指導法の工夫 ・子どもの意欲をかき立てる 体験型、自由な空間の確保 など意識が変わった ・ 操作的な活動、視覚に訴える よう工夫するようになった ・ 遊びの要素 を取り入れる ・ 具体物 を使う		7
○ 個々への配慮 ・ 子どもの動きを考え 、準備するようになった ・ 一人一人に配慮 するようになった		2
○ 生活科、図工などで多様な材料や用具をそろえるようになった		1
○ (幼稚園で研修中) 視覚的に伝わるようにしている		1
○ (幼稚園で研修中) 教具を作る ことがなくなった		1

2 連携による教員研修

- 1) 接続期カリキュラムの見直しと
- 2) 実践(授業、保育参観・カンファレンス)を基盤にした交流

これらは同時に行われることが多い
 A 特定の教育内容に着目した接続と
 B 子どもの学びの過程と援助に注目した接続連携
 2事例を紹介

数的活動の接続例



副主題
数・量・形の感覚を育てるための環境と指導の工夫

研究の目的

幼児の数・量・形の感覚を育てるための環境や指導について明らかにする。

連続性を重視した教育を進めるための幼・保・小の連携の在り方を探る。

- ① **数・量・形の概念にかかわる指導資料の作成**
 - ・ 幼稚園で幼児(3・4・5歳児)が経験している数・量・形について整理し、表にまとめた。
 - ・ 資料を活用し、小学校算数へのつながりを意識して保育にあたった。
- ② **環境の工夫**
 - ・ 分類しやすいなど、数・量・形を意識した環境を整えた。
- ③ **保育の指導案の工夫**
 - ・ 小学校の指導案の形式を参考にして評価を加えた。
 - ・ 個々の遊びの中でのねらいや指導・環境の工夫について小学校の先生方にも分かりやすいように記載した。

2年目研究の内容

① 幼稚園と保育所との連携

「生活や遊びを通して数・量・形にかかわる事例」から、幼児期にふさわしい数・量・形の指導について探る。

② 幼稚園と小学校との連携

幼児期の数・量・形の経験を、小学校「算数」の授業に生かすための方法について探る。

③ 幼・保・小が共通に使える資料の作成

「数・量・形にかかわる項目」を作成し、表にする。

19

① 幼稚園と保育所の連携

ねらい

「生活や遊びを通して数・量・形にかかわる事例」から、幼児期にふさわしい数・量・形の指導について探る。

方法

保育所・幼稚園が協議の場を設け、数・量・形にかかわる幼児の事例や、日々の生活の様子について、情報交換する。

20

豊海幼稚園 5歳児 サツマイモのツルを使って
—感覚による気付き・言葉での表現・直接比べる—

21

積木や巧技台の片付け
(仲間集め・立体)

リレー遊び
(順序・数える・
対応させる)

ヒアシンスの栽培
(感覚による気付き
直接比べる)

欠席者調べ
(数える・計算)

お月見だんご作り
(数える・立体)

22

幼稚園 保育所

- 日常生活の中で、幼児の数・量・形の経験の機会を捉えようと心掛けるようになった。
- 言葉掛けのタイミングや話し方を配慮するようになった。
- 幼稚園・保育所で、同様の活動も多いことがわかった。
- 視点を定めて幼児の姿を話すことで、互いの保育をより深められると感じた。

23

② 幼稚園と小学校の連携

ねらい

幼児期の数・量・形の経験を、小学校「算数」の授業に生かすための方法について探る。

方法

幼稚園 5歳児「リレー遊び」の記録
その中で捉えたA児、B児の記録



小学校第1学年「算数」5月「なんぼんめ」
(順序数・集合数の学習)において、リレーの授業を計画し、実施する。

24

対象児について

- 順番など数に対して関心の高い**児童A**とや関心の低い**児童B**を対象児とした。

児童A・・・積極的に取り組んでいた。

児童B・・・同じ活動を親しい友達とする安心感の中で意欲的に動いていた。

25

幼稚園 小学校

- リレーは、幼児期に経験しているので、小学校における算数的活動（リレー）がスムーズに導入できた。
- 順序数・集合数について、体を動かして学んだことで、その後の教室での机上の学習がよりよく理解できた。

26

円滑な接続のために

- 幼児が、どのような活動を経験してきたか。
- 教師や保育士が、どのような環境や指導の工夫をしてきたか。

↓

一年生の教師に具体的に伝える

↓

共通に使える指導資料が必要

27

③「数・量・形にかかわる項目」の指導資料

数

対応させ 教える 数字の読み書き 計算
仲間集める 比べる 数を唱え 順序

年長5歳児 幼児の姿 小学校第一学年

項目	指導内容	指導方法	指導材料	指導時間	指導場所	指導者
数	数詞の理解	数詞の唱え	数字の読み書き	計算	順序	仲間集める
量	量の比較	直接比較	感覚による気づき	言葉での表現	間接的に比べる	
形	平面	立体				

量

対応させる・分け 言葉での表現 間接的に比べる
仲間集め 感覚による気づき 直接比べる

項目	指導内容	指導方法	指導材料	指導時間	指導場所	指導者
数	数詞の理解	数詞の唱え	数字の読み書き	計算	順序	仲間集める
量	量の比較	直接比較	感覚による気づき	言葉での表現	間接的に比べる	
形	平面	立体				

形

平面 立体

項目	指導内容	指導方法	指導材料	指導時間	指導場所	指導者
数	数詞の理解	数詞の唱え	数字の読み書き	計算	順序	仲間集める
量	量の比較	直接比較	感覚による気づき	言葉での表現	間接的に比べる	
形	平面	立体				

子どもの学びの過程に注目した連携

研究の重点

[つかったこと]を思い起こし、
「あっ、そうだ」と目を輝かせ、
対象とのかかわりを深めていく子どもへの
バックアップのあり方

31

3) 人事交流(京都市の例)

- 1 人事交流教員のとまどいから日々の保育を共に考える
- 2 研究保育を保育所幼稚園小学校相互にみあって学びあう
- 3 指導案の書き方の工夫を行う
- 4 研究保育だけではなく事前事後研の参加

32

両者の専門語彙の相違の発見

	幼稚園・保育所	小学校
ex1. 環境構成	<ul style="list-style-type: none"> •子どもの周りに有る関わりができるすべてのもの •子どもとともに構成、再構成 	<ul style="list-style-type: none"> •掲示物や特別に配備されたもの •教師によって意図的に準備
ex2. 指導計画	<ul style="list-style-type: none"> •前日の一人一人の子どもの関心にもとづいて活動を計画 	<ul style="list-style-type: none"> •単元と配当数に基づき計画 •教師の経験によって計画

33

指導案の検討

- 小学校の教員からの問題提起
「みてもわかりにくい」、「何をどうみたらよいかわからない」、「教師の経験などにより子どもの経験や活動に違いがあるのはよいことか」
- 先日の指導案を振り返り指導記録を書きそれと翌日との流れが見えるようにする
赤ペン記入、明日の構想の具体化
子どもの具体的姿を書きこむ、目配りの聞かない子への配慮

34

長期的な遊びの流れの検証

- 例 幼稚園の運動会 先に競技がきまっています練習していくのではない。子どもたちと一緒に作り上げる過程とはどのような過程なのかを確かめる
- 運動会の遊びまでの流れの一覧表づくり
小学校では何をするかを悩まないが、幼稚園では4月からの流れで運動会までの整理をすることで環境構成や援助を考えることができる。

35

専門家に必要な資質(ショーン、1982)

慎み深さ、他者に開かれた心、責任感(応答性)

御静聴ありがとうございました!

36

透過教師進修的保幼小合作

秋田喜代美
(東京大学)

2008.12.04 台北市立教育大學

1

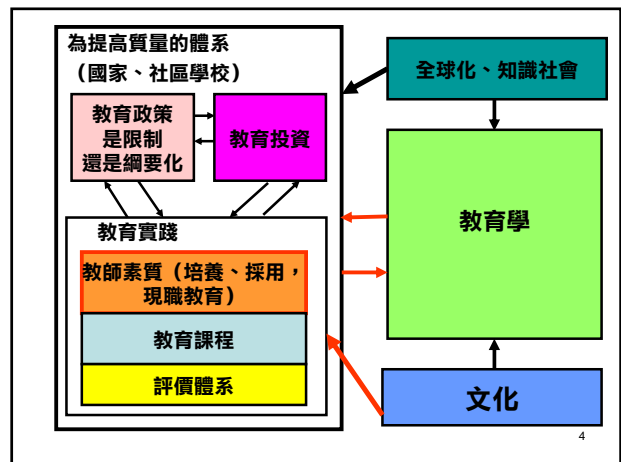
話題

- 1 由過渡引起的差異的實際狀態
與由行政發起的幼小合作改革
- 2 由合作引起的教員進修
 - 1) 重新評估銜接期的課程
 - 2) 以實踐(上課、保育參觀·協議會)為基礎的交流
- 3) 通過人事交流開展長期性對話和研究

2

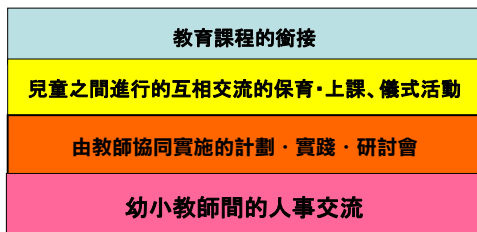
- 1 由過渡引起的差異的實際狀態
與由行政發起的幼小合作改革

3



4

在日本展開的各種各樣水準的保幼小合作



5

1) 行政改革 教育課程

- 立足於兒童發育成長的連續性實行一貫制教育課程，這一點已經在 幼稚園教育大綱，保育所保育指針、小學校學習指導大綱修訂 中被明確記載(2009年實施)

「為使幼稚園教育和小學教育之間順利地銜接上，要設置幼兒和小學生之間交流的機會、幼稚園和小學教師之間互換意見共同研究的機會等」

小學校學習指導要領中亦有 6 處記載了保幼小合作的內容。

→ 合作不僅給兒童之間帶來互動交流的機會、亦給保幼小教師帶來開發專門性、實行進修的機會

6

保育所保育指針的修訂中

亦明確指出制定指導計劃時應特別留意的事項
 工 與小學的合作

- (ア)立足生活與發育的連續性、努力充實保育內容的同時、面對兒童小學入學、保育所應積極與小學做好合作。具體事項有設置保育所幼兒和小學生的交流、教職員之間的交流、信息共有以及相互理解等。
- (イ)為更好的**支援兒童成長**，他們在入小學校時，各兒童的相關資料通過所在市町村的援助，從各保育所轉送到各小學校。

7

教師自身的資格與進修

- **中央教育審議會 答覆報告** (2005年1月28日)
 「有關根據兒童周圍生活環境的變化來考慮今後幼兒教育應有的做法」

○ 在幼稚園等設施與小學雙方內，互相聘任非專職講師在彼此工作，藉以有效利用各自的保育經驗和教育經驗，通過**推動人事交流等對策**，有必要更進一步提高雙方的教育質量。

○ 此外，特別是有關幼稚園與小學合作一事，有必要促進**人事交流和相互理解，同時擁有雙方教員資格**。例如，有關資格檢定法認定講習等的實施方法的改善，期待實施主體擴大到中核城市等，同時擴大各都道府縣的認定講習等的實施等。

8

以長期的教員進修為人事交流

· 幼兒教育振興運動規劃

(2006年10月4日)

目標3 在各都道府縣，最少有一例以上，在幼稚園與小學間跨長期地**實施派遣進修或人事交流**。

- (イ) 在地方公共團體，例如下述的**跨長期 (6個月以上) 實施派遣進修或致力於人事交流的實施**

9

2) 幼小過渡期中的兒童的經驗

10

家長對過渡期的實際感受

- 能整理身邊衣物等 (平均值: 幼3.2→小3.7)
- 自己的事情自己做 (平均值: 幼3.8→小4.1)
- 期待著進小學 (平均值: 幼4.8→小4.5)
- 期待著遊戲 (平均值: 幼4.3→小4.6)
- 在行動上花費時間 (平均值: 幼3.6→小3.9)

兒童能知道在幼稚園/小學的生活樣子和信息。(幼4.2 → 小3.4)
 與家庭保持密切聯絡(幼3.6 → 小3.8)

11

過渡對教師經驗的影響 「對孩子的看法」是否有了變化？

進修人員 (14名)

變化了地方	人
○相償孩子 ・獲得用長遠的眼光看孩子、很溫和的進行指導 ・感到孩子們都在努力進步 ・相償孩子很自覺，都有進步的能力、不再焦躁地等待了 ・覺得能用寬容的眼光看孩子 ・感到孩子都有能力	6
○個別的看法 ・不以同樣的尺度看孩子 ・每個孩子的學習都各不相同	2
○看孩子的背景 ・獲得能理解孩子成長的環境 ・獲得能考慮出問題行動的孩子的背景 ・獲得能考慮孩子成長起來的過程	4
○遊戲 ・充分明白了「孩子的工作就是遊戲」這句話 ・注意到了「從遊戲中進行學習」的重要性	2
○能想像得出幼兒在小學入學的時候已經學會並具備了那些能力	1
○迄今為止小學1年級學生一直「被認為是小孩子」、現在看他們時認為他們是有「某種程度能力」的孩子	1

12

「與孩子接觸的方法」是否有了變化

變化的地方	研修 (14名)	人
○ 擁擠 ・溫和的接觸方法 ・用英語溝通 ・變得使用簡單易懂的語言 ・表達、承認孩子的時候變多 ・變得能接受孩子原原本本的樣子 ・使用不行、不可以等否定語言在減少、變得能充分聽取孩子的主張	7	
○ 個別性的應答 ・珍惜一對一的接觸方法 ・注意在平常生活中貼近孩子進行支援 ・尊重每一個人的想法 ・變得能觀察到用語言表達不出來的孩子的想法,幫助這個孩子學會用自己的語言表達 ・變得考慮用那些更貼近孩子想法的語言搭話	5	
○ 遊戲 ・珍惜在休息時間裏的與孩子的接觸 ・變得珍惜遊戲了	3	
○ 因孩子的失敗和糾紛造成的焦慮在減少、變得相信孩子的能力	1	
○ 緊緊是用語言下指示的情況已經消失了	1	

13

為保育/上課所做的準備是否有變化？

研修人員 (14名)

變化了的地方	人
○ 鑽研指導方法 ・挑起孩子熱情的 體驗型指導法 、確保自由的空間的意識發生了變化 ・通過 操作性活動 、 訴諸於視覺 ，努力進行鑽研 ・引進 遊戲的要素 ・使用 具體的東西	7
○ 關懷每一個 ・考慮孩子的行動、做好充分的準備 ・變得能考慮到 每一個人 的情況	2
○ 能備齊生活科、圖畫製作等課的多種多樣的材料和用具	1
○ (在幼稚園進修時)盡量訴諸於視覺來傳達	1
○ (在幼稚園進修中)不用再製作教學用具	1

14

2 合作中的教員進修

- 1) 銜接期的課程重估
- 2) 以實踐(授課、保育參觀、會議)為主的交流

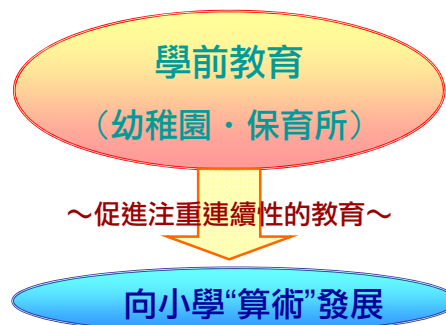
往往與以下內容同時進行

- A 注重特定教育內容的銜接
- B 注重兒童學習過程與援助的銜接合作

2 事例介紹

15

數字活動的銜接事例



16

副主題

設法培養對數、量、形感覺的環境與指導

研究目的

明確為培養幼兒對數、量、形感覺的環境與指導

為進行注重連續性教育，探索幼・保・小的合作方法

17

① 製作對數、量、形有關概念的指導材料

- ・在幼稚園中，把幼兒(3、4、5歲)學過的數、量、形整理成表格。
- ・靈活運用資料，並有意進行和小學算術相銜接的保育活動

② 努力準備好環境

- ・容易分類等、有意識地整備數、量、形環境。

③ 靈活製作保育方針

- ・參照小學指導方針，增加評估。
- ・在個體遊戲中，靈活製作目標、指導、環境，並以小學老師能夠理解的方式記錄下來。

18

第二年的研究內容

① 幼稚園與保育園的合作

從“通過生活遊戲學習與數、量、形相關事例”中，探索為適應幼兒時期數、量、形的指導

② 幼稚園與小學的合作

探索把幼兒期對數、量、形的體驗，靈活運用到算術課程中的方法。

③ 製作可供幼·保·小共同使用的材料

製作“數、量、形相關項目”、形成表格。

19

① 幼稚園與保育園的合作

目的

從“通過生活遊戲學習與數、量、形相關事例”中，探索為適應幼兒時期數、量、形的指導

方法

保育園和幼稚園設立協議場所、用以交換與數、量、形有關的幼兒事例、以及日常生活等情況

20

豐海幼稚園 5歲兒童 使用紅薯秧

~以直感、語言進行的表達·直接比較~

21

收拾積木、技巧板
(集結夥伴·立體)

接力遊戲
(順序·數數·對比)

栽培洋水仙
(來自直感的發覺
直接對比)

查缺席的人
(數數·計算)

製作賞月點心
(數數·立體)

22

幼稚園 保育所

- 在日常生活中、變得留心捕捉幼兒接觸數·量·形的經驗的機會。
- 變得留心搭話的時機與說話方式。
- 明白了在幼稚園·保育所中從事的許多活動都是相同的。
- 決定視點講述幼兒活動的情況，加深了彼此對保育的感受。

23

② 幼稚園與小學的合作

目標

探討如何把幼兒期時對數·量·形的經驗、靈活運用到小學「算術」課上。

方法

幼稚園 5歲兒童的「接力遊戲」的計其中掌握到的A小朋友、B小朋友的記錄



在小學第1學年「算數」5月「第幾個」(序數集合數的學習)時、制定了上一堂接力課的計劃，並予以實施。

24

有關研究對象的兒童

- 把對順序等數的學習呈現出很高的關心程度的兒童A與關心程度比較低的兒童B為研究對象。

兒童A . . . 積極鑽研, 熱心參加活動。

兒童B . . . 與好朋友一起做同樣活動中感到

放心, 因而熱心參加活動。

25

幼稚園 小學

- 接力在幼兒期已經經歷過了、所以在小學開展的有關算術活動(接力)被得以順利進行。
- 有關序數·集合數、由於是通過活動身體學到的、所以其後在教室裏通過書本的學習也更易于理解。

26

為達到圓滿順利的銜接

- 幼兒曾經經歷過什麼樣的活動?
- 教師和保育員是怎樣準備環境、努力進行指導的?

把上述這些情況具體地傳達給一年級的教師

有必要製作共同都可使用的指導材料

27

③「與數·量·形有關的項目」的指導資料

項目	數		量		形	
	數	量	量	形	形	形
數	使其相對應	數一數	數字的讀寫	計算	匯集	比較
量	比較	念數	順序			
形						

大班5歲兒 幼兒的狀態 小學第一学年

量

項目	使其相對應·分組	用語言表達	間接性比較
量	匯集同類	由感覺引起發現	直接比較
形			

形

項目	平面	立體
形	平面	立體
量		

關注孩子學習過程的合作

研究的重點

回想起[已經掌握了知識],
「啊,原來如此」變得目光炯炯,
對加深跟對象關係的孩子的

做後援的辦法

31

3) 人事交流(京都市的例子)

- 1 從人事交流教員的躊躇不安開始共同考慮日常保育工作
- 2 保幼小三者互相檢點,互相學習,共同研究保育
- 3 鑽研指導方案的寫法
- 4 不僅僅是研究保育,還要參加事前事後研究

32

發現二者專門用語的相異之處

	幼稚園・保育所	小學
ex1. 環境構成	<ul style="list-style-type: none"> •幼兒身邊有的能有關聯的所有的東西 •與幼兒一起構成、再構成 	<ul style="list-style-type: none"> •揭示物與特別是被配備的東西 •由教師有意的準備
ex2. 指導計劃	<ul style="list-style-type: none"> •按照前一天每個幼兒的關心計劃活動 	<ul style="list-style-type: none"> •按照單元和分配的時數進行計劃 •按照教師的經驗進行計劃

33

教學方案的討論

- 小學教員提出的問題
「即使看也不易懂」,「不明白看什麼,怎樣看」,「由教師的經驗等的差異導致孩子的經驗和活動產生差異能被允許嗎?」
- 回頭看前幾天的教學方案,寫指導記錄,從中可以掌握前一天和后一天的變化趨勢。
用紅筆填寫,使明天的設想逐漸變得具體化。
寫進孩子學習生活的具體身姿,對無暇關心周圍情形的孩子予以適當的關懷

34

對長期性遊戲變化趨勢的驗證

- 例 幼稚園的運動會 不是先定好比賽項目再開始練習的。而是與幼兒們一起確認大家共同製作參與運動會的過程是怎樣的一個過程
- 製作包括運動會的遊戲項目為止的行動一覽表

在小學運動會上對應該做什麼不感到煩惱、但是在幼稚園從4月起的保育活動開始到運動會開幕為止先整理,然後才能考慮環境構成和援助。

35

專門家所必要的素質 (Schön, 1982)

非常謙虛謹慎、對別人敞開心扉,有責任感(應答性)

謝謝您的聆聽!

36

日本における幼稚園教育課程 改訂の経緯と概要

新しい幼稚園教育要領の改善を通して

国立特別支援教育総合研究所
小田 豊

2008年 12月5日
於:台北教育フォーラム 1

背景と経緯

2

教育基本法の改正

平成18年(2006) 12月15日成立

改正の理由と新たなポイント

昭和22年に教育基本法が制定されて60年
教育を取り巻く家庭・学校・地域の環境は大きく変わった
家庭教育、幼児期の教育、学校・家庭・地域の連携協力が加わった

- 10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする
- 2 国及び地方団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない
- 11条 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない
- 13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする

3

教育基本法 ～幼児教育関係部分抜粋～

(幼児期の教育)

第11条 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

4

学校教育法の改正(2007年6月)

1. 学校種の目的及び目標の見直し等

(ii) 幼稚園に関する事項

教育基本法に教育の目標及び幼児期の教育に関する規定が置かれたこと等を踏まえ、以下のとおり学校教育法の幼稚園の目的及び目標に関する規定等を改めること。

【目的】

- ① 義務教育以後の教育の基礎が培われ、生涯にわたる人格形成の基礎が培われるよう、幼児期の特性に配慮しつつ、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するといった趣旨を規定すること。
- ② 小学校以降の教育との発達や学びの連続性が明確となるよう、学校種の規定順について幼稚園を最初に規定すること。

旧)学校とは、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校…、特別支援学校及び幼稚園

新)学校とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校…

5

これまでの幼稚園教育要領の歴史的な流れ

1935年～1945年

倉橋惣三(生活主義保育)

1947年4月 学校教育法(幼稚園)

1947年9月 児童福祉法(保育所)

1948年8月 保育要領(刊行)

見学、リズム、休息、自由遊び、音楽、お話、絵画、製作、自然観察、ごっこ遊び・劇遊び・人形芝居、健康教育、年中行事

アメリカの地方都市オハイオ州の保育内容に依拠(生活主義)

6

1952年6月 中央教育審議会発足・教育課程審議会発足
義務教育の充実を訴える

1956年2月 幼稚園教育要領(刊行)
保育内容6領域(健康・社会・自然・言語・絵画
製作・音楽リズム)
教科主義的な保育の台頭

1964年3月 幼稚園教育要領(告示)
保育内容6領域(健康・社会・自然・言語・絵画
製作・音楽リズム)
閉鎖的管理教育(一斉保育)

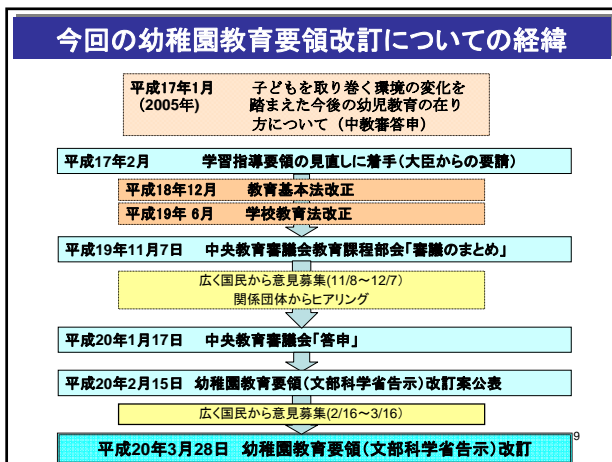
7

1989年3月 幼稚園教育要領(告示)
保育内容5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)
開放的情報教育(自由保育)
(一人一人に応じる保育)

1998年3月 幼稚園教育要領(告示)
保育内容5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)
計画的に環境の構成

2008年3月 幼稚園教育要領(告示)
保育所保育指針(告示)
表現と体験の充実

8



新しい幼稚園教育要領の概要と特徴

10

教育基本法の改正
学校教育法の改正
子どもや社会の変化

↓

幼稚園教育要領の改訂

幼稚園教育の基本は引き継ぎ、その上で内容の充実を図る。

幼稚園教育の改善・充実の方向性

- ① 発達や学びの連続性
- ② 幼稚園と家庭などでの生活の連続性
- ③ 子育ての支援と預かり保育の充実

12

① 発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実 - 社会の変化への対応

- 多様な体験を重ねる中で、それら一つ一つの体験の関連性を図ること
- 言葉による伝え合いができるようにすること
- 友達とともに遊ぶ中で、好奇心や探究心を育て、思考力の芽生えを培うこと
- 体を動かすこと、食に関する活動
- 豊かな感性と自分なりの表現を培うことが大切であることから、表現する過程など、表現に関する指導を充実
- 自信をもって行動できるようにすること

13

② 幼稚園での生活と家庭などでの生活の連続性

- 心のよりどころとしての家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること
- 家庭と連携しながら、基本的な生活習慣が身につけられるようにすること
- 家庭との連携に当たっては、保護者の幼児期の教育に関する理解がより深まるようにすること

14

③ 子育ての支援と預かり保育

- 子育て支援については、相談、情報提供、保護者との登園の受け入れ、保護者同士の交流機会の提供など、地域の幼児教育のセンターとしての役割を果たすよう努めること
- 預かり保育については、幼児の心身の負担に配慮すること。その上で次の点に留意すること
 - 教育課程の活動を考慮し、幼児にふさわしい無理のないものとする。教育課程の担当者との緊密な連携を図ること
 - 家庭や地域での生活を考慮し、預かり保育の計画を作成すること
 - 家庭との緊密な連携を図り、保護者の意識を高めること
 - 地域や保護者の事情とともに幼児の生活のリズムを踏まえること
- 適切な指導体制を整備し、教師の責任と指導の下に行うこと

15

幼稚園教育要領の改訂

幼稚園教育要領の構成

改訂前

- 第1章 総則**
- 1 幼稚園教育の基本
 - 2 幼稚園教育の目標
 - 3 教育課程の編成
- 第2章 ねらい及び内容**
- 健康
人間関係
環境
言葉
表現
- 第3章 指導計画作成上の留意事項**
- 1 一般的な留意事項
 - 2 特に留意する事項

改訂後

- 第1章 総則**
- 第1 幼稚園教育の基本
 - 第2 教育課程の編成
 - 第3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など**
- 第2章 ねらい及び内容**
- 健康
人間関係
環境
言葉
表現
- 第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項**
- 第1 指導計画の作成に当たっての留意事項**
- 1 一般的な留意事項
 - 2 特に留意する事項
- 第2 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項**¹⁶⁾

幼稚園教育要領改訂の概要 ①

幼稚園に思いきり遊ぶことで、その後の学びが豊かになるといわれており、幼稚園では、遊びを通じた教育を行っています。
このことは新しい幼稚園教育要領に引き継がれます。

【発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実】

一 幼小の円滑な接続

- 幼稚園教育の基本に基づく幼稚園生活により、義務教育及びその後の教育の基礎が培われることの明確化
- 幼稚園と小学校の教師が幼児と児童の発達や指導の在り方について相互理解を深めること、幼児と児童の交流を図ること
- 協同する経験を重ねること(幼児同士が共通の目的を生み出し、協力し、工夫して実現していく)
- 規範意識の芽生えを培うこと(体験を重ねながらきまりの必要性に気づく)

一 子どもや社会の変化への対応

- 多様な体験を重ねる中で、それら一つ一つの体験の関連性を図ること
- 言葉による伝え合いができるようにすること
- 友達とともに遊ぶ中で、好奇心や探究心を育て、思考力の芽生えを培うこと
- 体を動かすこと、食に関する活動を充実すること
- 表現に関する指導を充実すること
- 自信をもって行動できるようにすること

【幼稚園生活と家庭生活の連続性を踏まえた幼稚園教育の充実】

- 心のよりどころとしての家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること
- 家庭と連携しながら、基本的な生活習慣が身につけられるようにすること
- 家庭との連携に当たっては、保護者の幼児期の教育に関する理解がより深まるようにすること

教育課程は
どこが変わるの？

幼稚園教育要領改訂の概要 ②

【子育ての支援と預かり保育の充実】

- 子育ての支援については、相談、情報提供、保護者との登園の受け入れ、保護者同士の交流の機会の提供など、地域の幼児教育のセンターとしての役割を果たすよう努めること

- 預かり保育については、幼児の心身の負担に配慮すること。その上で次の点に留意すること
 - 教育課程の活動を考慮し、幼児にふさわしい無理のないものとする。教育課程の担当者との緊密な連携を図ること
 - 家庭や地域での生活を考慮し、預かり保育の計画を作成すること
 - 家庭との緊密な連携を図り、保護者の意識を高めること
 - 地域や保護者の事情とともに幼児の生活のリズムを踏まえること
- 適切な指導体制を整備し、教師の責任と指導の下に行うこと

教育課程以外にも何か
変わるの？

18

第1章 総則 第1 幼稚園教育の基本

教育基本法第11条の改正を踏まえ、幼稚園教育の基本に「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであること」を規定

要領

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

第1章 総則 第2 教育課程の編成

遊びを通した教育は引き継がれる

幼稚園教育の基本に基づく幼稚園生活により、義務教育及びその後の教育の基礎が培われることを明確化

要領

幼稚園は、家庭との連携を図りながら、この章の第1に示す幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第23条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。幼稚園は、このことにより、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとする。

第1章 総則 第3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など

【預かり保育】

- 地域の実態や保護者の要請を踏まえ、幼稚園の裁量により実施
- 対象者は幼稚園児
- 教育活動の一貫

学校教育法第22条及び第23条、幼稚園教育の基本を踏まえ実施

要領

幼稚園は、地域の実態や保護者の要請により教育課程に係る教育時間の終了後等に希望する者を対象に行う教育活動について、学校教育法第22条及び第23条並びにこの章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ実施すること。

幼稚園教育の特質

「環境を通して行う教育」を基本とする

- 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活を展開（幼児は安定した情緒の下で自己発揮をすることにより発達に必要な体験を得ていく）
- 遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること（「遊び」は、幼児にとって重要な「学習」）
- 一人一人の発達の特性に応じること

※環境とは物的な環境だけでなく、教師や他の幼児も含めた幼児の周りの環境すべて

5領域

健康：健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

人間関係：他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。

環境：周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

言葉：経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

表現：感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

子どもの育ちと5領域(イメージ図)

生きる力の基礎を育成

※発達の側面から5つの領域を示している。これらは、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものである。

幼児の主体性と教師の意図

「**幼児の主体性**」と
「**教師の意図**」とを
バランスよく絡ませていく

↓

発達に必要な体験

25

幼稚園教育と小学校教育の相違からの特徴

<p>幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育教育 方向目標 個人内評価 	<p>小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科教育 達成目標 絶対評価
--	---

26

第2章 領域「健康」

【食に関する活動の充実】

内容 ● 先生や友達と食べることを楽しむ

内取 ● 次のことなどを通じて、進んで食べようとする気持ちが育つようにする

- ・和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わう

食べ物を身近に感じ、興味や関心を持ち、食べてみたいと思うようになる
- ・様々な食べ物への興味や関心をもったりする

● 食に関する活動の際には、**幼児の食生活の実情への配慮が必要**

例：家庭での食生活、アレルギーなど

28

第2章 領域「環境」

他の幼児の考えに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わう

↓

自ら考えようとする気持ちが育つようにする

他の幼児のしていることを見たり、考えを聞いたりして、刺激を受け、自分の中に新しい考えが浮かぶ等

※「自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること」などは旧要領にもあり

要領

内取(1) 幼児が、遊びの中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心を持ち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。

28

第2章 領域「言葉」

【言葉による伝え合い】

伝え合いには2つの要素が必要

- 自分の思いを言葉で伝えること
- 相手の話を興味をもって注意して聞き、次第に理解するようになること

※「言葉を交わす喜びを味わえるようにすること」などは旧要領にもあり

要領

内取(2) 幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようになること。

29

第2章 領域「表現」

【表現する過程を大切に自己表現が楽しめるように工夫】

- 遊具や用具を整える 旧要領にもあり
- 他の幼児の表現に触れられるよう配慮

新要領で新たに規定
他の幼児と一緒に表現活動をしたり、他の幼児の表現を見たり聞いたりして、刺激を受けて、自分の表現がより豊かになる

要領

内取(3) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

30

第2章 領域「人間関係」

(旧要領) 進んで身近な人と **かかわり**

(新要領) 身近な人と親しみ、 **かかわりを深め**

要領
ねらい(2) **身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもち。**

(現行) 進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもち。

31

第2章 領域「人間関係」

【協同する経験を重ねること】

内容 ● 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだす
● 友達と工夫したり、協力したりなどする

内取 ● 自ら行動する力を育てる
● 友達と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさを味わう
● 共通の目的が実現する喜びを幼児が味わう

友達と遊ぶ中で、自分達で目的を見いだすなど

協力するいざこざや折り合い役割分担等

32

第3章第1 1 一般的な留意事項

【体験の多様性と関連性】

● 多様な体験をすること

● 一つ一つの体験が相互に結びつくこと

心を動かされる体験は幼児自身の中に定着し、一つの体験がその後の体験につながりをもつ。例えば、
・次の活動への動機付け
・一定期間経た後に新たな活動の中に生きてくる 等

要領
(4) **幼児が様々な人やもののかかわりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達を促すようにしていくこと。その際、心が動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結びつき、幼稚園生活が充実するようにすること。**

33

第3章第1 1 一般的な留意事項

家庭との連携に当たって、次のことなどを通じて、保護者の幼児期の教育に関する理解がより深まるようにすること

・保護者との情報交換の機会
・保育参加 等

幼稚園教育 幼児の発達の道筋 幼児のかかわり方 等

要領
(8) 幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにすること。その際、地域の自然、人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫すること。また、家庭との連携に当たっては、保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりなどすることを通じて、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるよう配慮すること。

第3章第1 2 特に留意する事項

【特別支援教育の充実】

特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ、個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。例えば、

・指導についての計画を個別に作成 (個別の指導計画)

・家庭や医療、福祉などの業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成 (個別の教育支援計画)

要領
(2) 障害のある幼児の指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ、例えば指導についての計画又は家庭や医療、福祉などの業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の幼児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

34

第3章第1 2 特に留意する事項

【幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続】

(旧要領)
幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること

(新要領)
上記に加え、**幼稚園と小学校の連携を規定**
活動の例
・幼児と児童の交流
・教師同士の意見交換や合同の研究会

幼児と児童の実態、指導内容、指導方法等について相互理解を深める 等

要領
(5) **幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。**

36

新旧:第3章指導計画作成上の留意事項

- 旧(1998年告示)
- (8) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。
- 新(2008年告示)
- (5) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、教師の意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど連携を図るようにすること。

37

小学校の学習指導要領に幼稚園教育との整合性が記述

教科国語、音楽、図工の指導計画の作成と内容の取り扱いに始めて幼稚園教育との関係が記述されている。

例:国語

(6) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第一学年においては、幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連に考慮すること。(音楽、図工では表現)

38

保育指針・教育要領の特徴と課題

- | | |
|---------|----------|
| 保育所保育指針 | 幼稚園教育要領 |
| 告示化 | 規定順の変更 |
| 最低基準 | 最高水準 |
| 大綱化 | 規範意識の芽生え |
| 子育て支援 | 体験と表現 |
- お互いに保育の質の向上を目指してが・・・?
 - ダブルスタンダードにはならないか?
 - 競争の激化?
 - 指導要録の相違(総合的と領域別)

39

日本幼稚園教育課程改訂 之經過與概要

---透過新幼稚園教育要領的改善展望未來---

小田 豊

國立特別支援教育綜合研究所

2008年12月5日

台北市立教育大學

1

背景及經過

2

《教育基本法》的修改

平成18年（2006年）12月15日通過

修改的原因與新意

《教育基本法》自1947年實施以來已近60年之久
家庭、學校、社區等教育環境發生了巨大變化
其中，家庭教育、幼兒教育、學校、家庭、社區的合作現象日益增多

- 第10條 父母及其家長對兒童教育負有首要責任，在使兒童獲取必需的生活習慣的同時，培養兒童的自立心、促使兒童身心協調的成長和發育。中央以及地方在尊重家庭教育自主性的同時，向家長提供學習機會與信息，並為造就良好的家庭教育環境制定實施必要的政策。
- 第11條 基於幼兒教育是每個人一生中人格形成之重要基礎，中央及地方必須保證提供幼兒成長所必需的良好環境，並以適當措施著力振興該環境的發展。
- 第13條 學校、家庭以及社區居民等其他相關者應主動承擔各自在教育中的職責，同時要致力於相互提攜與合作。

3

《教育基本法》 ~幼兒教育有關條文~

（幼兒期之教育）

第11條

基於幼兒教育為每個人一生中人格形成之重要基礎，中央及地方政府必須為幼兒成長提供必要良好的環境，並以適當措施著力振興該環境之發展。

4

《學校教育法》之修改(2007年6月)

1. 對學校種類目的和目標之修改

(ii) 幼稚園相關條文

根據《教育基本法》對教育目標及幼兒教育的有關規定，《學校教育法》中對幼稚園的目的與目標作了如下修改。

【目的】

- 為造就義務教育之後的教育基礎以及一生成格形成的基礎，規定要充分考慮幼兒期的特點，實施保育並給與幼兒妥當的環境，促進幼兒身心的成長與發育。
- 規定，明確小學之後的教育與成長發育和學習的連續性、在對學校種類的規定順序中將幼稚園首列。

【原法規】學校是指，小學、中學、高中、中等教育學校...、特別支援學校以及**幼稚園**

【新法規】學校是指，**幼稚園**、小學、中學、高中、中等教育學校、特別支援學校...

5

幼稚園教育要領之歷史變遷

1935年~1945年 倉橋惣三(生活主義保育)

1947年4月 學校教育法(幼稚園)

1947年9月 兒童福祉法(保育所)

1948年8月 保育要領(發行)

參觀、節奏、休息、自由玩耍、音樂、故事、繪畫、製作、自然觀察、捉迷藏、扮家家、木偶戲、健康教育、每年定例活動

依據美國地方城市俄亥俄州的保育內容
(生活主義)

6

1952年6月 中央教育審議會·教育課程審議會成立
呼籲充實義務教育

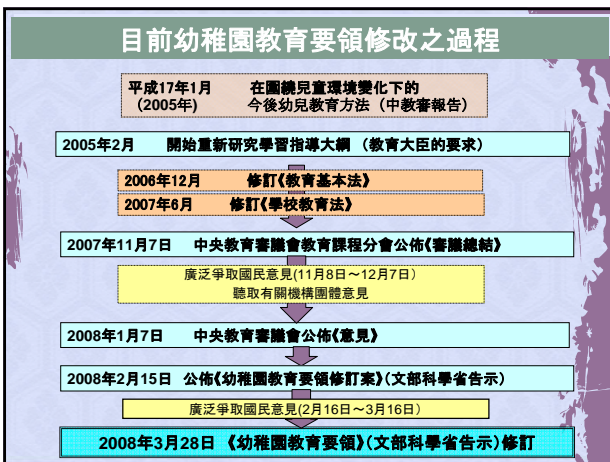
1956年2月 幼稚園教育要領（發行）
保育內容六大範圍
（健康、社會、自然、語言、繪畫、製作、音樂節奏）
教科主義式保育之權頭

1964年3月 幼稚園教育要領（告示）
保育內容六大範圍
（健康、社會、自然、語言、繪畫、製作、音樂節奏）
封閉式管理教育（同時保育）

1989年3月 幼稚園教育要領（告示）
保育內容五大範圍（健康、人際關係、環境、語言、表達）
開放性信息教育（自由保育）
（重視個人差異的保育）

1998年3月 幼稚園教育要領（告示）
保育內容五大範圍（健康、人際關係、環境、語言、表達）
有計劃地構建環境

2008年3月 幼稚園教育要領（告示）
保育所保育指針（告示）
表達與體驗的充實



新《幼稚園教育要領》的概要與特徵

《教育基本法》的修改
《學校教育法》的修改
兒童與社會的變化

↓

《幼稚園教育要領》的修改
繼承幼稚園教育的根本，著力充實其內容

有關改善·充實幼稚園教育的方向

- ① 成長發育與學習的連續性
- ② 幼稚園和家庭生活等之間的連續性
- ③ 育兒支援和托育的充實

①有關立足成長發育及學習連續性上的教育的充實——應對社會的變化

- ◆ 在經歷的各種體驗中，尋求每個體驗與體驗之間的關聯性
- ◆ 能夠用語言互相交流
- ◆ 在與朋友的遊玩中，培養好奇心、探究心，培養獨立思考的能力
- ◆ 身體運動，做與飲食有關的活動
- ◆ 培養豐富的感性並用自己的方式表達；充實與表達過程等有關的指導
- ◆ 能夠充滿自信地進行各種活動

13

②幼稚園生活和家庭生活等的連續性

- ◆ 培養對家庭的熱愛，使之成為每個人的心靈歸屬
- ◆ 與家庭合作，培養孩子使他們養成基本的生活習慣
- ◆ 在與家庭攜手合作之際，爭取加深家長對幼兒期教育的理解

14

③育兒支援與托育

- ◆ 在育兒支援中要努力做好，諮詢、提供信息、接受幼兒與家長一起上幼稚園、為家長們提供相互交流的機會、發揮社區幼兒教育中心的作用等活動。
- ◆ 在托育中要在留意幼兒身心負擔的同時，尤其要考慮以下幾點。
 - 考慮教育課程等活動要適合幼兒不能過於勉強。爭取與教育課程的擔任者取得緊密配合。
 - 在充分考慮家庭及社區生活的基礎上，製作托育計劃。
 - 與家庭緊密配合，提高家長意識。
 - 考慮社區、家長情況的同時，充分把握幼兒的生活節奏。
 - 制定貼切適當的指導體制，並將其納入教師的責任與指導之下。

15

幼稚園教育要領之修改 幼稚園教育要領的構成

修改前	修改後
第1章 總則 1 幼稚園教育的根本 2 幼稚園教育的目標 3 教育課程的編成	第1章 總則 第1 幼稚園教育的根本 第2 教育課程的編成 第3 完成教育課程所需時間之外的教育活動
第2章 目標及內容 健康 人際關係 環境 語言 表達	第2章 目標及內容 健康 人際關係 環境 語言 表達
第3章 制定指導計劃時的注意事項 1 一般性注意事項 2 特別注意事項	第3章 在進行完成指導計劃和教育課程之外的教育活動時的注意事項 第1 制定指導計劃時的注意事項 1 一般性注意事項 2 特別注意事項 第2 在完成教育課程規定時間外進行教育活動時的注意事項

18

幼稚園教育要領修改之概要①

根據有關研究結果，幼兒時期充分遊玩可使之後的學習有效果，因此幼稚園教育必須是通過玩耍進行的教育活動。
 新幼稚園教育要領繼承了上述觀點。

教育課程的哪些地方改變了呢？

【立足於發育與學習的連續性之上，充實幼稚園教育】

—與幼小時期的順利銜接—

- 明確幼稚園教育作為義務教育以及之後教育之基礎的作用
- 幼稚園及小學教師要加強對幼兒、兒童的實際情況以及指導方法的相互理解，加強與幼兒和兒童交流
- 積累同心協力的經歷(幼兒們自己創造出共同目標，同心協力開闢服務來實現)
- 培養規範意識的形成(在反復體驗中體會規則的重要性)

—應對兒童與社會變化—

- 在經歷的各種體驗中，尋求每個體驗與體驗之間的關聯性
- 能夠用語言互相交流
- 在與朋友的遊玩中，培養好奇心、探究心，培育思考能力的萌生
- 活動身體，與飲食有關的活動
- 培養豐富的感性並用自己的方式表達；充實與表達過程等有關的指導
- 能夠充滿自信地進行各種活動

【立足於幼稚園生活和家庭生活等的連續性之上，充實幼稚園教育】

- 培養熱愛作為每個人心靈歸屬的家庭之感情
- 與家庭攜手讓孩子養成基本的生活習慣
- 在與家庭攜手之際，爭取加深家長對幼兒期教育的理解

18

幼稚園教育要領修改之概要②

教育課程之外還有什麼變化嗎？

【充實育兒支援和托育】

- 在育兒支援中要努力做好，諮詢、提供信息、接受與家長一起上幼稚園、為家長們提供相互交流的機會、發揮社區幼兒教育中心的作用等活動。
- 在托育中要在留意幼兒身心負擔的同時，尤其要考慮以下幾點。
 - 考慮教育課程等活動要適合幼兒不能過於勉強。爭取與教育課程的擔任者取得緊密配合。
 - 在充分考慮家庭及社區生活的基礎上，製作托育計劃。
 - 與家庭緊密配合，提高家長意識。
 - 考慮社區、家長情況的同時，充分把握幼兒的生活節奏。
 - 制定貼切適當的指導體制，並將其納入教師的責任與指導之下。

18

第1章 總則 第1 幼稚園教育之根本

根據《教育基本法》第11條之修改，明確規定幼稚園教育之根本在於“造就畢生人格形成中的重要活動”。

大綱

幼兒時期的教育是造就畢生人格形成中的重要活動，幼稚園教育之根本在於，為實現《學校教育法》第22條所規定之目的，適應幼兒時期的特性，通過環境來進行的一系列活動。

19

第1章 總則 第2 教育課程的編制

繼承了遊玩中實施教育的理念

明確規定幼稚園生活是造就義務教育以及之後教育的基礎。

大綱

幼稚園必須與各家庭相提攜，通過本章第1所示的基於幼稚園教育之根本所開展的幼稚園生活，為達到《學校教育法》第23條所規定的、奠定生存能力之基礎，這一幼稚園教育之目標努力。因此，幼稚園定位為造就義務教育以及之後教育之基礎的教育機構。

20

第1章 總則 第3 完成教育課程所需課時之外所進行的教育活動

【托育】

- 根據所在地區的實際情況與家長的要求，由幼稚園酌情實施
- 托育對象為幼稚園兒童
- 教育活動的一貫性

根據《學校教育法》第22條以及第23條所規定的幼稚園教育之根本實施。

大綱

幼稚園在根據所在地區的實際情況與家長的要求，對申請者實施完成教育課程所需課時之外的教育活動時，必須遵守《學校教育法》第22條、第23條以及本章第1所規定的幼稚園教育之根本進行。

21

幼稚園教育之特質

以“通過環境實施教育”為根本

- 促進幼兒的主體性活動，開展與幼兒時期相適應的生活（幼兒在安定的情緒下，通過充分自我發揮獲得成長發育所需的各種體驗）
- 要把對遊玩的指導作為工作重點，努力綜合實現第2章所規定的目標（“遊玩”對幼兒來說是一種重要的“學習”）
- 要對應每個人的發育特點

※所謂環境不單指物質環境，還是指包括教師、其他幼兒在內的幼兒周身一切環境。

22

5 範圍

健康：造就強健的體魄和心靈，培養獨立健康安全生活的能力。

人際關係：在親近他人、相幫互助的生活中，培養自立心和與人交往的能力。

環境：以好奇心和探究心接觸周圍環境，培養將其納入自己生活的能力。

語言：培養用自己的話講述經歷與思維的能力、並在能擁有聽取他人講話的意欲和態度之中，提高語言感覺與表達能力。

表達：通過用自己的話表達感受與思想，培養豐富的感性和表達能力，並同時豐富創造能力。

23

兒童發育與五大範圍(示意圖)

培育生存能力的基礎

※從成長發育角度分五大範圍。幼兒在與環境的接觸中，通過具體的活動得到綜合性指導。

24

幼兒的主體性與教師意圖

“幼兒的主體性”和
“教師意圖”
要均衡考慮

↓

成長發育所需的體驗

25

幼稚園教育和小學教育的不同

幼稚園
保育教育
方向目標
個人內在評價

小學校
教科教育
實現目標
絕對評價

26

第2章 範圍“健康”

【充實與飲食相關的活動】

內容 ● 享受與老師和朋友共餐之快樂

細則 ● 通過下述活動，培養幼兒積極進食的心情

- 體驗在和睦的氣氛中與教師和其他幼兒共餐的快樂
- 對各種食物產生興趣和關心
- 開展飲食相關活動時，需要考慮幼兒飲食生活的實際情況

對食物產生親近感、有興趣和關心，由此，產生嘗嘗的欲望

例：在家庭中的飲食生活，食物過敏等

27

第2章 範圍“環境”

接觸其他幼兒的思想，體味產生新思維的興奮與快樂。

↓

培養獨立思考的意識

※“注重獨立思考的過程”也是修改前大綱的重點

大綱

細則(1) 幼兒在遊玩中接觸周圍環境，逐漸對其產生好奇，同時對其意義及操作方法產生興趣，理解事物運動的規則，確立獨立思考的過程。**尤其不能忽視的是，幼兒在接觸其他幼兒的思想之過程中，體味創造新思維的愉悅與快樂，從而產生進行獨立思考的心情。**

28

第2章 範圍“語言”

【用語言相互交流】

相互交流中必須的兩個要素

- 把自己的想法用語言表達出來
- 對對方的表述感興趣、集中精力聽，逐漸理解

※“體味使用語言交流的快樂”也是修改前大綱之內容

大綱

細則(2) 幼兒能夠用語言傳達自己思想，同時對教師或其他幼兒的表述產生興趣、聚精會神地聽並逐漸理解。

29

第2章 範圍“表達”

【注重表達過程使幼兒享受表現自我的快樂】

- 準備好玩具和用具等 (與修改前大綱相同)
- 注意能與其他幼兒表達的結合

新大綱的新規定
與其他幼兒共同實施表達活動、觀摩其他幼兒的表達、接受啟發，使自己的表達更加豐富

大綱

細則(3) 根據生活經驗和發育情況，幼兒會主動享受各種表達帶來的樂趣，為使幼兒充分發揮表達意欲，**準備好玩具和用具，並注意與其他幼兒的表達相結合，注重表達過程，使幼兒充分享受表現自我的樂趣。**

30

第2章 範圍“人際關係”

(大綱修改前)	(新大綱)
積極與身邊的人 有接觸	親近身邊的人 加深接觸

大綱

目標 (2) **親近身邊的人，與之加深接觸，產生愛心和信任感。**

(修改前) 積極與身邊人接觸，產生愛心和信任感。

31

第2章 範圍“人際關係”

【積累共同努力的經驗】

內容 ● 在與朋友快樂地活動中發現共同目的
● 與朋友一起琢磨、共同努力

細則 ● 培養獨立行動的能力
● 與朋友一起反復嘗試失敗，體驗開展活動的快樂
● 幼兒體味實現共同目標後的喜悅

在與朋友遊戲之中發現共同的目的

共同努力
糾紛、妥協、分擔任務等

32

第3章第1 1 一般性注意事項

【體驗的多樣性與相關性】

● 做多彩多樣的體驗

● 注重每個體驗的相互關聯

並非數量上的體驗，而是質量上多彩的體驗

打動心靈的體驗會在幼兒自我之中定位，一個體驗會引發之後的體驗。譬如：
• 成為下一次的動機
• 在經過一定時期后的新活動中重新萌發等

大綱

(4) **幼兒通過與各種人和物的接觸，經歷多樣化的體驗，會達到促進身心協調和的發育成長。其中，打動心靈的體驗會催生下次活動，每一個體驗相互關聯，使幼稚園生活更加充實。**

33

第3章第1 1 一般性注意事項

與家庭合作時，通過以下兩點，會更加加深家長對幼兒教育的理解

- 與家長交換信息的機會
- 參加保育等

幼稚園教育
幼兒教育的條理
與幼兒交流的方法等

大綱

(8) **幼兒的生活，是以家庭為基礎，通過地區社會逐漸擴大的，所以要留意與家庭的攜手合作，幼稚園的生活在保持了與家庭和地區社會之間的連續性的同時得以展開。因此，要積極靈活地利用地區的自然、人才、聚會和公共設施等各種資源，使幼兒得到豐富多彩的生活體驗。另外，與家庭合作時，一方面要注意給與家長們交換信息的機會，另一方面給與家長和幼兒一起活動的機會，通過這些努力，加深家長對幼兒期教育的認識。**

34

第3章第1 2 特別注意事項

【特殊支援教育的充實】

靈活運用特別支援學校等的建議或援助，設法制定與各幼兒的障礙狀況等相應的指導內容和指導方法的計劃，並且要有組織的進行。

例如：
• 個別制定與指導有關的計劃

個別的指導計劃

• 與實施家庭、醫療、福祉等業務關係的機關合作，個別制定支援計劃。

個別的教育支援計劃

大綱

(2) **對有障礙幼兒進行指導時，要充分考慮通過集體生活促進其全面發展。一方靈活運用特別支援學校等的建議或援助，例如單獨制定與指導有關的計劃，或者單獨實施與家庭、醫療、福祉等業務有關機關的合作。通過這些方法，設法制定與各幼兒的障礙狀況等相應的指導內容和指導方法的計劃，並且要有組織的進行。**

35

第3章第1 2 特別注意事項

【幼稚園教育與小學校教育要達到圓滿的交接】

(修改前大綱)

要充分考慮到幼稚園教育是形成小學校以後兒童的生活和學習基礎的重要時期。兒童們通過適當的幼兒時期生活，為造就創造性思維與積極主動的生活態度打下良好的基礎。

(新大綱)

除了上述內容以外新加了，**幼稚園與小學校攜手合作的規定**

活動凡例

- 幼兒與兒童的交流
- 教師之間互相交換意見，共同召開研究會

加深對幼兒與兒童的實際狀況、指導內容、指導方法等有關方面的互相理解等

大綱

(5) **為達到幼稚園教育與小學校教育之間圓滿的交接，要有計劃地增加幼兒和兒童交流的機會，同時還要增加小學校和幼稚園的教師之間互相交換意見和召開共同研究的機會等，這樣攜手合作才能得以順利進行。**

36

新旧:第3章制定指導計劃時的留意事項

- ◆ 舊(1998年頒佈)
 - ◆ (8)要充分考慮到幼稚園教育是形成小學校以後兒童的生活和學習基礎的重要時期。兒童通過適當的幼兒期生活,會為造就創造性思維和積極主動的生活態度打下良好的基礎。
- ◆ 新(2008年頒佈)
 - ◆ (5)為達到稚園教育與小學校教育之間圓滿的交接,要有計劃地增加幼兒和兒童交流的機會,同時還要增加小學校和幼稚園的教師之間互相交換意見和召開共同研究的機會等,這樣才能使合作得以順利進行。

37

小學校學習指導要領中對有關與幼稚園教育相整合的規定

在教授科目中有關國語,音樂,圖畫手工的指導計劃制定和講授內容中,首次增添了與幼稚園教育有關的內容。

例:國語

- ◆ (6)在低學年,學習內容要設法積極與生活科等相關聯,以期提高指導效果。特別是在第一學年裏,要充分考慮與幼稚園教育有關的語言內容。(通過音樂,圖畫手工表現出來)

38

保育指針、教育要領的特徵與課題

- | | |
|---------|---------|
| 保育所保育指針 | 幼稚園教育要領 |
| 布告化 | 規定順序的變更 |
| 最低基準 | 最高水準 |
| 大綱化 | 規範意識的萌芽 |
| 育兒支援 | 體驗和表達 |
- ◆ 互相以提高保育的質量為目標..?
 - ◆ 會不會形成雙標準?
 - ◆ 引起過度競爭?
 - ◆ 大綱內容有抵觸(綜合性和分範圍)

39



改定保育所保育指針について

秋田喜代美
(東京大学)

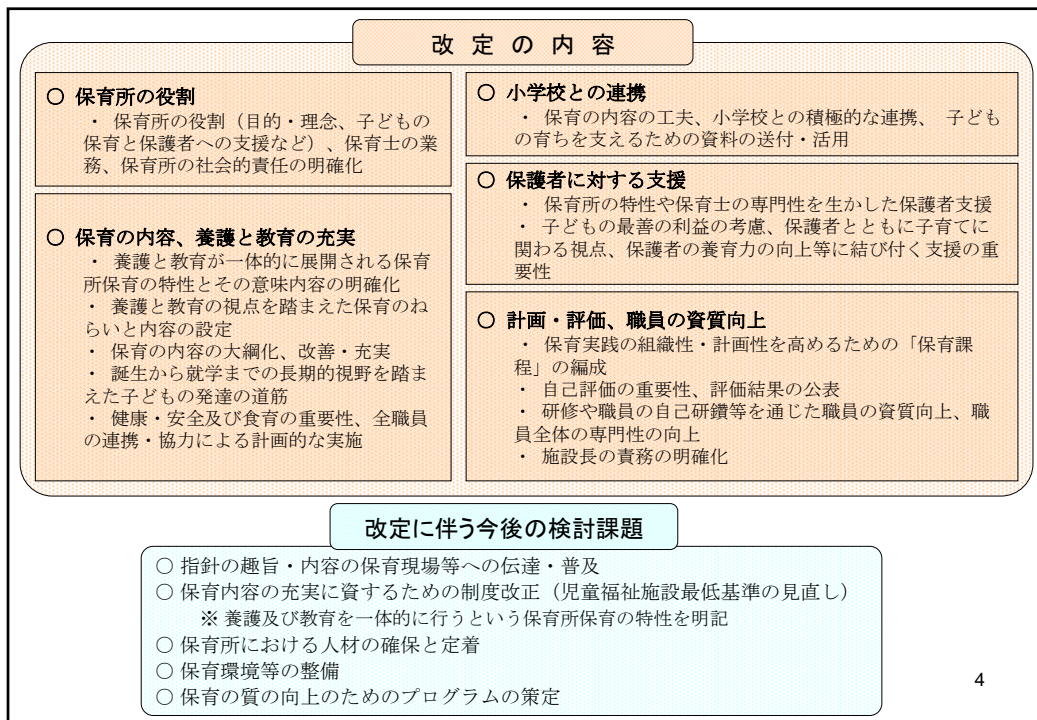
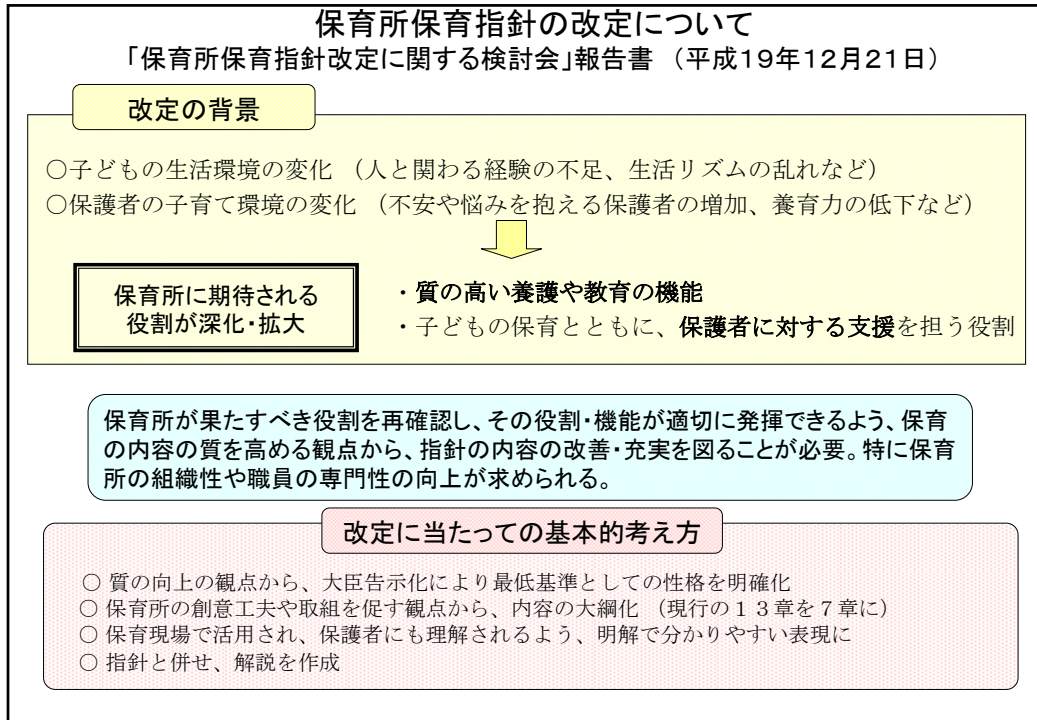
2008.12.05 臺北市立教育大學

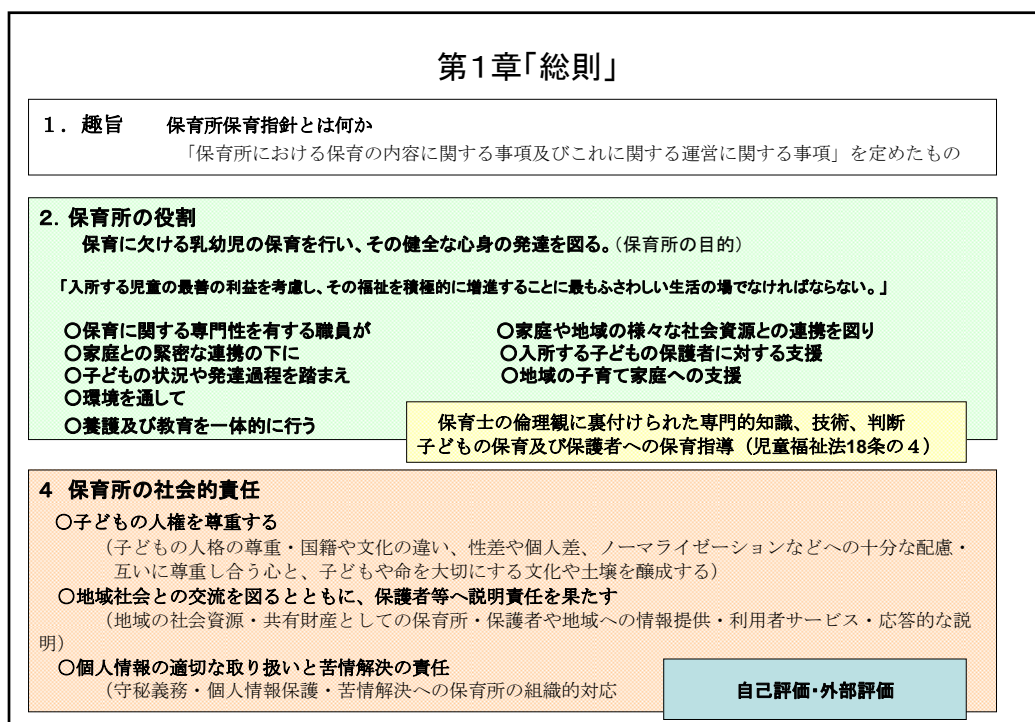
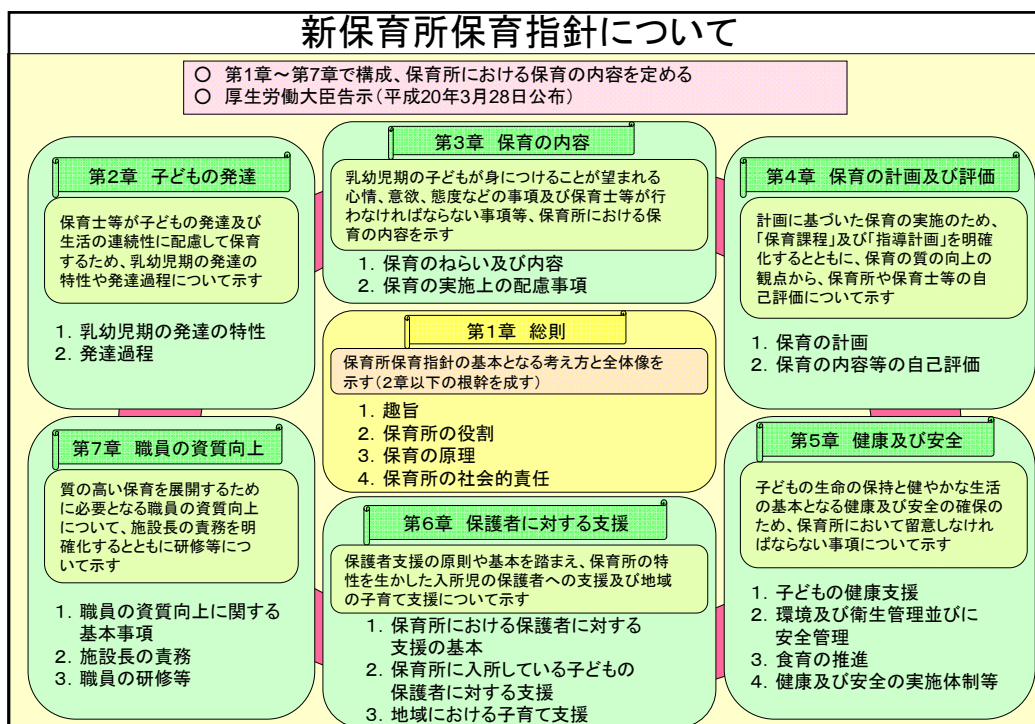
1

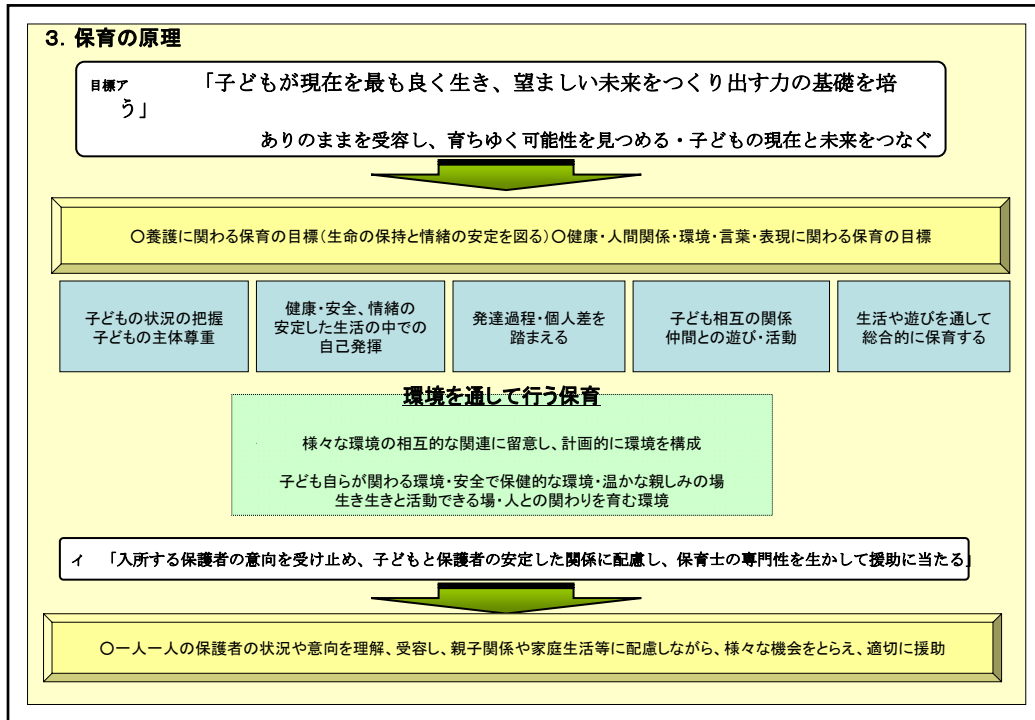
おもな改訂点

- 1 規範性の明確化
これまでは局長通知。今回は大臣による告示となり遵守すべき法律となった。
- 2 指針の大綱化と原則性・明快性
文言を精査し、基本的なものに限定。保育所の創意工夫を促す。
- 3 保育所保育の構造化を図る
内容の構造化、保育課程にもとづく計画と実践・評価のシステムの形成

2







第2章「子どもの発達」

子どもの発達の特性や発達過程を理解し、発達及び生活の連続性に配慮して保育する。

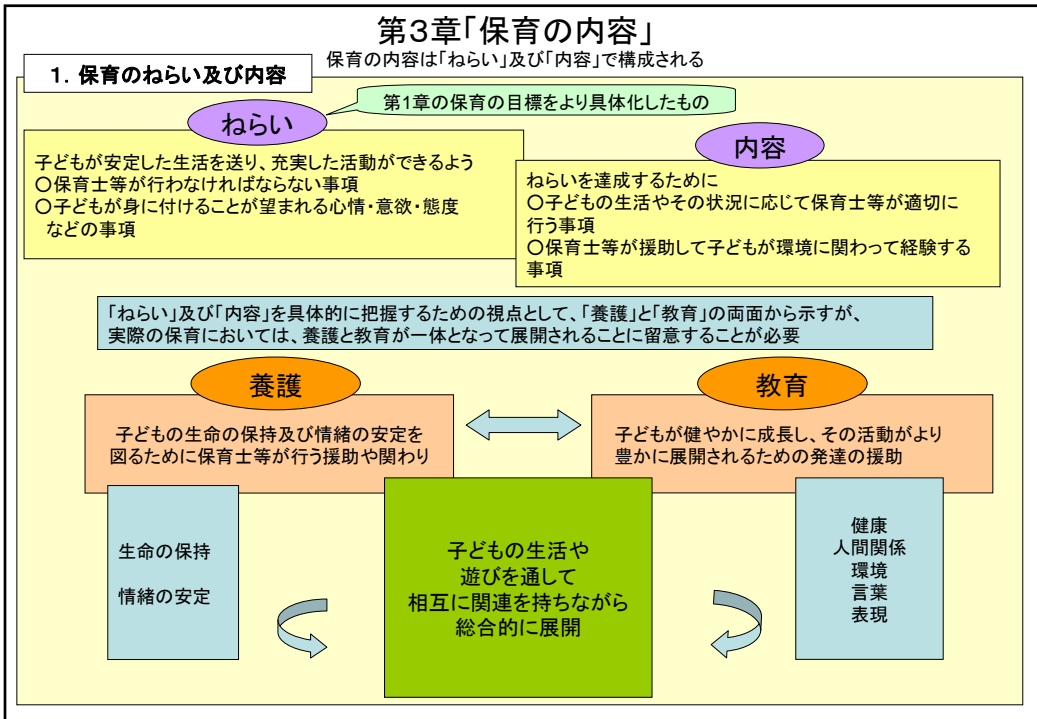
○子どもの発達は環境との相互作用を通して、豊かな心情・意欲・態度を身に付け、新たな能力を獲得していく過程である。

○特に人との相互的な関わりを深める中で、人への信頼感と自己の主体性を形成していく。

1. 乳幼児期の発達の特性

- (1)大人によって生命を守られ、愛され、信頼されることにより、情緒が安定し、人への信頼感が育つ。
身近な環境に興味や関心を持ち、自発的に働きかけるなど、自我が芽生える。
- (2)環境に主体的に関わることにより、心身の発達が促される。
- (3)大人との信頼関係を基に子ども同士の関係を持つ。
子ども相互の関わりを通じて身体的な発達、知的な発達とともに、情緒的、社会的及び道徳的な発達が促される。
- (4)生理的、身体的な諸条件や、生育環境の違いにより、心身の発達の個人差が大きい。
- (5)遊びを通して、仲間との関係を育み、その中で個の成長も促される。
- (6)生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性、好奇心、探求心、思考力が養われる。
また、それらがその後の生活や学びの基礎になる。

2. 発達過程	
一人一人の子どもの発達過程をおおむね8つの区分としてとらえる。 子どもがたどる発達の道筋を理解し、一人一人の子どもの状態を把握しながら、その発達を援助する。	
(1) おおむね6か月未満 ○心身の未熟性 ○着しい身体的成長と感覚の発達 ○首がすわる・寝返り・腹ばい ○表情の変化、体の動き、なん語などによる表現 ○応答的な関わりによる情緒的な絆の形成	(2) おおむね6か月から1歳3か月未満 ○座る、はう、立つ、つたい歩き、手を使う等、運動機能の発達により探索活動が活発になる ○大人との関わりが深まり、やりとりがさかんにになる ○愛着と人見知り ○離乳食から徐々に幼児食への移行
(3) おおむね1歳3か月から2歳未満 ○歩行の開始と言葉の習得 ○様々な運動機能の発達による行動範囲の拡大 ○見立てなど象徴機能の発達 ○周囲への関心や大人との関わりの意欲の高まり	(4) おおむね2歳 ○基本的な運動機能の伸長や指先の機能の発達 ○食事・衣類の着脱・排泄など、自分でしようとする ○語いの増加・自己主張の高まり・自我の育ち ○模倣やごっこ遊びを楽しむ
(5) おおむね3歳 ○基本的生活習慣の形成 ○話し言葉の基礎の形成、知的興味・関心の高まり ○友達との関わりが増えるが平行遊びも多い ○予想や意図、期待を持った行動	(6) おおむね4歳 ○全身のバランス力、体の動きが巧みになる ○自然など身近な環境への関わり方や遊び方を体得 ○自意識の高まりと葛藤の経験、けんかが増える ○創造力、感情が豊かになり少しずつ自分を抑えられるようになる
(7) おおむね5歳 ○基本的生活習慣の確立 ○運動遊びをしたり、全身を動かして活発に遊ぶ ○仲間とともに遊ぶ中で規範意識や社会性を体得 ○判断力・認識力の高まりと自主性・自律性の形成	(8) おおむね6歳 ○滑らかで巧みな全身運動、意欲旺盛で快活 ○仲間の意思の尊重、役割分担や共同遊びの展開 ○経験や知識を生かし、創意工夫を重ねる ○思考力や認識力の高まり、自然・社会事象などへの興味・関心の深まり、自立心の高まり

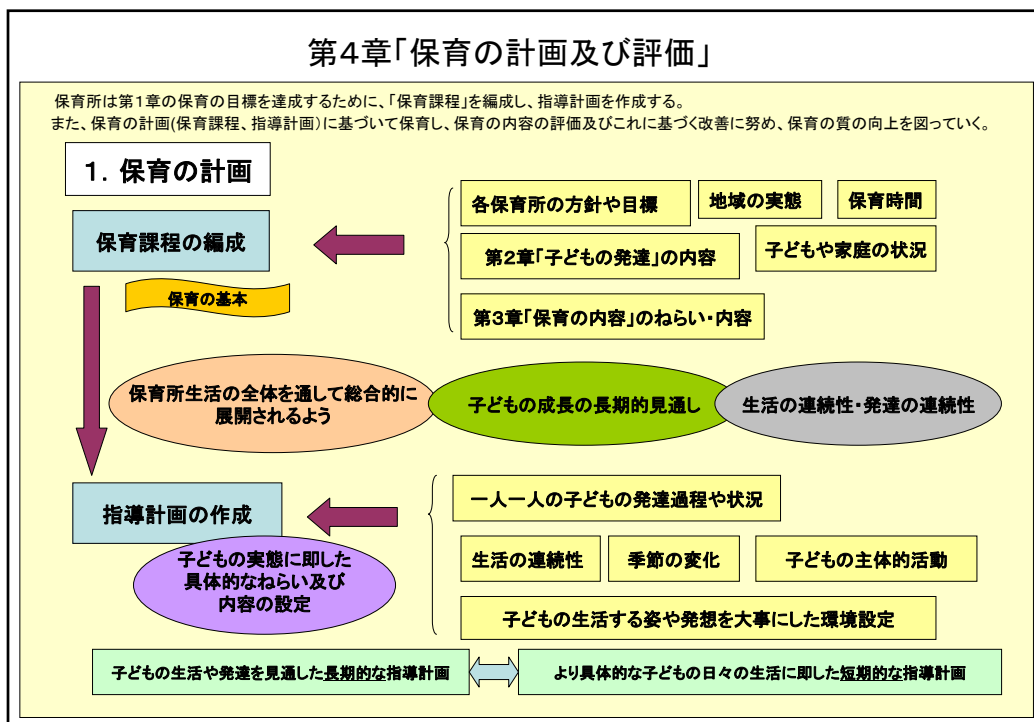


(1) 養護に関わるねらい及び内容	
生命の保持	
<p>ねらい 一人一人の子どもが、</p> <p>① 快適に生活できるようにする ② 健康で安全に過ごせるようにする</p> <p>一人一人の子ども</p> <p>③ 生理的欲求が十分に満たされるようにする ④ 健康増進が積極的に図られるようにする</p>	<p>内容 (要旨)</p> <p>① 平常の健康状態や発育・発達状態の把握、速やかに適切に対応する ② 保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。 ③ 子どもの生理的欲求を満たし、適切な生活リズムをつくる ④ 適度な運動と休息、意欲的に生活できるよう援助する</p>
情緒の安定	
<p>ねらい (要旨) 一人一人の子どもが、</p> <p>① 安定感をもって過ごせるようにする ② 自分の気持ちを安心して表わすことができるようにする ③ 自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする</p> <p>一人一人の子ども</p> <p>④ 心身の疲れが癒されるようにする</p>	<p>内容 (要旨)</p> <p>① 子どもの欲求を満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う ② 子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく ③ 自発性、探索意識、自分への自信が持てるよう、成長の過程を見守り、適切に働きかける ④ 活動内容のバランスや調和を図り、適切な食事や休息がとれるようにする。</p>

(2) 教育に関わるねらい及び内容		
健康	<p>健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う</p> <p>ねらい ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p>	①～⑨まで 9つの内容
人間関係	<p>他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う</p> <p>ねらい ① 保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう ② 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ。 ③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける</p>	①～⑭まで 14の内容
環境	<p>周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う</p> <p>ねらい ① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ ② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする ③ 身近な物を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする</p>	①～⑩まで 12の内容
言葉	<p>経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う</p> <p>ねらい ① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう ② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう ③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、保育士や友達と心を通わせる。</p>	①～⑰まで 12の内容
表現	<p>感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造力を豊かにする</p> <p>ねらい ① いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ ③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ</p>	①～⑨まで 10の内容

2. 保育の実施上の配慮事項 保育士等は、一人一人の子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、ねらいや内容を柔軟に扱うとともに、特に次の事項に配慮して保育しなければならない。

<p>(1) 全般的な配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人差を踏まえ、一人一人の気持ちを受け止め援助する ○心身の健康への配慮 ○子どもの自己活動の尊重 ○入所時の保育への配慮 ○国籍や文化の違いへの配慮と尊重 ○性差や個人差への留意・固定的な意識を植え付けない 	<p>(4) 3歳以上児の保育に関わる配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な態度や習慣を身に付けることの大切さを理解し、適切な行動を選択できるよう配慮 ○自己を十分に発揮して活動することを通して、やり遂げる喜びや自信を持つことができるよう配慮 ○戸外などで全身を動かして意欲的に活動することにより体の諸機能の発達が促されることに留意 ○けんかなど葛藤を経験しながら、次第に相手の気持ちを理解し、相互に必要な存在であることを実感できるよう配慮 ○生活や遊びを通して決まりがあることの大切さに気づき、自ら判断して行動できるよう配慮 ○自然との触れ合いにより感性、認識力、思考力、表現力が培われることを踏まえ、自然との関わりを深めることができるよう工夫する ○自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、子どもの話しかけに応じるよう心がける。仲間と伝えあったり、話し合うことの楽しさが味わえるようにする ○様々な方法で創意工夫をこらして、自由に表現できるように、必要な素材や用具、環境の設定に留意 ○保育所の保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに留意し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにする
<p>(2) 乳児保育に関わる配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心身の未熟さへの配慮・適切な判断と保健的対応を行う ○生育歴の違いに留意・特定の保育士が応答に関わる ○職員間の連携・嘱託医との連携、専門性を生かした対応 ○保護者との信頼関係・保護者への支援に努める ○担当保育士が変わる際の連携・協力 	
<p>(3) 3歳未満児の保育に関わる配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染症の予防・適切な判断と対応 ○基本的な生活習慣の形成への配慮と自発性の尊重 ○十分な探索活動の保障・全身を使う様々な遊びを取り入れる ○自我の育ちの見守り・保育士が仲立ちとなって友達の気持ちや関わり方を丁寧に伝えていく ○情緒の安定を図りながら、自発的な活動を促していく ○担当保育士が変わる際の連携・協力 	



指導計画の作成上、特に留意すべき事項

発達過程に応じた保育

- 生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して個別的な計画を作成(3歳未満児)
- 個の成長と子ども相互の関係や協同的な活動が促されるよう配慮(3歳以上児)
- 生活や経験、発達過程などの把握・適切な援助や環境構成に配慮(異年齢保育)

長時間にわたる保育

- 発達過程・生活リズム、心身の状態に十分配慮
- 保育の内容や方法、職員体制、家庭との連携を指導計画に位置付ける

障害のある子どもの保育

- 一人一人の発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付ける
- 個別の支援計画を作成するなど適切な対応を図る
- 柔軟に保育したり、個別の関わりが十分行えるようにする
- 家庭との連携・保護者との相互理解
- 専門機関との連携

小学校との連携

- 保育所の子どもと小学校の児童との交流・職員同士の交流・情報共有や相互理解等、小学校との積極的な連携を図るよう配慮
- 就学に際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料を保育所から小学校へ送付

家庭及び地域社会との連携

- 家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、人材、行事、施設等の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験・保育内容の充実が図られるよう配慮

2. 保育の内容等の自己評価

保育士等の自己評価

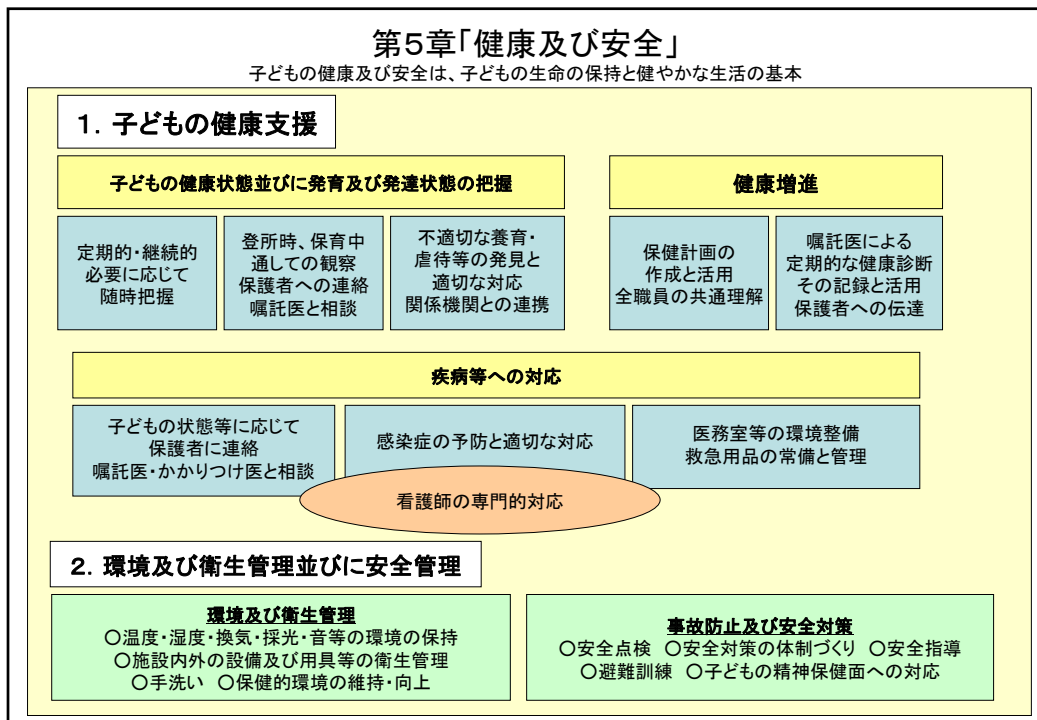
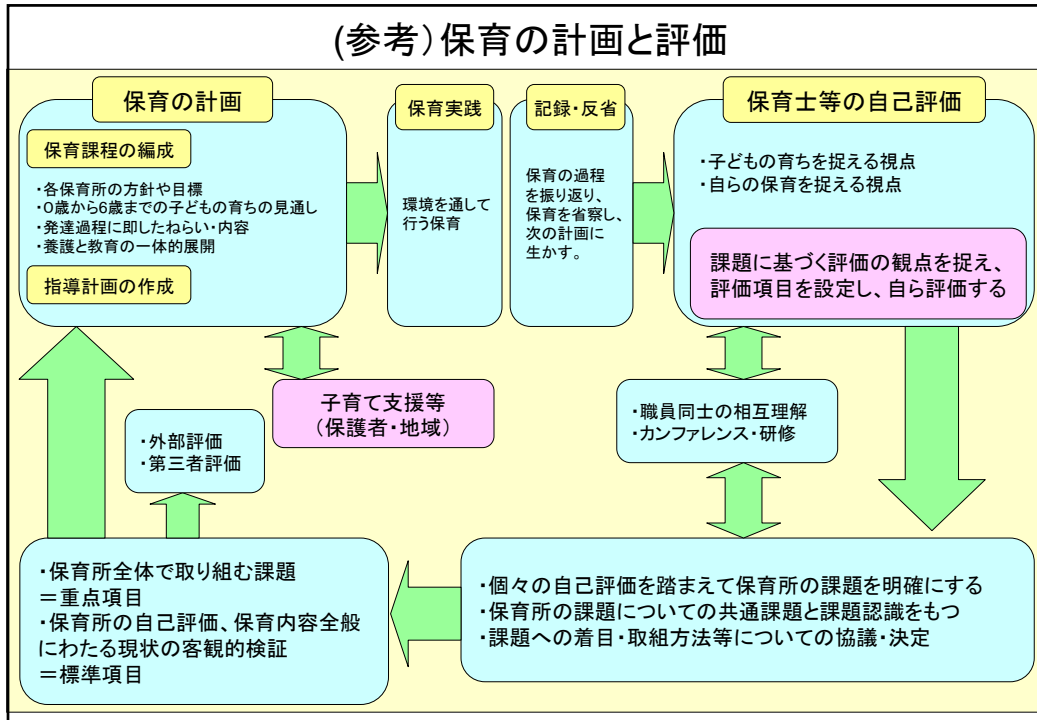
- 保育の計画や記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない

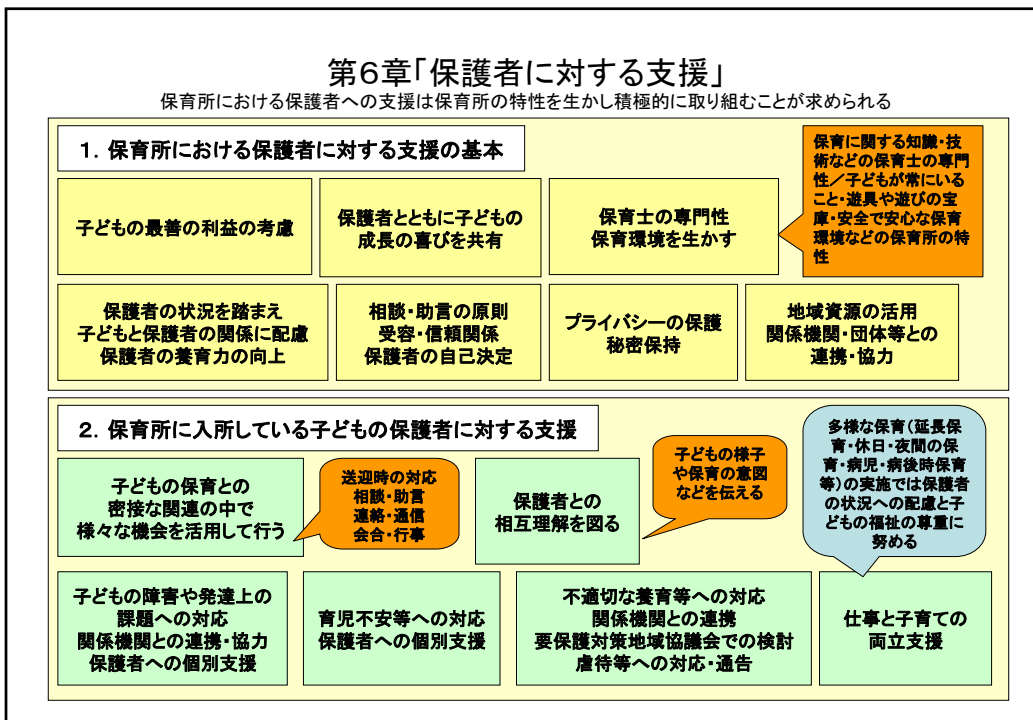
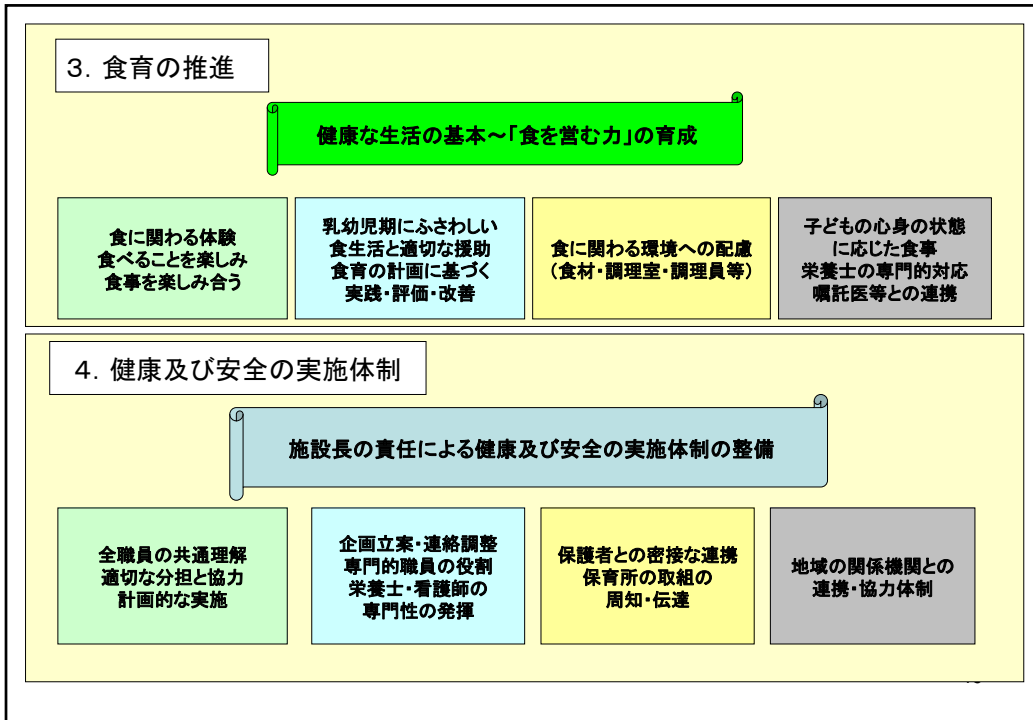
- 子どもの心の育ちや意欲・取り組む過程などへの配慮
- 保育の専門性・質の向上のための課題の明確化
- 保育所全体の保育の内容に関する認識を深める

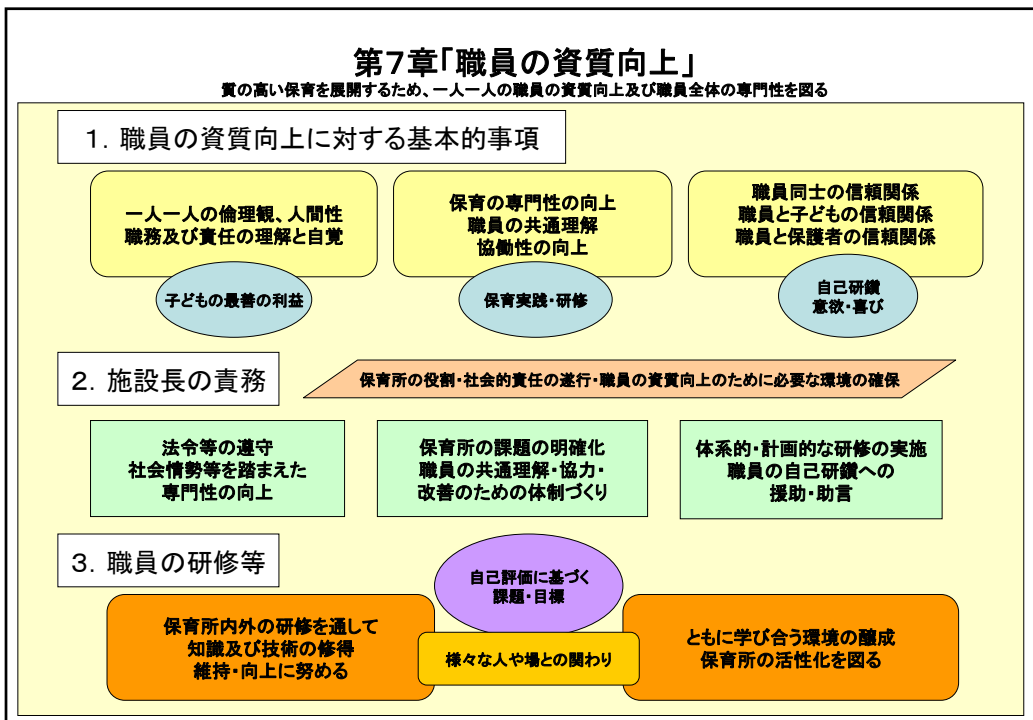
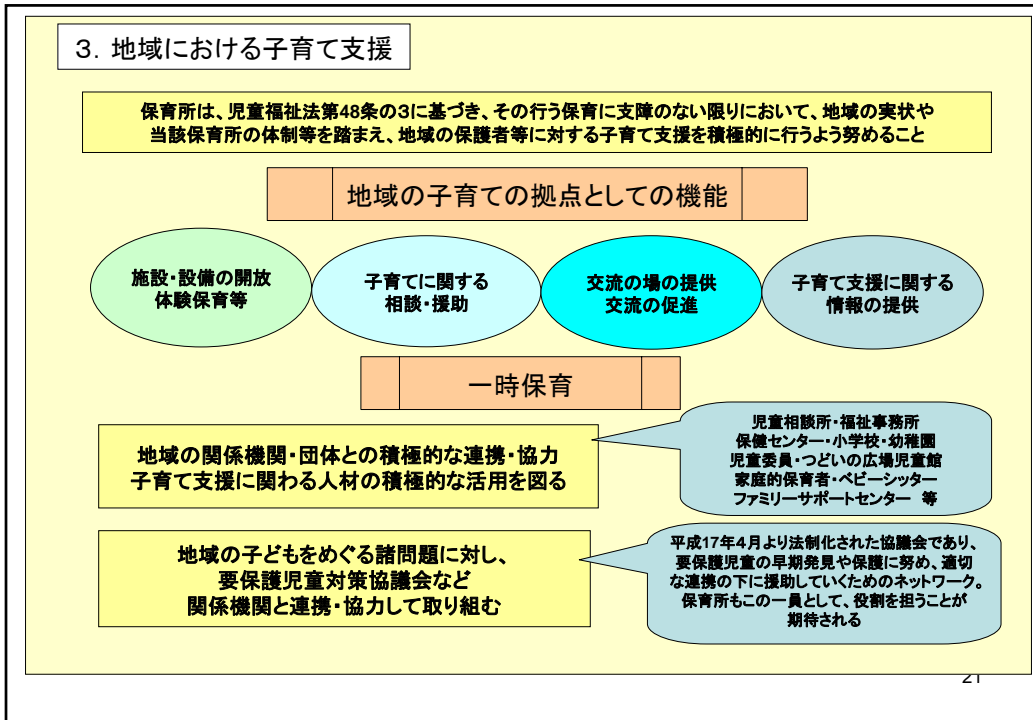
保育所の自己評価

- 保育課程及び指導計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、自ら評価を行いその結果を公表するよう努めなければならない

- 地域の実状や保育所の実態に即して、適切に評価の観点や項目等を設定し、全職員による共通理解をもって取り組むとともに、評価の結果を踏まえ、保育の内容の改善を図ること
- 保護者及び地域住民の意見を聞くことが望ましいこと







保育所における保育の質の向上のための アクションプログラムについて

経緯及び趣旨

保育所における質の向上を図るため、国（厚生労働省）が取り組む施策及び地方公共団体（都道府県及び市町村）が取り組むことが望まれる施策に関する総合的なアクションプログラムを策定し、保育所保育指針改定（平成20年3月告示）に併せて通知。

各地方公共団体においても保育所における質の向上のためのアクションプログラムを策定することを奨励。
（次世代育成支援対策推進法に基づく都道府県行動計画及び市町村行動計画と一体的に策定することも可）

実施期間

平成20年度から平成25年度までの5年間

アクションプログラムの概要

- （1）保育実践の改善・向上
自己評価、保育実践に関する調査研究の推進、情報技術を活用した業務効率化など
- （2）子どもの健康及び安全の確保
保健・衛生面の対応の明確化、看護師等の専門的職員の確保の推進、嘱託医の役割の明確化、特別の支援を要する子どもの保育の充実など
- （3）保育士等の資質・専門性の向上
保育所内外の研修の充実、施設長の役割強化、保育士資格・養成の在り方の見直し
- （4）保育を支える基盤の強化
評価の充実、保育に関する研究成果等のデータベース化及び活用、専門的な人材や地域の多様な人材の活用、保育環境の改善・充実のための財源確保



日本保育所指針修訂的要點

秋田喜代美
(東京大学)

2008.12.05 台北市立教育大學

1

主要的修訂點

1. 規範性得以明確化
迄今為止通知下達到局長級。此次修訂由大臣頒佈告示，升格為應該遵守的法律條文。
2. 指針的綱要化與原則性、明快性
詳查文言措辭，突出根本所在。促進保育所靈活創意，努力鑽研。
3. 謀求保育所保育的構造化
內容加以構造化，以保育課程為基礎，制定保育計劃，建立實踐、評價體系。

2

有關保育所保育指針的修訂

「有關保育所保育指針修訂的研討會」之報告書（2007年12月21日）

修訂的背景

- 兒童生活環境的變化（與他人交流的經驗不足，生活規律紊亂等）
- 家長育兒環境的變化（對育兒感到不安或煩惱的家長在增多，養育能力降低等）



對保育所職責的期待 日益深化、擴大

- 具備高質量的養護和教育機能
- 具備對兒童進行保育的同時，對家長進行支援的機能

有必要重新確認保育所的職責和機能，從適當發揮其職責和機能，提高保育內容質量的觀點來改善和充實指針的內容。特別是要求提高保育所的組織性和職員的專門性。

指針修訂的基本設想

- 從提高質量的觀點出發，明確大臣告示規定的最低基準的特點
- 從督促保育所的創意和努力工作的觀點出發，將內容綱要化（將現行指針13章改為7章）
- 修訂時注意使用明瞭易懂的措辭，使指針在保育現場被有效利用，而且也易於被家長們理解
- 對照指針製作講解

修訂的內容

○ 保育所的職責

- 保育所的職責（目的、理念，對兒童進行保育，對家長進行支援等），明確保育人員的業務內容和保育所具備的社會責任

○ 充實保育內容為養護和教育

- 明確養護與教育為一體，保持保育所的保育特點，意義和內容
- 基於養護和教育的視點來制定保育的目標和內容
- 改善和充實保育內容，使之簡明扼要。
- 拓寬視野，長期觀察兒童的發展情況，從誕生到入小學為止都列入觀察對象。
- 認識到健康、安全及食育的重要性，全體職員齊心協力，共同為實現保育目標努力。

○ 與小學校聯手合作

- 積極創新保育內容，主動與小學校進行合作，發送支援兒童發育的資料，並對其有效利用

○ 對家長進行支援

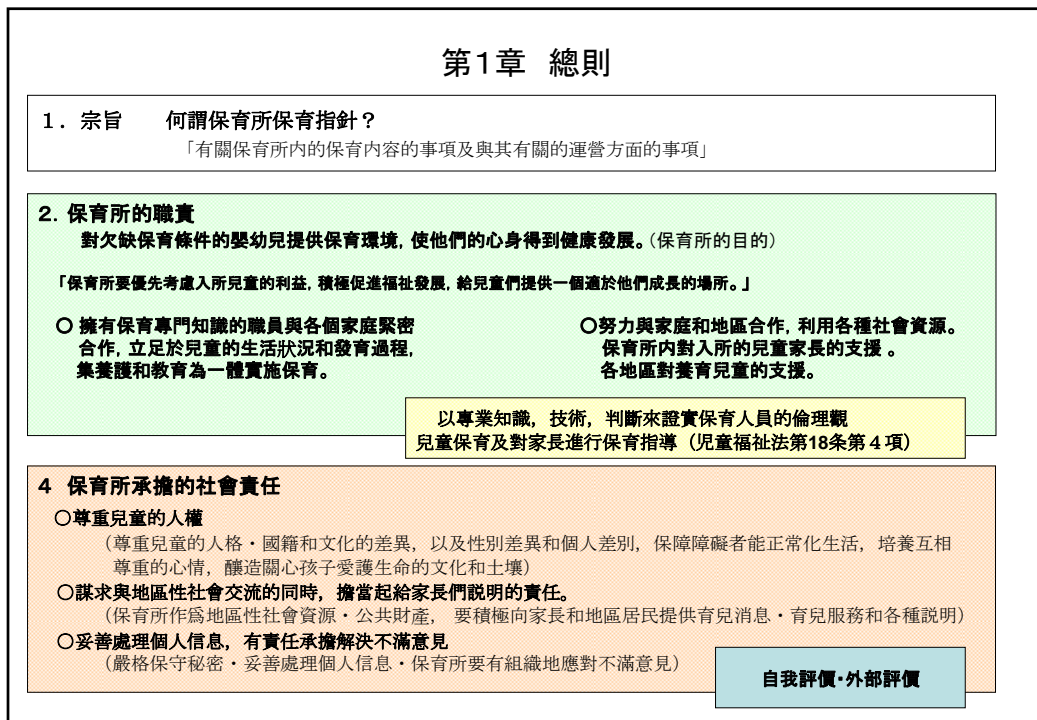
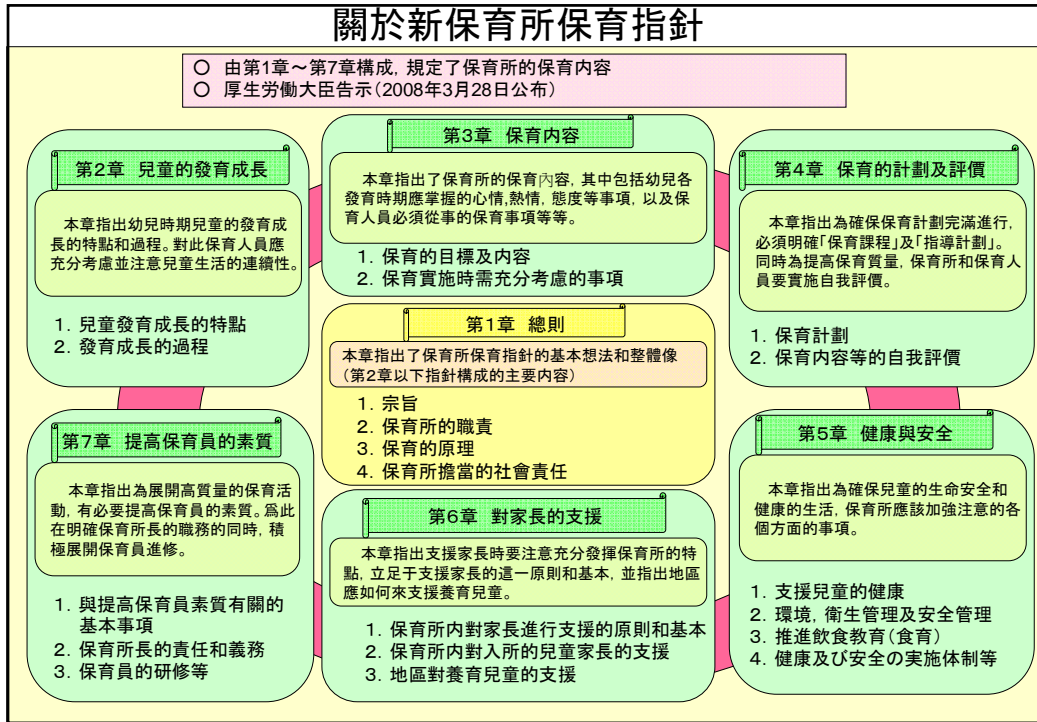
- 為更好地支援家長，要充分發揮保育所的特點和保育人員的專門性
- 為保證兒童的利益高於一切，要從與家長共同從事兒童保育的觀點，來提高他們的養育能力，達到支援的目的

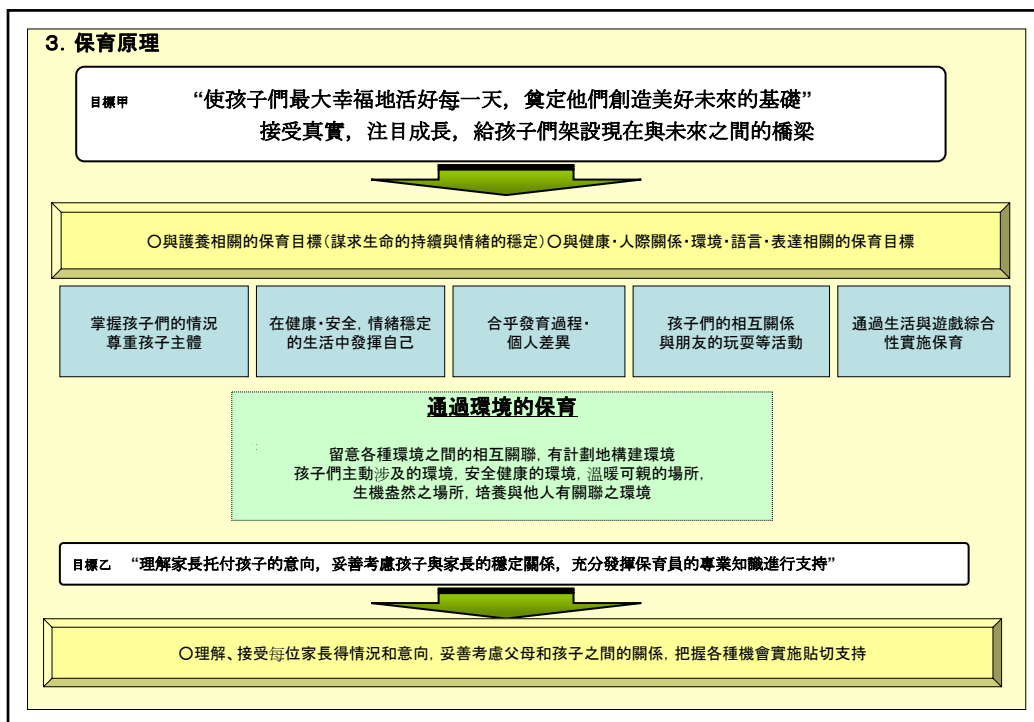
○ 計劃·評價，提高職員的素質

- 編制「保育課程」以達到提高保育實踐的組織性、計劃性
- 認識自我評價的重要性，公佈評價結果
- 通過研修，職員的自我鑽研等來提高職員的素質和專門性
- 明確設施領導者的責任和義務

指針修訂帶來的新課題

- 如何及時把新指針的宗旨·內容往保育現場傳達和普及
- 為使保育內容充實，就必須修改現行制度（重新制定兒童福祉設施最低基準）
 - ※ 明確記載養護和教育一體化進行的保育所的保育特點
- 確保保育所的人才和穩定
- 整備保育環境等
- 制定以提高保育質量為目的的進程表





第2章 兒童發育

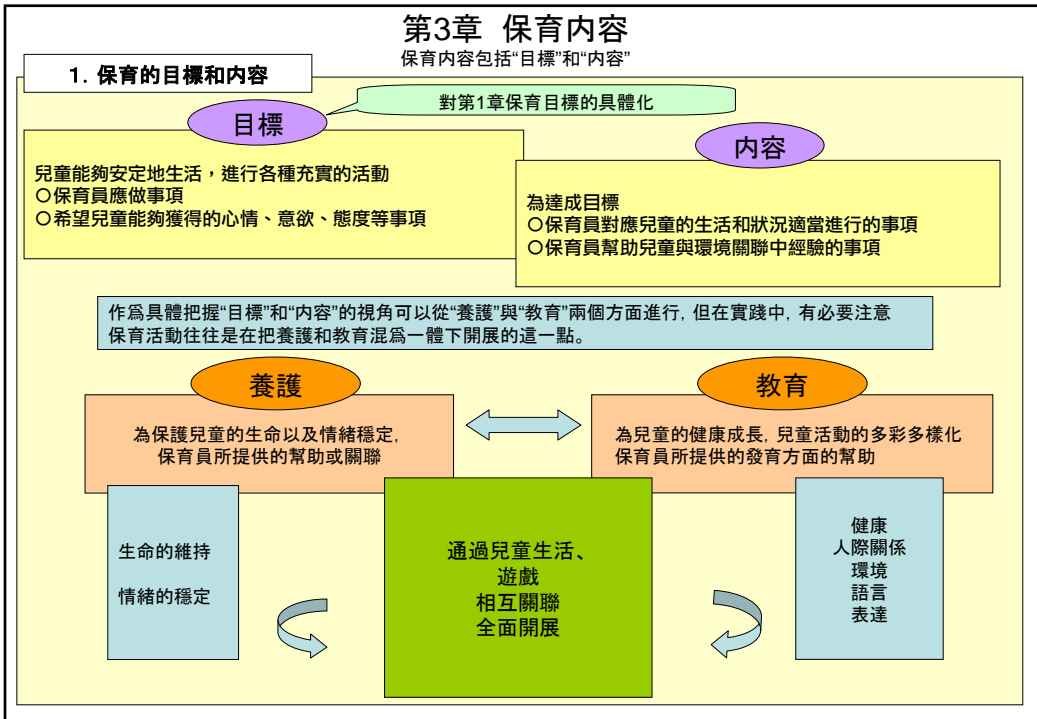
理解兒童發育的特性與發育過程, 妥善考慮發育以及生活之間的連續性實施保育行為。

- 兒童發育是指通過與環境的相互作用, 培養寬大的心懷、高漲的熱情及態度, 獲取新能力之過程。
- 尤其在加深與他人的相互關係中, 形成對他人的信任感和自己的主體感。

1. 哺乳期幼兒的發育特徵

- (1) 在大人的保護、關愛、信任下, 情緒達到穩定狀態, 對他人的信任感開始成長。
對身邊環境產生興趣與關心, 同時自發地與之關聯, 萌發自我認識。
- (2) 對環境進行主體性地關聯, 身心發育得到促進。
- (3) 以和大人之間的信賴關係為基礎, 兒童之間開始擁有關聯。
兒童通過相互關聯不但會促使身體、智能的發育, 精神、社會乃至道德等方面的發育也受到促進。
- (4) 因生理、身體等多方面條件以及生長環境的不同, 兒童身心發育會顯現較大的個人差距。
- (5) 通過遊戲活動, 培養與朋友之間的關係, 個人成長得到促進。
- (6) 是培養一生生存能力的基礎時期, 尤其是通過對多種身體體驗的積累, 培養豐富的感性、好奇心、探索心以及思考能力。
同時, 這些將成為之後生活和學習的基礎。

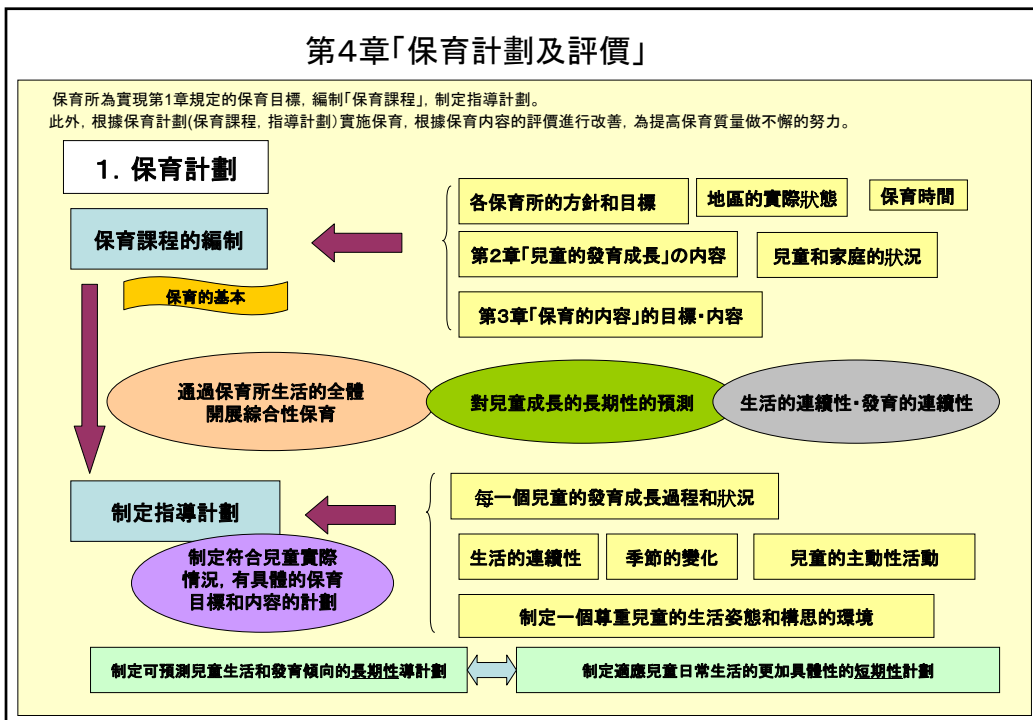
2. 發育過程	
<p>對每個兒童的發育過程大體可分八個階段來把握。 理解兒童的發育過程，掌握每個兒童的具體情況，幫助兒童進行發育成長。</p>	
<p>(1)六個月以下的幼兒</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身心稚嫩 ○顯著的身體成長和感覺發育 ○頭頸安定、翻身、趴 ○表情的變化，身體的運動，咿呀學語 ○通過應答式的關聯形成精神上的聯結 	<p>(2)六個月至一歲三個月左右</p> <ul style="list-style-type: none"> ○坐、爬、站、扶物走動、動手等運動 ○身體機能的發育，各種探索活動活躍 ○與大人的關係加深，互動增多 ○留戀、認生 ○從斷奶食品逐漸向幼兒食品過渡
<p>(3)一歲三個月至兩歲左右</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開始學步、學說話 ○因各種運動機能發育行動範圍擴大 ○判斷等象徵機能發育 ○對周圍的興趣和與大人的關聯意欲大增 	<p>(4)兩歲左右</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本運動機能增強、手指機能發育 ○努力自己進食、穿脫衣服、排泄等行為 ○詞彙增加·自我主張增強·自我意識成長 ○模仿、捉迷藏
<p>(5)三歲左右</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本生活習慣的養成 ○口語基礎的形成，對知識的興趣和關心增強 ○與朋友的關聯增多，但往往個玩個的 ○有預期或有意圖、期待的行為 	<p>(6)四歲左右</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全身的平衡能力，身體運動靈巧 ○知道對自然界和周身環境的關聯以及遊戲方法 ○自我意識的提高以及糾葛經驗、吵架增多 ○創造力、情感變得豐富，逐漸會自我控制
<p>(7)五歲左右</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣確立 ○運動遊戲，使用整個身體活潑地玩耍 ○在和朋友的玩耍中，領會規範意識和社會性 ○判斷能力·認識能力提高，自主性·自律性形成 	<p>(8)六歲左右</p> <ul style="list-style-type: none"> ○順暢靈巧的全身運動，意欲旺盛快活 ○尊重朋友的意見，能夠開展扮演角色式共同遊戲 ○充分發揮經驗和知識，反復創意開動腦筋 ○思考能力和認識能力提高，對自然社會等事象的興趣關心增強。自立心增強



(1)與養護有關的目標和內容	
生命的維持	
<p>目標 使每個兒童，</p> <ol style="list-style-type: none"> ①能夠舒適地生活 ②能夠健康安全地生活 <p>每個兒童的</p> <ol style="list-style-type: none"> ③生理需要能夠得到充分滿足 ④健康能夠得到積極的增進 	<p>內容 (要旨)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①掌握兒童日常健康狀態、發育成長狀況，迅速貼切地對應各種情況 ②努力維持並提高健康、安全的保育環境 ③滿足兒童的生理需求，創造適當的生活節奏 ④幫助兒童適度的運動和休息、熱情高漲地生活
情緒的穩定	
<p>目標 (要旨) 使每個兒童，</p> <ol style="list-style-type: none"> ①能夠在有安全感的狀態下生活 ②能夠放心地表達自己的心境 ③能夠培養肯定自己的心境 <p>每個兒童</p> <ol style="list-style-type: none"> ④身心疲憊能得到放鬆治愈 	<p>內容 (要旨)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一邊滿足兒童的需要，一邊進行對答式的交往或主動向兒童搭話 ②接納兒童的心情，在共鳴之中構築持續性的信賴關係 ③使兒童擁有自發性、探索意識、對自己的自信，注視兒童的成長過程並採取適當的行動 ④爭取活動內容的平衡和協調，能夠保證兒童享有適當的伙食與休息

(2)與教育有關的目標和內容		
健康	<p>造就健康的心靈與體魄，培育自主創造健康安全生活的能力</p> <p>目標 ①快活茁壯地活動，體驗充實感。 ②充分活動自己的身體，積極參加運動。 ③獲取為健康、安全的生活所需的習慣與態度。</p>	從①至⑨， 共9項內容
人際關係	<p>在與他人緊密、互助的生活中，造就自立心，培養與他人交流的能力</p> <p>目標 ①享受保育所生活，體味以自己力量進行活動的充實感。 ②親近周圍的人，加深與他們的關聯，擁有愛心與信任感。 ③獲取在社會生活中所需的習慣和態度。</p>	從①至⑭， 共14項內容
環境	<p>帶著好奇心和探索心與周圍的各種環境接觸，培養把這些納入自己生活的能力</p> <p>目標 ①親近周圍環境，在與大自然的接觸中對各種事象產生興趣和關心。 ②接觸身邊環境，從發現中得到快樂，並把從中體會納入生活中去。 ③觀察周身事物，從思索和使用中，豐富對物質的性質、數量以及對文字等的感性認識。</p>	從①至⑩， 共12項內容
語言	<p>用自己的話表達經驗過或思考過的事情，培育專心聽取他人講話的意欲和態度，造就語言感受和用語言表達的能力。</p> <p>目標 ①體味用語言表達自己心情的快樂。 ②認真聽取他人的語言和話題，表述自己的經歷與所想，享受互相交流之愉悅。 ③在理解日常生活所需語言的同時，喜歡圖畫書以及故事，能和保育員、小朋友心靈溝通。</p>	從①至⑫， 共12項內容
表達	<p>通過表述自己的感受和思維，豐富感性 and 表達能力，培養豐富的創造能力</p> <p>目標 ①對各種事物的美擁有豐富的感性。 ②對感受過的、思考過的事情用自己的方法表達並從中感到享受。 ③豐富生活中的各種意象，享受多樣表述的快樂。</p>	從①至⑨， 共10項內容

2. 實施保育應注意事項	保育員應根據每個兒童成長過程的不同以及其連續性，靈活對待目標和內容，同時注意以下事項。
(1) 整體注意事項 ○根據個人差異，理解每個人的心情，實施幫助活動 ○留意身心健康 ○尊重兒童的自主活動 ○留意進入保育所時的保育 ○對國籍和文化差異的理解與尊重 ○對性別、個人差異的理解，不灌輸固定意識	(4) 3歲以上兒童的保育注意事項 ○注意理解掌握在生活中必要的態度和習慣的重要性，能夠選擇適當的行動 ○注意使兒童們充分發揮自我進行活動，使他們從經過努力才完成一件事情中得到的喜悅和自信。 ○留意多使兒童積極參加戶外活動，通過全身運動促進身體各種技能的發育 ○通過體驗吵架糾紛，使兒童們逐漸學會理解對方的心情，認識到對彼此來講互相都是必要的存在 ○通過生活和遊戲使兒童們覺察到有規定的重要性，自己判斷該如何行動 ○通過接觸自然，培養兒童們的感性，認識能力，思考能力和表達能力，開動腦筋考慮如何加深與自然交流的方法。 ○注意兒童用自己的語言表達自己想法的重要性，留意兒童們的搭話並予以回答，使他們享受與朋友之間的交流和談話的樂趣。 ○為使兒童們能用各種各樣的方法立意創新，自由表現，要留意準備必要的材料，工具和環境的設定。 ○因為保育所的保育為小學校以後的生活和學習打下基礎，與那以後的成長發育都相關聯，所以注意要通過幼兒園期的生活，奠定培養兒童們的創造性思考和主動性的生活態度等的基礎。
(2) 嬰兒保育注意事項 ○注意心身稚嫩之特徵，貼切判斷，實施保健性保育 ○留意生育經歷的不同，有特定的保育員進行指導 ○工作人員之間、與委託醫生之間協作，發揮各自專業對應 ○和家長保持信賴關係、致力於對家長的幫助 ○在擔任保育員變更時的合作·協力	
(3) 未滿3歲兒童的保育注意事項 ○預防感染病、貼切的判斷與對應 ○留意基本生活習慣的形成和對兒童自發性的尊重 ○保證充分的探索活動，引入使用全身的遊戲 ○注視自我萌芽的發育·保育員要耐心仔細地教兒童們應怎樣交朋友和體察別的小朋友的心情 ○在努力穩定兒童的情緒的同時，督促他們自覺活動 ○主管保育員換人時要注意交替后仍然互相配合，共同合作	



制定指導計劃時，應該特別注意的事項

與發育成長過程相適應的保育

- 制定與各兒童的生長史，心身發育，活動情況等相適應的個別性計劃(3歲未滿的兒童)
- 充分考慮各個兒童的成長，促進兒童們之間的相互關係及合作性活動的展開(3歲以上的兒童)
- 把握各兒童的生活，經歷和發育過程等情況，實施貼切的援助和考慮環境的構成(異年齡保育)

有關長時間的保育

- 充分考慮兒童的發育過程·生活規律和心身狀態
- 確定指導計劃中的保育內容，方法，保育員體制，與家庭合作等方面的地位

有關身障兒童的保育

- 把握每一個兒童的發育過程和障礙的狀態，確定指導計劃中，身障兒童在適當的環境下，通過與其他兒童的共同生活得到同步成長的地位。
- 製作個別支援計劃，對各兒童做出相應的保育方案。
- 靈活地實施保育，對個別特殊情況也能充分對應。
- 與家庭合作·與家長之間做到互相理解。
- 與專門機構合作

與小學校攜手合作

- 使保育所的兒童和小學校的兒童之間展開交流，同時各教師員工之間也進行交流，做到信息共有，互相理解等等，積極與小學校攜手合作。
- 為更好的支援兒童成長，他們在入小學校時，各兒童的相關資料通過所在市町村的援助，從各保育所轉送到各小學校。

與家庭及地區社會攜手合作

- 努力得到家庭及地區各機關各團體的大力協作，積極有效地利用地區的自然，人才，社會活動，設施等資源，使兒童得到豐富多彩的生活體驗，使保育內容得到充實。

2. 保育內容等的自我評價

保育員等的自我評價

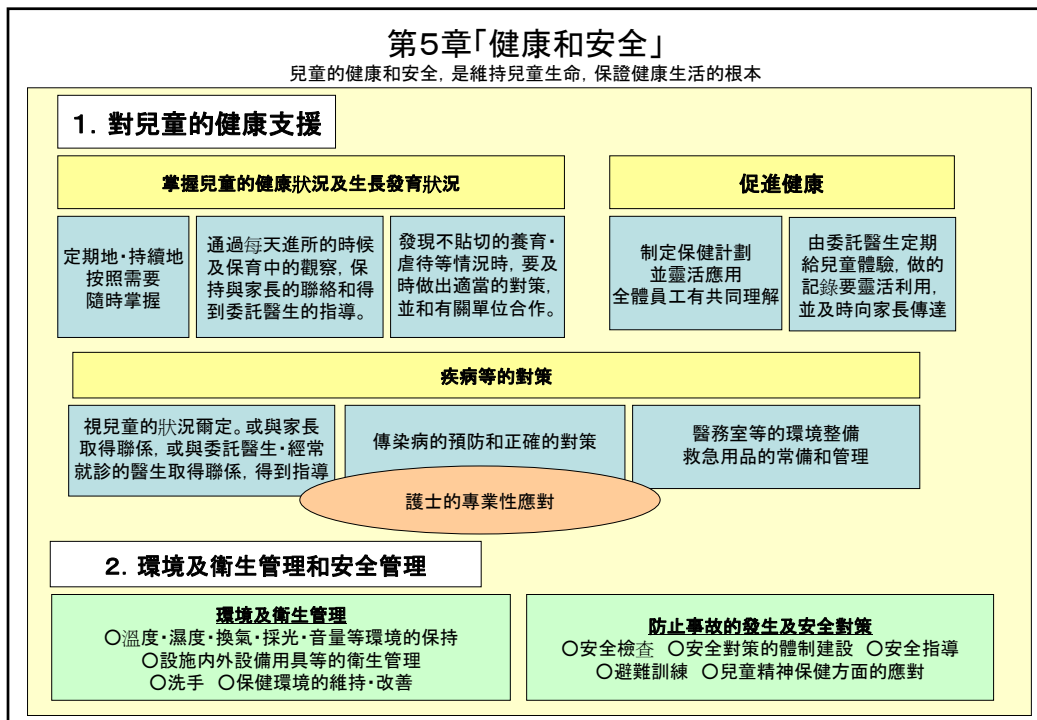
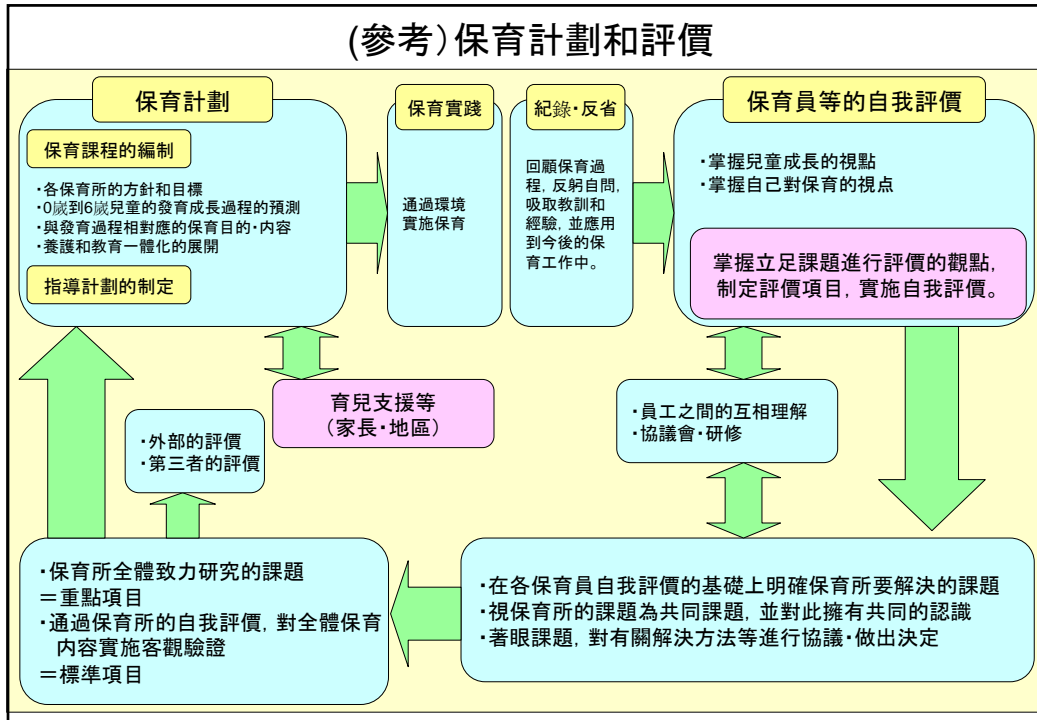
- 通過保育計劃和記錄，回顧各自的保育實踐，通過實施自我評價，來提高保育員的專門性，為改善保育實踐而努力。

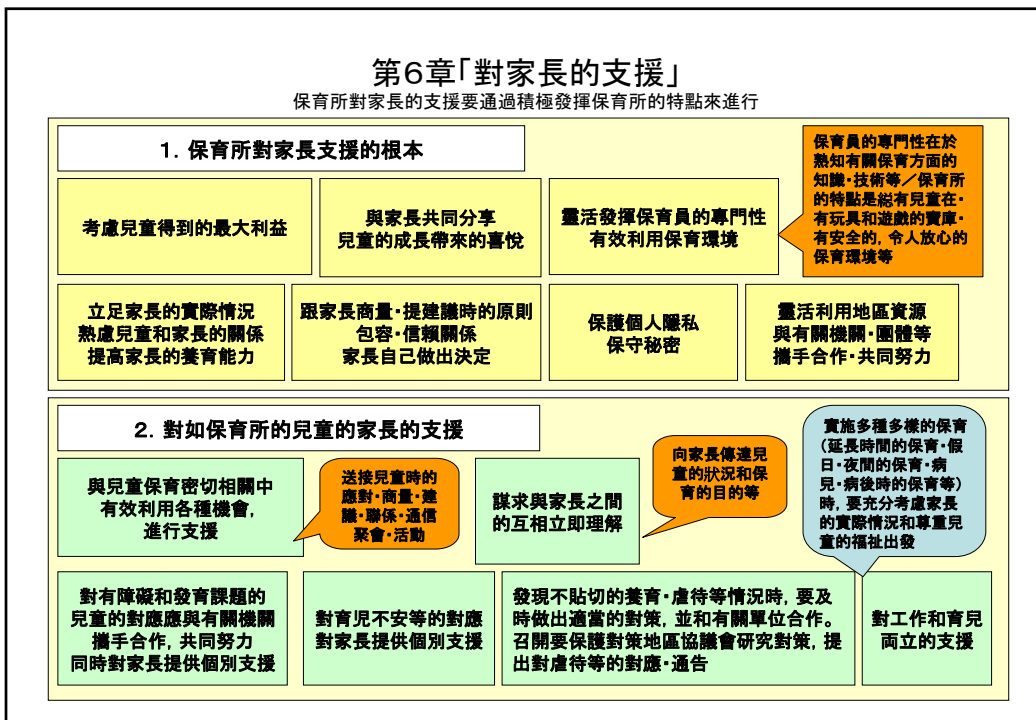
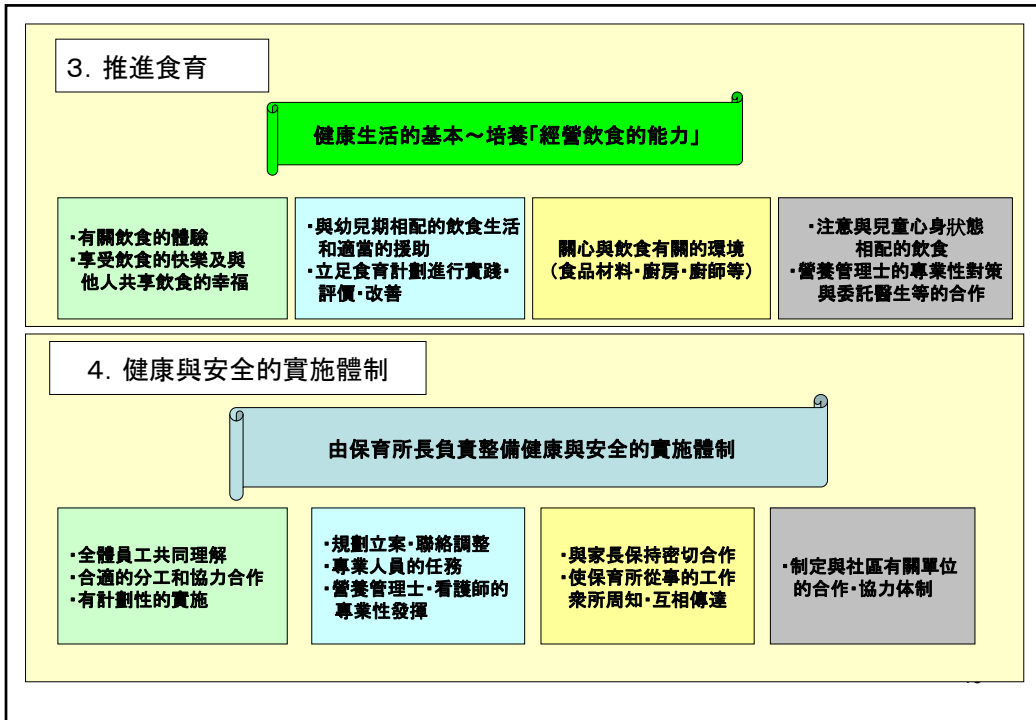
- 充分考慮兒童心靈的成長和熱情·專心致志的過程等
- 明確為提高保育的專門性和質量需要克服的課題
- 加深保育所全體對保育內容有關的認識

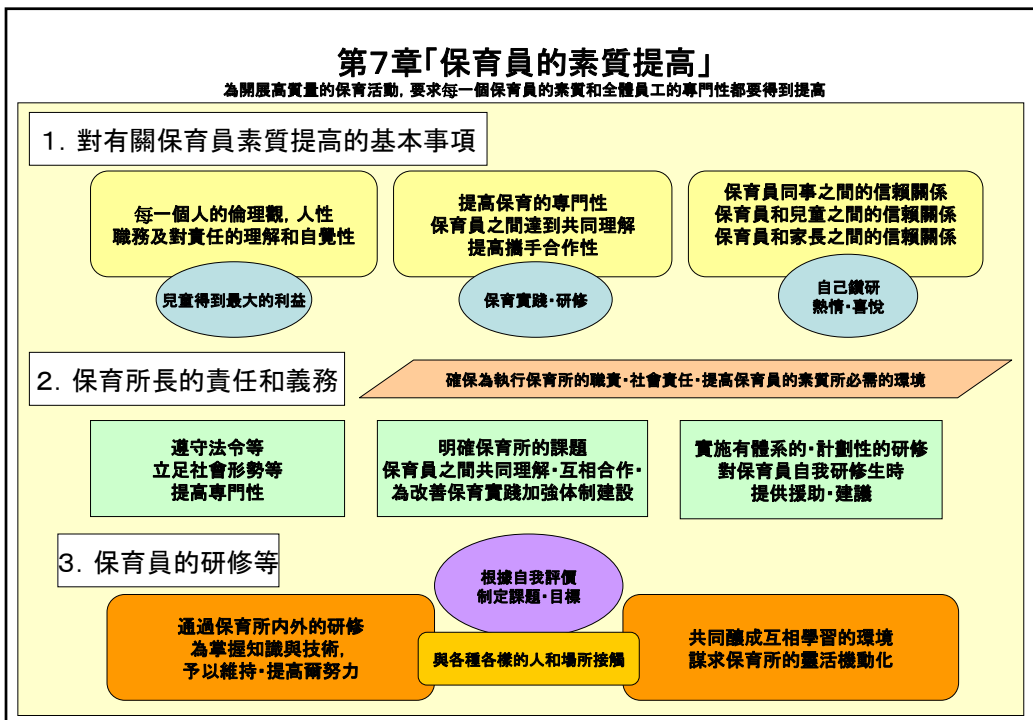
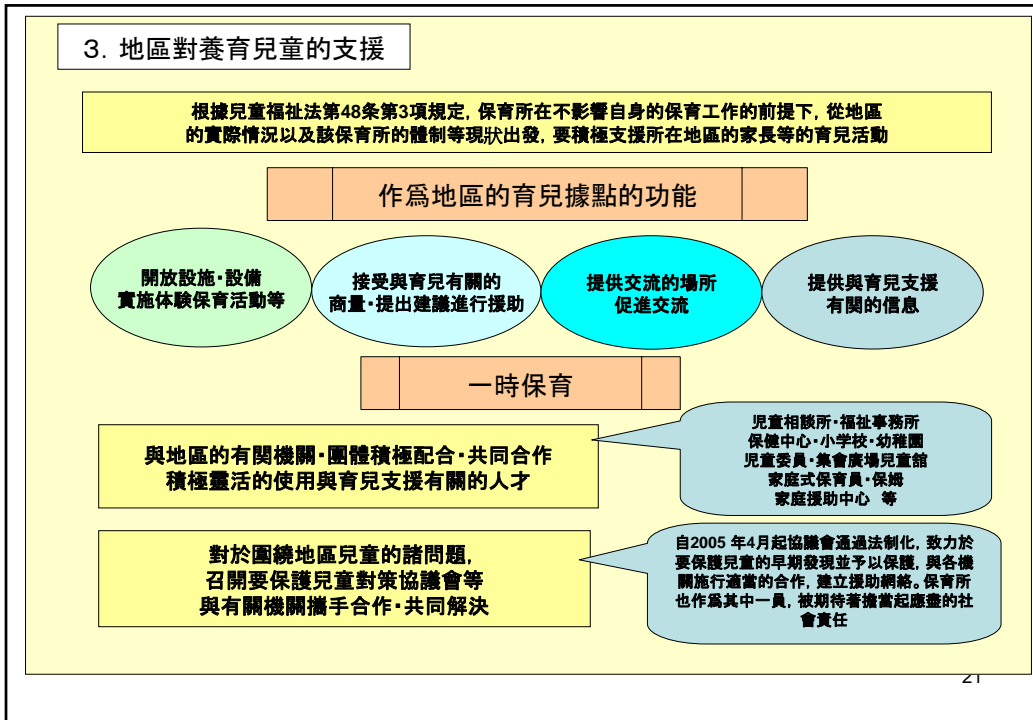
保育所的自我評價

- 通過保育課程及指導計劃的開展，立足於保育員等的自我評價的基礎上，保育所必須進行自我評價，並要將其結果公佈出來。

- 從符合地區的實際情況和保育所的實際狀況出發，來設定適當的評價觀點和項目等，在得到全體員工共同理解的基礎上，大家一致積極工作的同時，要立足於評價結果，為改善保育內容而努力。
- 最好是多聽取家長及地區居民的意見。







為提高保育所的保育質量 而制定的活動進程計畫

經過及宗旨

為提高保育所的保育質量，制定了有關國家（厚生勞動省）範圍的方針政策及希望地方公共團體（都道府県及市町村）參與的方針政策等的活動進程計畫，與保育所保育指針修訂（2008年3月頒佈）一併發出通知。
獎勵各地方公共團體制定有關提高保育所保育質量的活動進程計畫。
（根據培養教育下一代支援對策推進法，都道府県行動計畫及市町村可以行動計畫一體化，共同來制定）

實施期間

2008年度到2013年度5年期間

活動進程計畫概要

- (1) 改善・提高保育的實踐
推動有關自我評價，保育實踐的調查研究，有效利用信息技術提高業務效率等
- (2) 確保兒童的健康與安全
明確保健・衛生方面的對策，確保護士等專業人員，明確委託醫生的職責，充實要特別受支援兒童的保育等
- (3) 提高保育員等的素質・專門性
充實保育所內外的研修，強化保育所長的職責，預測保育員的資格取得方法・培養方法
- (4) 強化支持保育工作的基礎
充實評價，有關保育方面研究成果等的系統管理及有效利用，靈活使用專業人才和地區多樣性人才，確保改善・充實保育環境的財源

日本幼稚園教育要領新舊對照表 (中文版)

翻譯：李思儀

平成 20 年 (2008)	平成 10 年 (1998)
<p style="text-align: center;">第 1 章 總論</p> <p>第 1 幼稚園教育的根本</p> <p>幼兒期實施之教育，對於人格形成的基礎的培養是很重要的，幼稚園教育以達成學校教育法第 22 條規定之目的，根據幼兒期的特性，透過環境而實施為基根本。正因如此，教師要與幼兒間建立充分的信賴關係，致力於創造良好教育環境。以此為依據，需實行重視以下所列事項之教育。</p> <p>1 幼兒要在安定的情緒下，充分發揮自我，考慮其發展上必須要獲得的生活經驗，促進以幼兒為主體的活動，讓幼兒期有合宜的生活。</p> <p>2 幼兒自發性活動的遊戲，是培養身心調合發展基礎的重要學習，透過遊戲為主的引導為中心，綜合地達成在第二章中的目標。</p> <p>3 幼兒的發展，身心各層面相互關聯，經過探索多樣事物而完成，再者，考量幼兒的生活經驗各有不同，需配合每一位幼兒的特性，為發展指導的主題。</p> <p>幼稚園教師應為確保幼兒主體性的活動，以對幼兒個別的行為理解及推測為基礎，計劃性地去建構一個環境。此時，教師要知道幼兒與人及物之間關係是重要的，建構一個物及空間的環境。再者，教師必需要針對個別幼兒的活動情況，做各種調整，以豐富幼兒的學習活動。</p>	<p style="text-align: center;">第 1 章 總論</p> <p>1 幼稚園教育的基本</p> <p>幼稚園教育以達成學校教育法第 22 條規定之目的，根據幼兒期的特性，透過環境而實施為基根本。正因如此，教師要與幼兒間建立充分的信賴關係，致力於創造良好教育環境。以此為依據，需實行重視以下所列事項之教育。</p> <p>(1) 幼兒要在安定的情緒下，充分發揮自我，考慮其發展上必須要獲得的生活經驗，促進以幼兒為主體的活動，讓幼兒期有合宜的生活。</p> <p>(2) 幼兒自發性活動的遊戲，是培養身心調合發展基礎的重要學習，透過遊戲為主的引導為中心，綜合地達成在第二章中的目標。</p> <p>(3) 幼兒的發展，身心各層面相互關聯，經過探索多樣事物而完成，再者，考量幼兒的生活經驗各有不同，需配合每一位幼兒的特性，為發展指導的主題。</p> <p>為確保幼兒主體性的活動，以對幼兒個別的行為理解及推測為基礎，計劃性地去建構一個環境。此時，教師要知道幼兒與人及物之間關係是重要的，建構一個物及空間的環境。再者，教師必需要針對個別幼兒的活動情況，做各種調整，以豐富幼兒的學習活動。</p> <p>2 幼稚園教育的目標</p> <p>幼兒期的教育與家庭教育做聯結，同時也是重要人格形成基礎的培養。幼稚園透過以幼稚教育的基本為主的幼稚園生活，培育生活能力的基礎，以致力達成學校教育法第 23 條規定中幼稚園的目標。</p> <p>(1) 培育幼兒有在健康安全方面有幸福的生活習慣、態度及健全的身心發展基礎。</p> <p>(2) 培育對於人的愛及信賴感，獨立及合作的態度及道德發展的萌芽。</p> <p>(3) 對於自然等身邊事物抱持關心及興趣，培養豐富的情感及思考力。</p> <p>(4) 在日常生活中，培養對於語言的興趣，喜歡與人交談及傾聽的態度與及合宜應對。</p> <p>(5) 透過多樣化體驗來培養豐富的感性及增加創造性。</p>

第 2 教育課程的編寫

幼稚園在與家庭互相合作的情況下，透過在此章節第 1 所提及的幼稚園教育的基本為基礎的幼稚園生活，培育生活能力的基礎以達成學校教育法第 23 條規定的目標而努力。幼稚園也是義務教育及日後的教育階段的基礎。

因此，各幼稚園，需要教育基本法及學校教育法及其他法令中所之示幼稚園教育要領為基礎，發揮創意設計配合幼兒身心發展及幼稚園及社區實際情況之適當課程。

- 1 為透過幼稚園生活，綜合性達成在第二章所示之目標，幼稚園教育課程，需考量教育時間、幼兒的生活經驗及發展過程等，來組織具體的目標及內容。在這樣情況中，特別是在自我發展、察覺他人存在，自我控制等重要發展的幼兒期特性，秉持從入園到畢業為止的長遠觀點，擴展充實其生活。
- 2 每學年幼稚園的教育課程實施的教育週數，除特別情況外，不可低於 39 週。
- 3 幼稚園中一天的教育課程時間，以 4 小時為基準，但是可以依據幼兒的身心發展及季節等因素，做適當地安排。

第 3 教育課程時間後進行的課後活動

幼稚園要依據社區的情況及保護者(家長)的需求，於教育課程的時間結束後，以自願者為對象進行的教育類活動，規劃提供適當的指導活動，同時要以學校教育法第 22 條及 23 條及本章第 1 點所說明之幼稚園教育的基本為實施基礎。同時，為了協助幼稚園的目的達成，也要致力於家庭及社區對於幼兒教育的支援工作。

第 2 章 目標及內容

本章所列之目標，為幼兒在幼稚園畢業為止的教育活動中，所期待培育出的情意、興趣、態度等生活能力的基礎。主要內容為達成目標的指導要項。這是從幼兒發展之觀點出發，關於身心健康的「健康」領域、與他人關係的「人際關係」領域、與自身環境有關係的「環境」領域、語言學習的「語言」及感性、表達創作領域的「創作表現、表達」等匯整而成。

各領域中的所述目標，涵蓋了幼稚園生活的全部，由幼兒各式各樣的經驗之累加中，相互漸進去達成。而內容是透過與幼兒生活環境

3. 教育課程的編寫

各幼稚園，需要以法令及此幼稚園教育要領為基礎，發揮創意設計配合幼兒身心發展及幼稚園及社區實際情況對應之適當課程。

- (1) 達成第二章所示之目標，幼稚園教育課程，需考量教育時間、幼兒的生活經驗及發展過程等，來組織具體的目標及內容。在這樣情況中，特別是在自我發展、感覺(感知)他人存在，自我控制等重要發展的幼兒期特性，秉持從入園到畢業為止的長遠觀點，擴展、充實其生活。
- (2) 每學年幼稚園的教育週數，除特別情況外，不可低於 39 週。
- (3) 幼稚園中一天的教育課程時間，以 4 小時為基準。但是可以依據幼兒的身心發展及季節等因素，做適當地安排。

第 2 章 目標及內容

本章所列之目標，為幼兒在幼稚園畢業為止的教育活動中，所期待培育出的情意、興趣、態度等生活能力的基礎。主要內容為達成目標的指導要項。這是從幼兒發展之觀點出發，關於身心健康的「健康」領域、與他人關係的「人際關係」領域、與自身環境有關係的「環境」領域、語言學習的「語言」及感性、表達創作領域的「創作表現、表達」等匯整而成。

各領域中的所述目標，涵蓋了幼稚園生活的全部，由幼兒各式各樣的經驗之累加中，相互漸進去達成。而內容是透過與幼兒生活環境

相關活動做綜合性的指導，這一部分需多加注意。

再者，在特殊情況下，以各領域的目標為基礎，增加規劃具體適切的內容時，需為不脫離第一章第一點的幼稚園教育的基本而做慎重考慮。

[健康]

培育健康的身心，培養自我健康地安全生活的能力。

1 目標

- (1)開朗活潑，舒服愉快地行動，並體驗滿足的感受。
- (2)充分活動自己的身體，積極從事運動。
- (3)養成健康安全生活所需之習慣及態度。

2 內容

- (1)與老師及同儕相處，具有安定感（安全感）而行動。
- (2)在各式各樣的遊戲中，讓身體充分的活動。
- (3)積極地從事戶外遊戲。
- (4)樂於從事各式各樣的活動。
- (5)樂於和老師及朋友們一起用餐。
- (6)養成健康生活的規律作息。
- (7)身體的清潔，衣服的穿脫，用餐及上廁所等生活能力，需自己完成。
- (8)知道幼稚園生活的方式，同時也會整理自己的生活空間。
- (9)關心自己的健康，積極從事為預防疾病等的行為。
- (10)知道危險的場所、遊戲方式及發生災害時的應變，能注意活動的安全。

3. 內容的實施

實施上述內容時，需注意以下事項。

- (1)由於身與心的健康是具有相互間密切關係，幼兒在與教師及其他幼兒的溫馨相處中，體驗到自我的充實滿足感之中，促進柔軟的心靈及身體的發展。特別要讓幼兒充份體驗到活動身體的好處，培養幼兒喜歡活動的興趣。
- (2)在各式各樣的遊戲活動中，依據配合幼兒興趣、關心（關注）點及能力的全身性活動，體驗讓身體充分活動之樂趣，養成注意安全及培養會愛惜自己身體的態度。
- (3)在大自然中輕鬆愉快地進行身體遊戲，注意幼兒身體上各機能之發展，幼兒的興趣及關心（關注）點也會轉移向戶外活動發展。此

相關活動做綜合性的指導，這一部分需多加注意。

再者，在特殊情況下，以各領域的目標為基礎，增加規劃具體適切的內容時，需為不脫離幼稚園教育的基本而做慎重考慮。

[健康]

培育健康的身心，培養自我健康地安全生活的能力。

1 目標

- (1)開朗活潑，舒服愉快地行動，並體驗滿足的感受。
- (2)充分活動自己的身體，積極從事運動。
- (3)養成健康安全生活所需之習慣及態度。

2 內容

- (1)與老師及同儕相處，具有安定感（安全感）而行動。
- (2)在各式各樣的遊戲中，讓身體充分的活動。
- (3)積極地從事戶外遊戲。
- (4)樂於從事各式各樣的活動。
- (5)養成健康生活的規律作息。
- (6)身體的清潔，衣服的穿脫，用餐及上廁所等生活能力，需自己完成。
- (7)知道幼稚園生活的方式，也會整理自己的生活空間。
- (8)關心自己的健康，積極從事為預防疾病等的行為。
- (9)知道危險的場所、遊戲方式及發生災害時的應變，能注意活動的安全。

3. 內容的實施

實施上述內容時，需注意以下事項。

- (1)由於身與心的健康是具有相互間密切關係，幼兒在與教師及其他幼兒的溫馨相處中，體驗到自我的充實滿足感之中，促進柔軟的心靈及身體的發展。
- (2)在各式各樣的遊戲活動中，依據配合幼兒興趣、關心（關注）點及能力的全身性活動，體驗讓身體充分活動之樂趣，養成注意安全及培養會愛惜自己身體的態度。
- (3)在大自然中輕鬆愉快地進行身體遊戲，注意幼兒身體上各機能之發展，幼兒的興趣及關

時，考量幼兒活動的動線，需要注意戶外庭院及遊戲器材的配置。

(4) 培育幼兒健康的身心，飲食習慣的培養是重要的。考量幼兒飲食的實際狀況，讓幼兒在溫馨的氣氛下與老師及朋友們共享用餐的快樂，且對於各種食物都有嘗試的興趣。

(5) 在養成基本生活習慣時，同時要考慮家庭中生活經驗，培育幼兒的獨立性，在與其他幼兒互動當時所發展之主體性活動當中，養成生活的必要習慣。

[人際關係]

為了要與他人親近認識及相互合作生活，要培養獨立及與人相處的社交能力。

1 目標

- (1) 喜歡幼稚園生活，對於自己有能力完成事情感到滿足。
- (2) 能與週遭人親近及加深彼此關係，擁有愛和信賴感。
- (3) 培養社會生活中所期望之習慣及態度。

2 內容

- (1) 體驗與老師及朋友一起的快樂感覺
- (2) 自己會主動思考及行動
- (3) 自己能做的事自己完成
- (4) 在各種遊戲中學習做任何事都要盡力完成的態度。
- (5) 與朋友積極建立關係，共同感受悲傷與快樂
- (6) 能將想法傳遞給對方，也能注意對方的想法
- (7) 體會交友的好處，並能享受一起活動的快樂
- (8) 在和朋友快樂的遊戲中，學習合作完成共同工作。
- (8) 能覺察好事或壞事，能先思考後再行動
- (9) 加深同儕關係，關懷他人
- (10) 在與同儕的愉快生活中，能注意到規則的重要性並遵守之。
- (11) 要珍惜共同的物品及遊戲器材，讓大家都使用。
- (12) 親近與自己生活周遭有關係的人，包含高齡者在內的社區居民等。

3. 內容實施

實施上述內容時，需注意以下事項。

- (1) 考慮到幼兒與教師間的信賴關係的支持，確立自己的生活是與他人建立關係的基礎。幼兒需從自身周圍多樣的情感體驗及錯誤嘗試中，依照自己能力去完成事情，並從中獲

心（關注）點也會轉移向戶外活動發展。此時，考量幼兒活動的動線，需要注意庭園、遊戲器材的配置。

- (4) 在養成基本生活習慣時，培育幼兒的自立心（獨立性），在與其他幼兒互動當時所發展之主體性活動當中，養成生活的必要習慣。

[人際關係]

為了要與他人親近認識及相互合作生活，要培養獨立及與人相處的社交能力。

1 目標

- (1) 喜歡幼稚園生活，對於自己有能力完成事情感到滿足。
- (2) 能與週遭人建立關係，擁有愛和信賴感。
- (3) 培養社會生活中所期望之習慣及態度。

2 內容

- (1) 體驗與老師及朋友在一起的快樂感覺
- (2) 自己會主動思考及行動
- (3) 自己能做的事自己完成
- (4) 與朋友積極建立關係，共同感受悲傷與快樂
- (5) 能將想法傳遞給對方，也能注意對方的想法
- (6) 體會交友的好處，並能享受一起活動的快樂
- (7) 要有與朋友一同合作完成工作的態度
- (8) 能覺察好事或壞事，能先思考後再行動
- (9) 加深同儕關係，關懷他人
- (10) 在與同儕的愉快生活中，能注意到規則的重要性並遵守之。
- (11) 要珍惜共同的物品及遊戲器材，讓大家都使用。
- (12) 親近與自己生活周遭有關係的人，包含高齡者在內的社區居民等。

3. 內容的實施

實施上述內容時，需注意以下事項。

- (1) 考慮到幼兒與教師間的信賴關係的支持，確立自己的生活是與他人建立關係的基礎。幼兒需從自身周圍多樣的情感體驗及錯誤嘗試中，依照自己能力去完成事情，並從中獲

得滿足感；在觀察守護幼兒的行動中，給予適當的援助。

- (2)以幼兒為中心的活動，加深加廣與其他幼兒的關係時，需認知到相互間之必要存在，培養與人建立關係形成團體的能力。特別是在團體生活中，幼兒需發揮自我，並受到教師及其他幼兒之認同，有自信地去行動。
- (3)為加深幼兒間的關係，讓彼此能共同遊戲，需培養自己獨立行動能力，並在和其他幼兒一同在嘗試錯誤中學習，體驗到共同目的之實現之喜樂感。
- (4)在道德培養萌芽時期，建立幼兒基本生活習慣的同時，與其他幼兒建立關係中，感受到他人的存在感，並能有尊重對方的行為。再者，透過與自然及身邊的動植物親近，培養豐富的情感。特別的是，是對於人的信賴及關懷，需克服糾紛與挫折的經驗後，才會漸漸發展。
- (5)透過團體生活，加深幼兒與他人的關係，培養遵守規則的意識，幼兒在與教師間信賴關係的支持下，充份發揮自我，並學習想法表達及溝通協調，學習規則的重要性，進而調整自己。
- (6)接觸地區上的人包括高齡者等，透過共同感動的體驗，共享自己的情感及想法。能體會到與他人建立關係及發揮個人功能之喜悅。再者，透過生活對於父母及祖父母的愛能有所感受，培育珍惜家人的態度。

[環境]

對於週遭環境，有好奇心及探究心，並培養將此融入生活中的能力

1 目標

- (1)親近身旁環境，在與自然的接觸中，擁有對各式各樣事物的興趣及關心。
- (2)對於週遭環境，自己能樂於發現、思考，並將其融入生活中。
- (3)經由觀察及思考週遭的事物，豐富對物的性質及數量、文字等感覺。

2 內容

- (1)生活中親近自然，感受其自然之大、之美及不可思議（奧妙之處）。
- (2)生活中接觸各式各樣的物件，對於其性質及

得滿足感；在觀察守護幼兒的行動中，給予適當的援助。

- (2) 幼兒為中心的活動，加深加廣與其他幼兒的關係時，需認知到相互間之必要存在，培養與人建立關係形成團體的能力
- (3)在道德培養萌芽時期，建立幼兒基本生活習慣的同時，與其他幼兒建立關係中，感受到他人的存在感，並能有尊重對方的行為。再者，透過與自然及身邊的動植物親近，培養豐富的情感。特別的是，是對於人的信賴及關懷，需克服糾紛與挫折的經驗後，才會漸漸發展。
- (4)與幼兒生活有深入關係者接觸時，表現自己的情感及想法，透過共同感動的體驗，加強與地區的人群間親近感。能體會到與他人建立關係及發揮自我之喜悅。再者，透過生活對於父母的愛能有所感受，培養珍惜父母的態度。

[環境]

對於週遭環境，有好奇心及探究心，並培養將此融入生活中的能力

1 目標

- (1)親近身旁環境，在與自然的接觸中，擁有對各式各樣事物的興趣及關心。
- (2)對於週遭環境，自己能樂於發現、思考，並將其融入生活中。
- (3)經由觀察及思考週遭的事物，豐富對物的性質及數量、文字等感覺。

2 內容

- (1)生活中親近自然，感受其自然之大、之美及不可思議（奧妙之處）。
- (2)生活中接觸各式各樣的物件，對於其性質及

組成具有興趣。

- (3) 透過季節的變換，感受自然及人類生活的變化。
- (4) 關心周遭生活事物，並融入遊戲中表現。
- (5) 親近身邊的動植物，培養對於生命的尊重及愛惜
- (6) 珍惜身邊事物
- (7) 對於身邊事物及遊戲器材充滿興趣，會去思考及嘗試不同遊戲方式。
- (8) 關心留意日常生活中的數量及圖形
- (9) 關心留意生活中簡單的標誌及文字
- (10) 留意與生活息息相關的情報資訊及設施
- (11) 從幼稚園內外舉行的既定活動中，認識國旗之意義。

3. 內容的實施

實施上述內容時，需注意以下事項。

- (1) 幼兒在遊戲當中與環境互動，對周圍世界充滿好奇心，對物品的意義及操作方式感到興趣，注意到事物的法則性，對於學習到可以自己思考來說是重要的。特別的是，當幼兒因聽到其他小朋友的想法而自己產生新的想法時的所體驗到快樂感覺，有助於培養自己思考的能力。
- (2) 在幼兒期時，自然深有其重要性。直接感受自然之大、之美及不可思議（奧妙之處），能安定幼兒的心靈、也是培育幼兒豐富情感、好奇心、思考力及表達能力的基礎，因此必須要用心於幼兒與自然之關係。
- (3) 透過對於周遭事物及動植物的感動的表達及共鳴，產生自己想要求知熱情的同時，透過各式各樣的理解，培養對其親近及敬畏的心，及對於生命的珍惜、公德心和探究心等養成。
- (4) 幼兒在遊戲中與周圍環境相關，對周圍世界抱好奇心，關心其意義及操作方式，注意事物的法則規律性，可以自己方式思考。這樣的過程是很重要的。

[語文]

將經驗、想法等等以自己的方式表達，培養聆聽對方所說的話的態度，培養對於語言的感覺及表達能力。

1 目標

- (1) 體驗用語言表達自己的愉快感
- (2) 能傾聽別人的談話，也能表達自己的經驗及

組成具有興趣。

- (3) 透過季節的變換，感受自然及人類生活的變化。
- (4) 關心周遭生活事物，並融入遊戲中表現。
- (5) 親近身邊的動植物，培養對於生命的尊重及愛惜
- (6) 珍惜身邊事物
- (7) 對於身邊事物及遊戲器材充滿興趣，會去思考及嘗試不同遊戲方式。
- (8) 關心留意日常生活中的數量及圖形
- (9) 關心留意生活中簡單的標誌及文字
- (10) 留意與生活息息相關的情報資訊及設施
- (11) 從幼稚園內外舉行的既定活動中，認識國旗之意義。

3. 內容的實施

實施上述內容時，需注意以下事項。

- (1) 幼兒在遊戲當中與環境互動，對周圍世界充滿好奇心，對物品的意義及操作方式感到興趣，注意到事物的法則性，會學習到自己的思考方式。
- (2) 在幼兒期時，自然具有其重要性。在直接感受自然之大、之美及不可思議（奧妙之處），能安定幼兒的心靈、豐富情感、好奇心、思考力，表達能力的基礎培養為出發點，加深幼兒與自然之關係。
- (3) 透過對於周遭事物及動植物的感動的表達及共鳴，產生自己想要求知熱情的同時，透過各式各樣的理解，培養對其親近及敬畏的心，及對於生命的珍惜、公德心和探究心等養成。
- (4) 幼兒在遊戲中與周圍環境相關，對周圍世界抱好奇心，關心其意義及操作方式，注意事物的法則規律性，可以自己方式思考。這樣的過程是很重要的。

[語文]

將經驗、想法等等以自己的方式表達，培養聆聽對方所說的話的態度，培養對於語言的感覺及表達能力。

1 目標

- (1) 體驗用語言表達自己的愉快感
- (2) 能傾聽別人的談話，也能表達自己的經驗及

想法，體驗相互交流之愉悅。

- (3)了解日常生活中必要之單字語彙，同時也接觸繪本及故事，並與老師及同儕的心靈進行交流。

2 內容

- (1)對於老師及同儕所說的話感到興趣，能傾聽及交談。
- (2)對於所做的事、所見所聞、感覺及想法等，能以自己的話表達出來。
- (3)對於想做的事能表達，當不了解時能主動尋求協助。
- (4)注意專心聆聽他人說話，並給予對方已了解的回應
- (5)分辨及使用生活中必要的語言。
- (6)親切的向人寒暄問候。
- (7)在生活中感受語言之樂與美。
- (8)透過各種體驗活動，豐富語言及想像力。
- (9)親近繪本及故事，有興趣聆聽，體驗想像的樂趣。
- (10)在日常生活中體驗文字等傳達訊息的樂趣

3. 內容的實施

實施上述內容時，需注意以下事項。

- (1)語言是與周圍的人親近，將自己的情感及意志等傳達，然後獲得對方回應，在從對方回應當中獲得資訊想法。對此，幼兒在與教師及其他幼兒關係中體驗到感動的心及語言互動之愉快感受。
- (2)幼兒在用語言來表達自己的想法時，同時也因為對於教師及其他孩子所說的話有興趣及注意聆聽而有所理解，進而能夠用語言相互溝通。
- (3)繪本及故事書等，其內容要與自身經驗結合，並讓孩子樂於想像，而擁有豐富的想像力等，培養對於語言的感覺。
- (4)幼兒在日常生活中，使用文字等將所想的事傳達出去，對於文字具有興趣及關心。

[創作表現]

透過以自己的方式呈現感覺及所思考的內容，培養成其感性、表達能力及豐富創造力。

1 目標

- (1)對於各式各樣的美有所感覺
- (2)樂於以自己的方式表現所感覺及所想之事
- (3)樂於從事各種表現創作，在生活中豐富其想像力

想法，體驗相互交流之愉悅。

- (3)了解日常生活中必要之單字語彙，同時也接觸繪本及故事，並與老師及同儕的心靈進行交流。

2 內容

- (1)對於老師及同儕所說的話感到興趣，能傾聽及交談。
- (2)對於所做的事、所見所聞及感覺，能以自己的話表達出來。
- (3)對於想做的事能表達，當不了解時能主動尋求協助。
- (4)注意專心聆聽他人說話，並給予對方已了解的回應
- (5)分辨使用生活中必要的語言。
- (6)親切的向人寒暄問候。
- (7)在生活中感受語言之樂與美。
- (8)透過各種體驗活動，豐富語言及想像力。
- (9)親近繪本及故事，有興趣聆聽，體驗想像的樂趣。
- (10)在日常生活中體驗文字等傳達訊息的樂趣

3. 實施時注意事項

- (1)語言是與周圍的人親近，將自己的情感及意志等傳達，然後獲得對方回應，在從對方回應當中獲得資訊想法。對此，幼兒在與教師及其他幼兒關係中體驗到感動的心及語言互動之愉快感受。
- (2)繪本及故事書等，其內容要與自身經驗結合，並讓孩子樂於想像，而擁有豐富的想像力，培養對於語言的感覺。
- (3)幼兒在日常生活中，使用文字等將所想的事傳達出去，對於文字具有興趣及關心。

[創作表現]

透過以自己的方式呈現感覺及所思考的內容，培養成其感性、表達能力及豐富創造力。

1 目標

- (1)對於各式各樣的美有所感覺
- (2)樂於以自己的方式表現所感覺及思考之事
- (3)樂於從事各種表現創作，在生活中豐富其想像力

2 內容

- (1)能覺察生活中各式各樣的聲音、色彩、形狀、觸感、動作等，並能樂於接觸。
- (2)在生活中接觸美的事物及令人感動的事，豐富想像力。
- (3)在各種發生的事情中，樂於與人相互分享令人感動之事
- (4)對於感動的事、所關心的事，以音樂或動作等表現，自由地書寫或創作。
- (5)利用各式各樣的素材，加以運用進行遊戲
- (6)接觸音樂，樂於體驗像唱歌、簡單的使用節奏樂器等愉快的感受。
- (7)樂於自己書寫及創作，並遊戲中運用或是加以裝飾等。
- (8)表現自己想像力的行動及語言，並體會角色扮演遊戲之樂趣。

3. 內容的實施

實施上述內容時，需注意以下事項。

- (1)培養豐富的感性，是與自然界等身邊的環境，與美的事物、優雅的事物、感動的事物相遇。將從中獲得的感動與老師及同儕共享，並透過各式各樣的表現方式來培養。
- (2)由於幼兒的自我表現創作多半是以簡單樸素形式呈現，教師要接納如此之表現形式及其展現的創作熱情，讓幼兒們樂於展現如幼兒般該有的各式各樣的創作表現。
- (3)與生活經驗及發展相配合，讓幼兒喜愛自己的各樣表現，並充份的發揮表現欲望，需要善加規劃整理器具及材料等，同時，要有機會接觸到其他幼兒的創作作品及重視幼兒們表現的過程，讓他們更喜愛自我創作表現。

2 內容

- 1.能覺察生活中各式各樣的聲音、色彩、觸覺、動作等，並感到歡喜。
- 2.在生活中接觸美的事物及令人感動的事，豐富想像力。
- 3.在各種發生的事情中，樂於與人相互分享令人感動之事
- 4.對於感動的事、思考的事，以音樂或動作等表現，自由地書寫或創作。
- 5.利用各式各樣的素材，加以運用進行遊戲
- 6.接觸音樂，樂於體驗像唱歌、簡單的使用節奏樂器等愉快的感受。
- 7.樂於自己書寫及創作，並遊戲中運用或是加以裝飾。
- 8.表現自己想像力的行動及語言，並體會角色扮演遊戲之樂趣。

3 實施時注意要點

- (1)豐富的感性的養成，是與自然等身邊的環境緊密關係裡，與美的事物、優雅的事物、感動的事物相遇。將從中獲得的感動與老師及同儕共享，並透過各式各樣的表現。
- (2)由於幼兒的自我表現創作多半是以簡單樸素形式呈現，教師要接納如此之表現形式及其展現的創作熱情，讓幼兒們樂於展現如幼兒般該有的各式各樣的創作表現。
- (3)與生活經驗及發展相對應，為讓幼兒喜愛自己的各樣表現，並讓其充份的發揮表現欲望，需要善加規劃整理器具及材料等，且要讓他們更喜愛自我創作表現。

第 3 章

指導計劃及課後活動注意事項

第 1 編寫指導計劃時的注意事項

幼稚園教育，透過幼兒能依自己的意志在與環境互動中創造出各種具體化活動，以達到其目標。在幼稚園中，以此想法為主，為推展幼兒多元化生活及進行適當的指導，需注意以下事項，以期編寫出組織及發展性的課程計劃，並依照幼兒的活動，進行柔軟彈性的指導。

1 一般性注意事項

- (1)指導計劃是依幼兒的發展，並讓每一位幼兒

第 3 章

編寫指導計劃時的注意事項

幼稚園教育，透過幼兒能依自己的意志在與環境互動中創造出各種具體化活動，以達到其目標。在幼稚園中，以此想法為主，為推展幼兒多元化生活及進行適當的指導，需注意以下事項，以期有編寫出組織及發展性的課程計劃，並依照幼兒的活動，進行柔軟彈性的指導

1 一般性注意事項

- (1)指導計劃是，依幼兒的發展讓每一位幼兒在

在幼兒期時能有適合的生活及獲得必要之生活經驗，具體的規劃出來的東西。

(2)指導計劃在完成後，需依據以下所示，設定具體的目標及內容，建構適當的環境，選擇活動及進行。

ㄇ 具體的目標及內容是觀察在園中生活的幼兒發展過程，考量其連貫性、季節變化等因素及幼兒的興趣及關心點、發展的實施情況等設定。

ㄨ 環境是為了讓具體目標達成所建構。幼兒在此環境下進行各式各樣的活動，獲得各種必要生活經驗。此時，需注意幼兒的生活情況及想法，讓其環境更加適合。

ㄨ 幼兒所進行的具體活動，要注意到生活中各種變化的事物，對於幼兒希望從事的活動給予提供適當的協助。

對於配合幼兒的實際狀況進行指導的過程，需進行適當的反省與評鑑，而改善指導計劃。

(3)幼兒的生活，從剛入園時一人單獨的遊戲，及與老師遊戲互動中慢慢熟悉幼稚園生活，漸進入安定時期，不久會與同儕共同活動，而拓展幼稚園生活，因此需配合各時期進行適合的活動。初入園時，特別是三歲入園的幼兒，與家庭間聯結仍密切，需考量到生活作息的規律性及安全性。再者，若是為被認定幼兒園的幼稚園時，則需考量到入園前應該在認定幼兒園中生活經驗。

認定的幼兒園：

為關於促進對於就學前孩子進行綜合性教育及保育的相關法律(平成 18 年法律第 77 號)第 6 條第 2 項規定中所述之認定幼兒園

(4)幼兒透過與多樣化的人事物接觸，多樣化的體驗，進而促進其身心發展協調。考量到讓孩子的心有所感的體驗活動，會發展為下一個活動，因此需注意到每一個活動間的連結，充實幼稚園生活。

(5)從長時間發展的年、學期、月等範圍之指導計畫，與以此有相關連而規劃週、日的指導計畫，以進行適當的指導內容。尤其是在週、日的指導計劃方面，需考量幼兒生活的步調，讓具有幼兒的意識及興趣的連貫性的活動相互自然地融入到幼稚園生活中。

(6)幼兒的活動，有個人、團體、學年全部等多樣化形態，無論是那一種情況，幼稚園全體

幼兒期時能有適合的生活，並獲得必要之生活經驗，具體的規劃出來的東西。

(2)指導計劃完成後，需依據以下所示，設定具體的目標及內容，建構適當的環境，選擇活動及進行。

ㄇ 具體的目標及內容是在觀察在園中生活的幼兒發展過程，考量其連貫性、季節變化等因素及幼兒的興趣及關心點、發展的實施情況等設定。

ㄨ 環境是為了讓具體目標達成所建構。幼兒在此環境下進行各式各樣的活動，獲得各種必要生活經驗。此時，需注意幼兒的生活情況及想法，讓其環境更加適合。

ㄨ 幼兒所進行的具體活動，要注意到生活中各種變化的事物，對於幼兒希望從事活動給予提供適當的協助。

對於配合幼兒的實際狀況進行指導的過程，需進行適當的反省與評鑑，而改善指導計劃。

(3)幼兒的生活，從剛入園時一人單獨的遊戲，及與老師遊戲互動中慢慢熟悉幼稚園生活，漸進入安定時期，到幼稚園生活的拓展，需有配合各時期進行適合的活動。初入園時，特別是三歲入園的幼兒，與家庭仍聯結密切，需考量到生活作息的規律性及安全性。

(4)從長時間發展的年、學期、月等範圍之指導計畫，與以此有相關連而規劃週、日的指導計畫，以進行適當的指導內容。尤其是在週、日的指導計劃方面，需考量幼兒生活的步調，讓具有幼兒的意識及興趣的連貫性的活動相互自然地融入到幼稚園生活中。

(5)幼兒的活動，有個人、團體、學年全部等多樣化形態，無論是那一種情況，幼稚園全體

的老師須要共同協力完成，為滿足每一位幼兒的興趣及需求進行適當的協助。

- (7) 為促進以幼兒為中心的活動，教師需扮演多重角色，了解者，共同作業等，為讓幼兒在發展上獲得所需的經驗，對於活動時要能進行適當的指導。
- (8) 幼兒的生活，以家庭為基礎，透過社區等擴展，與家庭做密切的結合，在幼稚園生活中，保持家庭及社區的連貫性。積極利用地區的自然環保、人力資源、例行活動、公共設施等地區的資源，規劃獲得豐富的生活經驗。再者，在與家庭合作時，需經由提供與家長間的資訊交流的機會及親子間活動的機會，加深家長們對幼兒期教育的理解。
- (9) 幼稚園教育是小學教育以後的生活及學習的基礎，透過幼兒期多元化的生活，培養創造性思考及主動積極的生活態度。

2 特別注意事項

- (1) 在進行安全教育指導時，謀求情緒的安定，在遊戲當中學習對狀況的應對及機靈地自活動自己的身體，能知道危險的場所及事物，加深對於安全的理解。再者，在培養交通安全的習慣的同時，進行遇到災害等緊急事件時，適當的防災行動訓練。
- (2) 在特殊幼兒的指導部分，考量到要讓他們在團體共同生活中促進全體性的發展，同時又多加運用特別支援學校的建議及援助，及在家庭、醫療、社福機構等業務機關的協助下，進行個別性的指導計畫。配合幼兒的障礙類型，有計畫及組織地安排指導內容及方法。
- (3) 為培養幼兒的社會性及豐富的人際關係性，依據社區及幼稚園的實際情況，積極地建立與特殊學校等，有身心障礙兒童有共同活動交流機會。
- (4) 進行例行活動的指導時，在幼稚園生活中自然地進行，給予生活的變化及潤飾，讓幼兒主動地快樂活動。再者，對於那些的例行活動的實施做檢討，精選適合且不會造成幼兒負擔的活動。
- (5) 讓幼稚園教育及小學教育圓滑地銜接，需提供幼兒與小學生有交流機會，幼教老師與小學老師彼此意見交換及共同研究的機會。

的老師須要共同協力完成，為滿足每一位幼兒的興趣及需求進行適當的協助。

- (6) 為促進以幼兒為中心的活動，教師需扮演多重角色，了解者，共同作業等，為讓幼兒在發展上獲得所需的經驗，對於活動時要能進行適當的指導。
- (7) 幼兒的生活，以家庭為基礎，透過社區等擴展，與家庭做密切的結合，在幼稚園生活中，保持家庭及社區的連貫性。積極利用地區的自然環保、人力資源、例行活動、公共設施等，規劃獲得豐富的生活經驗。
- (8) 幼稚園教育是小學教育以後的生活及學習的基礎，透過幼兒期多元化的生活，培養創造性思考及主動積極的生活態度。

2 特別注意事項

- (1) 在進行安全教育指導時，謀求情緒的安定，在遊戲當中學習對狀況的應對及機靈地自活動自己的身體，能知道危險的場所及事物，加深對於安全的理解。再者，在培養交通安全的習慣的同時，進行遇到災害時，適當的防災行動訓練。
- (2) 對於特殊狀況的幼兒的指導，需與家庭及專門機構相互配合，透過在團體共同生活中促進全體的發展同時，對於障礙的種類、程度等做適切地考量。
- (3) 為培養幼兒的社會性及豐富的人際關係性，依據社區及幼稚園的實際情況，積極地建立與盲人學校、聾啞學校、養護學校等，有身心障礙兒童交流機會。
- (4) 進行例行活動的指導時，在幼稚園生活中自然地進行，給予生活的變化及潤飾，讓幼兒主動地快樂活動。再者，對於那些的例行活動的實施做檢討，精選適合且不會造成幼兒負擔的活動。

第2 於正常教育課程時間外實施之教育活動之 實施注意事項

1 依據社區的情況及保護者(家長們)的需求,對於教育課程的時間結束後,以希望者(自願者)為對象進行的教育類活動,要考量幼兒身心的負擔及注意以下事項:

- (1) 考量以教育課程為基礎的活動,在幼兒期提供適合的活動,同時需與教育課程負責的教師做密切的合作。
- (2) 考量到家庭及地區的幼兒生活情況,以規劃課後教育活動時,可善用地區資源,提供多樣化體驗活動。
- (3) 為與家庭充分的聯繫。要提供家長資訊交流機會,提升家長與幼稚園的育兒相關意識。
- (4) 配合地區及家長們情況及幼兒生活作息情形,如在實施日數及時間等,做彈性化運用。
- (5) 重整適當的指導體制,在幼稚園教師的責任與指導下進行

2 幼稚園的經營時,要提供育兒方面的支援,要對家長及地區的民眾開放園中設施,且進行園內體制的規劃及相關機構的聯繫,辦理幼兒教育相關講座,提供將關情報資訊,接受幼兒及家長共同來園,提供家長們之間交流的機會,朝向成為地區中的幼兒教育中心的角色而努力。

(5) 幼稚園的運營,要提供育兒方面的支援,開放設施提供社區民眾使用,辦理幼兒教育相關講座,致立於成為地區的幼兒教育中心。

(6) 依據社區的情況及保護者(家長們)的需求,對於教育課程的時間結束後,以希望者(自願者)為對象進行的教育類活動,規劃提供適當的指導的同時,要以第一章所說明之幼稚園教育的基本及目前為前提。同時,實施時也要考慮其與教育課程基本的關連性、考量幼兒身心的負擔、與家庭的聯結等。

日本幼稚園教育要領 (英文版)

翻譯：鈴木正敏

National Curriculum Standards for Kindergartens

(Announced on March 28, 2008: Revised and added parts since the 1998 version are indicated in underline)

Chapter 1 General Provisions

1. Basic Ideal of Kindergarten Education
2. Formulation of Curriculum
3. Educational Activities during Extra Curricular Hours

Chapter 2 Aims and Contents

Health
Human Relationships
Environment
Language
Expression

Chapter 3 Points for Consideration in the Formulation of Instruction Plans and Educational Activities during Extra Curricular Hours

Chapter I General Provisions

I. Basic Ideal of Kindergarten Education

Education during early childhood is extremely important in cultivating the foundation of lifelong character building, and the basic ideal of kindergarten education is to educate young children through their environment, taking into consideration the special characteristics of early childhood, in order to achieve the objectives stipulated in Article 22 of the School Education Law.

For this purpose, teachers must endeavor to construct a relationship of trust with young children, and to create a better educational environment with the children. In this regard, the following points should be emphasized in practice of education.

I To encourage children to undertake voluntary activities and to allow a life appropriate to early childhood, based on the consideration that young children utilize experiences essential to their development through fully demonstrating their abilities in an emotionally stable manner.

2 To comprehensively achieve the aims outlined in Chapter 2, through the instruction centered around play, based on the consideration that play, as voluntary activities of children, is an important aspect of learning which cultivate foundation of a balanced mind and body development.

3 To aim instruction at achieving developmental task while responding to the individual characteristics of each child, based on the consideration that early childhood development is achieved through a diverse process, through intercorrelations among various aspects of the mind and body, and that the life experiences of each child are diverse.

In that case, the environment should be created with the intention of ensuring voluntary activities among children, based on an understanding and anticipation of the individual actions of each child. Teachers should therefore create a physical and psychological environment in view of the importance of the relationship between a child and other people, and things. Teachers should also play various roles in responses to the situations of individual child's activities and should strive for making activities more enriching.

(The following section is deleted and merged into the General Provisions and Formulation of Curriculum.)

*****Deleted from here*****

2. Goals of Kindergarten Education*

Education during early childhood is extremely important in cultivating the foundation of lifelong character building, while working in cooperation with the home. Kindertartens should endeavor to develop the foundation of a zest for living through achieving the goals of kindergarten education stipulated in Article 78 of the School Education Law, and through providing a kindergarten life consistent with that provided in the Basic Ideal of Kindergarten Education.

(1) To cultivate the foundation of mind and body well-being through providing the basic life style habits and attitudes required a healthy, safe, and happy life.

(2) To cultivate simultaneously independent and cooperative attitude and a growing sense of morality through developing affection and trust towards others.

(3) To cultivate an enriched emotion and the growing ability to think through developing interest and curiosity in things surrounding them, such as nature.

(4) To cultivate language awareness and enjoyment in speaking and listening through developing interest and curiosity in language used in everyday life.

(5) To enhance rich creativity through developing feelings enriched by diverse experiences.

*****Deleted to this point*****

2. Formulation of Curriculum

While working in cooperation with the home, kindergartens should endeavor to develop the foundation of a zest for living through achieving the goals of kindergarten education stipulated in Article 23 of the School Education Law, and through providing a kindergarten life consistent with that provided in the Basic Ideal of Kindergarten Education, stated in Section I of this Chapter. Through this, kindergartens should cultivate the foundation of compulsory education and later education.

Based on the above, each kindergarten should maintain its originality, and formulate a curriculum appropriate to young child's development of mind and body and to the context of the kindergarten and its local community, in accordance with the Basic Education Law, School Education Law, and the National Curriculum Standards for Kindergartens provided.

1 Kindergartens should develop specific aims and contents taking into consideration to the period of education, the experiences of children and the process of child development, in order for the aims outlined in Chapter 2 to be comprehensively achieved throughout a kindergarten life. Kindergartens should take measures based on long-term perspectives, from entry into and departure from kindergartens, so that children may experience a fruitful life, in particular, taking into consideration the special characteristics of early childhood development in which children acquire the growing sense of individual identity, the existence of others and self-control.

2 The minimum number of weeks per year of kindergarten education should be 39, except under special circumstances.

3 Kindergartens should provide education a standard four hours per day concerning the curriculum. They should, however, give appropriate consideration to various circumstances, such as the levels of children's development of mind and body and the season of the year.

3. Educational Activity after the Standard Hours Concerning the Curriculum

Regarding educational activity after the standard hours concerning the curriculum, according to the circumstances of the local community or needs from parents/guardians, kindergartens should carry out such activities based on the Basic Ideal of Kindergarten Education, stipulated in Article 22 and 23 of the School Education Law and Section I of this Chapter. In addition, kindergartens should support education in early childhood at home and in the local community to make the lives of young children fruitful as a whole, including lives at home and in the local community.

Chapter 2 Aims and Contents

This Chapter describes the Aims of kindergarten education, which center on nurturing the emotion, will, and attitude as foundation of a zest for living expected to be developed by the time children leave kindergartens. The Contents indicate as follows developed by integration of aspects of each child's development: an area of "Health," concerning health of mind and body, an area of "Human Relationships," concerning the relationship between a child and other people, an area of "Environment," concerning children's surroundings, and relationship with them, an area of "Language," concerning the development of acquiring language, and an area of "Expression," concerning feelings and expression.

Consideration should be given so that the aims indicated in each area are steadily realized in an interrelated manner as children carry out various experiences through their kindergarten lives, and that this content is instructed in a comprehensive manner through the specific activities which are developed in relation to the environment provided to children.

When there is a particular necessity to do so, appropriate, and specific contents can be creatively developed based on the aims indicated in each area, and there is no problem in making additions as long as careful attention is given to ensuring that this does not deviate from the ideas indicated in Basic Ideal of Kindergarten Education, stated in Section I of this Chapter.

Health

(Developing a healthy mind and body, and fostering the individual ability to maintain a healthy and safe life.)

I. Aims

(I) To act lively and freely and to experience a sense of fulfillment.

- (2) To fully move the body and to exercise willingly.
- (3) To acquire the habits and attitudes necessary for a healthy and safe life.

*2. Contents *

- (1) Communicating with teachers and friends, and acting with a sense of stability.
- (2) Moving the body fully through engaging in various kinds of play.
- (3) Playing outdoors willingly.
- (4) Becoming familiar with various activities and engaging with joy.
- (5) Enjoying eating with friends and teachers.
- (6) Acquiring a healthy pattern of life.
- (7) Maintaining cleanliness and becoming self-efficient in activities essential to life, such as changing clothes, eating, and using the bathroom.
- (8) Understanding the ways of life in the kindergarten, organizing the life space of kindergarten without adult assistance, and behaving with a prospect.
- (9) Acquiring curiosity in one's health and carrying out activities willingly necessary for preventing illness.
- (10) Understanding where danger is, what dangerous play is, and how to act in case of catastrophe, and to take actions with regard to safety.

3. Dealing with the Contents

It is necessary to note the following points in terms of dealing with the "Health" contents.

- (1) Given that there is a close mutual relationship between mind and body health, teachers should promote flexible development of mind and body of children based upon the children's experience of self-existence and fulfillment acquired through warm relationships with teachers, and other children. Particularly, children should experience comfort of moving their bodies, and develop motivation to move their own bodies.

(2) Teachers should develop in children their joy towards moving their bodies, their knowledge of safety, and their desire to maintain their health by promoting, through various play, movements using the whole body in accordance with children's interests, curiosity and abilities.

(3) Children should be encouraged to expand their interests and curiosity to outdoors, through consideration to the fact that the development of bodily functions are fostered by free physical activity while playing in a natural environment. In doing this, teachers should creatively design playgrounds and placement of playground equipment taking into consideration children's patterns of movement.

(4) Because it is important to form desirable eating habit in order to healthy body and mind, with consideration for actual children's eating patterns, teachers should develop in children their joy of eating with other children and teachers in the congenial atmosphere, their interest in various kinds of food, and motivation for eating.

(5) In terms of development of basic and necessary life habits, with consideration for life experiences at home, teachers should guide children to acquire the habits necessary to life through fostering self-reliance and developing voluntary activities while at the same time maintaining the importance of relationships with other children.

***Human Relationships ***

(Developing self-reliance and fostering the ability to communicate with others in order to associate with and support others each other.)

***I. Aims ***

(1) To enjoy kindergarten life and to experience a sense of fulfillment in acting by oneself.

(2) To be familiar with close others, to deepen the relationship with them, and to develop affection and trust.

(3) To acquire habits and attitudes considered desirable in social life.

***2. Contents ***

(1) Experiencing the enjoyment of spending time together with teachers and friends.

- (2) Thinking independently and acting independently.
- (3) Doing what is possible independently.
- (4) Having the willingness to accomplish things while experiencing various kinds of play.
- (5) Experiencing enjoyment and sadness together through establishing active relationships with friends.
- (6) Telling friends one's thoughts and understanding what friends are thinking.
- (7) Understanding the strength of friends and experiencing the enjoyment of doing things together.
- (8) Through activities with friends, finding a common purpose, devising or cooperating for the activity.
- (9) Understanding what good and bad are, and thinking those, when acting.
- (10) Deepening relationships with and being compassionate toward friends.
- (11) Understanding the importance of and observing rules in leading an enjoyable life with friends.
- (12) Taking care of common play equipment and apparatuses, and sharing their use among everyone.
- (13) Becoming familiar with various people who are deeply involved in children's lives, such as the elderly and others in the community.

3. Dealing with the Contents

It is necessary to note the following points in terms of dealing with the "Human Relationships" contents.

- (1) Considering the fact the securing an individual life supported by relationships of trust with the teachers serves as foundation for human relationships, appropriate support should be provided to children by watching over their actions in order to encourage them to experience a wide range of emotions through their individual approaches to their environment and to experience a sense of fulfillment doing things of themselves through trial and error.

(2) Given that the voluntary activities of children are enhanced and enriched through relationships with others and that children recognize the necessity of each other through such relationships, teachers should foster in children the ability to relate with others while forming a group in which each member of the group is valued. Particularly, teachers should let children to demonstrate his/her ability, to be recognized by teachers or other children, and to behave with confidence.

(3) In order to let children to deepen their relationship and to cooperate with each other in playful activities, teachers should develop in children their ability of taking actions by themselves, and should try to provide children with joy of realizing their common purpose or of expanding activities with other children after repeated trial and error.

(4) In order to encourage children to cultivate a growing sense of morality, they should be encouraged to form basic life style habits, to understand the existence of others in their relationships with other children and to respect their friends. Also, teachers should encourage children to develop enriched emotions through close contact with the nature, animal, and plant life which surrounds them, and special considerations should be given to the fact that children develop gradually trust and compassion toward others by experiencing, then learning how to overcome, altercations and setbacks.

(5) Considering that children deepen relationship with others and develop sense of moral precepts through their group lives, teachers should develop children's ability to assert their opinions, to compromise with others, to notice the needs for rules, and to control one's own feelings.

(6) Teachers should encourage children to develop a closeness with the elderly and others in the community, and to experience the enjoy of relating with people and the pleasure of making contributions through facilitating experiences of associating with those who involve in children's lives, of enjoying expressing feelings and wishes, and of empathizing. Teachers should also develop in children, through daily experiences, the acknowledgement of parents' and grand parents' love and the will to appreciate and respect their families.

Environment

(Fostering children's ability to relate with the environment with curiosity and inquisition, and to incorporate them daily life.)

I. Aims

(1) To develop interest and curiosity towards various kinds of things and experiences

around them through having a sense of familiarity with their surrounding environment and contact with nature.

(2) To involve in their surrounding environment, and to enjoy making and thinking about discoveries, incorporating them into their lives.

(3) To enrich children's understanding of the nature of things, concept of quantity and numbers, and written words, etc. through observing, thinking about and dealing with surrounding things and experiences.

2. Contents

(1) Leading a life in close contact with nature, being aware of its grandeur, beauty and wonder.

(2) Having contact with various things in their lives and developing an interest and curiosity in the nature and organization of those things.

(3) Realizing the changes in nature and in people's lives in accordance with season.

(4) Developing and incorporating an interest in things surrounding them, such as nature.

(5) Acknowledging the importance of life, appreciating and respecting it through experiences of becoming familiar with surrounding animals and plants.

(6) Treating surrounding things with care.

(7) Developing an interest in surrounding things and play equipment, and through thinking about them, coming up with creative ways to make the best use of them.

(8) Developing curiosity about the concept of quantity and numbers and diagrams in everyday life.

(9) Developing curiosity about simple signs and written words in everyday life

(10) Developing curiosity about information and facilities with play an important role in their lives

(11) Being familiar with the National Flag and all its functions inside and outside the kindergarten.

3. Dealing with the Contents

It is necessary to note the following points in terms of dealing with the “Environment” contents.

(1) Teachers should place importance on a process through which children can learn to think for themselves, by maintaining a relationship with their surrounding environment in play, then developing curiosity in their surroundings, facilitating concern in significance and process and recognizing the rules and codes of things around them. Particularly, children should be exposed to other children’s ideas, should enjoy thinking and creating new ideas, and should develop their willingness to think for themselves.

(2) Teachers should devise processes whereby children can deepen their relationship with nature, given that the foundation of enriched emotion, curiosity, ability to think and expressiveness is cultivated through the experience of coming into direct contact with the grandeur, beauty and wonder of nature, which is very important to them during early childhood.

(3) Children should be encouraged to develop a willingness toward involving themselves voluntarily with nature through conveying to others and sharing with each other their emotions about things and experiences, animals and plants surrounding them. This should be done in such a way that through these various relationships, children can foster a feeling of attachment and sense of awe toward these things, a respect for life, a spirit of social responsibility and inquisitive mind.

(4) Children should be encouraged to place importance on their experiences based on the necessities of their own lives, so that interest, curiosity and feelings of understanding the concept of quantity and numbers, and written words can be fostered.

Language

(Developing the will and attitude to express what one experienced and thought in one’s own words verbally and to listen to others’ spoken words, and fostering the understanding in and ability to express language.)

I. Aims

(1) To experience the enjoyment of expressing their feelings in one’s own words.

(2) To listen to other people's language and conversation, to verbalize what one experienced and thought, and to experience the pleasure of communicating with each other.

(3) To understand language necessary to everyday life, to be familiar with picture books and stories, and to communicate their feelings with teachers and friends.

2. Contents

(1) Developing an interest and curiosity in the language and conversation of teachers and friends, and listening and speaking in a friendly manner themselves.

(2) Expressing in one's own words what one sees, hears, feels, thinks, etc.

(3) Expressing verbally what one wants or wants someone to do, and asking when one does not understand.

(4) Paying attention to what people are saying, ensuring that the person with whom one is talking to can understand them.

(5) Understanding and using words essential to everyday life.

(6) Greeting people daily in a friendly manner.

(7) Recognizing the enjoyment and beauty of language in daily life.

(8) Enriching images and language through various experiences.

(9) Being familiar with picture books and stories, listening with interests, experiencing the enjoyment of imagination.

(10) Experiencing the enjoyment of conveying thoughts and feelings using written words, etc., in everyday life.

3. Dealing with the Contents

It is necessary to note the following points in terms of dealing with the "Language" contents.

(1) Considering the fact that people are able to acquire languages gradually by interacting with each other allowing them to convey their emotions and intent and

listen to the responses of others, children should be encouraged to feel and experience the enjoyment of speaking language through relationship with teachers and other children.

(2) Teachers should encourage children to be able not only to express their feelings and ideas, but also to listen carefully to teachers or other children with great interest, and to understand stories, so that children can communicate verbally.

(3) Teachers should encourage children to create enriched images and foster understanding of language through fully experiencing the enjoyment of relating the contents of picture books, stories, etc., with their own experiences and using their imagination.

(4) Teachers should encourage children to experience the pleasure and enjoyment for conveying thoughts and feelings through written words, etc., and to develop interest and curiosity in written words in everyday life.

Expression

(Developing enriched feelings and the ability to express oneself, and enhancing creativity through expressing in one's own words what one experienced and thought.)

1. Aims

(1) To develop enriched feelings toward the beauty and other qualities in various things.

(2) To enjoy expressing what one feels and thinks in one's own ways.

(3) To enjoy expressing in various ways as enriching images in life.

2. Contents

(1) Enjoying through recognizing and feeling the various kinds of sounds, colors, forms, texture and movements in life.

(2) Coming into contact with beauty and things which move people emotionally in life, and creating enriched images.

(3) Expressing joy of communicating what one was impressed about among various events.

- (4) Expressing feelings and thoughts by the media such as making sounds and movement, and drawing, painting, and making things freely.
- (5) Being familiar with various materials and making use of them creatively in play.
- (6) Being familiar with music, and expressing the enjoyment of singing and using simple rhythmical instruments.
- (7) Enjoy drawing, paintings and creating things, and using them in play and decorations.
- (8) Experiencing the enjoyment of expressing their own images in words and movements, performing, and playing.

3. Dealing with the Contents

It is necessary to note the following points in terms of dealing with the “Expression” contents.

- (1) Enriched feelings of children should be fostered by encountering beautiful and excellent things, and things which move the children emotionally while having rich interaction with their surrounding environment, such as nature, and by sharing their impressions gained by the experience with other children and teachers, and further by expressing in various ways.
- (2) As children’s self-expression is carried out in a simple manner, teachers should encourage children to enjoy expressing themselves in various childlike ways in their lives, by being receptive to these expressions and by acknowledging the willingness of the children to express themselves.
- (3) In accordance with life experiences and development of individual, teachers should provide play equipment and apparatus for children to enjoy expressing themselves in various kinds of ways and to enable the children to exercise fully their intention to express themselves, through providing opportunities for children to be exposed to other children’s ideas, and minding process of children’s expression.

Chapter 3 Points for Consideration in the Formulation of Instruction Plans and Educational Activities during Extra Curricular Hours

I. Points for Consideration in the Formulation of Instruction Plans

Kindergarten education aims to achieve its goals through promoting concrete activities which are generated by young children who engage in their environment enthusiastically.

In view of this, kindergartens should formulate balanced systematic and constructive instruction plans, and conduct instruction which is flexible and child-centered, in accordance with the following points, in order to ensure that kindergartens develop life and conduct instruction appropriate for young children.

I General Points of Consideration

(1) Instruction plans should be formulated in concrete ways in order for each child to practice appropriate to early childhood, and to gain experiences necessarily in accordance with development of child.

(2) In terms of formulating instruction plans, activities should be allowed for choice and practice through setting concrete aims and contents based upon the outlines below, and through creating an appropriate environment.

a) Concrete aims and contents should be established in response to interest and curiosity of children and their process of development, grasping the process of continuity of development of children in kindergarten life, and with consideration of the continuity of children's lifestyles, changes in season, etc.

b) An appropriate environment should be formulate to achieve concrete aims, and to enable children to gain experiences they need as developing various activities through their individual active involvement in the environment. Importance should be placed on the aspects of life and imagination of children, and this environment should be appropriately maintained at all times.

c) Concrete activities undertaken by children should be provided necessary support for children to develop their own activities toward favorable direction with taking consideration that these activities could have changed in various ways through the course of their lives.

Kindergartens should conduct appropriate review and evaluation of the instructing process with reference to children's conditions and changes in surrounding situations, and make continuous improvements of instruction plans.

(3) Life of early childhood should be practiced ensuring appropriate for every period during the time taking into consideration the various processes that from the period which children become familiar with and secure about kindergarten life through playing alone and interacting with teachers to the period when they develop and

deepen their kindergarten life having aims with their friends. Special consideration regarding children entering kindergarten, in particular, at the age of three should be given regarding close cooperation with homes, and pattern of life and safety. Also, kindergartens which are authorized as Center for Early Childhood Education and Care (Nintei Kodomo En; stipulated Section 2 of Article 6 in the Law for Center for Early Childhood Education and Care, 2007) should take consideration of their prior life experience in the Center before entering the kindergarten program.

(4) Teachers should support children to have various experiences through variety of people and objects, and to develop their body and mind in harmony. Recognizing that children's heart-moving experience will bring about their new activities, each experience should be inter-connected with each other so that children's lives in kindergarten become rich and fruitful.

(5) Appropriate instructions should be carried out based upon by formulating the long-term instruction plans that have both yearly, periodical, and monthly plans overseeing long-term activities, and short-term, such as weekly and daily plans response to the life of children having with relationship with the long-term ones. In particular, consideration should be given to children's pattern of life in the formation of daily and weekly instruction plans so that activities geared to the continuation of children's awareness and interest can be mutually related and addressed within the natural flow of kindergarten life.

(6) Activities practiced by children are developed in diverse ways including individual, group, and whole class activities. Yet, while creating a cooperative system among kindergarten teachers as a whole, appropriate assistance should be provided to ensure that the interests and desires of the each child are fully satisfied.

(7) In view of the fact that it is important for teaches to have diverse ways of involvement to encourage children's voluntary activities, teachers should play various roles, such as those of a person who understands children and a co-worker, and conduct instruction appropriate to each activity so that the enriched experiences necessary for the development of children can be attained.

(8) It should be noted that children's lives are broadened through the local community, with the home as the foundation, and should be developed while kindergarten life is maintaining continuity with the home and community through such areas as full cooperation with the home. The regional resources such as nature, human resources, events, public facilities, etc. should be actively utilized, and creative measures should be taken so that children can experience an enriched lifestyle. Also, regarding cooperation with families, kindergartens should provide opportunities for parents/guardians to exchange information with kindergartens, or to participate in activities together with children so that they can deepen their understandings of early

childhood education.

(9) Consideration should be given to the fact that kindergarten education is connected to developing a foundation for lifestyle and learning in and after elementary school, and a foundation including creative thinking and an attitude for voluntary activities should be cultivated through a life suited to early childhood.

2 Points for Special Attention

(1) With regard to safety-related teaching, kindergartens should encourage children to maintain their emotional stability, to acquire through play the ability to move their bodies in an agile manner, to learn about dangerous places and things, to enhance their understanding about safety. Kindergartens should also develop children the convention of traffic safety, while conducting drills which promote appropriate action during emergency such as the time of catastrophe.

(2) With regard to instructing children with disabilities, recognizing that children develop as a while through living in a group, teachers should develop instructional plans and methods tailored to conditions of each child with special needs premeditatedly and systematically; for example, through developing individual education plans for daily instructional plans or for support children in cooperation with parents and professionals of relevant organizations, such as medical or welfare institutions, utilizing suggestions and supports by special support schools.

(3) In order to foster children's social awareness and enrich their humanity, consideration should be given to establish positively opportunities for participating in activities together with children with disabilities from institutions such as special support schools in accordance with the conditions of community and kindergartens.

(4) With regard to the instruction of events, variety and enrichment for life within the natural flow of kindergarten life should be fostered, so that children can voluntarily and enjoyably conduct activities. However, the educational value of individual event should be carefully reviewed and appropriate methods carefully selected to ensure for children not to feel overwhelmed.

(5) For smooth transition from kindergarten education to elementary school education, teachers should provide opportunities of cross-age interaction activities for children in kindergarten and elementary school, or formulate joint in-service training sessions or meetings for exchange opinions between teachers of kindergarten and elementary school, so that collaboration between kindergarten and elementary school can be promoted.

2.Points for Consideration in Educational Activities during Extra Curricular Hours

1 Addressing the needs of parents and community, educational activities provided by kindergarten during extra curricular hours to those who with such services should be conducted with regard to exhaustion of children's mind and body. Also, the following points should be considered.

(1) Considering activities in the regular curricular hours, educational activities during extra curricular hours should be appropriate and reasonable for early childhood. Staff members who are responsible such activities should communicate closely with teachers of regular curricular activities.

(2) Considering children's lives at home and in local community, kindergarten should plan for educational activities during extra curricular hours. Teachers should provide various experiences for children, while utilizing a variety of local resources.

(3) Kindergarten should keep close cooperation with families. For example, with providing opportunities for parents to exchange information, kindergarten should let parents to have consciousness that they would raise children with kindergarten.

(4) Considering conditions of parents and community as well as life styles of children, kindergarten should flexibly manage, for instance, time and days for educational activities during extra curricular hours.

(5) Educational activities during extra curricular hours should be conducted under instruction and responsibility of kindergarten teachers after preparing appropriate instructional system.

2 To support child-rearing practice, facilities and functions of kindergarten should be opened up to the community, playing the role of children's education centers in the local community through various activities, such as giving consultation related to early childhood education, supplying information, allowing parents to come into kindergarten with children, or providing opportunities for parents to communicate with each other, while coordinating staffs and facility of kindergarten and collaborating with other related institutions.



相關資料網站連結…

- ◆ 幼稚園の教育内容等—文部科学省（日本）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/07121722.htm
- ◆ 厚生労働省：子ども・子育て：保育関係（日本）
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku.html>

「**幼兒園教保活動與課程大綱**」
的發展與理念

幸曼玲
台北市立教育大學
幼兒教育學系

1

我國**幼稚園課程標準**的修訂歷史

- 民國18年(1929)頒布「**幼稚園暫行課程標準**」
- 民國21年(1932)「**幼稚園課程標準**」--1st 修訂(2 ys)
- 民國25年(1936)「**幼稚園課程標準**」--2nd 修訂(4 ys)
- 民國34年(1945)「**幼稚園課程標準**」
- **民國42年(1953)「幼稚園課程標準」--3rd 修訂(17 ys)**
 - 教育部普通教育司
 - 強調「**知能訓練**」和「**生活訓練**」
 - 將「**遊戲**」、「**音樂**」列科，強調保育重於教育

2

- **民國63年(1974)「幼稚園課程標準」--4th 修訂(21 ys)**
 - 將「**知能**」融入「**生活**」中
 - 健康(生活)、遊戲(生活)、音樂(生活)、工作(勞動生活)、語文(生活)、常識(科學生活)
 - 於各項課程活動中，接受該項生活教育
- **民國76年(1987)「幼稚園課程標準」--5th 修訂(13ys)**
 - 1981幼稚園教育法公佈
 - 1981委託「**幼稚園科學教育實驗研究**」為修訂課程之基礎
 - 修訂幼稚園教育目標目標
 - 健康、遊戲、音樂、工作、語文、常識

3

6th 修訂的背景

- 台灣幼兒教育的發展與轉變---民國76(1987)課程標準
- 幼稚園和托兒所多年的分立
- 民國86年(1997)前行政院蕭萬長先生於院會中提出「**研議其幼托統合問題**」
- **民國89年(2000)**正式成立跨部會的「**幼教政策小組**」，研擬幼托統合問題
- 民國94年(2005)教育部成立幼教科，有專門人員及經費預算的規劃與編擬
- **民國94年(2005)6.20幼托整合初步結論**：2-6歲歸教育部管轄，稱「**幼兒園**」，預計民98(2009)實施
- 「**研編小組**」民95年一月接受教育部委託

4

歷年來的**相關研究**

- 教育部國教司於民國八十七年所委託之「**幼稚園課程標準修訂研究**」(楊淑朱等人, 1998)
- 民國八十九年的「**幼稚園課程綱要**」專案(黃富順等人, 2000)
- 民國九十二年「**我國五歲幼兒基本能力與能力指標建構研究**」專案(盧美貴等人, 2003)
- 民國九十三年內政部委託「**幼兒園零到五歲幼兒適性發展與學習綱要研究**」(張孝筠等人, 2004)
- 民國九十四年教育部委託「**國民教育幼兒班課程綱要研究**」(盧明等人, 2005)。
- 「**國民教育幼兒班課程綱要之能力指標研究**」(幸曼玲等人, 2005)

5

Timeline of Curriculum Research and Implementation:

- 2000: 成立幼教政策小組
- 2003: 國教向下延伸一年
- 2004: 盧美貴教授專案, 張孝筠教授專案
- 2005: 5月教育高層研擬成立, 06.20 幼托整合初步結論
- 2006: 國民教育幼兒班專案結束
- 2009.6: 前兒照法通過?
- 2009.9-2010.6: 實驗
- 2011年: 課程大綱公告實施?

6

立基點

- 考量過去研究針對民國76年版的「幼稚園課程標準」的意見
- 根據「國民教育幼兒班」的相關研究
 - 國民教育幼兒班課程綱要研究 (盧明等人, 2005)
 - 領域以「學科」區分方式
 - 領域以「發展」區分方式
 - 領域以「生活」區分
 - 「國民教育幼兒班課程綱要之能力指標研究」(李曼玲等人, 2005)
 - 認知、語文、情緒、社會、美感、身體動作
- 根據幼教發展的理念
 - 以兒童為中心
 - 自由遊戲
 - (社會)建構論觀點
- 世界課程發展的趨勢

參與成員 (各領域召集人)

總綱	楊國賜	淡江大學教育政策與領導研究所
	幸曼玲	台北市立教育大學 幼兒教育學系
身體動作	楊金寶	國立台北護理學院 嬰幼兒保育學系
認知	柯華葳	國立中央大學 學習與教學研究所
語文	蔡敏玲	國立台北教育大學 幼兒教育學系
社會	金瑞芝	台北市立教育大學 幼兒教育學系
情緒	簡淑真	國立台東大學 幼兒教育學系
美感	林玫君	國立台南大學 戲劇創作與應用學系

研編小組---總綱組成員

楊國賜	淡江大學教育政策與領導研究所
幸曼玲	台北市立教育大學 幼兒教育學系
倪鳴香	國立政治大學 幼兒教育研究所
廖鳳瑞	國立台灣師範大學人類發展與家庭學系
簡淑真	國立台灣師範大學人類發展與家庭學系
潘慈玲	國立台灣師範大學人類發展與家庭學系

專業社群的建立與共構

Learning community

研究進程

I	2005.12---2006.6	實徵研究工具設計, 預試
II	2006.6---2007.2	實徵研究施測、資料分析
III	2007.2---2007.8	實徵研究結果轉換—課程目標與能力指標
IV	2007.6---2007.10	教學活動及評量事例的設計
V	2007.9---2007.11	實施通則, 各領域實施原則
VI	2007.10---2007.12	各領域課程目標與能力指標 專家諮詢會議
V	2007.11---2008.1	各領域間的整合, 與總綱的呼應, 及準備結案

本研究成果共分兩冊

- Book I—**幼兒園教保活動與課程大綱**
(簡稱 課程大綱)
- Book II—**幼兒園教保活動與課程大綱實施說明**
(簡稱 實施說明)

幼兒園教保活動與課程大綱內容架構 (BOOK I)

- 總綱
 - 一、台灣幼兒教育課程的修訂背景及其定位
 - 二、本課程大綱的核心價值
 - 三、幼兒園教育的意義和範圍
 - 四、總目標
 - 五、課程大綱架構
 - 六、基本理念
 - 七、課程規劃
 - 八、實施通則

幼兒園教保活動與課程大綱內容架構(BOOK I)

<ul style="list-style-type: none"> ■ 身體動作領域 <ul style="list-style-type: none"> □ 領域目標 □ 範圍與內容 □ 實施原則 ■ 認知領域 <ul style="list-style-type: none"> □ 內涵與「認知」、「情意」、「技能」的「認知」的差異 ■ 語文領域 <ul style="list-style-type: none"> □ 領域目標 □ 範圍與內容 □ 實施原則 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社會領域 <ul style="list-style-type: none"> □ 內涵與76年版的差異 ■ 情緒領域 ■ 美感領域 <ul style="list-style-type: none"> □ 領域目標 □ 範圍與內容 □ 實施原則
--	--

幼兒園教保活動與課程大綱實施說明 (BOOK II)

- 一、**概念篇**(以問題的方式呈現)
 - 1.理念與特色
 - 2.領域設計理念說明
 - 3.幼兒園家庭與社區的結合
- 二、**活動篇**
 - 甲、六領域統整活動
 - 乙、某一領域統整活動
 - 「**身體動作**」活動與評量示例
 - 「**認知**」活動與評量示例
 - 「**語文**」活動與評量示例
 - 「**社會**」活動與評量示例
 - 「**情緒**」活動與評量示例
 - 「**美感**」活動與評量示例
 - 丙、某單一領域分齡統整活動
- 三、**附件**----修訂過程、與76年版的差異、過去發展史

確定名稱所代表的意義

- 「**幼托整合後 幼兒園 教保活動綱要 及 能力指標 研編小組**」
- **正式名稱的演進**
 - 「**幼兒園教保活動與課程大綱**」
 - 「課程」所代表的意義
 - 「教保」=「教育」和「保育」
 - 「活動」加入的必要性
 - 「**幼兒園教保活動綱要及能力指標**」→
「**幼兒園教保(活動)課程指引**」→
「**幼兒園教保(活動)課程基準**」→
「**幼兒園教保(活動)課程基本大綱**」
→ 「**幼兒園教保活動與課程大綱**」

本課程中幼兒教育的定位

臺北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

本課程大綱的定位---教保機構中的「教育」

- 幼兒園教育非義務教育
- 沒有固定的教科書
- 各個幼兒園也有其獨特的教學取向
- 在尊重幼兒、以幼兒為本位的基礎下
- 幼兒園宜規劃適宜的課程
- 促進幼兒全人發展
- 奠定終身學習的基礎
- 幼兒園屬教保機構兼顧**教育**與**照顧**的內涵
- **透過有計畫、有目的的課程規劃**，實施幼兒學習的內涵
- 「**照顧**」---由「**服務實施準則**」中規劃

19

臺北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

本課程的核心價值

- 在基本人權下，**幼兒有受教的權利**，**幼兒園內課程的建構與運轉需成為確保幼兒全人發展的基石**。
- 課程的實踐需仰賴對**幼兒發展狀態與學習能力的掌握**。
- 幼兒園課程的實踐不只是如何教的問題，它亦是社會文化中「**孩童圖像**」轉化成「**人類圖像**」的建構工程
 - 本課程大綱從**仁人為核心的教育觀**出發，
 - 強調幼兒能力發展與課程實踐間緊密的連結，
 - 並以「**探索挑戰**」、「**表達溝通**」、「**仁愛合作**」、「**獨立自主**」與「**文化實踐**」為其核心價值

20

臺北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

幼兒園教育的意義和範圍 (一)

- **幼兒園教育(機構教育)**
 - 提供幼兒**群體活動**的機會，以支持幼兒學習在**文化社會情境**中生活。
 - 透過教保人員的引導，幼兒不但是要**學習與人相處**，同時也**願意關懷周遭環境**，培養**對週遭人、事、物的熱情與動力**。
 - 此階段教育的範圍不僅限於**幼兒園**，**仍需在與家庭、社區的密切配合下**，達成對幼兒成長的全面關注。

21

臺北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

幼兒園教育的意義和範圍 (二)

- 幼兒園教育以達成「**幼兒教育及照顧法**」規定的目標，根據**二歲到入小學前**幼兒的特性，透過教保情境的安排而實施。
- 在幼兒園中，**教保人員與幼兒間應建立充分的信賴關係**，致力於經營良好的教保環境，以支持或幫助幼兒的成長。
- 且幼兒園是一個多元的社會，教保人員可**提供各種文化實踐**的機會，讓幼兒從自己的文化出發，進而包容、尊重及體認各種文化的價值和重要。

22

臺北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

幼兒園教育的意義和範圍 (三)

- 幼兒園教育不以學科知識的教學為主要目標，而需重視**此階段幼兒獨特的發展任務**，以關注幼兒在認知、語文、社會、情緒、美感及身體動作各方面的成長。
- 然在幼兒進入小學前，**幼兒園宜主動與小學聯繫**，謀求幼兒園與小學間在教育理念與教學方法上的溝通與交流，以促進幼兒園到小學的順利銜接。

23

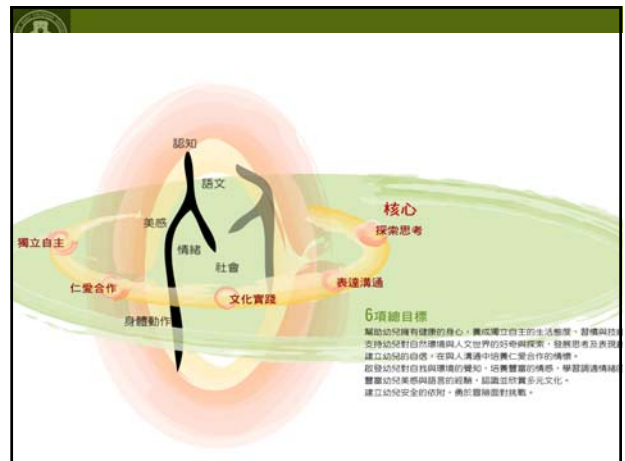
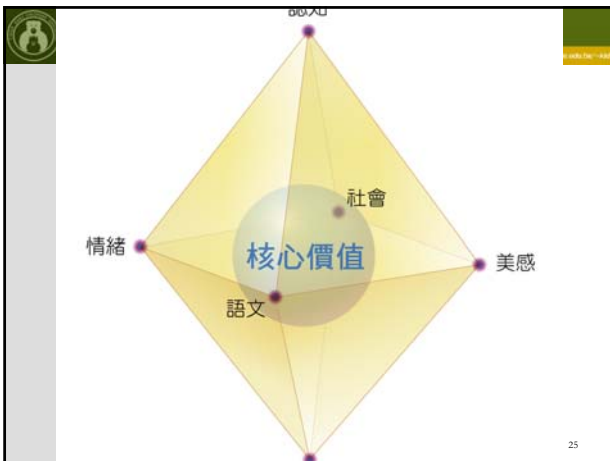
臺北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

總目標

為培養未來自由社會的公民而努力
自由社會的公民當是**重溝通、講道理、能思考、懂合作、有信心、會包容的健康個體**

- 幫助幼兒擁有**健康的身心**，養成**獨立自主(動盪)**的生活態度、習慣與技能。
- 支持幼兒對自然環境與人文世界的**好奇與探索**，發展思考及表現創意。
- 建立幼兒的**自信**，在**與人溝通**中培養**仁愛合作**的情懷。
- 啟發幼兒對自我與環境的覺知，**培養豐富的情感**，學習**調適情緒的表達**。
- 豐富幼兒**美感與語言的經驗**，認識並欣賞**多元文化**。
- 建立幼兒安全的依附，**勇於冒險**面對挑戰。

24



基本理念 (一)

- 本課程大綱之研訂強調幼兒的學習以其主動的本質，而其學習與發展則與其所參與的社會環境息息相關。
 - 瞭解我國幼兒在各年齡的發展狀況
 - 參酌我國社會中人口組成的多元化
 - 了解社會中少子、高齡化現象
 - 東亞社會文化中教育與經濟的高度競爭
 - 目前我國幼兒在生活與學習上已萌現的問題

27

基本理念 (二)

- 我們怎麼看幼兒(幼兒的本質)
 - 幼兒本來就是主動的，對週遭充滿好奇和探索的動力
 - 幼兒本身**浸淫在不同的文化內涵、社會習性和生活經驗中**(勤奮、樸實、圓融、信義、謙卑、仁愛)

28

基本理念 (三)

- 我們怎麼看幼兒的學習(幼兒的學習)
 - 幼兒不斷發問、主動試驗、尋求答案
 - 親身參與，和週遭人、事、物互動，觀察現象，尋求關係，解決問題
 - 透過真實的體驗，以過去經驗為基礎，逐步建構新知識
 - 喜歡遊戲，自發的探索中學習
 - 與同儕、或成人的互動中學
 - **在參與社會文化活動的過程中，幼兒主動解讀訊息**
 - **透過訊息的內化，幼兒重新組合與創造，建構新文化**

29

基本理念 (四)

- 我們怎麼看課程(課程的內容和範圍)
 - 課程是指有計畫的提供幼兒的學習機會，目的在培養幼兒主動學習的基本能力
 - 教保人員隨時觀察幼兒和學習環境的互動而**隨時調整其課程(動態課程)**
 - 提供幼兒統整的學習機會，培養全人的發展
 - 強調美感和情緒領域

30

臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tseu.edu.tw/~444>

基本理念 (五)

- 教保人員是教保情境文化的經營者
- 教保人員是幼兒生活與學習的夥伴
- **教保人員是幼兒學習的引導者**
- 教保人員與家庭應建立夥伴關係

31

臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tseu.edu.tw/~444>

基本理念 (五--1)

- **我們怎麼看教學(教保人員的角色)**
 - **建構溫馨和諧的班級文化，與孩子建立互信關係**
 - 教保人員是班級團體的一分子，參與幼兒的活動，與幼兒一起扮演、一起遊戲
 - 建構合宜的學習環境，提供幼兒直接經驗
 - 提供幼兒嘗試和體驗的機會，給予幼兒真誠的接納和鼓勵
 - 教保人員提供幼兒多樣的**社會文化經驗及自然環境經驗**，範圍從學校、家庭到其生活的社區
 - 教保人員提供與幼兒生活相符合的學習經驗，並協助其統整與歸納
 - 教保人員觀察幼兒的表現，評估幼兒的舊經驗，引導幼兒新經驗與舊經驗的整合與連結。
 - 教保人員提供同儕互動的機會，鼓勵幼兒在與同儕的互動及協商中學習
 - **教保人員與家庭共同建立夥伴關係**，鼓勵家長共同參與幼兒的學習

32

臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tseu.edu.tw/~444>

實施通則 (一)

- 根據課程目標編擬課程計畫，**選擇適宜的教材**，實施統整課程
 - 根據**幼兒園所在地選材**讓孩子探索
 - 選材時須重視文化架構下，流傳在**社會中的文化資產**
- 配合統整課程計畫，**規劃動態的學習情境**，在其中多元的**學習活動**經驗可以開展
 - 充滿意義的學習情境須由教保人員預先規劃，並隨著課程的變動而變動
 - 根據幼兒園所選擇的課程取向規劃學習情境
 - 教保人員須對自己有信心，有身為教保人員的價值感，喜歡幼兒，願意與孩子溝通
 - 對幼兒有敏銳的覺察力，理解每個幼兒存在的價值

33

臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tseu.edu.tw/~444>

實施通則 (二)

- 重視幼兒的**自由遊戲及在遊戲中學習**的價值，提供幼兒能在其中自主地產生探索、操弄與學習的遊戲活動
 - 年齡越低的幼兒越需要自由遊戲的機會
 - 安排情境，讓幼兒有充足遊戲的機會
 - 每天都提供一段充足遊戲的時間
 - 根據學習目標，提供引導性的遊戲
- 嘗試建構**學習社群**，以**分齡、混齡或融合教育**的方式進行，在協同溝通中，延展幼兒的學習
 - 學習社群的意義
 - 異質性團體的意義
 - 體諒、接納、分享、克己、包容

34

臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tseu.edu.tw/~444>

實施通則 (三)

- 教保人員在課程進行中根據目標扮演**多重角色**；並隨時在課程規劃前、課程進行中、和課程進行後**省思自己**
 - 不同的活動中，教保人員扮演的角色不同
 - 隨時的觀察和省思
 - 理解自己對不同文化內涵的認識

35

臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tseu.edu.tw/~444>

實施通則 (四)

- 幼兒園的評量主要在藉由在**幼兒日常的活動中**，持續的收集資訊，定期的整理與分析，瞭解幼兒的能力與學習狀況，規劃接續的課程活動。
 - 持續的收集
 - 定期的整理
 - 評量結果不做同儕間的比較，作為自我進步的參考
 - 多種方法、多重資訊來源收集
 - 根據結果，調整課程
 - 評量是動態的課程

36

臺北市立教育大學幼托課程學系 <http://www.tshu.edu.tw/~444>

實施通則(五)

- 幼兒園到國民小學是幼兒從非正式教育到正式教育的一大轉變。**幼兒園宜主動扮演銜接的角色**，使幼兒有能力適應新的情境
 - 非正式教育到正式教育的轉換過程，其社會關係、社會角色、角色期待、機構的規範不盡相同
 - 主動聯繫小學，以期教育理念和教育方法上的溝通與交流
 - 有計畫性的進行幼小銜接活動，提供幼兒親近新情境，讓國民小學老師了解幼兒
 - 家長為幼兒園與國民小學間相互溝通的橋樑
- 建立**幼兒園、家庭與社區**的網路，經營夥伴關係。透過**社會文化活動**，培養幼兒對在地文化的投入和認同。面對多元的社會，培養幼兒面對、接納和欣賞不同文化的態度。
 - **幼兒園、家庭和社區成為夥伴關係**
 - 教師須辨識與覺察生活情境中的社會文化活動
 - 以實際行動參與社區，以加深幼兒對社群的情感與認同，成為社區文化的參與者和共構者
 - 幼兒園作為促成家庭、幼兒園與社區間社會網路連結的中介

37

臺北市立教育大學幼托課程學系 <http://www.tshu.edu.tw/~444>

此次課程大綱 特色(一)

- 總目標納入本國文化的思維，重視**仁人為核心**的教育觀
- 強調核心價值，為培養**自由多元社會的公民**而努力
- 非以「學科」作為領域的劃分，而以「**能力**」作為領域的區分
- 以幼兒的處理事情的能力為主軸，**串結各領域，進行統整**
- 強調**社會文化**的重要，將孩子的個別差異視為**常態**
- 強調**在地性取材**，規劃課程，進而認同當地文化
- 針對過去研究，提出「**美感**」領域作為孩子學習領域之一
- 針對現代社會需求，強調「**情緒**」能力的培養
- 強調「**課程**」的概念，區別「**課程**」與「**活動**」的區別

38

臺北市立教育大學幼托課程學系 <http://www.tshu.edu.tw/~444>

此次課程大綱 特色(三)

- 強調**動態的課程設計**，**動態的學習情境**，教保人員須根據幼兒的需要隨時調整課程內容和學習情境
- 重視**幼小銜接**，提出銜接的策略
- 以2-3歲、3-5歲和5-6歲**三個年齡層**呈現課程目標與能力指標，但在「實施說明」中提醒教保人員，避免誤用
- **強調教保人員的省思**，強化以幼兒的學習評量作為修正教學的觀念，並提出教保人員省思的面向

39

臺北市立教育大學幼托課程學系 <http://www.tshu.edu.tw/~444>

此次課程大綱 特色(三)

- 出版可供教保人員參考的「**幼兒園教保活動與課程大綱實施說明**」
- 修正過去課程標準的缺失，更清楚規範「**評量**」的方式、情境和內容，並在「實施說明」中舉例說明
- 課程進行時，根據幼兒的發展特性，以「**統整**」方式實施，並在「實施說明」中舉例說明
- 』
- 以**本土的實徵研究**建構課程目標與能力指標
- 由總綱組每月召開「**聯席會議**」，**進行各組的橫向與縱向聯繫**
- 建立**專業的學習社群**

40

臺北市立教育大學幼托課程學系 <http://www.tshu.edu.tw/~444>

結語

- 什麼是高品質的幼兒教育？
 - 老師扮演的角色

41

臺北市立教育大學幼托課程學系 <http://www.tshu.edu.tw/~444>

課程大綱的配套措施

- 針對「**課程大綱**」於各縣市選定種子園，進行**實驗課程相關研究(2009.1---2010.9)**
- 各縣市進行在職教保人員的**實質性的研習**而非**授課性質的研習**
- 針對「**課程大綱**」對「**師資培育**」的機構的課程進行檢視，並**規劃整體培育計畫**。
- **家長手冊的編擬**
- **課程網站的設立**
- Etc.....

42



臺灣幼兒園教保活動與課程大綱～語文組

主講人：蔡敏玲教授


因作者未授權電子檔，恕不提供，請見諒！



臺灣幼兒園課程大綱 ～社會領域

金瑞芝
臺北市立教育大學幼兒教育學系

1




臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.ntue.edu.tw> 444

社會

- 自我領域
 - 主體性的發展:自我概念、自我效能(社會互動及目標達成)
- 他人領域
 - 他人、環境的關連

2



臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.ntue.edu.tw> 444

社會認知歷程

- 覺察社會訊息
- 透過和環境的互動與協商、理解情境意義進而調整行為
- 情意態度的養成


3



臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.ntue.edu.tw> 444

內容範疇	自己		人與人		人與環境	
處理技巧						
探索與覺察						
協商與調整						
愛護與尊重						


4



臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.ntue.edu.tw> 444

- 一、「社會」
 - 幼兒和環境做有意義的互動，適當地處理與運用社會訊息。
- 二、「社會能力」
 - 幼兒能和環境產生有意義互動的能力，其中包含幼兒對自我、他人及其生活環境的敏覺、人際互動和生活經驗的探索、於理解經驗意義後能調整自身行為，並發展愛人惜物的態度。

5



臺北市立教育大學幼兒教育學系 <http://www.ntue.edu.tw> 444

- 三、社會領域課程
 - 幫助幼兒與自己、與他人、與周遭生活環境建立密切的互動關係，讓幼兒感受到自己的存在、他人的存在、以及人我與環境的依存關係，發展自信自處、與他人、環境和諧共處的能力，讓幼兒在厚實、穩定與親愛的社會關係中成長為健全的社會人。

6

臺北國立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tku.edu.tw/~444>

領域目標

- 主動探索自己、他人和環境，覺察自己和他人的異同及與環境的關係。
- 透過協商而理解人我環境的相互影響，並調整自我的行為、與他人互動過程以及與環境的共處方式。
- 體會自我、他人及環境的存在與需要，而能愛護自己、尊重他人與珍惜環境。

7

臺北國立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tku.edu.tw/~444>

範圍與內容

- 幼兒在與自我、與他人、與週遭環境的互動過程中，所需呈現與運用的動態的、過程性的、學習如何社會化的能力，包括：
 - 「探索與覺察」的能力
 - 「協商與調整」的能力
 - 「愛護與尊重」的能力

8

臺北國立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tku.edu.tw/~444>

- 「探索與覺察」
 - 對於自我、他人以及週遭環境感到好奇、有感覺，會主動嘗試探索，願意更仔細的觀察細節，想要去瞭解其中的內容。
- 「協商與調整」
 - 讀取週遭人事物傳出的訊息，注意到自己行為對他人與環境的影響，願意與他人協議和商量，且願意改變和調整自己的行為、與他人互動過程以及與環境的共處方式。
- 「愛護與尊重」
 - 體會與感受自我、他人與週遭環境的存在與共同的需要，愛護自己、尊重他人和珍惜環境，喜歡親近自然，享受與週遭人事物互動的樂趣。

9

臺北國立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tku.edu.tw/~444>

範圍與內容

- 社會領域課程的學習內容包括：
 - 自我照顧
 - 學習行為
 - 社會技巧
 - 行為規範
 - 人文環境
 - 自然環境

10

臺北國立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tku.edu.tw/~444>

- 自我照顧：生活自理、健康、安全。
- 學習行為：學習興趣、學習方法、學習態度、於活動過程中發展自我概念。
- 社會技巧：覺察人我異同、瞭解與回應他人、溝通協商能力、欣賞和接納自己和他人。
- 行為規範：行為是非對錯的理解、團體規則的覺察與訂定理由的理解。
- 人文環境：社區人事物活動的覺察、體會與自我生活的關連。
- 自然環境：覺察自然現象與生命的變化、體會自然環境與自我的關連性與相互影響


11

臺北國立教育大學幼兒教育學系 <http://www.tku.edu.tw/~444>

雙向細目表

內容範疇	自己		人與人		人與環境	
	自我照顧	學習行為	社會技巧	行為規範	人文環境	自然環境
處理技巧						
探索與覺察						
協商與調整						
愛護與尊重						

12




國立高雄師範大學幼兒教育學系 <http://www.nknu.edu.tw/~444>

課程目標

- 1-1 於生活經驗中，能覺察自我的需要和狀況，及環境的安全性
- 1-2 透過活動參與，探索自己的喜好和特質。
- 1-3 與他人互動經驗中，探索與覺察人際關係或自我異同。
- 1-4 能覺察團體活動的規則與行為規範。
- 1-5 能探索生活周遭事物，覺察他人活動的內涵。
- 1-6 能探索生活環境中的自然事物及其改變。


13



國立高雄師範大學幼兒教育學系 <http://www.nknu.edu.tw/~444>

- 2-1 在與人和環境互動中，學習與調整合宜的自我照顧行為與態度。
- 2-2 能於活動中展現自己的能力與特質，嘗試新的問題解決技巧，發展合宜的學習行為。
- 2-3 與他人互動經驗中，瞭解自己與他人的想法與感受，學習兼顧自己與他人的需求，與人共處。
- 2-4 學習行為規範的意義和合宜的行為表現。
- 2-5 觀察與比較周遭事物與自我、他人生活的關連性，從而學習合宜的文化參與行為。
- 2-6 基於對自然環境事物和生命的理解，參與照顧環境和自然生命的活動。


14



國立高雄師範大學幼兒教育學系 <http://www.nknu.edu.tw/~444>

- 3-1 在與人、環境的互動中，養成自我照顧、自我負責的習慣與態度。
- 3-2 在活動歷程中，肯定自己，享受學習的樂趣和成就感。
- 3-3 體會人我共通的需求和感受，展現關懷、尊重與接納他人的態度。
- 3-4 主動遵守行為規範。
- 3-5 尊重周遭事物及活動，並心存感謝與珍惜。
- 3-6 主動親近及欣賞自然事物，進而養成關懷生命、保護自然環境的態度。

15




國立高雄師範大學幼兒教育學系 <http://www.nknu.edu.tw/~444>

教學原則

- 1) 提供安全規律的生活環境，幫助幼兒覺察環境事物的規律性
- 2) 善用生活日常事件，促進幼兒社會知能
- 3) 提供幼兒練習與重複經歷的機會，增進幼兒自我照顧與獨立自主的能力
- 4) 提供幼兒計畫活動、實踐想法的機會，增進幼兒自主學習的能力
- 5) 重視個別差異，建立幼兒自信心

16



國立高雄師範大學幼兒教育學系 <http://www.nknu.edu.tw/~444>

- 6) 鼓勵幼兒表達與聆聽，覺察人我之間的異與同
- 7) 提供多元互動經驗及角色轉換的機會，培養幼兒同理的能力與合作的態度
- 8) 幫助幼兒理解團體生活和人際互動的需要，學習調整自己的行為
- 9) 善用家庭、社區資源和媒材，拓展幼兒生活經驗並欣賞多元文化
- 10) 鼓勵幼兒探索大自然，親近與愛護自然

17



國立高雄師範大學幼兒教育學系 <http://www.nknu.edu.tw/~444>

評量原則

- (1)自我照顧
 - 身體照顧
 - 環境安全
 - 物品使用
- (2)學習行為
 - 探索學習興趣
 - 學習的方法和態度
- (3)社會技巧
 - 覺察人我異同
 - 調整行為、與他人和諧相處
 - 接納、關懷與尊重他人

18

國立台北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

- (4)行為規範
 - 覺察作息活動規律及生活常規、瞭解常規建立的理由，進而遵守常規
 - 覺察團體規則的適用性、能因應情境需要因時制宜地調整活動規則
 - 覺察自己行為對環境人事物的影響、學習思考行為對錯、進而調整自己的行為

19

國立台北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

- (5)人文環境
 - 能敏感覺察生活環境中人事物的特徵
 - 能積極參與文化活動，展現豐富細膩的生活經驗
 - 能關切和接納生活環境之各種人事物
- (6)自然環境
 - 觀察自然現象
 - 維護與愛護自然環境

20

國立台北教育大學幼兒教育學系 <http://www.tpeu.edu.tw>

感謝聆聽！



21

幼兒園教保活動與課程大綱 ～情緒領域

簡淑真
國立台東大學幼兒教育學系

1

報告內容

- 一 情緒能力的重要
 - 二 情緒領域目標、內容、教學原則與評量原則
 - 三 透過交叉比較的方式呈現
- 縱向：情緒領域理念與實務間的一致性。
橫向：情緒領域與總綱之關係。

2

情緒能力的重要性

- 進入資訊世紀後，個人的生活中，除了要能獨立思考、運用硬體設備取得訊息的能力之外，更需要能控制自己情緒以專注於工作、了解他人，進而能與他人有良好合作。

3

情緒能力的重要性

- 從心理健康的層面來看，情緒智能和有效調節壓力有密切關係，情緒能力高者，較能正面、積極地面對壓力情境，反之情緒能力低者，較易產生負面的想法與情緒，易受壓力的影響。
- 情緒能力也和個人學業表現、事業成就、人際關係和家庭生活有密切關係。

4

「情緒」領域獨立為一領域

長久以來，情緒教學多隱身在各學習領域裡而被忽略，或是知道它很重要卻不知如何進行教學。

因此，有必要特別將「情緒」領域獨立出來，引導教保人員注意及提供給幼兒適當的情緒教保活動，協助幼兒擁有良好的情緒能力。

5

情緒

- 「情緒」是指「幼兒解讀內外刺激，而產生生理、心理的整體性主觀反應」，它是一種行為、生理變化和情緒經驗統合而成的一種短暫狀態，它具有受到個體對訊息解讀的影響、快速轉變、不易以言語形容、必須寄身於情境、可作為行為動力等特色。

6

情緒能力 是指一個人處理情緒狀況有關的能力

縱軸 是從情緒的歷程能力來看，包括了「情緒的覺察與辨識」、「情緒的表達」、「情緒的理解」、「情緒的調節」

- 由於「情緒」起於「幼兒解讀內外刺激」，因此每項情緒能力分為「自己」和「他人或環境」兩個部份

橫軸 是從情緒的起源來看，分為「自己」和「他人或環境」

共有八大項。

7

八大情緒能力

- **覺察與辨識自己的情緒**：從個人的生理、心理等整體反應中，覺察與辨識個人當時情緒的能力。
- **覺察與辨識情境中他人或環境的情緒**：從個人對環境中的人與事物的反應，來覺察與辨識個人對他人或環境的情緒。
- **表達自我的情緒**：正確表達自身情緒並發展表達這些情緒所需的能力。
- **表達對不同的人事物的情緒**：適當表達對外界人、事、物的情緒，並發展表達這些情緒所需的能力。

8

八大情緒能力

- **瞭解自己情緒出現的可能原因**：瞭解自己情緒有多元面貌與變化的可能原因。
- **理解他人的情緒出現的可能原因**：理解他人情緒表現的含意及其可能原因。
- **運用可能的策略調節自我情緒**：能運用可能的策略調節自我的情緒。
- **運用適當的策略以調節來自情境與他人的負向情緒**：學習情緒管理的方法並接納他人的情緒。

9

幼兒園教保五大核心價值與情緒能力

- **覺察與辨識自己與他人的情緒**
「探索挑戰」
- **表達情緒**「表達溝通」「文化實踐」
- **瞭解自己與他人產生情緒的原因**「仁愛合作」
- **運用可能的策略調節自己與他人的情緒**「獨立自主」「文化實踐」

10

知識、技能、情意

- 每個項都包含有知識、技能、情意三個層面的內容，說明如下：
- 「知識」是指該項情緒能力是什麼、怎麼做、與其他項目或領域的關係、可能的影響因素等內容，在學習上，常透過說明、例子分析、實境觀察與討論、甚至是扮演來協助幼兒了解與記憶。

11

知識、技能、情意

- 「技能」是指和該項情緒能力有關的各種處理技巧，在學習上，會比較強調運用各種方式來練習，以達到熟練而能運用在實際情境。
- 「情意」是指對該情緒能力因深層了解，而願意去做，甚至產生一種積極的學習情感，願意進行深入的探索。在學習上，常會藉著鼓勵、展示、討論、實作來激發或加深幼兒的情意。

12

情緒領域的重點

- 由於情緒的出現是個體面對內外訊息時，就會自然產生的整體性反應，因此在本領域的教保活動內容，**並不是在促進各種喜、怒、哀、樂、害怕等情緒的出現，而是在協助幼兒覺察與辨識自己或他人的情緒狀態、了解自己與他人情緒產生的原因，並能以各種社會能接受的方式來調節與表達情緒，好讓自己的學習更有效率，生活能更幸福快樂。**

13

情緒領域目標

在幼兒學習上，本領域的目標有下列四項：

- (一) 培養對自我及他人的情緒覺察能力。
- (二) 提昇合宜的情緒表達能力。
- (三) 促進對自我及他人或環境的情緒理解能力。
- (四) 發展自我情緒調節能力。

14

總目標與情緒領域目標的關係

六大目標中與三大目標和情緒領域目標直接有關

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| ■ 幫助幼兒擁有健康的身心、養成獨立自主的生活態度、習慣與技能。 | ■ *培養對自我及他人的情緒覺察。 |
| ■ 啟發幼兒對自我與環境的覺知，培養豐富的情感，學習調適情緒的表達。 | ■ *促進情緒理解與思考。 |
| ■ 建立幼兒安全的依附，用於冒險面對挑戰。 | ■ *發展自我情緒調節能力。 |
| | ■ *提升合宜的情緒表達能力。 |

15

情緒領域 課程目標

培養對自我及他人的情緒覺察

- 1-1 覺察與辨識自己的情緒。
- 1-2 覺察與辨識情境中他人或環境的情緒。

提升合宜的情緒表達能力

- 2-1 適當地表達自己的情緒。
- 2-2 適當地使用語言、非語言及同理心表達對不同人事物的情緒。

16

課程目標

促進情緒理解與思考

- 3-1 瞭解自己情緒出現的多元原因。
- 3-2 理解他人的情緒表現。

發展自我情緒調節能力

- 4-1 運用可能的策略調節自我情緒。
- 4-2 運用適當的策略調節來自情境與他人的負向情緒。

17

教學如何進行

18

教保活動與課程大綱實施通則

- 根據課程目標編擬課程計畫，選擇適宜的教材，實施統整課程。
- 配合統整課程計畫，規劃動態的學習情境，在其中多元的學習活動經驗可以展開。
- 重視幼兒的自由遊戲及在遊戲中學習的價值，提供幼兒能在其中自主地產生探索、操弄與學習的遊戲活動。
- 嘗試建構學習社群，以分齡混齡或融合教育的方式進行，在協同合作溝通中，延展幼兒的學習。
- 教保人員在課程進行中根據目標扮演多重角色；並隨時在課程規劃前、課程進行中、和課程進行後省思自己。

19

實施通則

- 幼兒的評量須在平常有計畫而持續的收集資訊，及定期的整理與分析，以瞭解幼兒的能力與學習狀況，提供教保人員檢討其課程與教學，進而規劃後續的課程。
- 自幼兒園到國民小學是幼兒從非正式教育到正式教育的一大轉變。幼兒園宜主動扮演銜接的角色，協助幼兒面對新情境的挑戰。
- 建立幼兒園、家庭與社區的網絡，經營三者間的夥伴關係。透過社會文化活動課程，以培養幼兒在地文化的投入與認同。面對多元文化的社會，培養幼兒面對、接納和欣賞不同文化的態度。

20

情緒領域實施原則

- 老師提供一個可被幼兒接納的安全環境。
- 主動建立幼兒與老師間的正面情感連結與信任感。
- 瞭解並尊重幼兒情緒能力的個別差異性。
- 老師本身要有相當成熟的情緒能力，能夠言行合一，真誠合宜的做示範。
- 把握日常生活中的事件給予隨機教育。

21

情緒領域實施原則

- 在認知領域與情緒領域的結合
- 在美感領域與情緒領域的結合
- 在身體動作領域與情緒領域的結合
- 在社會領域與情緒領域的結合
- 針對情緒的教學目標有系統的設計課程

22

教保活動與課程大綱實施通則 與情緒領域實施原則的關係

- 根據課程目標編擬課程計畫，選擇適宜的教材，實施統整課程。
- 自幼兒園到國民小學是幼兒從非正式教育到正式教育的一大轉變。幼兒園宜主動扮演銜接的角色，協助幼兒面對新情境的挑戰。
- 建立幼兒園、家庭與社區的網絡，經營三者間的夥伴關係。透過社會文化活動課程，以培養幼兒在地文化的投入與認同。面對多元文化的社會，培養幼兒面對、接納和欣賞不同文化的態度。
- 老師提供一個可被幼兒接納的安全環境。
- 主動建立幼兒與老師間的正面情感連結與信任感。
- 瞭解並尊重幼兒情緒能力的個別差異性。
- 老師本身要有相當成熟的情緒能力，能夠言行合一，真誠合宜的做示範。
- 把握日常生活中的事件給予隨機教育。

23

教保活動與課程大綱實施通則 與情緒領域實施原則的關係

- 配合統整課程計畫，規劃動態的學習情境，在其中多元的學習活動經驗可以展開。
- 重視幼兒的自由遊戲及在遊戲中學習的價值，提供幼兒能在其中自主地產生探索、操弄與學習的遊戲活動。
- 嘗試建構學習社群，以分齡混齡或融合教育的方式進行，在協同合作溝通中，延展幼兒的學習。
- 在認知領域與情緒領域的結合
- 在美感領域與情緒領域的結合
- 在身體動作領域與情緒領域的結合
- 在社會領域與情緒領域的結合
- 針對情緒的教學目標有系統的設計課程

24

學習評量

25

課程大綱中的教學評量通則

幼兒的評量須在平常有計畫而持續的收集資訊，及定期的整理與分析，以瞭解幼兒的能力與學習狀況，提供教保人員檢討其課程與教學，進而規劃後續的課程。

26

情緒領域中的學習評量原則

- 由於情緒會發生在園中的人際互動、實施其他領域教學以及實施本領域教學等三種狀況中，因此不只在進行有形式的教保活動時要評量，就是「平時」也應該要留心。
- 由於幼兒情緒行為出現的時間與次數是無法事先預估的，因此定期評量是綜合整理平日的各種觀察與教學記錄，而不是只針對在特定時間發生的某一事件進行評量。

27

情緒領域中的學習評量原則

- 在情緒領域，是以「幼兒的情緒行為」為評量的主要依據，其中包括「語言」與「非語言」兩部分，「語言」是指幼兒說出來的話，「非語言」是指幼兒的表情、動作、圖畫、扮演及各種作品。
- 「觀察」是蒐集評量資料的主要管道，所以教保人員要有敏銳的觀察與傾聽的能力，透過行為觀察紀錄、教學日誌、錄音、錄影、拍照、檢核表等方式，來蒐集幼兒的情緒行為，以便進行情緒能力的評量。

28

情緒領域中的學習評量原則

- 評量情緒能力的時候除了要注意幼兒在學習指標上出現的發展上的差異外，還需要注意幼兒情緒能力是否從「需要協助」，進步到「有時需提醒即可做到」，最後「可以自行完成」。

29

- 評量除了可讓瞭解幼兒現在的情緒能力外，還能夠看到發展落後或尚未發展出的能力，成為後續教保活動設計的重要根據。換句話說，不管是教保活動進行中或進行後的評量，都可幫助教保人員瞭解所進行的活動是否有助於幼兒在本領域的學習

30

情緒能力的發展

- 每個細項也會呈現發展的現象，也就是說，隨著幼兒的成長，情緒能力會有質與量上改變；
- 在情緒察覺與辨識上，對情緒類別會由基本的情緒，逐漸分化而變多；在情緒深度的覺察與辨識上，會有由淺層常見的（如：喜、怒、哀、樂等）到較深層的（如：忌妒、寂寞、欣賞、珍惜等）在情緒程度上，會從「有沒有」進到「同一情緒兩極端程度」，再進到「同一情緒會因人、事、時、地而有不同的程度變化」；

31

情緒能力的發展

- 在情緒理解上，會隨著認知能力及同理心的成長，而能從了解常見情緒的產生原因，到對深層情緒的產生原因，甚而能理解會因各種人事時地及自己想法上微妙變化造成情緒多元的變化；

32

情緒能力的發展

- 在情緒表達能力上，能從較個人化，進展到符合社會的規則；在表達時間上，會從「立刻」逐漸進到「稍待」甚至到「需表達才表達」；但相反的，在情緒調節所需時間，則會從「花很長的時間才願意改變」，進到「能盡快改變」；

33

情緒能力的發展

- 在情緒調節策略上，會從「較依賴他人或外在環境」到「嘗試自己改變自己的想法」、「自己想辦法解決問題」

34

「個人的成長」及「各能力個別的變化」

- 情緒能力的發展具有很大的個別差異性，在同樣的年齡上，每個幼兒的情緒能力可能會有不同；就每項能力來看，也不是在一樣的時間，就會有等量的發展，所以教保人員應從「個人的成長」及「各能力個別的變化」來看幼兒情緒能力的發展。

35

情緒能力指標

- 此指標是對本國一千五百名幼兒進行情緒能力實際發展的調查結果，並與近百位資深教保人員及幼教學者針對結果進行討論，並與文獻反覆比對後，轉換而成的。

36

台灣幼兒園課程大綱 認知領域

中央大學學習與教學所
柯華葳 教授、丘嘉慧博士
2008.12.06

1

領域特色

- 以習得「認知歷程」技能為主
- 選材：以環境為主要學習範疇
- 教學方法：以引導幼兒學習解決問題歷程為首要
- 評量：以幼兒習得認知技能為主要考慮

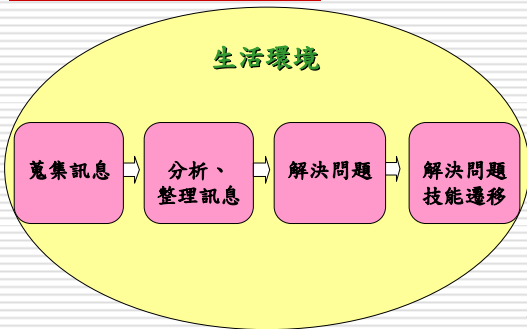
2

領域目標

- 以舊經驗和既有知識為出發點，促成對生活中的自然現象有新的認識
- 精熟蒐集訊息、分析整理訊息、解決問題及解決類似問題的遷移等認知技能
- 透過新知識的學習及應用解決問題策略，
拓展處理複雜訊息的能力
- 養成解決問題時的溝通、協商能力
- 增進樂於與他人合作解決問題的態度

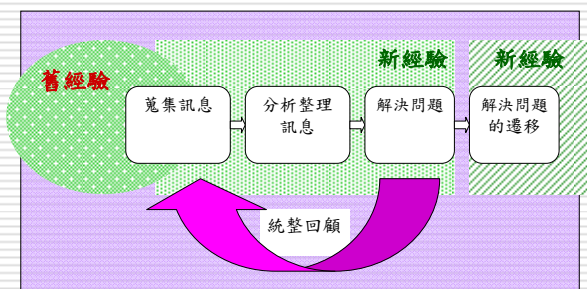
3

領域內容



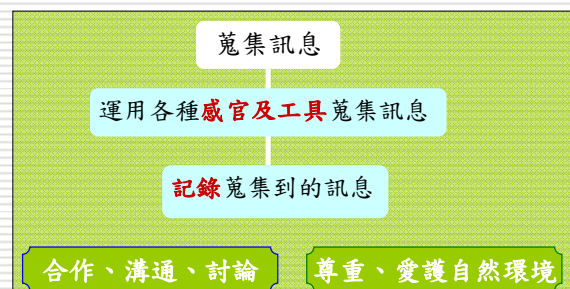
4

實施原則—教學原則(1/4)



5

實施原則—教學原則(2/4)

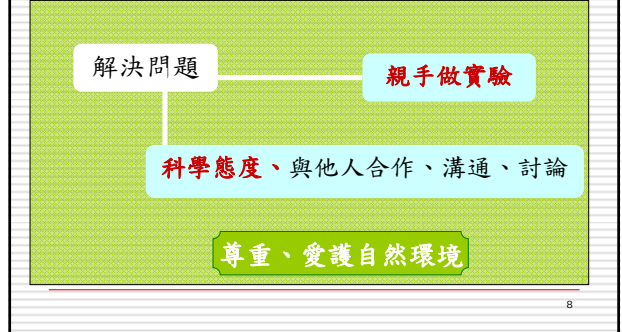


6

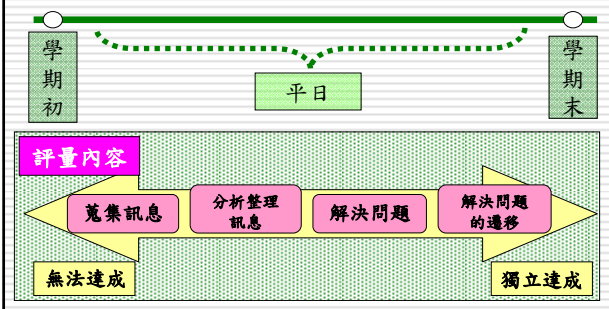
實施原則－教學原則(3/4)



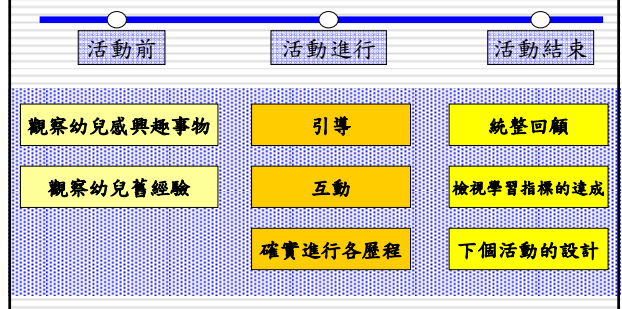
實施原則－教學原則(4/4)



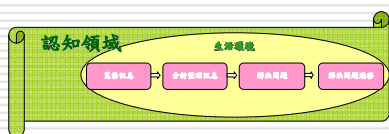
實施原則－評量原則 - 幼兒學習評量



實施原則－評量原則 - 教學檢核



敬請指教






幼兒園教保活動與課程大綱：
美感領域

計畫主持人
國立臺南大學 戲劇創作與應用學系
林政君 教授

97.12.06



美感是一
全心意投入的歡欣感



美感—右腦的特質

- 一種天性與**直覺**，主觀地存在每個人的感受之中。
- 各種**感官知覺**接收到外部刺激，與思維或想像產生連結，繼而湧現的**幸福、歡欣、愉悅**的感覺。
- 個體從內心深處主動建構的一種**感知**外在**美好事物**存在的能力。

右腦特質—未來職場的關鍵能力 (天下2008教育特刊)

- 傳統教育以培養左腦能力為主—
如邏輯的、循序性的、分類的、「試算表」類
型的能力——擁有這些能力很重要

然而——這些並不足夠

面對全球日益富裕且競爭的社會—
期待新奇與驚人的突破
要培養具右腦特質的人



高感性

- 創造藝術性
- 情緒性美感
- 辨認趨勢與機會
- 創作一篇令人滿意的精彩故事
- 發明一項世界都不知道它應當存在的發明



高體會

- 能同理他人的感受
- 瞭解人際互動的微妙
- 尋找自身喜悅，也引發他人喜悅
- 超越日復一日的事物
- 尋找生命意義與目的



美感教育的目的

- 鼓勵創意及多元思考

鼓勵想像與創意，並提供多元學習的管道
來認識周遭的環境與不同形式的知識

培養同理心及環境感知力

周遭美好的事物可增進對環境的感受力
促發情感性的回應、抒發及表達
並擁有同理他人的能力。



美感教育的目的 (續)

- 文化藝術內涵

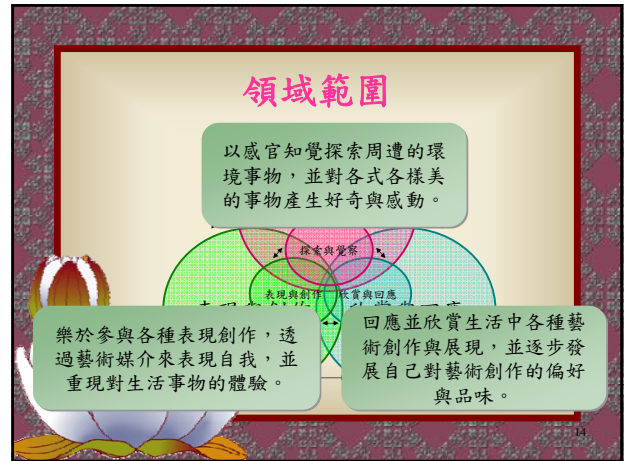
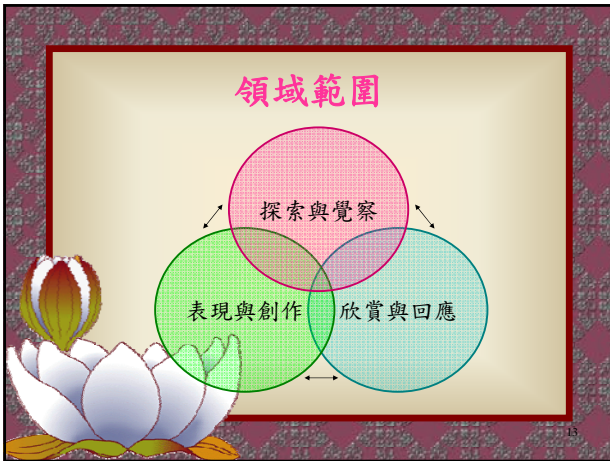
藝術中含有豐富的文化資產與內涵，間
接地形成學生未來對自然關懷、社會意
識與文化認同的基礎。

面對全球化趨勢——美感
是未來世界公民的關鍵能力



美感領域範圍與內容





教學實施原則—從生活中著手

- 提供**感官操作**的媒材與經驗，
鼓勵運用**身體感官**進行體驗探索
- 規劃**豐富藝術環境**，提供各樣探索空間
- 經營**美感環境**，直接體驗美感生活
- 設計適宜的藝術活動，激發**自主參與**的興趣
- 鼓勵**原創性**的自我表現，避免刻板的模仿
- 採**彈性**作息，提供**充裕時間**進行探索與創作



「美感」教育不等於美術/才藝教育

- 尊重藝術表現的**個別差異**，
接納幼兒的**想法與感受**
- 重視創作的**過程**甚於結果
- **避免分科**藝術教學提供**統整學習**的經驗
- 協助持續**體驗各種藝術元素**，
增加幼兒對**美的敏銳度**
直接以**藝術詞彙**來討論藝術表現與創作



合作性的學習、尋找社區伙伴

- 鼓勵**合作性**的創作經驗，
採**小組方式**做活動
- 鼓勵**同儕分享**經驗，
示範**正面與尊重**的態度
- 結合**學校、家庭及社區資源**，
擴展幼兒**藝術經驗**



美在生活中的每個環節中，

「美感教育」就是要喚起兒童
這個與生具有的「感知力」
或是要把找回成人
遺忘已久的「生活感知力」



美感教育

不只能
促進文化的多元性
提昇國家或個人的競爭力
它更是
健全人格發展、
平衡身心情緒、
開啟創造力的關鍵



台灣的幼兒園課程大綱 身體動作領域

楊金寶
台北護理學院嬰幼兒保育系
副教授兼系主任

1

講綱

- 一、課程特色
- 二、課程目標
- 三、課程內容
- 四、實施原則
- 五、評量原則

2

先行提問

一、什麼身體動作？

答案是……

- A. 身體的感覺動作
- B. 認知的知覺動作
- C. 表達的自主動作
- D. 肢體的基本動作

3

再次提問

二、為什麼要學習身體動作？

數學的基本能力是理解數字，才能夠學習加減乘除四則運算。同樣的，身體動作是日後靈巧熟練行動者的基本能力，將影響兒童未來的運動習慣及肢體表現的技能。

4

身體動作課程特色

- **哲理是**；滿足幼兒自由自在活動的慾望。課程設計最終的目的，在於促進幼兒身體動作的協調性、敏捷性，以及喜愛運動或活動身體。
- **基礎是**；以實證調查研究，建置身體動作能力指標，以此發展為幼兒學習身體動作課程之教學起點行為。

5

身體動作課程特色

一、設計特色

以發展為基礎，思考幼兒生活需求、空間及社會環境交互作用，設計「生活與學習」和「遊戲與運動」等活動。

1. 幫助幼兒滿足飲食、清潔、整理、學習等任務，維持健康和積極活動的效益。
2. 促進身體動作成熟發展，啟迪幼兒「主動學習」及「自創活動」。

6

身體動作課程特色

二、教學方式之特色

強調「以運動為主體、以遊戲為方法、以教育為指導」，融入各種體能遊戲，配合生動活潑的音樂及教具，讓幼兒在合宜快樂的課程中學習。從遊戲中增進體能，團體合作的活動中，紓解情緒、培養問題解決能力與強化人際關係。

7

身體動作課程目標

- 一、提供身體移動性動作成功經驗，增進身體運動的歡愉性。
- 二、熟練身體軸心不變之定點動作，調整控制身體的穩定性。
- 三、應用身體穩定及移動能力，提升操作性動作技能精確性。

8

身體動作課程目標

- 四、透由生活自理及學習活動，促進手眼精細動作的協調性。
- 五、整合各項身體粗細動作，達成生活自理，展現肢體創意。

9

身體動作課程之內容

- 一、課程內容，涵蓋基本穩定性動作、基本移動性動作、基本操作性動作、手眼協調之精細動作等四個範疇。
- 二、學習歷程，經由模仿及察覺、練習及應用、調整與創造，由淺而深的習得身體動作之課程。

10

身體動作課程之內容

- 在穩定性動作方面：
 - 敏銳幼兒改變身體定位姿勢的需求，協助幼兒察覺身體軸心的穩定性，調整身體擺動、旋轉、彎曲、伸展、下蹲、抖動、支撐等原地不動的身體動作技能。展現或站或蹲或跪或坐等身體軸心不變下，極輕巧到極強烈的身體動度。


11

身體動作課程之內容

- 在移動性動作方面：
 - 提供安全且足夠的活動時間及空間，愉快且自由的在各個地點或定點，精確及創意變化的走跑、單足跳、雙足跳、跨跳、前併步、攀爬等動作，獲得不同方式成功移動身體的學習經驗，享受速度轉換及快慢極限的動作樂趣。

12

身體動作課程之內容

- 在操作性動作方面：提供豐富且適性的設備與教材，讓幼兒適當的控制及運用身體穩定及移動動作之速度、張力、方向、位置，以合宜力道推、拉、投、接、擊、打物品，以及運球、踢球等動作，完成身體活動時手或腳操作物件之能力。

13

身體動作課程之內容

- 在精細協調動作方面：滿足餵食、穿脫衣服、洗手潔牙、整理環境等自理活動；同時，設計雙手懸空及雙手支撐下，穿串珠線、按壓戳揉黏土、握筆塗畫仿寫、拆組積木或拼圖、丟接球類等學習活動，激發眼球的自主動作與指腹對指腹，手掌及手指抓放之協調能力，以強化手部精細動作能力。

14

豐富身體活動的內容

- 因應年齡及發展，可加入五項要素，以增加活動的趣味性
 - 1.空間：姿勢、方向、行進方式
 - 2.時間：動作的快慢
 - 3.力度：動作的強弱或輕重
 - 4.流暢度：活動連續性或時快時慢時暫停
 - 5.節奏：音樂的關連性以及活動節律

15

實施原則 (1)

協助幼兒建立動作遊戲規則

隨意且自由自在的活動或遊戲，不表示幼兒不需要規範。身體活動的規則都與安全有關，例如，尊重他人的活動空間與降低活動的噪音。建立適當的活動規則，可避免擦、撞、碰、跌倒等意外的發生。

16

實施原則 (2)

協助建立個人與整體的身體活動空間

- 身體活動場地須事先準備且劃分界線。準備場地也是一種肢體活動設計，可請幼兒假扮建築工人、安排家具擺設的七矮人等，共同建立活動界線，以區分個人與整體的活動空間。較大活動場地，可用繩子或膠帶將活動界限標示出來。

17

實施原則 (3)

運用挑戰策略，激發幼兒動作潛能

幼兒喜歡向教師表現能力，正向挑戰技巧能激發幼兒的動作潛能。幼兒若已具備回應教師提問能力，教師可用「請想出四種辦法去搬運……」等引導，暗示幼兒可以挑戰更高能力。

18

實施原則 (4)

激發幼兒身體動作的想像力與創意性

- 教師不必急於提供答案，拋除「最正確」或「最好」答案的觀點。例如，你可以怎樣跳躍向前走（雙腳並跳、單腳並跳、左右腳交替跳）；悲傷的人會怎樣走路？身體怎樣動會像海浪？

19

實施原則 (5)

提供幼兒充足的體能活動時間

- 基於幼兒樂活樂動的特性，教師應善用室內或戶外活動空間，鼓勵幼兒自在的舞動身體。在安全原則下，允許幼兒以自己的興趣與活動方式，自由的在戶外奔跑、跳躍，或在室內進行類體操或律動性的體能活動。

20

實施原則 (6)

變換組別或團隊合作，增加活動趣味

- 藉由個人探索、二人配搭、小組互動、班級團隊的合作性體能活動，認識運動員精神並尊重支持參與活動的同儕。活動設計，可採用音樂節奏及故事扮演，有順序變化及淘汰性的肢體活動，引導幼兒從事身體活動的興趣及時間。

21

實施原則 (7)

尊重幼兒動作調整與自我修正風格

- 面對錯誤的肢體動作，尊重幼兒的個別差異，提供多種調整及修正方法。例如，說明正確與錯誤動作差異處（如單腳跳與雙腳跳有何不同）、再度示範分解動作、延長觀摩時間、私下練習困難展現的肢體動作，以降低動作未完成的失敗或挫折感。

22

實施原則 (8)

多樣教材與設備以體驗各種身體動作

- 活動的重要道具是「身體」，其次是音樂。應用設備能讓活動設計更豐富。教師應有計畫的交互使用固定性設備、自然性設備、可移動性遊具的體能教具、騎乘玩具、推拉玩具、感統教具以及創造性遊具，讓幼兒體驗及精化各種移動性及操作性之身體動作。

23

實施原則 (9)

維持活動安全，營造愉快自信的氛圍

- 活動空間不論室內或戶外，在各類設備下方應鋪設適當厚度的保護墊，以防墜落造成嚴重傷害。安全無慮的環境下，幼兒表現值得稱讚時，稱讚應具體而真誠，以提升幼兒肢體動作的自信及耐力，建立將來喜愛運動的基礎。

24

評量原則

評量與分析重點：

- 一、不參與身體活動幼兒的比率與原因
- 二、幼兒活動力及活動時間
- 三、干擾活動進行的行為與情境

25

評量原則

評量的時間：

1. 學習成果評量，在期初與期末，評量每學期身體動作精熟的進步。
2. 教師教學評量，建議每個月固定時間，評估幼兒參與及喜好活動的程度，肢體動作的內容，以為調整下個月身體動作課程之依據。

26

評量原則

■ 評量的情境：

成果評量的情境，在幼兒自由活動、課室教學活動、戶外教學等日常生活情境中進行。

教師教學評量之情境，則在幼兒活動前後，評量幼兒身體狀況、活動環境的安全情形、活動後的效果。

27

評量原則

■ 評量的內容（教學方式）

一、教學內容

當教學者發現，各年齡層的穩定性、移動性、操作性動作並非均衡的設計於課程中，或是當月坐式靜態活動過多，則可調整或增加肢體活動的課程內容。

28

評量原則

二、教學歷程

1. 教學前，評量幼兒衣著鞋襪、活動環境與教材的安全；動作設計由簡而難。
2. 教學中，設計具有趣味及挑戰性，幼兒脫序行為或身體不適症狀。
3. 教學後，幼兒達到流汗的效果，協助於流汗後擦乾頭髮、補充水份。

29

評量原則

■ 評量的內容（幼兒學習）

評量重點在於幼兒的參與程度以及肢體動作的展現，而不是身體動作技巧的獲得或是動作的準確性。例如，參與跑步活動的樂趣以及雙手擺動助跑的動作，而不是「能多快跑到目的地」或是「跑得多遠」。

30

最後兩問：其一

身體動作與身體動作課程有何不同？

身體動作是幼兒自發的活動，身體動作教育，則是教師以身體動作為基礎，持續設計並修正的課程與指導。

所以，課程應含自由時間與安全環境，由幼童主導且自在的活動。

31

最後兩問：其二

身體動作與其他課程領域之關係？

身體動作是認知、語文、社會、情緒、美感等領域之基礎，也是其探索的方法與工具。



32

謝謝參與

身體動作若及早

- 健康生活多美好

祝福各位

身心如玫瑰，

活力永不歇！



33

2008年
12月
4/5/6日



臺北市立教育大學
公誠樓二樓
第三會議室

教育部 指導
臺北市立教育大學幼兒教育學系 主辦
<http://www.tmue.edu.tw/~kid>

臺北市立教育大學兒童發展碩士學位學程 協辦